

日本の文学

堀尾幸平

【授業の概要】

日本の文学の歴史をふまえながら、代表的な文学作品を紹介し、鑑賞する。若い世代の文学への関心が薄らいでいるといわれる今、文学への興味と関心を喚起したい。

【授業計画】

1. 文学とは何か
2. 明治期の文学
3. 坪内逍遙, 二葉亭四迷
4. 三輪弘忠, 巖谷小波
5. 大正期の文学
6. 小川未明, 鈴木三重吉
7. 千葉省三, 浜田廣介
8. 少年詩, 童謡, 金子みすゞ
9. 昭和期の文学
10. 佐藤紅緑, 江戸川乱歩
11. 宮澤賢治
12. 新美南吉, 坪田謙治
13. 平成期の文学
14. 創作の方法
15. 試験

【評価方法】

定期試験, レポート, 出席状況等によって総合的に評価する。

【テキスト】

新日本児童文学論 (堀尾幸平著, 中日文化, 2,200円)

【参考文献・資料】

授業中に適宜紹介する。

英米の文学

小野迪雄

【授業の概要】

文学作品にはそれぞれの国の文化が反映している。主に20世紀の英米の文学の思潮をたどりながら、伝統的な英国文学や移民の国として新しい文化を作った米国学を中心に考察する。

【授業計画】

本年度はアメリカ文学を中心に講義をする。アメリカは移民の国として、先進国の中では非常に遅い出発をした国であるが、それだけに歴史の古い国にみられる伝統に欠ける面があるものの、他の先進国にみられない文学の活力や著しい特徴がある。アメリカの文学作品には、どんな特質や問題があるのか考えていく。時間の制約上、個々の作品を細かく扱うことが難しいので、中心は作品を生みだした社会的背景や文学思潮におく。話の展開の中でイギリス文学や日本文学にもふれる。

【評価方法】

レポートや受講態度を加味するが、評価の中心は定期試験による。

【テキスト】

未定。必要に応じてプリントを配布する。

【参考文献・資料】

授業時に紹介する。

中国の文学

寺尾 剛

【授業の概要】

中国の歴史と文化は古くかつ深い。日本はその影響を大きく受けてきたが、特に文学は顕著であった。中国の代表的な文学作品を紹介し、鑑賞する。

＜主なテーマ＞

- ・花木蘭（ムーラン）の物語－中国女性は強い？
- ・王昭君の物語－国際結婚、是か？否か？
- ・西施の物語－中国最大の美人は？
- ・孟姜女の物語－万里の長城と女性悲話
- ・詩仙・李白－酒仙、大いに酒を歌う
- ・詩聖・杜甫－戦争と文学と
- ・南宋最大の詩人・陸游－夫婦と嫁姑戦争
- ・妻への愛－「悼亡詩」の系譜
- ・封神演義はどこまで実話？－中国小説の魅力
- ・中国笑話選－下ネタは下品か？
- ・孔子－中国人の知恵と格言
- ・魯迅・周作人兄弟と日本との深い関係など

【評価方法】

平常点と試験。

【テキスト】

プリント

情報と社会

梅田敏文

【授業の概要】

現代社会は情報化社会といわれ、さまざまな情報が送受信されている。日常生活や経済社会の中で「情報」がいかにかわり、有効な活用はどうあるべきかについて考察する。

【授業計画】

- 第1講 ガイダンス
- 第2講 e-ビジネスの進展
- 第3講 社会の情報システム（事例1）
- 第4講 社会の情報システム（事例2）
- 第5講 社会の情報システム（事例3）
- 第6講 データと情報
- 第7講 機械とコンピュータ
- 第8講 システムの概念
- 第9講 情報化社会の課題（1）
- 第10講 情報化社会の課題（2）
- 第11講 情報化社会の課題（3）
- 第12講 まとめ

【評価方法】

受講態度、ミニテスト、レポートなどで評価する。

【テキスト】

情報化社会とコンピューター倫理（梅田敏文著 マナハウス）

情報と社会

沖野皓一

【授業の概要】

現代社会は情報化社会といわれ、さまざまな情報が送受信されている。日常生活や経済社会の中で「情報」がいかにかわり、有効な活用はどうあるべきかについて考察する。

【授業計画】

- 第1～2回 歴史に見る情報と社会
情報と文化との関係を軸に、人間社会の歴史を概観する。
- 第3回 情報がモノを造る
モノの生産が、必要性・実用性から嗜好に重点を置くようになってから、生産システムも大きく変わった。いわゆる情報化社会の生産と消費の関係について
- 第4～10回 情報の氾濫がもたらすもの
次々と繰り出される扇情的な情報や、人々の行動を先取りするような情報の氾濫の結果、私たちはかえって情報への関心を失い、情報喪失の状態に陥りかねない。情報過剰の現状について
- 第11回以降 主体性確保のために
ニューメディアは多チャンネルの実現による情報の多元性を売り物にしているが、私たちにとって重要なのは、本当に必要な情報を発信・選択できる双方向性であろう。市民の側からの情報発信、メディアアクセスの現状と可能性について

【評価方法】

出席状況・試験の成績などによって総合的に行う。

【参考文献・資料】

講義の中で、その都度紹介する。

ジェンダーと社会1

國信潤子

【授業の概要】

現代社会において女性と男性の社会的関係は変容しつつある。男女がともに社会参画をして初めて社会における平等が確保できる。この視点から現代社会におけるジェンダー（社会・文化的性）のさまざまな問題を考える。

【授業計画】

（長久手キャンパス）

男女共同参画社会の形成にむけて日本社会の各方面で努力が続いている。この講座ではグローバル化する国際・民衆交流の領域についてジェンダー（社会・文化的に形成される性別）の視点から開発途上国の現状について学ぶ。地球規模で、南北社会関係（開発途上国と先進国の対立・協力関係）に見られる各種の格差が問題となっている。そこには社会的資源の不平等分配がある。この格差は正のため、また国際・民衆交流推進のために国あるいは民間組織による開発支援が行われている。先進産業界から開発途上国に向けて社会的開発支援が行われている。その支援のあり方、文化多様性の確保とジェンダー平等化の試みの関係について考える。

この講座はオムニバス形式であり、社会開発支援の現場で活動する数名の講師による講義形式である。社会開発、国際協力の最前線で活躍する専門家によって現状分析が行われる。テーマとして開発におけるジェンダー、開発実践論、イスラム農村社会、保健・医療現場、外国人労働者などの問題をジェンダー視点から考察する。

（星が丘キャンパス）

近年、公的文書などにもジェンダー（gender）ということばが頻繁に使われるようになってきた。それは社会・文化的性別という意味である。つまり、社会的に男女に対して期待される異なる役割、意識、行動様式などを指す。新世紀にはいり、従来の固定的性別分業とは異なり、性別にとらわれない新たな社会的役割行動様式の青年たちが増加してきている。それは固定的な男らしさや女らしさをこえて個性の発揮、能力開発、そして経済、社会的自立、生活面での自立などを旨とする生き方である。ここ50年ほどの日本における女性の社会的地位の変容について社会学的データなどで紹介する。また法制改革、国際人権規約なども紹介する。原則としてテキストにそって授業を進める。グループ討議、視聴覚教材なども取り入れる。

【評価方法】

（長久手キャンパス）

期末レポート、出席状況、感想カード内容、履修態度等の総合評価

（星が丘キャンパス）

期末レポート、出席状況、感想カード内容、履修態度等の総合評価

【テキスト】

（長久手キャンパス）

特になし、随時配布

（星が丘キャンパス）

「女性学・男性学へジェンダー論入門～」伊藤、國信共著（有斐閣刊 2002年）

【参考文献・資料】

（長久手キャンパス）

「ジェンダーと開発」田中、伊藤、大沢他 国際開発事業団出版 2002年 2800円

（星が丘キャンパス）

授業で随時紹介

ジェンダーと社会2

中島美幸 山下智恵子

【授業の概要】

本講座では、ジェンダーの視点で文学作品を分析することによって、〈女/男〉規範がどのようにテキストに織り込まれているかを読み解き、さらに、テキストがどれほど現実の女と男の生を規定してきたかを検証する。それとともに、ジェンダーの呪縛から解放されたいとして、新たな文学表現を試みる作家・作品をできるだけ多く提示する。(オムニバス方式)

(中島美幸兼任講師)「女性の表現」の観点から日本文学を歴史的に跡づける。なかでも、近代以降の女性表現については、他国の女性文学との比較もまじえつつ、読み解いていく。

(山下智恵子兼任講師)現代の文学作品を中心に、家族、母娘などの人間関係をジェンダーの視点から検証する。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 〈ことば〉とジェンダー
- 第3回 〈書く女〉の登場(1)
- 第4回 〈書く女〉の登場(2)
- 第5回 女性を描く男性作家のまなざし(1)
- 第6回 女性を描く男性作家のまなざし(2)
- 第7回 母と娘の物語(1)
- 第8回 母と娘の物語(2)
- 第9回 家族の物語
- 第10回 文学の政治性
- 第11回 文学と映像文化
- 第12回 まとめ

*第8、9回は山下智恵子担当。他は中島美幸担当。

【評価方法】

毎回の簡単な感想と、学期末のレポートを総合して評価する。

【テキスト】

教科書は使用せず、随時、プリントを配布する。

【参考文献・資料】

毎回の講義の際に紹介する。

日本国憲法

大嶽 浩

【授業の概要】

日本国憲法について、その成立の経過や明治憲法との比較を通じ、現行憲法の内容と主要な問題点を講義する。憲法問題における具体的事例にもふれる。

【授業計画】

1. 憲法と理想
2. 憲法と法律
3. 憲法と憲法典
4. 国民の司法参加
5. 憲法の最高法規性
6. 憲法の改正

【評価方法】

試験とレポートによる評価。

【テキスト】

使用せず。プリントを配布。

日本国憲法

初谷良彦

【授業の概要】

日本国憲法について、その成立の経緯や明治憲法との比較を通じ、現行憲法の内容と主要な問題点を講義する。憲法問題における具体的事例にもふれる。

【授業計画】

(長久手キャンパス)

- 第1回 日本国憲法制定の経緯
- 第2～3回 プライバシー権、名誉権
- 第4～5回 自己決定権
- 第6～7回 信教の自由と政教分離
- 第8～9回 情報公開、言論・出版の自由、報道の自由
- 第10～11回 生存権、教育権、労働基本権
- 第12回 国会・内閣
- 第13回 裁判所
- 第14回 地方分権

(星が丘キャンパス)

- 第1回 日本の近代化と明治憲法の制定
- 第2回 ポツダム宣言の受諾と降伏の憲法史的意味
- 第3～4回 日本国憲法制定の経緯
- 第5回 日本国憲法の基本原理
- 第6回 プライバシー権、名誉権
- 第7～8回 自己決定権
- 第9回 表現の自由
- 第10回 信教の自由と政教分離
- 第11回 生存権・環境権
- 第12回 国会・内閣
- 第13回 裁判所
- 第14回 地方分権

【評価方法】

(長久手キャンパス)

主として単位認定試験の成績によって評価する。

(星が丘キャンパス)

主として単位認定試験の成績によって評価する。

【テキスト】

憲法講義Ⅰ(第2版)(初谷良彦著 成文堂)

【参考文献・資料】

授業の際、随時紹介する。

郷土の歴史と文化

秦達之

【授業の概要】

東海地方は、戦国乱世の時代に織田信長、豊臣秀吉、徳川家康を生んだ土地である。この歴史的風土をふまえ、愛知県を中心に郷土の歴史と文化を講義する。

愛知県は、「三大英傑」以後、一見平穏無事で、バツとしないかみえる。しかし、よくみれば、東西の文化を巧みに織りこんで、波瀾にも富み、歴史上重要な地歩を築いてきた。講義は、尾張と三河とのちがいに留意しつつ、隣県の三重・岐阜にも時には視野を拡げ、受験時の暗記の歴史から、考え、楽しみ、生きるための歴史へと飛翔することを目指す。

【授業計画】

一回一話の読み切り、いや、語り切りで、さまざまなテーマ・内容を取上げる。通史ではないので、時代の前後を往き来する。その時代を生きた人びとの鼓動が聞こえてくるようなものにしたいが、果してうまくいきますか、どうか？

内容は、「元禄名古屋の世相」「伊勢湾の漂流民たち」「江戸時代の農民運動」「名古屋とその周辺の山車(だし)」「渡辺崋山とその周辺」「お札降りと「ええじゃないか)」「高山における明治維新」「戦争と女性」「モルフィと廃娯運動」「新聞記者・市川房枝」「シーメンス事件と太田三次郎海軍大佐」その他。私自身の研究と共に、他の地道な研究成果も積極的に取上げたい。

こちらで一回毎の史料を用意し、それにもとづいて講義する。必要に応じてビデオ、スライドも使用。出席票に感想を書いて貰い、受講者の声を聞く工夫をしている(受講者もぜひご協力を)。

【評価方法】

出席状況(特に厳しいので注意!)と単位認定試験の成績などによるが、毎時間最後に感想を書いて貰い、参考にしている。

【参考文献・資料】

愛知県の百年(塩沢君夫、斎藤勇、近藤哲生共著 山川出版社)

愛知県の歴史(三鬼清一郎編 山川出版社)

東海・近代へのまなざし(都築亨、大嶋光義編 中部日本教育文化会)

都市と環境

谷口 武

【授業の概要】

現代の都市は生活と文化の面では便利であり、快適であるが、街の緑や空気汚染など、自然環境には恵まれているとはいえない。都市をとりまく自然環境の問題を中心に講義する。

【授業計画】

- 第1講 概論1：自然環境とは
- 第2講 概論1：自然環境と人間
- 第3講 各論1：農耕の発見による生活形態の変化
- 第4講 各論2： ”
- 第5講 各論3：都市形成の促進
- 第6講 各論4： ”
- 第7講 各論5：現代都市生活の高度化
- 第8講 各論6： ”
- 第9講 各論7：都市巨大化と自然環境
- 第10講 各論8： ”
- 第11講 各論9：都市環境の改善
- 第12講 各論10： ”
- 第13講 単位認定試験

【評価方法】

出席状況と単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【参考文献・資料】

- 都市の論理（藤田弘夫著 中央公論社）
- なにが環境の危機を招いたか（バリー・コモナー著 講談社）
- 都市（東京大学公開講座 東京大学出版会）
- 環境（東京大学公開講座 東京大学出版会）
- 環境生物学への招待・地球生物圏と人間（鈴木賢英著 文化書房博文社）

メディアと文化

鎌田基子

【授業の概要】

情報化社会の発達と技術の進歩でさまざまなメディアが新しい文化を生み、伝達する。文化の創造の伝達とメディアの関わりを考察する。

【授業計画】

- 第1回 どこからどこまでがメディアなのか？
- 第2回～7回 「編集」という創造
 - ・怪物の作り方
 - ・テーマとコンセプト
 - ・人の流れと思考の奥行き
 - ・発想の手順
 - ・WORK SHOP
 - フォトストーリー
 - コラージュ
 - 店内レイアウト
 - 雑誌の企画
- 第8回～10回 現代美術はなぜ分かりにくいのか？
 - ・モノが持つ言語
 - ・素材の力、場の力
 - ・伝達技術と表現手段
 - ・WORK SHOP
 - 即席インスタレーション
- 第11回～12回 社会が生んだ表現
 - ・表現の自由と人権
 - ・芸術が果たす役割
- 第13回 「見る」「聞く」行為について
状況により途中1～2回をゲスト講師の講演にあてる。

【評価方法】

レポートによる。

国際情勢

富江良治

【授業の概要】

国際化の時代とか、地球は一つなどといいながら、つい身近なことにとらわれて、視野を広げる努力を怠りがちです。世界では何が起きているのか、その背景には何があるのか、どの方向へ進むと考えられるのか。こうした問題意識と関心を持った人間が育つよう、つぎつぎと起こる新しい動きを手掛かりに分かりやすく、面白く解きほぐしていきます。世界歴史の最先端にふれる興奮と緊張を味わえれば、です。

【授業計画】

日々報じられる新聞の国際記事、解説や特集面、テレビのニュース番組、ドキュメンタリーなどのコピーやビデオを用意し、教室で放映または配布して説明します。発生する出来事の中から興味を引くとみられるものを優先します。したがって政治、経済、社会、文化といった体系的な進め方には必ずしもなりません。

【評価方法】

原則として筆記試験によります。出席状況や意見発表とか質問、問題提起、私語、遅刻など受講態度も参考にします。

【テキスト】

特にありません。

【参考文献・資料】

そのつど、必要に応じて知らせます。

生活と福祉

井戸平八郎

【授業の概要】

人間らしい生活を営むには、今日では福祉は避けられない問題である。しかし、「福祉とは何か」、「福祉はいかにあるべきか」は難しい課題である。障害者福祉や老人介護など、現代的な問題を視野に入れて福祉について学ぶ。

【授業計画】

- 第1章 福祉は誰のために
- 第2章 援助と自立
- 第3章 児童問題と超高齢社会
 - 第1節 児童福祉について
 - 第2節 子どもの人権は守られているか
 - 第3節 高齢者福祉
 - 第4節 ターミナルケアから学ぶこと
- 第4章 バリア・フリーからユニバーサル・デザイン
- 第5章 これからの地域福祉
- 第6章 Well Being

ビデオ、スライド、OHPを利用。

【評価方法】

テストによる評価。

【参考文献・資料】

授業中に紹介。

こころの世界

青柳眞紀子

【授業の概要】

私達一人ひとりが持っているこころ。しかしそれを目で見ることにはできない。こころが様々な行動や反応を通して現われるのを観察し、そこから科学的に法則性を見つけだそうとする心理学の観点から、日常生活の中で身近に感じるような事柄を中心に心の世界を探っていく。

【授業計画】

1. 無意識の世界
2. 動機づけ
3. ストレスとタイプA性格
4. 錯視の不思議
5. 学習
6. 記憶
7. パーソナリティ
8. 原因の帰属
9. 対人関係
10. 態度変容
11. 集団の心理

【評価方法】

試験の成績、レポート、出席状況などから総合的に評価する。

【テキスト】

随時資料を配布する。

こころの世界

加藤智宏

【授業の概要】

日常生活を送る中で、私たちは様々なコミュニケーションをとっています。またそれらは、家庭、学校、乗り物の中、地下街など、その時々環境、状況の中で展開しています。

この授業では、日常生活での経験を話題に取り上げ、そこで起きた現象が心理学ではどの様に理解されているのかを中心に講義していきます。

【授業計画】

- a. 知覚と感覚
- b. 認知心理学
- c. 発達心理学
- d. 社会心理学
- e. 臨床心理学

以上について、それぞれ1～2回の講義を予定しています。

また応用分野として、環境心理学についても紹介していく予定です。

【評価方法】

出席状況と試験の成績によって総合的に評価します。

【テキスト】

使用しません。授業中に資料を配付します。

ことばの世界

松本雄子

【授業の概要】

日常生活において、ことばによるコミュニケーションは、言語的な意味だけでなく、社会的な意味においても行っている。

ことばによる社会的な意味のちがいを地域、社会的階層、性差、年齢などを軸にして考えてみたい。

【授業計画】

私達が日常なにげなく行っているコミュニケーションを様々な角度から分析する。コミュニケーションの基礎概念や理論を、現実社会での生活に関連しながら講義する。その中で、地域、社会的階層、性別、年齢によるコミュニケーションの違い等にも焦点をあてる。授業は講義中心ではあるが、ビデオを使つての講義や、グループディスカッション及び自己評価など、学生参加型の授業も取り入れる。

【評価方法】

筆記試験

【テキスト】

特になし。必要に応じてプリントを配付する。

ことばの世界

山本雅子

【授業の概要】

日常生活において、ことばによるコミュニケーションは、言語的な意味だけでなく、社会的な意味においても行っている。

ことばによる社会的な意味のちがいを地域、社会的階層、性差、年齢などを軸にして考えてみたい。

【授業計画】

- 第1回 ことばと心的距離
- 第2回 ウチとソト(1)
- 第3回 ウチとソト(2)
- 第4回 敬語(1)
- 第5回 敬語(2)
- 第6回 性差(1)
- 第7回 性差(2)
- 第8回 世代差(1)
- 第9回 世代差(2)
- 第10回 名古屋方言(1)
- 第11回 名古屋方言(2)
- 第12回 ことばのはたらき

【評価方法】

出席状況・プレゼンテーション・レポートなどによる。

【テキスト】

身の回りの“日本語”。日常生活で見聞きする“日本語”に対してたえずアンテナをはっておくこと。

ビジネスの世界

渡辺泰明

【授業の概要】

21世紀を迎え、いわゆる日本型雇用システムや商慣習は崩壊しつつあるが、ビジネスの世界には、企業を維持・発展させるための企業の倫理や厳しい現実がある。企業での経験をふまえ、ビジネス世界の現実を講義する。

【授業計画】

- 第1講 マーケティングの意義（ケース：スミスクライ
ン・ベックマン）
- 第2講 マーケティング・プロセス（ケース：青山商
事）
- 第3講 市場機会の発見（ケース：根本特殊化学）
- 第4講 顧客と製品に関する戦略（ケース：花王）
- 第5講 価格戦略（ケース：サンギ）
- 第6講 コミュニケーション戦略（ケース：アサヒビー
ル）
- 第7講 流通戦略（ケース：G M）
- 第8講 ケース・スタディーNo.1
- 第9講 ケース・スタディーNo.2
- 第10講 ケース・スタディーNo.3
- 第11講 外資系金融機関の仕事No.1
- 第12講 外資系金融機関の仕事No.2
- 第13講 期末試験

【評価方法】

出席状況と期末試験の結果により評価する。

【テキスト】

MBA マーケティング（株式会社グロービス著 ダイ
ヤモンド社）

【参考文献・資料】

随時資料配布

ビジネスの世界

小池弘道

【授業の概要】

21世紀を迎え、いわゆる日本型雇用システムや商慣習は崩壊しつつあるが、ビジネスの世界は、企業を維持・発展させるための倫理や厳しい現実がある。企業での経験をふまえ、ビジネス世界の現実を講義する。

【授業計画】

- 1) ビジネス社会におけるビジネスの種類
- 2) 会社組織について
- 3) 仕事の遂行
リーダーシップ、創意と工夫、責任と権限、縦
糸・横糸（指示命令系統、部署間の連携）
- 4) 日本のビジネス社会が現在抱えている問題点
企業の業績不振
終身雇用・年功序列の崩壊
グローバル化
- 5) 世界経済が抱えている問題点
- 6) ビジネス社会で役立つ個人の能力・知識

【評価方法】

単位認定試験の成績と出席状況を総合して評価する。

【テキスト】

使用しない（必要に応じ資料配布）

【参考文献・資料】

日本の常識は、どこまで通じるか
（ジョリー・佐々木幸子、小池弘道 風媒社）

メンタルヘルス

太田龍朗

【授業の概要】

今、子どもから高齢者まで多くの人が心を病んでいると言われていています。心の病いは、その個人や年代に特有のものもあれば、時代や環境などの社会的要因によるものもあります。実際の事例をひきながら、心の臨床を説き明かし、メンタルヘルス(心の健康)について考えます。

【授業計画】

概論(第1～3講)

- 概論1 心の病い：歴史、種類、症状のとらえ方
- 概論2 ライフサイクルと心：性格、発達と加齢
- 概論3 脳と心：正常と異常の心理学

各論(第4～10講)

- 各論1 青年期、思春期にはじまる統合失調症
- 各論2 感情の障害としての躁うつ病(気分障害)
- 各論3 ストレスとその反応：神経症と心身症
- 各論4 やまらない、止まらない：薬物依存
- 各論5 眠りと食と性の偏り：睡眠、摂食、性障害
- 各論6 大人とは異なる児童・小児の障害
- 各論7 老人と高齢者の病い：器質性障害

総論(第11～12講)

- 総論1 病いを前にして：治療、面接、カウンセリング
- 総論2 心の健康に向けて：地域社会、制度と活動

終講： 単位認定試験

【評価方法】

出席状況と単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【テキスト】

大学生のための精神医学(高橋俊彦、近藤三男著 岩崎学術出版社)

【参考文献・資料】

新版精神医学事典(加藤正明ほか編集 弘文堂)
精神を病むということ(秋元波留夫/上田敏著 医学書院)
図解雑学 心の病と精神医学(影山任佐著 ナツメ社)

暮らしの経済

村上貴美子

【授業の概要】

生活に密着した経済学の入門。特に今や経済社会もグローバル化しており、国際経済の流れや仕組みにもふれ、日常化している経済用語を解説する。

【授業計画】

第1回 最近の経済状況と用語解説

生活と経済の関わり

第2回 消費者の権利と意思決定

第3回 価値観と消費の多様化

第4回 生活を取りまく環境変化

第5回 本当の「豊かさ」とは何だろうか

第6回 「労働」と言う言葉はなぜキライですか

第7回 教育と経済

第8回 サービスとはタダ(無料)のことでしょうか

第9回 余暇の為に働く

第10回 住宅とまちづくり

第11回 国際化と生活

第12回 未来を考える

毎回、最近の経済ニュースの紹介と解説を予定している。

【評価方法】

出席状況宿題レポート・単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【参考文献・資料】

生活の経済学(井原哲夫著 東洋経済新報社)

外国の言語と文化 1

角田達朗

【授業の概要】

中国語の初歩を学ぶとともに中国の風土・歴史・文化について理解を深める。

【授業計画】

近年、中国映画は国際的な賞を獲得する作品が続出し、注目を集めている。この授業では、中国映画の中から、主として現代小説を原作とする作品を、題材の年代順に鑑賞することによって、中国の近現代史についての理解を深めて行く。中国の近現代は、辛亥革命・抗日戦争・文化大革命などに象徴される動乱の時代であった。中国映画がこのような動乱の時代をいかに描いているかを、映像表現についての分析も織りまぜながら検証する。

同時に、映画の中の「生きた中国語」に触れることを通じて、中国語に親しみ、言語についての理解を深める契機としたい。

- 第1～2回 張芸謀『紅いコーリャン』
(原作 莫言『紅高粱一族』)
- 第3～4回 張芸謀『菊豆(チュイトウ)』
(原作 劉恒『菊豆』)
- 第5～6回 陳凱歌『黄色い大地』
(原作 柯蘭『深谷回声』)
- 第7～9回 謝晋『芙蓉鎮』
(原作 古華『芙蓉鎮』)
- 第10～11回 陳凱歌『子供たちの王様』
(原作 阿城『孩子王』)
- 第12～13回 孫周『心の香り』
(原作なし)

【評価方法】

レポート

*受講状況によっては、試験に変更することもある。

【テキスト】

なし。

*授業時に鑑賞する映画が、テキストに相当する。

【参考文献・資料】

随時紹介する。

外国の言語と文化 1

朱 新建

【授業の概要】

中国語の初歩を学ぶとともに中国の風土・歴史・文化について理解を深める。

【授業計画】

1. 中国語の発音一声調・韻母(1)
2. 中国語の発音一声母
3. 中国語の発音韻母・音節
4. 中国語発音のまとめ
5. 中国語会話—お名前は?
6. 中国語会話—お住まいはどちらですか。
7. 中国語会話—何が食べたいですか
8. 中国語会話—お久しぶりです。
9. 中国語の自己紹介
10. 中国語会話—中国の映画は面白いですか
11. 中国映画試写会
12. 中国語会話—中国語の上達は速いですね。
13. 前期試験

【評価方法】

平常点と試験による総合評価をします。

【テキスト】

Let's Study Chinese 1 (CD-ROM付) (朱 新建
あるむ)

外国の言語と文化 2

尹 大辰

【授業の概要】

韓国・朝鮮語の初歩を学ぶとともに、朝鮮半島の風土・歴史・文化について理解を深める。

【授業計画】

- 第1回 訓民正音について
- 第2回 ハングルの文字と発音 (1)
- 第3回 ハングルの文字と発音 (2)
- 第4回 基本的な日常会話 (1)
- 第5回 基本的な日常会話 (2)
- 第6回 基本的な日常会話 (3)
- 第7回 言語と文化 (1) - 衣・食・住
- 第8回 言語と文化 (2) - 社会的構造
- 第9回 言語と文化 (3) - 漢字語比較
- 第10回 朝鮮半島の風土
- 第11回 朝鮮半島の歴史と文化
- 第12回 まとめ-言語表現から見た文化比較

【評価方法】

期末試験とレポート、出席率を加味して評価する。

【テキスト】

プリント教材を使用する。

【参考文献・資料】

- 韓国 (金両基監修 新潮社)
- 韓国と日本の比較文化論 (金渙著 明石書店)
- 総合韓国語 1 (油谷幸利・南相瓊著 白帝社)

外国の言語と文化 3

杉本一直

【授業の概要】

ロシア語の初歩を学ぶとともに、ロシアの風土・歴史・文化について理解を深める。

【授業計画】

みなさん、知っていますか？日本の大学のなかでロシア語を学ぶことができるところは本当に少ないんですよ。ということは、「ロシア語がわかる人」は日本ではとても希少価値があるのです！「芸術の国ロシア」の言葉を今すぐ学んでみませんか？映画の鑑賞会もありますから、楽しみにしててくださいね。

初級のわかりやすい辞書を「テキスト」として授業を進めてきます。まず、例の不思議な形をしたキリル文字を憶え、発音を憶え、そのあとは辞書で遊び(?)ながら「使える単語」「使えるフレーズ」を集めていきます。たくさんたくさん集めたら、あれ、いつのまにかロシア語の達人！

辞書以外に補助教材として会話用プリントを配布します。学ぶ項目は以下のとおりです。

- a. キリル文字と発音
- b. 大きな声であいさつしよう
- c. 買い物に行ってみよう
- d. 乗り物に乗ろう
- f. おなかがすいたら…
- g. 自分について話してみよう

【評価方法】

定期試験の成績による。

【テキスト】

ロシア語ミニ辞典 (白水社)

外国の言語と文化3

丹邊文彦

【授業の概要】

ロシア語の初歩を学ぶとともに、ロシアの風土・歴史・文化について理解を深める。

【授業計画】

第1回～3回 文字と発音

以下1限に2課の割合で下記教科書を一応通読することを目標に授業をすすめる。1期終了・完結の授業で時間が限定されていることを考慮したものである。したがって練習問題（解答付）は自習に任せ、最小限の文法解説に止めて、本文中心に音読と文字への習熟に重点を注ぐことによって、運用力の土台を養成するのが眼目である。その際付属のCDを活用した予・復習は欠かせない。発音教材の補助としてロシア民謡も紹介し、ロシアの風土・歴史・文化への理解を深める。

【評価方法】

a. 朗読 b. 聴取り c. ペーパーテスト の総合

【テキスト】

エクスプレス ロシア語 桑野 隆著 白水社

【参考文献・資料】

ロシア語のすすめ（講談社現代新書）

外国の言語と文化4

藤井たぎる

【授業の概要】

ドイツ語の初歩を学ぶとともに、ドイツの風習・歴史・文化について理解を深める。

【授業計画】

ドイツ・オーストリアの生活文化とその言語。現代のドイツ・オーストリア事情の一端を紹介しながら、ドイツ・オーストリアのいろいろな「顔」を発見してもらう。具体的には下記のような日常的なテーマをもとに、ドイツ・オーストリアの事情を日本のそれと比較しながら、両者の類似性と差異をみてゆく。また初歩的なドイツ語会話の練習もあわせておこないたい。

- 1) ドイツ・オーストリアの風土
- 2) ドイツ・オーストリアの近現代史
- 3) ドイツ・オーストリアのマス・メディア
- 4) ドイツ・オーストリアの衣食住
- 5) ドイツ・オーストリアの消費生活
- 6) ドイツ・オーストリアの芸術文化

講義形式ではあるが、授業中にいろいろ意見を求め、各自の考えるところを発言してもらう。必要に応じてプリントを配布する。

【評価方法】

筆記試験。

【テキスト】

適宜、プリントを配布する。

外国の言語と文化 5

清水ベアトリックス

【授業の概要】

ヨーロッパ文明の発祥の国フランスについての理解を深めることはヨーロッパ文化を理解するうえで重要である。フランス語とフランス文化の概要を学ぶことにより、フランスへの関心と理解への動機づけとしたい。

前期

このコースは、受講者の興味を考慮に入れ授業内容を考えたい。現代フランス社会と日常使用されているフランス語を学ぶとともに、担当講師（フランス人）の在日体験談を交え、フランス・日本両国を言語・文化の面から比較検討する。

とにかく、下記のテーマで行う。

- フランスの地理
- フランスの建国
- フランス国民の起源
- フランスの社会問題
- フランスの家族
- 教育制度
- フランスとヨーロッパ
- フランス人と余暇など。

後期

前期と同じ。

【授業計画】

毎回、担当教員が指定したテキストの章について議論し、テレビや新聞で報道されたフランスに関する時事問題の中で特に学生の関心を引くようなものを選んで、解説したい。

【評価方法】

定期試験を重視するが、宿題（テキストや映画についての感想文）、出席率、受講態度なども考慮に入れる。

【テキスト】

変貌するフランス（西永良成 日本放送出版協会）

外国の言語と文化 6

木下まりあ

【授業の概要】

スペイン語の初歩を学ぶとともに、スペインの風土・歴史・文化についても理解を深める。

【授業計画】

1. スペイン語とスペイン語圏の世界
2. スペインの歴史と文化の特色
3. スペイン語のアルファベット、音節、アクセント
4. 名詞の性数、定冠詞と不定冠詞
5. 人称代名詞、ser と estar 動詞、hay
6. 否定文、疑問文、関係詞、感嘆文
7. 形容詞（性数の一致）、指示形容詞、所有形容詞
8. 動詞（直説法現在）
9. 再帰動詞
10. 動詞（直説法現在完了）、過去分詞と現在分詞
11. 動詞（直説法過去：点過去と線過去）
12. まとめ

【評価方法】

筆記試験またはレポートに出席状況を加味して評価。

【テキスト】

授業中に指示。

文章表現論

加藤孝男

【授業の概要】

「自分にしか書けないことを誰にもわかるように書く」ことを目標にして、文章表現に必要な基本的事項を実践例をふまえながら学習します。

【授業計画】

- 第1講 はじめに
- 2～3 日記について
- 4～6 名文を読む
- 7～8 表現のレトリック
- 9～10 芸術的表現の手法
- 11～12 表現の実践
- 13～14 まとめ

【評価方法】

試験によって評価します。
また、出席・平常点も重視。

【テキスト】

第一回目の講義で指示します。

文章表現論

青木 健

【授業の概要】

「自分にしか書けないことを誰にもわかるように書く」ことを目標にして、文章表現に必要な基本的事項を実践例をふまえながら学習する。

【授業計画】

- 第1回 人は言葉の織物である。(伝達と表現Ⅰ)
- 第2回 現代の口語表現について。(伝達と表現Ⅱ)
- 第3回～7回
例文をテキストに、文章の構成、語法、リズム、形容修辭法など具体的に講義。
- 第8回～12回
課題を3回提出し、短文(2～5枚、400字語)を書かせ、そこから文章表現についての共通の問題点を抽出する。

【評価方法】

出席状況、3回の提出原稿などを基準として評価する。

【テキスト】

当方にて用意します。参考書籍は授業中に数冊指示します。

比較文化

文 嬉眞

【授業の概要】

世界にはさまざまな国家や民族があり、多様な文化が存在する。文化人類学的な見地から外国の文化や伝統・風俗を学ぶ。

【授業計画】

本講義では、主に「日本の文化」に焦点を当て考えることにする。特に、外国人（見る側）が日本という異文化（見られる側の文化）と直接接触した際、どのように評価（表現方法）・認識したかを考察し、その考察からなぜそのような評価・認識があらわれるかを分析する。そして、得られた分析によって外国人（見る側）がもつ「文化」を再分析する。すなわち、外国人（見る側）が「異文化」（見られる側の文化）を見るまなざしに関して考察することによって、自文化（見る側の文化）を再認識するだろう。

1. 異文化との理解・誤解に関する一般的な概論
2. 異文化交流史における本講義の位置付け
3. 前近代の外国人（見る側）における「日本認識」および外国人（見る側）がもつ「文化」に関する考察
4. 近・現代の外国人（見る側）における「日本認識」および外国人（見る側）がもつ「文化」に関する考察
5. 異文化としての「日本文化論」

【評価方法】

1. 出席、受講態度、講義時の課題等で全体の50%を評価する。
2. 学期末レポートで残る50%を評価する。

【テキスト】

講義の中で随時、配布する。（必ず事前に読んでおくこと）

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

比較文化

田所光男

【授業の概要】

世界にはさまざまな国家や民族があり、多様な文化が存在する。文化人類学的な見地から外国の文化や伝統・風俗を学ぶ。

【授業計画】

ワインとか料理、香水にモード、もう少しアカデミック(?)にルーブルとかオルセー... 皆さんのフランス・イメージはどうでしょうか。この授業では、異文化・異民族との関係の中にあるフランスを眺めて行きます。恐らくこれまでのフランス・イメージとはかなり違うフランスの姿にぶつかることになると思います。フランスを少し再発見してみる、ことができるのではないのでしょうか。また、フランスばかりではなく、現代世界に生じている様々な文化摩擦・民族衝突の問題を理解して行くために必要な、いくつかの知的枠組みを自分の中に取り入れることも可能だと思います。

具体的には、フランスのユダヤ人に焦点を当てます。まず、世界に広く散在するユダヤ人の文化と歴史、及び反ユダヤ主義について概論を行ないます（5回）。次いで、パリとユダヤ移民との関わりを見た後（3回）、ショア後のフランスに生きるユダヤ人のアイデンティティ模索を検討します（5回）。

こうした検討を通して、同化、植民地化、移民、ディアスポラ、越境、アイデンティティ、人種主義、迫害、ジェノサイド、ヨーロッパ中心主義、反ヨーロッパ主義、文化相対主義、普遍主義、差異への権利、多文化主義、主体など、様々な問題を考えて行きます。

【評価方法】

授業への積極的な参加、及び数種類のレポート。

【テキスト】

異文化への視線（佐々木英昭編著 名古屋大学出版会）
その他、適宜プリントを配布します。

現代芸術 1

森美恵子

【授業の概要】

現代芸術としての「書道」の意義と意味を問い、名筆の鑑賞と書写の実技をする。

【授業計画】

楷書・行書・草書の古法帖を拡大臨書コピーし、その手本に基づき書作した清書作品を提出する。

書写中心であるが、中国の書論に則り、古法帖の概略等も講ずる。

【評価方法】

授業内で提出する平素の成績物及び出席状況等にて総合的に評価する。

【テキスト】

書の鑑賞と学び方（上田桑鳩 教育図書研究会）

現代芸術 1

小川晃治

【授業の概要】

現代芸術としての「書道」の意義と意味を問い、名筆の鑑賞と書写の実技をする。

各時代に於ける日本の書美の変相を、他の美術と文学と対比、関連させて探求させる。そして現代社会の中にあつて、書のあり方、価値感を考察し、また生活の中に於ける書文化の諸相を観る。漢字から「かな」を創造した日本人の美意識を追求する。

- 他の美術、文学を対比して、書の美学を学ぶ。
- 基本的書技を実習する。楷、行、草、篆、隸書、かなの六体を実習する。
- 日本の三筆、三蹟の古筆の鑑賞、臨書をする。
- 基本的なかなの実技と、古筆を鑑賞する。
- 漢字の細字の実技の実習をする。王羲之の蘭亭叙を臨書させる。
- 和漢の書道史を通じ、書の美の概要を学ぶ。
- 奈良、平安時代の文学、書に於ける、漢字の意義、かなの創成、大成を通じ、上代文化の成立を学ぶ。
- 鎌倉時代に於ける禅文化を墨跡にふれ、貴族文化と武家文化の対比をさせる。
- 室町、桃山時代の絵画、建築、工芸と書芸の動向を観る。また現代社会に於ける美の淵源を探る。
- 江戸時代に於ける庶民文化隆盛の中の美と、和様、唐様の書の諸相を学ぶ。
- 現代社会に於ける、文字、書文化の社会生活の中での意義を考えさせる。

【授業計画】

講義、実技を一日の時間内に進める。前後期共通の為、各時代の書美、他の美術、文学の対比についての講義は概論とする。現代社会に於ける書美と、日本人の美意識を探求することを基準として進める。

【評価方法】

レポート三種、実技作品、学習態度、出欠状況などによる。

【テキスト】

担当者の小文、古典法帖。

現代芸術 2

志水博子

【授業の概要】

現代芸術としての「音楽」の意義と意味を問い、名曲を鑑賞し、歌唱をする。

【授業計画】

- 第1回 名演奏家によるオペラのビデオ鑑賞
- 第2回 声の出るしくみを知る
- 第3回 腹式呼吸と身体のつかい方の練習
- 第4回 ビデオ鑑賞
- 第5回 発声練習と歌唱
- 第6回 ビデオ鑑賞
- 第7・8回 ピクニックや集会でのやさしいハーモニーの楽しみ方練習
- 第9～12回 各自の課題による実技発表とアドバイス

【評価方法】

授業内での実技演奏（各自の得意とする歌唱又は楽器の演奏、アンサンブル可）と出席状況

【テキスト】

楽譜プリントは配布

現代芸術 2

浅田まり子

【授業の概要】

現代芸術としての「音楽」の意義と意味を問い、名曲を鑑賞し、歌唱をする。

【授業計画】

- 第1講 音楽について
- 第2講 発声のしくみ
- 第3講 ヴォイストレーニング1（自然体）
- 第4講 音楽療法 1（歴史と機能）
- 第5講 ヴォイストレーニング2（呼吸法）
- 第6講 サウンドスケープ（音の風景）
- 第7講 音楽療法 2（受容性）
- 第8講 音のしくみ1（メロディーとリズム）
- 第9講 ヴォイストレーニング（楽器の確保）
- 第10講 音のしくみ2（コードなど）
- 第11講 音楽と旅
- 第12講～発表

*音楽の機能を健康的に活かし、自己満足的な音楽ではなく、ノンバーバルコミュニケーションとなる音楽を目指します。

*発表は、個人・またはグループでジャンルを問わない演奏の発表。（歌・ギター・ピアノ・コンピューターミュージックなど）

【評価方法】

実技・感想・出席状況・授業態度

【テキスト】

授業中に指示

現代芸術 3

横山萬里

【授業の概要】

現代芸術としての「美術」の意義と意味を問い、名画を鑑賞し、又、古画のうちで親しみやすい絵巻について講義をする。

【授業計画】

国宝に指定されている古い絵画あるいは日本の伝統的な絵巻のなかから鳥獣人物戯画をとりあげて日本画の表現、色彩方法を講義する。

また、授業の中で名古屋市内の美術館を訪問し、古画現代画にふれる。

- ・日本画の特徴
- ・鳥獣人物戯画の説明
- ・鳥獣人物戯画における線の強弱と動き
- ・日本画の模写について
- ・日本画の鑑賞

美術館入場料 500円程

筆ペン 500円

費用 計 1,000円

【評価方法】

出席状況と感想文レポート（6回提出）を総合的に評価。

【テキスト】

日本の絵巻6「鳥獣人物戯画」
コピーした図を見る。

【参考文献・資料】

なし。

女性学・男性学

井深淳子

【授業の概要】

男女についての定説化した知識、それによって作り出された役割、人格の内部に及ぶ性別化の影響とその結果生まれる病理などについて、さまざまな事例や理論を紹介し検討する。

本授業を通して、私達の生活を、女性学・男性学から点検し、そこに「どういう困難があり、どういう課題があるのかを具体的に知ること」をめざす。

【授業計画】

第1回 はじめに

第2～5回 家族問題

第6～9回 子育て

第10～11回 現代の病巣

第12～13回 女性が働き続けることについて

【評価方法】

期末試験、講義時に行う課題や、受講態度等、総合的に評価する。

【テキスト】

女性学への招待〔新版〕(井上輝子著 有斐閣)

テキストとともに、講義中に適宜配布する関連資料を用いてすすめる。

女性学・男性学

伊藤公雄

【授業の概要】

現代日本社会におけるジェンダー問題について、おもに男性学の視点から考察を加える。

はじめに ジェンダー論入門

1. 女性問題の発展
2. 現代日本の女性問題
3. 男性問題の時代
4. 作られる「男らしさ」「女らしさ」
5. 体験的主夫論／働く主夫の生活と意見
6. ニッポンのお父さん／男性の育児をめぐる
7. 男性学と男性運動の展開
8. 試験

<参考図書> 伊藤公雄・牟田和恵編『ジェンダーで学ぶ社会学』（世界思想社）

伊藤公雄・樹村みのり・國信潤子『女性学・男性学——ジェンダー論入門』（有斐閣）

【授業計画】

講義を中心に、ビデオ教材なども使用しつつ進める予定である。

【評価方法】

試験によって成績評価を行う。

【テキスト】

男性学入門（伊藤公雄 作品社 1,680円）

女性学・男性学

竹信三恵子

【授業の概要】

男女についての定説化した知識、それによって作り出された役割、人格の内部に及ぶ性別化の影響とその結果生まれる病理などについて、さまざまな事例や理論を紹介し検討する。

【授業計画】

- 第1回 戦後型男女分業と経済構造～高度経済成長から男女共同参画社会基本法までを概括し、男女の共同関係の新しいあり方をさぐる。
- 第2回 戦後型男女分業主義を支えたマスメディア～その機能と対抗法をメディア内部から分析。

【評価方法】

出席状況と簡単なレポートなどによる。

【テキスト】

授業中に指示する。

エコロジー

大島光昭

【授業の概要】

今や地球規模で自然の環境破壊が進んでいる。自然を保護し、環境を守る観点から地球のエコロジーを考える。

エコロジーとは、生物とそれをとりまく外界すなわち環境との関係についての総合科学である。生物の生存は均衡のとれた有機的および無機的環境の上に成り立っており、均衡の崩壊は人類を含む生物界の未来を危うくする。人類の生活および生産活動はこれらの均衡を乱して多くの生物の生存を脅かしつつあり、地球の未来に様々な問題を投げかけている。それらの状況について解説するとともに、今後どうあるべきかについて問題提起を行う。

【授業計画】

エコロジーの基礎

自然環境の保護と育成

陸地環境

水域環境

流域圏環境

化石燃料と環境

地球の温暖化

酸性雨

光化学オキシダント

浮遊粉塵

化学物質と環境

オゾン層の破壊

生物濃縮と生態系の攪乱

ヒトの健康被害

【評価方法】

出席状況と試験成績をもとに評価する。

【テキスト】

「生態学（エコロジー）」改訂版（大島光昭著 三恵社）700円

伝統文化

林 和利

【授業の概要】

国際化が進み、さまざまな異文化にふれる機会も多くなったが、日本の伝統文化にも目を向けることが大切だ。伝統文化の中でも芸能・演劇を中心に講義する。舞楽・能・狂言・歌舞伎・文楽など、実際の舞台をビデオ等で確認しつつ、その歴史や演技・作品などについて講じる。

【授業計画】

1. 授業の目的と方針を提示。
2. 日本芸能演劇史概説。
3. 芸能の発生について
4. 神楽について
5. 伎楽・舞楽・散楽について
6. 能について
7. 狂言について
8. 歌舞伎について
9. 文楽について

また、学外の舞台芸術を有料で鑑賞することもありうる。

【評価方法】

出席状況と単位認定試験により総合的に評価する。

【テキスト】

日本文化論序説（林和利著 青山社）

アジアの生活と文化

楊 衛平

【授業の概要】

日本は生活も文化もアジアの影響を強く受けている。特に日本と歴史的にも関係の深い近隣の国を中心にアジアの生活と文化を講義する。

【授業計画】

1. 中国の少数民族の構成
2. 儒教、仏教と道教の相異
3. 中国の年中行事
4. 南北食文化の比較
5. 中医学と西洋医学
6. 気の文化と気功術
7. 飲茶の文化と歴史
8. 伝統武術と映画
9. 少数民族の音楽
10. 少数民族の服装
11. 中国人の姓の色々
12. 中国の名勝物語
13. 中国人と日本人の考え方の相異

【評価方法】

出席状況とレポートによって総合的に評価する。

【テキスト】

プリント配布。

生命の科学

富田 武

【授業の概要】

動物の生命の誕生、生体を構成する物質や生殖と遺伝の仕組みなど、動物の生命の維持のメカニズムについて学ぶ。

【授業計画】

- 第1講 生命の科学序説
- 第2講 生命誕生と進化
- 第3講 動物細胞の分化
- 第4講 動物体を構成する物質
- 第5講 動物の生殖と発生
- 第6講 動物の遺伝（1）
- 第7講 動物の遺伝（2）
- 第8講 動物の生命維持（1）
- 第9講 動物の生命維持（2）
- 第10講 脳の進化、成長、老化
- 第11講 動物の生殖現象操作
- 第12講 動物の遺伝現象操作
- 第13講 単位認定試験

【評価方法】

出席状況と単位認定試験で総合的に評価する。

【参考文献・資料】

生命科学への誘い（大島泰郎他編 東京化学同人）
生物小事典（丘英通、岩波洋造監修 三省堂）

食品の科学

千葉善根

【授業の概要】

基礎的な科学と食品の科学との関わり、食品のもつ機能や性質、貯蔵などを学び、食品と酵素の関係や化学物質としての理解を深め、多様化した食生活や加工食品の氾濫の中で生活に役立つ講義をする。

【授業計画】

1. 現代食生活の問題点
食生活の変化と食糧資源について。
2. 糖質と食品
デンプンの機能と利用、食物せんい、最近の甘味料について。
3. たんぱく質と食品
変性と加工・調理との関係、加工食品と食物性たんぱく質の利用。
4. 脂質と食品
脂肪の性質と脂肪酸、油脂の劣化、乳化と乳化食品。
5. 無機質と食品
骨粗鬆症等。
6. ビタミン
食品加工・調理との関係、生物学的触媒としての働き。
7. 発酵食品
食品と酵素・微生物との関係。

【評価方法】

定期試験にて評価。

【テキスト】

使用しない（プリント配布）。

生活の化学

八代有

【授業の概要】

健康で豊かな生活を維持していくには、化学の知識と活用は必要欠くべからざるものである。身近な生活に拘わる化学的な要素について事例をあげて学ぶ。

【授業計画】

1. 栄養のバランスと健康増進を考える
2. 食品成分の化学と食品の安全性
3. ビタミンの化学的性質と疾病とのつながり
4. 生活習慣の改善と疾病予防
5. 薬についての正しい認識
6. 薬が生体に影響を与える因子
7. 尿・血液成分のしくみ
8. 暮らしのなかの酵素の働き
9. 話題となった環境公害
10. 生活のなかでの不思議

【評価方法】

テストおよび出席状況により総合的に判定する。

【テキスト】

テキスト使用せず、プリントを適宜配布する。

生き物の世界 1

服部一三

【授業の概要】

地球上には多種多様な植物が生存しているが、これらの植物は食物連鎖の基本を成すものである。植物の生物界における位置付けや植物の成育地について紹介し、植物と人間との関わりについて認識を深める。

【授業計画】

- 第1回 1. 生物界の分類
2. 生物の進化
- 第2-6回 3. 植物と人の関わり
1) 農耕の始まり
2) 世界の農耕文化
3) 日本農耕文化の起源と発展
4. 人が手を加えた植物—作物
1) 作物とは?
2) 世界の作物の起源
- 第7-8回 5. 作物改良の原理と方法
1) 作物改良の原理
(1) メンデルの法則—遺伝学
(2) 遺伝の物質的基礎
- 第9回 2) 作物の改良方法
- 第10回
- 第11-12回 6. バイオテクノロジー
1) バイオテクノロジーとは?
2) 作物の改良とバイオテクノロジー
(1) 細胞・組織培養
(2) 遺伝子操作
(3) バイオテクノロジーで得られた作物をいかに考えるか?
(1) 倫理
(2) 安全性

【評価方法】

受講資格についてはあえて問わないが、成績評価には出席点を重視し、単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【参考文献・資料】

下記の書籍を参考書籍として使用するが、テキストなどを作成して講義を進めるので、特に買い求める必要はない。
生物的自然と人間 (平田豊著 開成出版)

生き物の世界 2

石崎宏矩

【授業の概要】

身近に見られる昆虫や鳥などの生態のメカニズムを解説し、生命の進化について学び、動物への関心といたわりを深めたい。

【授業計画】

次のような項目について講義する。○カイコはどのようにクワシか食べないのか○モンシロチョウの雄はどのようにして雌を見分けるか○生物がもっている時計(生物時計)とはどのようなものか、時差ボケはどうして起こるか○モンシロチョウの蛹はどのようにして寒い冬をのりこえるか○アヒルのひなは生まれて初めて見た生き物を親として認識し、終生変わらない(刷り込み)。刷り込みの起こる機構は?○生命が地球上に生まれてから40億年、さまざまな生物はどのようにして進化してきたのか、DNAの性質、遺伝子の突然変異、自然淘汰とは。

他に、NHKスペシャル「生命—40億年はるかな旅」他のVTRを放映し、解説を加える。

全体として、生物の進化、近未来における地球上の生命—人間を含めて—の危機について、正しく理解してもらえようにつとめる。

【評価方法】

出欠、レポート、試験によって総合評価する。欠席した時は、友人のノートを写させてもらって、内容を理解しておくこと。試験問題が、たまたま欠席した日の授業内容だったからといって白紙であれば、特に区別はしない。

【テキスト】

「進化とはなんだろうか」長谷川真理子著(岩波ジュニア新書)。これを読んで要約をレポートとして提出してもらおうことを単位修得のための必須作業として課する。

【参考文献・資料】

随時、授業で指示する。図書館に備えつけてあるので、自主的に勉強してほしい。

人類と宇宙

安野志津子

【授業の概要】

宇宙観の始まり、星の生と死、地球の生成と進化など、日進月歩の宇宙の科学の課題をふまえつつ、人類にとっての宇宙についても考察する。

【授業計画】

—地球のまわり、太陽系、銀河系を知り、宇宙を身近に引き寄せるために—

1. 宇宙観の変遷
2. 宇宙を観測する手段
3. 太陽系を探る
4. 星の世界
5. 銀河から宇宙へ
6. 宇宙の始めと未来

毎回プリントを配布し、講義を主とするがその内容を中心としたOHP、ビデオ等も利用する。また、講義に関連した質問を出してもらい次回に解答する。なお、随時ホットな話題も取り入れたい。

【評価方法】

基本的には、期末テスト（配布プリント、ノート持ち込み可）によるが、出席状況も考慮して判定する。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献・資料】

- (1) 宇宙論のすべて 池内 了 (新書館)
- (2) 図解雑学 天文学 二間瀬敏史 (ナツメ社)
- (3) 星と宇宙の物理学読本 並木雅俊 (丸善)
- (4) 図解 SPACE ATLAS 宇宙のすべてがわかる本 三品隆司・河島信樹 (PHP)
- (5) 見えてきた宇宙の神秘 野本陽代 (草思社)
- (6) 太陽 —その素顔と地球環境との関わり— ケネス・R. ラング著 渡辺 堯/桜井邦朋訳 (シュプリンガー・フェアラーク東京)
- (7) 理科年表 国立天文台編 (丸善)

数学の世界

岡田克彦

【授業の概要】

我々は日常生活の中で、数学の恩恵を受けて暮らしている。数学は云うまでもなく膨大な内容を持つ学問体系であるが、ここではいろいろな分野の入門的・基本的な事項を解説し、演習により少しでも多く身につけることをめざす。

【授業計画】

以下の各項目について説明し、演習を行う。

- 1 確率
- 2 統計、偏差値
- 3 ベクトル
- 4 微分
- 5 積分
- 6 物理学への応用

【評価方法】

課題及び試験で評価する。

【テキスト】

特に使用しない。随時プリントを配布する。

生命の倫理

加藤太喜子

【授業の概要】

現代の医学の進歩と発達によって今や人間の生命の誕生も医学よりも倫理の問題になった。現代社会が抱えている「生命」を倫理や哲学の面から考察する。

【授業計画】

次の主な項目に従って授業を展開する。

1. 生命倫理学の成り立ち
2. インフォームド・コンセント
3. 脳死と移植医療
4. 生殖医療
5. 代理母
6. 人工妊娠中絶
7. 出生前診断
8. 優生思想とは
9. よりよい自己決定に向けて

【評価方法】

レポート及び期末に行う筆記試験により評価する。

【テキスト】

授業中に指示する

【参考文献・資料】

優生学と人間社会（米本昌平ほか著 講談社現代新書）

健康と医学

渡邊一功

【授業の概要】

日本はますます高齢化社会に入り、人生80年の時代になった。しかし、長生きするための健康は自分で管理し、自立自助によって初めて達成される。健康を保ち、命を守り育てるにはどうすればよいか。医学の立場から、病気と健康について講義する。

【授業計画】

- 1) 性感染症
感染症とは 性感染症の現状と予防
- 2) 免疫とアレルギー
免疫のメカニズム、アレルギー反応の分類
アレルギー疾患
- 3) 嗜好品と健康
アルコール タバコ 薬物依存
- 4) 生活習慣病の予防
糖尿病 がん 高脂血症 高血圧
- 5) 生殖の医学
性功能 避妊 妊娠
- 6) 胎児からの子育て
母子相互作用 母と子の絆 小児虐待
- 7) 子どもの成長と発達
身体的発育 生理機能の発達 精神的発達
しつけ
- 8) 乳幼児期の主な病気
一般的症状 主な病気 障害児
染色体と遺伝子異常

【評価方法】

主に筆記試験による。

【テキスト】

健康と保健の科学（坂口他著 日本小児医事出版社）

健康とくすり

永井慎一

【授業の概要】

現代は飽食の時代といわれ、運動不足やストレス過多のため薬品の助けがなければ健康の維持が難しい。薬品についての正しい知識を学び、薬品への依存性や副作用について理解を深める。

【授業計画】

- 第1回 受講生に「病気とくすりについて」アンケート調査後、創薬の歴史から新薬開発まで、動物実験や治験の評価法も含めて解説
- 第2～3回 くすりの基礎知識として、くすりのかたちと生体内運命、くすりの効くメカニズムと受容体、危険なくすりの飲み合わせと副作用など2回にわたり解説
- 第4回 くすりの正しい知識のすべてを、イラスト入りの質問形式でわかりやすく教える
- 第5～6回 最近許可されたビルなどの生活改善薬をはじめ、繁用される一般用医薬品（OTC）500種と医者が処方する医療用医薬品200種を薬効別に解説
- 第7回 頭痛、生理痛の原因と治療薬のメカニズム
- 第8回 アトピー性皮膚炎や花粉症の発症メカニズムとくすりの効き方
- 第9回 病気の早期発見に役立つ成人病検査値の見かたと最新の画像診断法を解説
- 第10～13回 検診で見つかる生活習慣病を中心に、高血圧、ガン、糖尿病、エイズなどの発症原因と最先端治験薬を含めた治療薬の作用機作

【評価方法】

配布したプリントからテーマを出題し、レポートの内容で成績評価する。

【テキスト】

プリントを毎回配布し、講義する。なお、何時でも「病気とくすりに関する質問」をメールで受けつけ、プライバシーを守ってお答えします。

ライフサイクルと健康

松田秀子

【授業の概要】

人間は年齢に伴い体型も変化し、健康も害しやすくなる。ライフサイクルに合わせた運動と健康の維持について身近な問題を取りあげて講義する。

【授業計画】

1. ライフサイクルと健康とは
2. 姿勢
3. プロポーション（理想と現実）
4. 身体意識
5. 肥満とやせ
6. 隠れ肥満
7. 自分のからだを判定しよう
8. 体脂肪
9. 体脂肪を正しく落とす方法
10. 筋肉と運動神経
11. 健康づくりのための運動
12. Walking
13. 性のとらえ方
14. 性への理解
15. 学生生活と健康

【評価方法】

出席状況・レポート・単位認定試験によって総合的に評価する。

【テキスト】

使用せず。
必要に応じて参考資料を配付し、参考書籍を指示する。

スポーツ基礎

杉山 和 山本啓子 松田秀子
寺田邦昭 門間 博

【授業の概要】

各種スポーツ（テニス、ゴルフ、バドミントン）をはじめ、ストレッチ体操、トレーニングなどの運動の基礎技術を習得することを目標として行う。

【授業計画】

月曜日	2限	杉山	テニス・バドミントン
	3限	杉山	テニス・バドミントン
火曜日	1限	松田	テニス・ゴルフ
	2限	松田	テニス・ゴルフ
	3限	山本	卓球・バレーボール
	3限	松田	バドミントン・ゴルフ
水曜日	4限	山本	卓球・バレーボール
	1限	門間	テニス・バスケットボール
	2限	門間	テニス・バスケットボール
	3限	門間	テニス・バドミントン
木曜日	3限	山本	バレーボール・卓球
	4限	門間	テニス・バドミントン
	4限	山本	バレーボール・卓球
	1限	寺田	ニュースポーツ
金曜日	2限	寺田	ニュースポーツ
	3限	杉山	バドミントン・テニス
	3限	山本	卓球・バレーボール
	4限	山本	卓球・バレーボール
金曜日	2限	杉山	テニス・バドミントン
	3限	杉山	テニス・バレーボール
	4限	杉山	テニス・バレーボール

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行います。
- ・原則として、半期間に2種目を行います。（天候によって種目を変更する場合があります。）
- ・授業については、健康科学教育センターの掲示板を参照のこと。
- ・ゴルフについては、実習費（300円）を必要とします。

【評価方法】

70点－（欠席回数／授業実施回数×70点）＝出席点

30点＝実技点

スポーツ応用（授業概要）

杉山 和 山本啓子 松田秀子
寺田邦昭 門間 博

【授業の概要】

より高度なスポーツ技術の習得を目標とし、各種スポーツを半期間通して行う。

【授業計画】

月曜日	2限	杉山	ゴルフ
	3限	杉山	ゴルフ
火曜日	1限	松田	バドミントン
	2限	松田	バドミントン
	3限	山本	バドミントン
	3限	松田	テニス
水曜日	4限	山本	バドミントン
	1限	門間	バドミントン
	2限	門間	ソフトボール
	3限	山本	バドミントン
木曜日	3限	門間	サッカー
	4限	山本	バドミントン
	4限	門間	サッカー
	1限	寺田	ニュースポーツ
金曜日	2限	杉山	ゴルフ
	2限	寺田	ニュースポーツ
	3限	山本	バドミントン
	4限	山本	バドミントン
金曜日	2限	杉山	バレーボール
	3限	杉山	バドミントン
4限	杉山	バドミントン	

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行います。
- ・天候によって種目を変更する場合があります。
- ・授業については、健康科学教育センターの掲示板を参照のこと。
- ・授業内容については、担当教官の欄を参照のこと。
- ・ゴルフについては、実習費（600円）を必要とします。

スポーツ応用

杉山 和

【授業の概要】

より高度なスポーツ技術の習得を目標とし、各種スポーツを半期間通して行う。

【授業計画】

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行います。
- ・天候によって種目を変更する場合があります。
- ・授業については、健康科学教育センターの掲示板を参照のこと。
- ・ゴルフについては、実習費（600円）を必要とします。

〔ゴルフ〕

1. ガイダンス
 2. グリップ、スタンス、アドレス
 - 3～6. アイアン練習（ショート・ミドルアイアン）
 - 7～8. ウッド練習（1、3ウッド）
 9. 学外のゴルフ練習場にて練習
 - 10～14. 総合練習
 15. 学外のゴルフ練習場にて練習
- 〔バレーボール〕
1. ガイダンス
 2. ボールに慣れる、構え、動きの基本姿勢
 3. サーブの種類と打ち方
 - 4～6. パス、トス、レシーブ、スパイク、ブロック
 - 7～15. ゲームの進め方、ルール説明、ゲーム
- 〔バドミントン〕
1. ガイダンス
 - 2～3. ラケットワーク
 4. ストローク練習（アンダーハンドを中心に）
 5. ストローク練習（サイドハンドを中心に）
 6. ストローク練習（オーバーヘッドを中心に）
 - 7～15. ゲームの進め方、ルール説明、ダブルスゲーム

【評価方法】

70点－（欠席回数／授業実施回数×70点）＝出席点
30点＝実技点

スポーツ応用

山本啓子

【授業の概要】

より高度なスポーツ技術の習得を目標とし、各種スポーツを半期間通して行う。

【授業計画】

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行います。
- ・天候によって種目を変更する場合があります。
- ・授業については、健康科学教育センターの掲示板を参照のこと。

〔バドミントン〕

1. ガイダンス
2. 歴史的ゲームの迫体験（シングルスゲーム）
3. ラケットワーク
4. ストローク練習（アンダーハンドを中心に）
5. ストローク練習（サイドハンドを中心に）
6. ストローク練習（オーバーヘッドを中心に）
7. ゲームの進め方、ルール説明
8. ダブルスゲーム（フォーメーションを中心に）
- 9～15. ダブルスゲーム

【評価方法】

70点－（欠席回数／授業実施回数×70点）＝出席点
30点＝実技点

スポーツ応用

松田秀子

【授業の概要】

より高度なスポーツ技術の習得を目標とし、各種スポーツを半期間通して行う。

【授業計画】

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行います。
- ・天候によって種目を変更する場合があります。
- ・授業については、健康科学教育センターの掲示板を参照のこと。

[バドミントン]

1. ガイダンス
2. 歴史的ゲームの追体験
3. ラケットワーク
4. ストローク練習（アンダーハンドを中心に）
5. ストローク練習（サイドハンドを中心に）
6. ストローク練習（オーバーヘッドを中心に）
7. ゲームの進め方、ルール説明
8. ダブルスゲーム（フォーメーションを中心に）
- 9～15. ダブルスゲーム

[テニス]

1. ガイダンス
2. ボールとラケットに慣れる
3. グランドストローク（フォアハンドを中心に）
4. グランドストローク（バックハンドを中心に）
5. サービス、レシーブ
6. ボレー、スマッシュ
7. ゲームの進め方、ルール説明
8. ダブルスゲーム（フォーメーションを中心に）
- 9～15. ダブルスゲーム

【評価方法】

70点－（欠席回数／授業実施回数×70点）＝出席点
30点＝実技点

スポーツ応用

寺田邦昭

【授業の概要】

より高度なスポーツ技術の習得を目標とし、各種スポーツを半期間通して行う。

【授業計画】

- *第1週目の授業は教室にてガイダンスを行います。
- *天候によって種目を変更する場合があります。
- *授業については、健康科学教育センターの掲示板を参照のこと。

[スキルトレーニング]

オールラウンドプレーヤーを目指し、下記のスポーツスキルを週毎に種目を変えながら練習し、その基本的な動きのコツの獲得を目指す。

打つ技術の獲得

- バッティング（ソフトボールでの打つスキル）
- ショット（ゴルフ・バスケットボールでの打つスキル）
- ストローク（卓球・テニス・バドミントンでの打つスキル）
- スマッシュ（卓球・テニス・バドミントンでの打つスキル）
- アタック（バレーボールでの打つスキル）
- キック（サッカー・ラグビーでの蹴るスキル）

投げる・送る技術の獲得

- スローイング及びパス（ソフトボール・バレーボール・バスケットボール・フライングディスク・サッカー・ラグビーでの投げる・送るスキル）

捕る技術の獲得

- キャッチング（ソフトボール・バスケットボール・ラグビー・フライングディスクでの捕るスキル）

- 1週 ガイダンス
- 2～7週 主にアウトドア種目を中心に実施する。
- 8～13週 主にインドア種目を中心に実施する。
- 14週 テスト（各種スポーツにおけるスキルテスト）

【評価方法】

70点－（欠席回数／授業実施回数×70点）＝出席点
30点＝実技点

スポーツ応用

門間 博

【授業の概要】

より高度なスポーツ技術の習得を目標とし、各種スポーツを半期間通して行う。

【授業計画】

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行います。
- ・天候によって種目を変更する場合があります。
- ・授業については、健康科学教育センターの掲示板を参照のこと。

[バドミントン]

1. ガイダンス
- 2～3. ラケットワーク
4. ストローク練習（アンダーハンドを中心に）
5. ストローク練習（サイドハンドを中心に）
6. ストローク練習（オーバーヘッドを中心に）
- 7～15. ゲームの進め方、ルール説明

ダブルスゲーム

[ソフトボール]

1. ガイダンス
2. キャッチボールの基本、練習、ゲーム
- 3～5. バッティングの基本、練習、ゲーム
- 6～8. 守備の基本、練習、ゲーム
- 9～11. リーグ戦 1
- 12～15. リーグ戦 2、まとめ（記録整理・レポート）

[サッカー]

1. ガイダンス
2. 個人技能の確認
- 3～5. ボールコントロールの正確性、巧みに運ぶための基本技術、基本技術を生かしたミニゲーム
- 6～7. 個人技能をもとにチーム編成をし、ミニゲーム
- 8～10. ミニゲームのリーグ戦
- 11～15. リーグ戦、まとめ（記録整理・レポート）

【評価方法】

70点－（欠席回数／授業実施回数×70点）＝出席点
30点＝実技点

スポーツ文化論

勝部篤美

【授業の概要】

スポーツが文化であることを歴史的・社会的事実から論証し、さらにスポーツの生成・発展・衰退に関係する諸要因（政治・経済・産業・社会・教育・科学・宗教・地理的環境等）について考え、現代社会における「人間性復権」への道程を展望する。

【授業計画】

1. スポーツは遊びから出発する
2. スポーツは技能を追求する
3. スポーツは競争と協力の両面をもつ
4. スポーツはフェアプレイの精神によって成り立つ
5. スポーツは自己実現を志向させる
6. スポーツは舞踊とともに祭礼と結びついていた
7. スポーツには富と閑暇が関係する
8. スポーツは社会生活と関係が深い
9. スポーツには教育が関係する
10. スポーツには政治が関係する
11. スポーツには科学が関係する
12. スポーツは地理的環境に影響されることが大きい
13. スポーツには民族性が反映される
14. スポーツには商業主義がつきまとう
15. スポーツにはジャーナリズムがつきまとう
16. スポーツはガス抜き装置としての役割を果たす
17. スポーツのルールは法の体系に似た構造をもつ
18. スポーツは「強いもの」から「弱いもの」へと対象を拡げつつある
19. スポーツは「強いこと」から「美しいこと」へと対象を拡げつつある
20. スポーツは今や人間性の復権へ向って進む
21. スポーツの生成・発展・衰退の過程は、文化の場合と同じである

【評価方法】

単位認定試験とレポートの成績および出席状況によって評価する。

【テキスト】

使用せず。参考図書は授業のとき指示する。

スポーツ文化論

松田秀子

【授業の概要】

スポーツが文化であることを歴史的・社会的事実から論証し、さらにスポーツの生成・発展・衰退に関係する諸要因（政治・経済・産業・社会・教育・科学・宗教・地理的環境等）について考え、現代社会における「人間性復権」への道程を展望する。

【授業計画】

1. スポーツは遊びから出発する
2. スポーツは技能を追求する
3. スポーツは競争と協力の両面をもつ
4. スポーツはフェアプレーの精神によって成り立つ
5. スポーツは自己実現を志向させる
6. スポーツは舞踊とともに祭礼と結びついていた
7. スポーツには富と閑暇が関係する
8. スポーツは社会生活と関係が深い
9. スポーツには教育が関係する
10. スポーツには政治が関係する
11. スポーツには科学が関係する
12. スポーツには地理的環境に影響されることが大きい
13. スポーツには民族性が反映される
14. スポーツには商業主義がつきまとう
15. スポーツにはジャーナリズムがつきまとう
16. スポーツはガス抜き装置としての役割を果たす
17. スポーツのルールは法の体系に似た構造をもつ
18. スポーツは「強いもの」から「弱いもの」へと対象を拡げつつある
19. スポーツは「強いこと」から「美しいこと」へと対象を拡げつつある
20. スポーツは今や人間性の復権へ向って進む
21. スポーツの生成・発展・衰退の過程は、文化の場面と同じである

【評価方法】

出席状況・レポート・単位認定試験によって総合的に評価する。

【テキスト】

使用せず。

必要に応じて参考資料を配付し、参考書籍を指示する。

西洋史

山澤啓造

【授業の概要】

「世界史」と「第二次世界大戦までのアメリカ史」

【授業計画】

テキストにしたがい、次の順序で学ぶ。

1. 高校で履修する機会がすくなかった「世界史」の重要史実について勉学する。
2. アメリカを知るための基礎知識などを考察する。アメリカ合衆国は、最古の共和国・最古の現代民主主義国家・最古の成文憲法をもつ国である。この合衆国の歴史を政治・外交中心に第二次世界大戦まで学ぼうとするものである。
3. 新大陸発見、人種、民族、移民、アメリカ独立革命、アメリカ合衆国の成立を考察した後、第二次世界大戦までの著名な10名ほどのアメリカ大統領の略歴と、その間の合衆国の政治・外交の要点を考察する（序章、第一章～第十七章）。最もアメリカ人らしいアメリカ人であるベンジャミン・フランクリンやマニフェスト・デスティニーなどにも文章中で触れる。テキストに沿って授業を進めるので、予習することが望ましい。学生の質問や討論を歓迎する。

【評価方法】

定期試験と出席などで評価する。

【テキスト】

西洋史…世界史・アメリカ史点描…（山澤啓造、平成13年、新訂版、自費出版）

【参考文献・資料】

西洋史…世界史・アメリカ史点描…（山澤啓造、平成13年、新訂版、自費出版）のivページの主要参考文献を参照

日本史

岩口和正

【授業の概要】

夫と妻、親と子などの家族や親族関係は、さまざまな時代・社会を通じて、その基礎的な構造をつくるものとなってきました。従って、時代や社会の変化とともに、このような家族・親族関係もまた、大きく変貌してきました。むしろ、このような分野での歴史的变化こそ、戦争や革命といったはなばなしい政治や思想の歴史の背後にあつて、その最も大きな変動要因のひとつともなってきたと言えるでしょう。そこで、講義では、ややもすれば見落とされがちな日本における家族や親族の歴史の特徴を、政治制度や身分制度、経済制度などと関らせながら取り上げます。

【授業計画】

- 1 婚姻の概念をめぐって
- 2 歴史的婚姻の諸類型1 妻問婚の歴史的特徴
- 3 歴史的婚姻の諸類型2 婿取婚の歴史的特徴
- 4 歴史的婚姻の諸類型3 嫁取婚の歴史的特徴
- 5 離婚法と姦通法の成立
- 6 遊女と売買春の成立
- 7 日本における親族体系について
- 8 ウジ名と姓と名字
- 9 ヤケとイエ
- 10 イエの成立と展開

【評価方法】

成績評価は学期末の試験でおこないます。

【テキスト】

使用しません

【参考文献・資料】

授業の中で別途に紹介いたします

異文化交流論

鈴木 互

【授業の概要】

動態的記号学である文化記号学は、言語・記号・文化を考察の射程に入れることのできる有効な装置である。この考え方を身に付けたうえで、異文化間の差異の具体的な事例を多角的に検討し、さらに異文化との交流に関する諸問題について考察したい。

学習意欲のある、明るく元気な学生の受講を心から歓迎する。

【授業計画】

- 1 文化記号学とその射程
- 2 言語的世界の異文化交流（文学、思想・哲学、宗教など）
- 3 記号的世界の異文化交流（身振り、舞踏、音楽、絵画、演劇、映画、漫画など）
- 4 異文化の実態（韓国、中国語圏、インドネシア、タイ、イギリス、ドイツ、フランス、スペイン、ギリシアなど）
- 5 ナショナリズムと日本文化論
- 6 ポストモダンと多元主義的アプローチ
- 7 インターネットの可能性と限界
なお、講義内容の順番は変更することがある。

【評価方法】

出席・提出物等によって総合的に評価する。

【テキスト】

異文化接触の心理学（渡辺文夫編著 川島書店）

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

ポピュラー文化論

文 嬉眞

【授業の概要】

「なぜ文化が大衆化するのか」を基本にして考える。第一に、江戸時代に視点をおき、当時の日本社会における文化の「大衆化」の徴候を考え、その文化が大衆へ浸透していく諸要因や過程を考察してみる。第二に、近・現代における「近代化」・「都市化」・「情報化」が「大衆文化」や「ポピュラー文化」に及ぼす影響およびそれを受け容れる民衆の心理状態、生活様式、人間関係などがどのように変化していくのかを追及する。最後に、現在われわれの周囲に見られる文化の諸相から「文化的多様化」を考え、各自検討する。

【授業計画】

- 第1回 本講義における「文化」とは
- 第2～4回 江戸時代における文化の「大衆化」の過程および要因
- 第5～6回 戦前の日本社会における「大衆文化」
- 第7～8回 戦後の日本社会における「大衆文化」
- 第9回 「都市化」・「情報化」がもたらした社会での「大衆文化」とは
- 第10回 「大衆文化」と「ポピュラー文化」とは
- 第11～12回 今日の文化現象からみる日本の社会や人間関係および「文化」の行方

【評価方法】

1. 出席、受講態度、講義時の課題等で全体の50%を評価する。
2. 定期試験またはレポート（未定）で残る50%を評価する。

【テキスト】

講義の中で随時、配布する。

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

文化人類学

三木 誠

【授業の概要】

人間とその他の生物との本質的な違いの一つは、言語を媒体とした文化形成の有無である。文化は地球上の生物で人間だけが持つものであり、人間は無意識のうちに自身の生まれ育った文化から様々な影響を受けている。文化人類学という学問は、このような文化を切り口として、人間という存在の普遍性と多様性を追求していく学問である。授業では、世界中の社会に見られる様々な文化的事象を解説し、できるだけ数多くの事例を交えながら、人間の持つ文化の魅力や不可解さを伝えていきたいと考えている。

【授業計画】

以下のようなテーマで講義を行う。それぞれのテーマを総合的に理解するのに不可欠な概念や用語の解説と、テキスト、プリント等を利用した事例研究が主になる。異文化に対する興味や好奇心を喚起するためにVTR資料なども活用する。

- 文化
- 性差
- 婚姻
- 家族
- 交換
- 宗教
- 性
- エスニシティー
- 異文化解題

【評価方法】

あらかじめ問題を公開したレポート形式の簡単な試験により評価する。異文化に対する興味を養うことを主眼とするので、暗記等は必要ないが、ノートはとること。

【テキスト】

指定せず。

【参考文献・資料】

文化人類学を再考する（青弓社）

現代思想

大野波矢登

【授業の概要】

今世紀の英米で展開されてきた倫理学の諸理論（功利主義、義務論、徳理論、等）を中心に、近代以降の西洋倫理思想の歴史を概説する。そして、それらの理論によって与えられた議論の類型や概念装置を理解するとともに、今日のわれわれを取り巻く現実、特に医療、環境、情報、科学技術といった領域で提起されている課題について倫理的視点から考察する。

なお、授業はすべて講義形式で行う。

【授業計画】

- 第1回：現代世界が抱える課題と、それに対する倫理的アプローチとは
- 第2回：西洋倫理学の基本概念
- 第3回：功利主義の思想
- 第4回：20世紀の倫理思想（1）－伝統的功利主義に対する批判と見直し
- 第5回：20世紀の倫理思想（2）－応用倫理学との接点
- 第6～7回：環境倫理
- 第8～9回：生命倫理と医の倫理
- 第10～11回：情報倫理
- 第12回：科学技術の倫理（医療技術、情報通信技術については第8～11回でも取り上げる）
- 第13回：単位認定試験

【評価方法】

出席状況と単位認定試験の成績をもとに評価する。

【テキスト】

先端技術と人間：21世紀の生命・情報・環境（加藤尚武著 NHKライブラリー）

視覚芸術論

海上宏美

【授業の概要】

近現代以降の多様な視覚芸術を二次元・三次元・四次元という視座から捉え、それぞれの次元における視覚の位置とそこから発生する問題系を現代芸術全般を参照しつつ理解していく。随時、ビデオ等を用い、図像や映像を鑑賞する。

【授業計画】

第1講～第4講

二次元における視覚芸術（絵画を中心に～平面、キュビズム、写真、網膜的絵画）

第5講～第8講

三次元における視覚芸術（インスタレーションを中心に～彫刻、モダニズム、メディア・アート）

第9講～第12講

四次元における視覚芸術（劇場を中心に～スペクタクル、パフォーマンス、ボディ・イメージ）

最終的に課題レポートを提出してもらう。

【評価方法】

出席状況と課題レポートの成績によって評価。

【参考文献・資料】

授業中に指示。

文献入門

櫻木貴子

【授業の概要】

「文献」を広く捉え、様々な学問分野において有効な情報源となり得る各種情報メディアを取り上げる。

各情報メディアについて、その定義、歴史、特徴をわかりやすく解説し、その利用法や探し方についても具体例を取り混ぜて紹介する。

なお、履修希望者は図書館オリエンテーションおよび学内LAN講習会を履修前に必ず受講しておくこと。

【授業計画】

- 1 文献とは
- 2 文献の定義、歴史、特徴
 2. 1 図書
 2. 2 雑誌
 2. 3 新聞
 2. 4 地図
 2. 5 絵画
 2. 6 楽譜
 2. 7 ネットワーク情報資源（インターネット）
- 3 文献の利用方法
- 4 文献の探し方

【評価方法】

平常点およびレポートによって評価する。

【テキスト】

使用せず（配付資料）。

メディア表現

鎌田基子

【授業の概要】

メディアとは、知的活動もしくは芸術活動の効果「表れ」に対する一つのとらえ方がある。ここでは情報メディアをその定義、種類、歴史について概説し、技術革新によってメディアにもたらされた「表現」の多様性について述べる。印刷体から電子メディアへの変化、送り手と受け手、双方向性、各種の情報メディアの特性、新しいメディアのもたらす影響などを内容とする。

【授業計画】

「リアリティー」の変化	
表現形態の違い	具象・抽象 平面・立体 屋内・屋外 鑑賞・参加
メディアになるもの	言葉 音 身体 モノ できごと
「表現」が探すもの	存在 関係 伝わらないこと
WORK SHOP (実習)	人相書 遺書とラブレター 翻訳 考え続ける

【評価方法】

レポートによる。

統計学入門

鈴木有美

【授業の概要】

初めて統計学を学ぶ者が理解できることを念頭に、統計学の基礎的な知識を身につけ、かつ実践的な統計的技法を理解できるようになることを目指します。

1. 変数の性質
2. 基礎統計量
3. 確率変数と確率分布
4. 変数の変換
5. 母集団と標本
6. 統計的推定—点推定・区間推定
7. 統計的検定—母平均検定・母分散検定・母比率検定
8. 平均値の差の検定—t検定・分散分析
9. ノンパラメトリック検定

【授業計画】

講義の内容については、基本的に上記の順に進めますが、受講者の理解・興味に応じて構成していく予定です。また、講義で学んだことについて理解を深めるための課題を随時設けます。

【評価方法】

課題の提出とその結果、および定期試験の結果をあわせて評価します。

【テキスト】

本当にわかりやすいすぐ大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本 (吉田寿夫著 北大路書房)

【参考文献・資料】

授業中に紹介します。

脳の働き

富田 武

【授業の概要】

人間の精神活動の中核としての脳の構造と、その進化の過程を学び、本能と理性、感情と行動など高度の精神活動の発現と制御の機構を考える。

【授業計画】

- 第1講 精神活動の中核を求めて
- 第2講 脳の進化と発達
- 第3講 脳と神経細胞の構築
- 第4講 興奮と抑制
- 第5講 大脳皮質の分業体制
- 第6講 感覚と姿勢運動の制御
- 第7講 喜び、意欲し、言語する脳
- 第8講 利き手、利き脳、大脳辺縁系
- 第9講 本能をうみだし、怒る脳
- 第10講 内臓の統御と、学習、記憶をする脳
- 第11講 睡眠、夢、意識の狭間
- 第12講 行動を操る脳
- 第13講 単位認定試験

【評価方法】

出席状況と単位認定試験の成績で総合的に評価する。

【テキスト】

脳の話（時実利彦著 岩波書店）

【参考文献・資料】

脳の不思議（伊藤正男著 岩波書店）
脳のしくみと不思議（鈴木智子著 日本文芸社）

遺伝子の世界

林 博司

【授業の概要】

全ての生物は遺伝子、すなわち遺伝情報の支配下にある。遺伝子が生命の中心となっている機構を、生命現象の歴史を含めて、自然科学の立場から考える。

親しみやすいように、われわれヒトの体から生命の成り立ちを掘り下げて考え、生命の階層構造を見る。分子機械としての生命を理解した上で、遺伝子操作、細胞操作などヒトの暮らしに密着した生命技術を解説すると共に、生命倫理・人生の価値観などを討論する。さらには環境問題が実はヒトの生命観の問題であることを理解していただく。

【授業計画】

1. 生命の歴史
2. 生命の理解に必要な化学・物理学
3. ヒトの体を理解する
 - ア. 器官のいろいろ
 - イ. 細胞のいろいろ
 - ウ. 巨大分子
4. 分子機械としての生命
5. 分子機械の設計図：DNA
6. 遺伝子の働き
7. 遺伝子进行操作する
8. 細胞进行操作する
9. 器官进行操作する
10. 遺伝子と環境の関わり
11. 単位認定試験

以上の13講を、学生との対話・身近な事例の提示を重視した方法で行う。

【評価方法】

出席点60%・単位認定試験の成績40%

【テキスト】

特に定めない

【参考文献・資料】

受講者の理解度をもとに、適宜紹介する。

哲学的人間論

高畑祐人

【授業の概要】

環境問題への注目が高まる中、これからのわれわれの生活は自然環境との相互的影響を考慮したものになっていくだろう。その意味で環境問題は、われわれのライフスタイルの問題であると言える。われわれの生活スタイルは真に人間らしいものと言えるだろうか。人間らしい生活スタイルとはどんなものか。この講義では身近な「衣・食・住」から「ゴミ・水・森」そしてグローバルな問題へと視野を広げていきながら（＝具体的な環境問題との関わりで）、「人間の生き方」という哲学の中心問題を考えてみたい。

【授業計画】

1. 住む環境
2. 食と環境
3. 着る環境
4. ゴミと環境
5. 水について考える
6. 森について考える
7. 地球を守る
8. ライフスタイルは変えられるか
9. 哲学的視点からのまとめ

（以上の項目について順を追って進めていく。週ごとの内容を示しているわけではない。）

【評価方法】

学期末の筆記試験あるいはレポート、授業への参加態度などで総合的に評価する。

【テキスト】

『環境とライフスタイル』（鳥越皓之編 有斐閣）

【参考文献・資料】

『環境倫理学のすすめ』（加藤尚武著 丸善）

『環境保護運動はどこが間違っているのか』（植田敦著 宝島社）

『どれだけ消費すれば満足なのか』（アラン・ダーニング著 ダイアモンド社）

タナトロジー（死生学）

加藤太喜子

【授業の概要】

「死んでいくこと」や「死」そのものなど、死に関して様々な側面から考える学問を「死生学」と呼んでいる。この授業では「死」について非常に限定された角度からしか扱えないが、「死」について考えることを通して「現在の生」そのものを共に考えたい。

【授業計画】

1. 死生学とは
2. 伝統的な「死」の捉え方
3. 死への恐怖と受容
4. さまざまな死のあり方
5. 医療と死
6. ターミナルケア
7. グリーフワーク・グリーフケア
8. 死の準備教育

【評価方法】

授業中に課す小レポートと、中間・期末レポートにより評価する。

【テキスト】

授業中に指示する

【参考文献・資料】

授業中に指示する

現代人権論

初谷良彦

【授業の概要】

法律と国家は人間のためにあるのであって、人間は国家とそれを保護する法律のためにあるというのではない。

したがって、法律の第一の目的と国家の最大の責務は人間の尊厳を守ることにある。「人権」はまさに「人間としての権利」であるから、講義では単なる歌い文句としてではなく、法律の課題として考察する。

【授業計画】

- 第1回 人権の歴史
- 第2回～第3回 人権の内容と享有主体
- 第4回～第5回 プライバシー権、環境権
- 第6回～第8回 自己決定権
- 第9回～第10回 法の下での平等（EUの女性政策クォータ制（定員制）、フランスのパリテ制（強制的な男女同数原則）についても詳しく説明する）
- 第11回 信教の自由と政教分離
- 第12回～第13回 表現の自由
- 第14回～第15回 生命倫理に関する諸問題

【評価方法】

主として単位認定試験の成績によって評価する。

【テキスト】

憲法講義Ⅰ（第2版）（初谷良彦、成文堂）

【参考文献・資料】

講義の際に随時紹介する。

こども・教育・社会

酒井晶代

【授業の概要】

＜現代児童文学のなかの子どもたち＞

子どもの文学を主な手がかりとして、「こども・教育・社会」をめぐる諸問題を考える。近代以降、大人たちは子どもの“健やかな”成長や発達を願って、さまざまな文化を創造してきた。児童文学もその一つであり、個々の作品には社会や作者の子ども観が反映している。大人が書き、子どもが読む児童文学は、「送り手＝大人」と「受け手＝子ども」との思惑が交差する場所と言える。

講義では短篇を中心に現代児童文学の代表的な作品をとりあげ、作品に描かれた子ども像や作者の子ども観を確かめながら、現代社会における子どもの問題について考察してみたい。子どもと大人の境界が問われる今日、子どもを問うことは、大人を問うことでもある。子どもの文学を入り口として、子どもの中に潜む大人の問題、大人の中に潜む子どもの問題を、教育や社会の側面から探り当てていきたいと考えている。

【授業計画】

- 第1回 「子どもの文学」とこども・教育・社会
- 第2回 ときありえ「森本えみちゃん」
- 第3回 那須正幹「六年目のクラス会」
- 第4回 森忠明「楽しい頃」
- 第5回 村中李衣「たまごやきとウインナーと」
- 第6回 岩瀬成子「ダイエットクラブ」
- 第7回 大石真「光る家」
- 第8回 天澤退二郎「赤い罎」
- 第9回 牧野節子「赤い靴」
- 第10回 上野瞭「ぼくらのラブ・コール」
- 第11回 あまんきみこ「かくれんぼ」
- 第12回 よもぎ律子「遊太」

【評価方法】

出席状況、レポート、試験等により総合的に評価する。

【テキスト】

児童文学—新しい潮流—（宮川健郎編著 双文社出版）

ボランティア論

ブイ・チ・トルン

【授業の概要】

日本社会は少子・高齢・情報・国際化等の進展によって多様化している。複雑な社会課題を自己の課題として捕らえ、より良い社会づくりに参画・行動する人が増えている。ボランティアは、特別な人ではなく、地域社会の一員として自律する全ての人が行う時代である。

【授業計画】

1. 総論：
 - 1) ボランティア活動の潮流
 - 2) 身近な地域でのボランティア活動
 - 3) ボランティア団体の組織運営
 - 4) 欧米のボランティア活動の歴史と現状
 - 5) アジアのボランティア活動の歴史と現状
 - 6) 日本のボランティア活動の歴史と現状
 - 7) 時代の要請と市民活動の新しい潮流
 - 8) NPO 法施行の意味
2. 各論：
 - 1) 地球環境・自然保護・リサイクル活動
 - 2) 障害者支援活動
 - 3) 高齢者支援活動
 - 4) 保健・医療に関する活動
 - 5) 安全安心な暮らしを守る活動
 - 6) 子育て・女性支援活動
 - 7) 青少年教育活動
 - 8) 在住外国人・帰国者支援活動
 - 9) 海外協力活動
 - 10) 人権擁護・平和推進活動
 - 11) 災害・避難民救済・支援活動
 - 12) 文化・伝統芸能の継承活動
 - 13) 寄付・募金・募集活動
 - 14) その他の社会問題

【評価方法】

課題研究レポート、発表および出席率にて評価する。

【参考文献・資料】

授業中適宜に指示する。

市民社会論

若松孝司

【授業の概要】

私たちが生活している現代の日本社会は「市民社会」といわれるものです。そこでは、みずからの生き方について、それを決定する権利とそれに伴う義務とをもった人々（つまり「市民」）が、自らの意思で共同体（いわゆる「社会」）をかたちづくっています。みなさんも、程なくその「社会」に自らの身を投じることになるでしょう。

そこで本講義では、そのような「社会」に生きる構成員として必要な「ものを見る力」を養成することを目標として、その「社会」がどのようなもの（であると考えられているのか）について概観し、みなさんの生きている「社会」をどのように考えればよいのかを明らかにしていきます。

【授業計画】

以下のトピックスについて講義します。

- 1) 市民（社会）とは何か

封建社会から近代市民社会への移行といった市民社会の成立過程を西欧を中心に概観し、「理念」としての市民社会がどのようなものであるのかを提示します。
- 2) 現代日本社会における市民社会の現状

「市民（社会）とは何か」で示した「理念」が、現実の社会においてはどのように実現されているのかを、「性別役割分業における女性」「障害者の置かれた現状」「同性愛者の人権」などといった、いくつかのテーマに即して講義します。
- 3) 国際化と市民

世間一般にいわゆる「外向き」の国際化ではなく、在日韓国・朝鮮人や日系外国人労働者といった「身近」な存在に注目し、本当の「国際化」とは何かについて考えていきます。

【評価方法】

毎講の出席状況と、期末のレポート、それに授業中に提示する課題によって成績を決定します。

【テキスト】

適宜プリントを配布するため、テキストの購入は不要です。

知的所有権

辻田芳幸

【授業の概要】

人の創作活動の成果である著作物は、今日、創作者の人格の発露というばかりか、企業などによる投下資本の結晶という意味合いをも濃くし始めている。近時、情報技術（IT）の発達によってこのような傾向が顕著である。

そこで、この講義においては、情報社会における知的所有権の役割について、著作権法を中心に解説することとした。具体的には、情報社会においてどのような問題が生じ、それがどのようにして解決されるのか、情報の受信者のみならず発信者として、いかなる点に留意しなければならないかを探求する。

【授業計画】

- 第1回 情報社会における知的所有権の役割
- 第2回 著作者
- 第3回 著作者の人格的利益
- 第4回 著作者の財産的利益
- 第5回 私的複製
- 第6回 引用
- 第7回 実演家の権利
- 第8回 侵害に対する救済
- 第9～12回 インターネットと著作権法

【評価方法】

出席状況、試験の結果などを総合的に考慮する

【テキスト】

千野直邦・尾中普子『著作権法の解説』
（四訂版）（一橋出版）

メディカルサイエンス

多田萬里子

【授業の概要】

近年の科学技術の進歩により遺伝子治療・臓器移植など医学も目覚ましい発展をとげてきた。

しかし、社会の変化によって疾患の様子も変り、特に、ライフスタイルの変化によって増加した生活習慣病、環境汚染物質の生体への影響、新しい感染症などが問題となってきた。

先端医学の現段階について紹介し、多様化する社会でいかにして健康を維持するかを考えていきたい。

【授業計画】

次の課題について講義する。

- 1、遺伝子診断、遺伝子治療
- 2、生活習慣病：がん・糖尿病
- 3、老化と寿命
- 4、新しい感染症：エイズ・狂牛病
- 5、臓器移植の課題
- 6、生殖医療と生命倫理
- 7、現代社会と健康、環境ホルモンなどの環境汚染

【評価方法】

学習態度、レポートなどにより総合的に評価する。

【テキスト】

使用せず。講義の要旨はプリントを配布する。

【参考文献・資料】

現代社会と医学（井村裕夫ら編 岩波書店）
医の現在（高久史麿著 岩波新書）
先端のゲノム医学を知る（中村祐輔 羊土社）

Practical English 1 G

間瀬欣英 今井加寿 村上洋子 鈴木哲至
山田豊 山田久美子 天野純子 太田晶子

【授業の概要】

TOEICや英検等の資格試験に対応するための授業。週2回の授業で、総合的に英語の能力を向上させる。積極的に授業に参加してもらいたい。

【授業計画】

この授業は、文法、ヒアリングを中心に行う授業が週に1回、リーディング中心の授業が週に1回行われ、週2回で2単位の科目である。週2回の授業に参加して初めて単位が認められる。月曜日1限、水曜日1限のグループと火曜日1限、水曜日1限のグループがある。いずれも同じテキストを使用する。

* 文法、ヒアリング中心の授業 (週1回)

月曜日1限: 間瀬先生、村上先生

火曜日1限: 山田久美子先生、天野先生

テキストを中心に授業をおこなう。授業の進め方については、各先生の指示に従うこと。

* リーディング中心の授業 (週1回)

水曜日1限: 山田豊先生、太田晶子先生、今井先生、鈴木先生

テキストを中心に授業をおこなう。授業の進め方については、各先生の指示に従うこと。

月曜日1限 間瀬先生&水曜日1限 今井先生

月曜日1限 村上先生&水曜日1限 鈴木先生

火曜日1限 山田久美子先生&水曜日1限 山田豊先生

火曜日1限 天野先生&水曜日1限 太田晶子先生

(先生の組み合わせは決まっているが履修上、それを選択することはできない。)

テキストは、半期、各1冊、使用する。

【評価方法】

2日の授業の得点の平均で評価がでる。

間瀬先生: 定期試験、小テスト、発表、出席状況などによって総合的に評価。

村上先生: 出席、授業態度が30%、定期試験が70%。

山田豊先生: 出席やクラスでのパフォーマンス、ミニテストと定期試験を点数化して評価する。

太田先生: 出席、授業態度、定期試験を同等に評価する。

山田久美子先生: 出席状況、定期試験により総合的に評価する。

天野先生: 出席、ハーフテストスコア、定期試験による。

鈴木先生: 出席状況・授業態度・クイズ-30%、定期試験-70%

今井先生: 出席・授業態度30%、筆記試験70%

【テキスト】

・K.Hashimoto, M.Yamauchi, K.Keane *Build Up Your TOEIC Vocabulary: A Basic Course* 松柏社、¥1,700

・石井隆之、宮野智靖「TOEICテストリーディング基礎演習」英宝社、¥1,600

Practical English 1 H

間瀬欣英 今井加寿 村上洋子 鈴木哲至
山田豊 山田久美子 天野純子 太田晶子

【授業の概要】

TOEICや英検等の資格試験に対応するための授業。週2回の授業で、総合的に英語の能力を向上させる。前期に履修した学生も、また新しい気持ちで後期も引き続き授業をうけてもらいたい。後期から履修する学生にも対応できるテキストを使用しているため、積極的に授業に参加してもらいたい。

【授業計画】

この授業は、文法、ヒアリングを中心に行う授業が週に1回、リーディング中心の授業が週に1回行われ、週2回で2単位の科目である。学生は、週2回の授業に参加して初めて単位が認められる。月曜日1限、水曜日1限のグループと火曜日1限、水曜日1限のグループがある。いずれも同じテキストを使用する。

* 文法、ヒアリング中心の授業 (週1回)

月曜日1限: 間瀬先生、村上先生

火曜日1限: 山田久美子先生、天野先生

テキストを中心に授業をおこなう。授業の進め方については、各先生の指示に従うこと。

* リーディング中心の授業 (週1回)

水曜日1限: 山田豊先生、太田晶子先生、今井先生、鈴木先生

テキストを中心に授業をおこなう。授業の進め方については、各先生の指示に従うこと。

月曜日1限 間瀬先生&水曜日1限 今井先生

月曜日1限 村上先生&水曜日1限 鈴木先生

火曜日1限 山田久美子先生&水曜日1限 山田豊先生

火曜日1限 天野先生&水曜日1限 太田晶子先生

テキストは、半期、各1冊、使用する。

(先生の組み合わせは決まっているが、履修上、それを選択することはできない。)

【評価方法】

2日の授業の得点の平均で評価がでる。

間瀬先生: 定期試験、小テスト、発表、出席状況などによって総合的に評価。

村上先生: 出席、授業態度が30%、定期試験が70%。

山田豊先生: 出席やクラスでのパフォーマンス、ミニテストと定期試験を点数化して評価する。

太田先生: 出席、授業態度、定期試験を同等に評価する。

山田久美子先生: 出席状況、定期試験により総合的に評価する。

天野先生: 出席、ハーフテストスコア、定期試験による。

鈴木先生: 出席状況・授業態度・クイズ-30%、定期試験-70%

今井先生: 出席・授業態度30%、筆記試験70%

【テキスト】

・M.Aoki, *Communication in the Real World: Tasks for TOEIC Test Preparation* 成美堂 ¥1,900

・仙福健治、Evan Thomas、「TOEICテストリスニング基礎演習」英宝社 ¥1,600

Practical English 2 G

山田 豊 太田晶子 鈴木哲至
野口朋香 今井加寿 松本一喜

【授業の概要】

TOEICや英検等の資格試験に対応するための授業。週2回の授業で、総合的に英語の能力を向上させる。

【授業計画】

この授業は、水曜日に文法、ヒアリングを中心に行う授業が、リーディングを中心の授業が金曜日に行われ、週2回で2単位の科目である。授業は、水曜日の2限と金曜日の1限に設定されている。学生は、週2回の授業に参加して初めて単位が認められる。

水曜日：山田豊先生、太田晶子先生、鈴木哲至先生
(文法)

金曜日：野口朋香先生、今井加寿先生、松本一喜先生
(リーディング)

授業は、テキストを中心に行われるが、詳しくは、担当の先生の指示にしたがうこと。

文法・リーディングの先生の組み合わせは、次のように決定されているが、履修上、学生はそれをする事はできない。きめられたところで受講すること。

水曜日の山田先生&金曜日の野口先生

水曜日の太田先生&金曜日の今井先生

水曜日の鈴木先生&金曜日の松本先生

【評価方法】

2日の授業の得点の平均で評価がでる。

松本先生：2/3以上の出席があり、定期試験で60点以上の得点を取ることが単位認定の基準。定期試験の点数を基準に出席率、発表等の日常点を加味した総合評価をする。

山田先生：出席やクラスでのパフォーマンス、ミニテストと定期試験を点数かして評価する。

太田先生：出席、授業態度、定期試験を同等に評価する。

鈴木先生：出席状況・授業態度・クイズ30%、定期試験70%

野口先生：出席20%、クラス小テスト+課題20%、定期テスト60%

今井先生：出席・授業態度30%、筆記試験70%。

【テキスト】

- ・H.Hayase, M.Hiwatashi, Z.Mitchell *Reading Preparation Course for the TOEIC Test*、英宝社 ¥1,700
- ・S.Matsuno, R.Howser *Cutting Edge in Science* 金星堂 ¥1,900

Practical English 2 H

山田 豊 太田晶子 鈴木哲至
野口朋香 今井加寿 松本一喜

【授業の概要】

TOEICや英検等の資格試験に対応するための授業。週2回の授業で、総合的に英語の能力を向上させる。

【授業計画】

この授業は、水曜日に文法、ヒアリングを中心に行う授業が、リーディングを中心の授業が金曜日に行われ、週2回で2単位の科目である。授業は、水曜日の2限と金曜日の1限に設定されている。学生は、週2回の授業に参加して初めて単位が認められる。

文法は各クラス等一のテキストを使用するが、リーディングは担当の先生によって異なる。

授業は、テキストを中心に行われるが、詳しくは、担当の先生の指示にしたがうこと。

文法・リーディングの先生の組み合わせは、次のように決定されているが、履修上、学生はそれをする事はできない。きめられたところで受講すること。

水曜日の山田先生&金曜日の野口先生

水曜日の太田先生&金曜日の今井先生

水曜日の鈴木先生&金曜日の松本先生

【評価方法】

2日の授業の得点の平均で評価がでる。

松本先生：2/3以上の出席があり、3回のレポート提出、定期試験で60点以上の得点を取ることが単位認定の基準。成績は試験結果を中心に日常点を加味した総合評価をする。

山田先生：出席やクラスでのパフォーマンス、ミニテストと定期試験を点数かして評価する。

太田先生：出席、授業態度、定期試験を同等に評価する。

鈴木先生：出席状況・授業態度・クイズ30%、定期試験70%

野口先生：出席20%、クラス小テスト+課題20%、定期テスト60%

今井先生：出席・授業態度30%、筆記試験70%。

【テキスト】

- ・Joan McConnell, S.Takeda *Rapid Reading with TOEIC Test Vocabulary* 成美堂 ¥1,900
- ・西谷恒志、吉塚弘、Wayne Philips 「TOEIC Test 450 必須レッスン」 音羽書房鶴見書店 ¥1,750

Practical English 3 G

アレン・D. ウィリアムス キース・イーズリー ハリー・T. ノリス
サミュエル・ミラー リチャード・ハリス

【Course Content】

This course is available to all English Department students.

This course is aimed at low to high intermediate students with academic as well as personal goals. The integrated skills format ensures the development of true communicative language that is authentic and natural.

Emphasis will be predominantly on the development of listening and speaking skills, but reading and writing skills along with vocabulary, comprehension, and grammar will also be cultivated. The work will help students to prepare for Eiken and TOEIC /TOEFL.

Teachers from The United Kingdom, North America, Canada, and Australia will be teaching this course, providing a well-rounded consideration of contemporary themes.

The course will be graded and students will sit a placement test. (See student handbook for more detailed information.)

【Schedule】

Topics will be covered over a two or three week period and will include a variety of themes selected by the teachers.

【Assessment】

Assessment will be continual and will be based on the following criteria:

ATTENDANCE
CLASS PARTICIPATION/EFFORT
HOMEWORK AND ASSIGNMENTS
END OF SEMESTER REPORT

【Textbooks】

To be announced

Practical English 3 Gは、週2回コース授業である。月曜1限、木曜1限の両方の授業に出席し、その平均で評価がでる。

Practical English 3 H

アレン・D. ウィリアムス キース・イーズリー ハリー・T. ノリス
サミュエル・ミラー リチャード・ハリス

【Course Content】

This course is available to all English Department students.

Preference will be given to 1st and 2nd year students.

This course is aimed at low to high intermediate students with academic as well as personal goals. The integrated skills format ensures the development of true communicative language that is authentic and natural.

Emphasis will be predominantly on the development of listening and speaking skills, but reading and writing skills along with vocabulary, comprehension, and grammar will also be cultivated. The work will help students to prepare for Eiken and TOEIC /TOEFL.

Teachers from The United Kingdom, North America, Canada, and Australia will be teaching this course, providing a well-rounded consideration of contemporary themes.

The course will be graded and students will sit a placement test. (See student handbook for more detailed information.)

【Schedule】

Topics will be covered over a two or three week period and will include a variety of themes selected by the teachers.

【Assessment】

Assessment will be continual and will be based on the following criteria:

ATTENDANCE
CLASS PARTICIPATION/EFFORT
HOMEWORK AND ASSIGNMENTS
END OF SEMESTER REPORT

【Textbooks】

To be announced

Practical English 3 Hは、週2回コース授業である。月曜1限、木曜1限の両方の授業に出席し、その平均で評価がでる。

Practical English 4 G

キース・イズリー ジョナサン・E. ロング アラン・テイヴィーズ
ジョアン・M. ウッドマン ポール・ルイス

【Course Content】

This course is available to all English Department students.

Preference will be given to 1st and 2nd year students.

This course is aimed at low to high intermediate students with academic as well as personal goals. The integrated skills format ensures the development of true communicative language that is authentic and natural.

Emphasis will be predominantly on the development of listening and speaking skills, but reading and writing skills along with vocabulary, comprehension, and grammar will also be cultivated. The work will help students to prepare for Eiken and TOEIC /TOEFL.

Teachers from The United Kingdom, North America, Canada, and Australia will be teaching this course, providing a well-rounded consideration of contemporary themes.

The course will be graded and students will sit a placement test. (See student handbook for more detailed information.)

【Schedule】

Topics will be covered over a two or three week period and will include a variety of themes selected by the teachers.

【Assessment】

Assessment will be continual and will be based on the following criteria:

ATTENDANCE

CLASS PARTICIPATION/EFFORT

HOMEWORK AND ASSIGNMENTS

END OF SEMESTER REPORT

【Textbooks】

To be announced

Practical English 4 Gは、週2回コース授業である。火曜5限、金曜5限の両方の授業に出席し、その平均で評価がでる。

Practical English 4 H

キース・イズリー ジョナサン・E. ロング アラン・テイヴィーズ
ジョアン・M. ウッドマン ポール・ルイス

【Course Content】

This course is available to all English Department students.

Preference will be given to 1st and 2nd year students.

This course is aimed at low to high intermediate students with academic as well as personal goals. The integrated skills format ensures the development of true communicative language that is authentic and natural.

Emphasis will be predominantly on the development of listening and speaking skills, but reading and writing skills along with vocabulary, comprehension, and grammar will also be cultivated. The work will help students to prepare for Eiken and TOEIC /TOEFL.

Teachers from The United Kingdom, North America, Canada, and Australia will be teaching this course, providing a well-rounded consideration of contemporary themes.

The course will be graded and students will sit a placement test. (See student handbook for more detailed information.)

【Schedule】

Topics will be covered over a two or three week period and will include a variety of themes selected by the teachers.

【Assessment】

Assessment will be continual and will be based on the following criteria:

ATTENDANCE

CLASS PARTICIPATION/EFFORT

HOMEWORK AND ASSIGNMENTS

END OF SEMESTER REPORT

【Textbooks】

To be announced

Practical English 4 Hは、週2回コース授業である。火曜5限、金曜5限の両方の授業に出席し、その平均で評価がでる。

Rapid Reading 1

間瀬欣英

【授業の概要】

今世紀の著名な英米作家5人の短編小説を読んで英語の読解力を養うとともに、小説という言葉の芸術の醍醐味を味わい、人間や人生の機微にふれ、あわせて私達自身の生き方も考えていきたい。

テキストの各短編の直後には、アメリカ人編注者による、英語で書かれた詳注があり、また、日本人編注者の注も付加されていて、学生の予習復習のための便宜がはかられています。まず英語の注を熟読して、英語を英語として自然に味わい読むように努力しましょう。そうすることにより、自ずから作品の速読も可能になります。また、英語の苦手な学生のために、多少とも分かりにくい英語表現には、日本語の訳語が付されていますので活用していただきたい。

各作品には、そのテーマや英語の難易度を考慮して配列されており、統一テーマは〈人間の愛と幸福の探究〉です。ぜひ英米文学の魅力に触れ、人間と人生に思いを巡らせていただきたい。

【授業計画】

1. Saki
The Story-teller
2. William Saroyan
The Great Leapfrog Contest
3. Erskine Caldwell
Girl on the Road
4. Roald Dahl
The Landlady
5. James Joyce
The Boarding House

【評価方法】

定期試験、小テスト、発表、出席状況などによって総合的に評価する。

【テキスト】

Collected Modern Short Stories Vol.3 (Macmillan Languagehouse ¥1,600)

Rapid Reading 1

野口朋香

【授業の概要】

英語読解力を養うことはもとより、カナダやアメリカの家庭、学校生活、労働、経済、医療などのトピックに関して日本と比較しながら異文化を学び、また日本文化をも再認識する。

【授業計画】

受講者の予習を前提に Chapter を読み進める。テキストのテープを一通り聞いてからパラグラフごとに大意を把握していく。

- | | |
|----------|-------------------------|
| 第1回～第4回 | Chapter 1 – Chapter 5 |
| 第5回～第8回 | Chapter 6 – Chapter 10 |
| 第9回～第13回 | Chapter 11 – Chapter 16 |

【評価方法】

- | | |
|---------|-----|
| 出席・授業態度 | 30% |
| 筆記試験 | 70% |

【テキスト】

Beneath the Surface 日米文化比較論
(Paul Stapleton & Akira Ito, 成美堂)

Rapid Reading 1

鈴木哲至

【授業の概要】

現代アメリカを代表する人気商品が、どのように誕生しベストセラーになったかを説明するエッセイを読み、アメリカ文化の一面を読みとると同時に、速読の基本を身につける。

【授業計画】

各週の主なトピックは以下のとおりである。

McDonald's Big Mac
Nathan's Hot Dogs
Lipton Tea
Wrigley's Chewing Gum
Scrabble
Webster's Dictionary
Band-Aids
Nikes
Zippo Lighters
Levi's
Aunt Jemima Pancakes
Planters Peanuts
Kellogg's Cron Flakes

【評価方法】

出席状況・授業態度・クイズ30%、定期試験70%の割合で総合的に評価する。

【テキスト】

"A Mini History of America's Best Sellers"
(『アメリカーヒット商品ミニヒストリー』)
Christian Ames 著、松柏社、1,250円

Rapid Reading 1

松本一喜

【授業の概要】

1. 『Words to Remember』を講読します。この授業の目的の一つは、多様な英語との出会いです。授業では、スピーチ、エッセイ、映画の台詞、小説の一節などさまざまな文体の英語を読みます。いずれの英語も平易ではあっても、メッセージをよく伝える優れた英文です。
2. 授業では、目と耳と口、そして頭脳とハートを用いて勉強します。単なる英語の学習にせず、英語で何かを学ぶ授業にしたいと思っています。授業では、準拠テープを用いてのリスニング、リーディング、シャドウイングといった音声面の学習と構文の理解・和訳といったリーディングの学習を並行して行います。
3. 講師側からの一方的な講義形式の授業とはなりません。学生の側の積極的な授業参加が要求される授業になります。
4. 授業は、5～6人程度のグループに分かれて行います。これは学生の側からの授業参加の機会を増やすために行うものです。1回の授業で4～5回の口頭での発表が求められることになる。残念ですが、授業中に寝る暇はありません。予習して授業に参加しないと、グループの他の人に迷惑をかけることになります。

【授業計画】

テキストのほぼ前半をカバーする予定です。適時、テキスト内容に関連したビデオを見ます。

【評価方法】

単位取得は次の3点をクリアしてください。1、2/3以上の出席。2、3回のレポート提出。3、定期試験で60点以上とること。成績は試験結果を中心に日常点を加味した総合評価です。

【テキスト】

英米文化学会編『Words to Remember』桐原書店。

Rapid Reading 2

間瀬欣英

【授業の概要】

今世紀の著名な英米作家5人の短編小説を読んで英語の読解力を養うとともに、小説という言葉の芸術の醍醐味を味わい、人間や人生の機微にふれ、あわせて私達自身の生き方も考えていきたい。

テキストの各短編の直後には、アメリカ人編注者による、英語で書かれた詳注があり、また、日本人編注者の注も付加されていて、学生の予習復習のための便宜がはかられています。まず英語の注を熟読して、英語を英語として自然に味わい読むように努力しましょう。そうすることにより、自ずから作品の速読も可能になります。また、英語の苦手な学生のために、多少とも分かりにくい英語表現には、日本語の訳語が付されていますので活用していただきたい。

各作品には、そのテーマや英語の難易度を考慮して配列されており、統一テーマは〈人間の愛と幸福の探究〉です。ぜひ英米文学の魅力に触れ、人間と人生に思いを巡らせていただきたい。

【授業計画】

1. Sherwood Anderson
Paper Pills
2. Kurt Vonnegut
Adam
3. Raymond Carver
Everything Stuck to Him
4. Graham Green
Two Gentle People
5. Somerset Maugham
Mayhew

【評価方法】

定期試験、小テスト、発表、出席状況などによって総合的に評価する。

【テキスト】

Collected Modern Short Stories Vol.3 (Macmillan Languagehouse ¥1,600)

Rapid Reading 2

野口朋香

【授業の概要】

一般的な日本人の生活様式や考え方をアメリカ人と対比しながら、文化が人間の価値観や生活にどのように影響を与えているかを考察する。また、英文中の単語や熟語などの表現をしっかりと捉えた上で、英語の読解力・速読力を養っていく。

【授業計画】

受講者の予習を前提に Chapter を読み進めていく。

- | | |
|----------|-------------------------|
| 第1回～第4回 | Chapter 1 – Chapter 6 |
| 第5回～第8回 | Chapter 7 – Chapter 14 |
| 第9回～第13回 | Chapter 15 – Chapter 20 |

【評価方法】

出席・授業態度	30%
筆記試験	70%

【テキスト】

Topic on Japanese and American Stereotypes
(Yoshinobu Takesue & Donald E. Barton、松柏社)

Rapid Reading 2

鈴木哲至

【授業の概要】

アメリカの大学への入学の仕方、生活への適応、勉強の仕方、課外活動など米国留学に役に立つ文章を読むことにより、日米のキャンパスライフの違いを探ると同時に、速読の技術をさらに高める。

【授業計画】

各週の主なトピックは以下のとおりである。

Getting Ready for College
How the Colleges Choose Students
On-Campus and Off-Campus Housing
Getting Oriented
Studying
Campus Activities
Off-Campus Activities
Paying for School
Sports – Varsity and Intramural
Majors
Summers
Bull Sessions
The Senior Year
Graduation and Beyond

【評価方法】

出席状況・授業態度・クイズ30%、定期試験70%の割合で総合的に評価する。

【テキスト】

“Study Hard, Play Hard — American Campus Life”
(『よく学び、よく遊べ アメリカのキャンパスライフ』)

James M. Vardaman, Jr. 著、松柏社、1,400円

Rapid Reading 2

松本一喜

【授業の概要】

1. 『Words to Remember』を講読します。この授業の目的の一つは、多様な英語との出会いです。授業では、スピーチ、エッセイ、映画の台詞、小説の一節などさまざまな文体の英語を読みます。いずれの英語も平易ではあっても、メッセージをよく伝える優れた英文です。
2. 授業では、目と耳と口、そして頭脳とハートを用いて勉強します。単なる英語の学習にせず、英語で何かを学ぶ授業にしたいと思っています。授業では、準拠テープを用いてのリスニング、リーディング、シャドウイングといった音声面の学習と構文の理解・和訳といったリーディングの学習を並行して行います。
3. 講師側からの一方的な講義形式の授業とはなりません。学生の側の積極的な授業参加が要求される授業になります。
4. 授業は、5～6人程度のグループに分かれて行います。これは学生の側からの授業参加の機会を増やすために行うものです。1回の授業で4～5回の口頭での発表が求められることになる。残念ですが、授業中に寝る暇はありません。予習して授業に参加しないと、グループの他の人に迷惑をかけることになります。

【授業計画】

テキストのほぼ後半をカバーする予定です。適時、テキスト内容に関連したビデオを見ます。

【評価方法】

単位取得は次の3点をクリアしてください。1、2/3以上の出席。2、3回のレポート提出。3、定期試験で60点以上とること。成績は試験結果を中心に日常点を加味した総合評価です。

【テキスト】

英米文化学会編『Words to Remember』桐原書店。

Rapid Reading 3

森本素世子

【授業の概要】

(金曜3限)

日頃英語を学びながらも、英語の多様性について考える機会はまだ多いとはいえない。そこで、国際語としての英語を、文化や社会的背景を踏まえて、より広い視点から改めて眺めてみたい。

(金曜4限)

長年英語を学んでいるにもかかわらず、あくまで外国人である私たちには、英語を母語とする人々が常識として持っている多くの文化的知識が欠落している。そこで、英語という言語を通して彼らのもつ文化の一端に触れてみたい。

【授業計画】

下記のテキストを適宜、質疑応答を加えながら精読する。各自の予習を前提にテキストを読み進めるが、ただ字面だけを追うのではなく、パラフレーズを通して筆者の意図するところを読み取り、それに対する自らの意見も述べてもらいたい。

(金曜3限)

PP.1~36

(金曜4限)

PP.1~36

【評価方法】

定期試験および授業時の発表・参加度と出欠状況から総合的に評価する。

【テキスト】

(金曜3限)

English and Many Cultures (Joan McConnell, 成美堂)

(金曜4限)

The Background of English (Joan McConnell, 成美堂)

Rapid Reading 3

村上洋子

【授業の概要】

このクラスは比較的平易な英語で書かれたテキストを使用して、できるだけ多くの英文を読みこなすことで、英語読解力を高めることを目的とする。

【授業計画】

Unit 1 Fighting Disease

Unit 2 Genetic Testing

Unit 3 Organ Transplants

Unit 4 Insemination

Unit 5 Reproduction

Unit 6 Norplant

Unit 7 Air Bags

Unit 8 Official English

【評価方法】

出席状況・授業態度・定期テストによって総合的に評価する。

【テキスト】

Vital Issues in America

(Duppenthaler / 太田憲男 マクミランランゲージハウス)

Rapid Reading 4

森本素世子

【授業の概要】

(金曜3限)

日頃英語を学びながらも、英語の多様性について考える機会はあまり多いとはいえない。そこで、国際語としての英語を、文化や社会的背景を踏まえて、より広い視点から改めて眺めてみたい。

(金曜4限)

長年英語を学んでいるにもかかわらず、あくまで外国人である私たちには、英語を母語とする人々が常識として持っている多くの文化的知識が欠落している。そこで、英語という言葉を通して彼らのもつ文化の一端に触れてみたい。

【授業計画】

下記のテキストを適宜、質疑応答を加えながら精読する。各自の予習を前提にテキストを読み進めるが、ただ字面だけを追うのではなく、パラフレーズを通して筆者の意図するところを読み取り、それに対する自らの意見も述べてもらいたい。

(金曜3限)

PP.37~78

(金曜4限)

PP.37~82

【評価方法】

定期試験および授業時の発表・参加度と出欠状況から総合的に評価する。

【テキスト】

(金曜3限)

English and Many Cultures (Joan McConnell, 成美堂)

(金曜4限)

The Background of English (Joan McConnell, 成美堂)

Rapid Reading 4

村上洋子

【授業の概要】

このクラスは、比較的平易な英語で書かれたテキストを使用して、できるだけ多くの英文を読みこなすことで英語読解力を高めること目的とする。

【授業計画】

Unit 9 Illegal Immigrants

Unit 10 Temporary Workers

Unit 11 Gambling

Unit 12 Homosexuality

Unit 13 Gun Ownership (1)

Unit 14 Gun Ownership (2)

Unit 15 Smoking (1)

Unit 16 Smoking (2)

【評価方法】

出席状況・授業態度・定期テストによって総合的に評価する。

【テキスト】

Vital Issues in America

(Duppenthaler / 太田憲男 マクミランランゲージハウス)

英語コミュニケーション

デイヴィッド・アベ

【Course Content】

This course is design to develop the four-macro skills of speaking, listening, reading, and writing. In class work will be focusing on the speaking and listening, while homework will also be given to cover the reading and writing section. The goal is to use activities that engage in real-life situation using authentic materials, which will be interesting and motivational to students.

【Schedule】

Students will work in groups, and will select their own topics with a purpose and an objective in mind. The following are topic for the first semester.

- Current events
- Entertainment
- Business issues
- Cultural differences
- Traveling

【Assessment】

Assessment will be based on attendance, participation, homework, and a final test.

【Textbooks】

The book is to be announce on the first day of class.

英語コミュニケーション

リチャード・ハリス

【Course Content】

(1 st semester)

The aim of the course is for students to learn how to write in many different ways and styles, and to discuss their work in both small and large groups.

We will examine many different writing styles during the course. Students will be encouraged to explore different writing methods. The class will be exposed to both intensive and extensive writing, as well as some personal letter writing.

(2 nd semester)

The aim of this course is for students to practice speaking as much as possible. Students will learn how to be an active speaker and listener in both small group and large group interactions. Students will also learn how to write and perform small speeches and persuasive debates.

【Schedule】

(1 st semester)

Lesson 1 - 2 telling a story

Lesson 3 - 4 writing personal letters

Lesson 4 - 5 Business letters

Lesson 7 - 8 writing descriptions of people

Lesson 9 writing about a fictional event in the future.

Lesson 10-12 writing a technical paper.

(2 nd semester)

Lesson 1 - 3 Stating personal opinions

Lesson 4 - 5 The power of advertising

Lesson 6 - 7 Radio announcing practice

Lesson 8 How to write a speech outline

Lesson 9 -10 Writing a speech

Lesson 11-12 Speech presentations

【Assessment】

(1 st semester)

Students will be evaluated through their written work and class participation.

(2 nd semester)

Students will be evaluated through class participation, written work and course projects.

【Textbooks】

(1 st semester)

Textbook will be announced during the first class

(2 nd semester)

Textbook will be announced.

英語コミュニケーション

フランソワーズ・ダフ

【Course Content】

This course is aimed at students who wish to improve their ability to talk confidently about themselves, their friends and family, their occupation, leisure activities, likes and dislikes, etc. in English.

Everyday oral communication and listening skills will be the focus the class.

Discussion of cultural issues will also be included.

The students will be expected to be active participants in all class activities.

Frequent quizzes and regular written reports will be graded to encourage students to build up their confidence and vocabulary in English.

【Schedule】

People: self and others

Favorite things

Free time

Occupations

Celebrations

【Assessment】

-Class vocabulary quizzes: 30%

-Written reports: 30%

-Participation in class activities: 40%

【Textbooks】

J-Talk (Linda Lee et al. OUP)

英語コミュニケーション

スコット・R. グリーン

【Course Content】

The focus of this class will be on further development and expansion of previously acquired English skills.

Students will have the opportunity to discover, express and discuss different elements of language and culture. Development of vocabulary and critical thinking skills will be stressed.

【Schedule】

A variety of topics will be covered. The order in which they are covered in class will depend on students' level and interests.

【Assessment】

Assessment will be based on attendance, participation, attitude and a final project or report at the end of the term.

【Textbooks】

To be announced at a later date.

中国語基礎会話 1 G

曹 述燮

【授業の概要】

始めて中国語に接する学生を対象に、中国語の子母音と声調による音声の成り立ち、その音節のローマ字表記法、正しい発音等の中国語学習の基礎知識を習得させ簡単な構文が理解できる実力を養成する。

【授業計画】

教科の進行中に中国語の読み方を身につける練習をおこなう。時に応じてビデオ教材を併用する予定。

第1回－4回：中国語学習の基礎としての声調・子母音・鼻音・声調変化など

第5回－7回：中国語の慣用的挨拶句と基礎構文
多少钱一包？

第8回－14回：基本会話と中国人の生活習慣
中国的夏天怎么样？

第15回：単位認定試験

【評価方法】

出席状況、期末のテストと授業中の学習成果テストを総合して判定する。そして語学ははじめが肝心。基礎を築き上げるまで出席不可欠。

【テキスト】

初級中国語 郭春貴著 白帝社

中国語基礎会話 1 Gは、週2回コース授業である。曹先生（水3限）＋楊先生（金4限）または曹先生（水4限）＋楊先生（金3限）の授業に出席し、その平均で評価がでる。

中国語基礎会話 1 G

楊 衛平

【授業の概要】

中国語の修得のために、発音・会話・文法・訳読を中心とする講義を行う。特に入門者やさしく楽しく学べるように、短い、実用的な日常会話の練習に重点を置く。単語、テキスト本文を説明する際、現在中国の実情を紹介し、短く、興味深いコミカルな事例を通して、異文化に対する理解を深め、学生諸君の中国への正しい関心を醸成する。同時に、中国語に対して興味と自信の持って貰うように、負担が軽く、なおかつ効率的な会話の復習を繰り返して行う。全講義を通じて、中国語の基礎会話の実力を身につけることを目指す。

【授業計画】

最初に中国語と日本語のちがいを、および中国語の特徴を紹介する。次に発音練習を中心に繰り返しながら、初対面からのあいさつと自己紹介用語を暗唱させ、毎回一人一人に日本語にない声調が発音でき、また、その違いを聞き取れるように指導を進める。その後、会話形式で、学生を中心にして本文を朗読、暗唱させ、一対一の会話練習を展開する。さらに、本文の翻訳は学生を主体に行い、日常会話の文法を解説し、文型と表現についてもよく理解できるように練習する。その他、ヒアリングの実力をアップするため、録音テープ、映画のビデオカセットも利用する。

【評価方法】

出席状況、授業での平常点を参考に、期末テストの成績を総合的に評価する。

【テキスト】

未定

中国語基礎会話 1 Gは、週2回コース授業である。曹先生（水3限）＋楊先生（金4限）または曹先生（水4限）＋楊先生（金3限）または楊先生（水1限）＋鄭先生（木3限）の授業に出席し、その平均で評価がでる。

中国語基礎会話 1 G

鄭澤善

【授業の概要】

一年間の勉強を通じて、中国語の基礎的な知識の把握と、初歩的な日常会話の習得を目指す。具体的には、中国語におけるピンイン及び四声の集中的練習を経て、単語から文章の構造へと段階的に理解させることによって、簡単な日常会話の応用能力の養成に努めたい。

【授業計画】

- 第1回：ガイダンス、中国語とは？ピンイン入門。
- 第2～5回：ピンインと四声の集中練習。
- 第6～13回：2回の授業につき、1課のペースで、テキストの内容の説明とともに、朗読させ、練習問題をやらせよう。
- 第14回：前期勉強の総括。

【評価方法】

試験成績に出席率、平常点を加味して総合評価する。

【テキスト】

教室で指示する。

中国語基礎会話 1 Gは、週2回コース授業である。楊先生（水1限）、鄭先生（木3限）の両方の授業に出席し、その平均で評価ができる。

中国語基礎会話 1 H

曹述燮

【授業の概要】

中国語学習の基礎知識を習得して簡単な構文が理解できる実力を持っている学生を対象に、中国語の会話を楽しみながら中国の社会と文化に接することができる授業をめざす。

【授業計画】

中国語の学習をととして自然に中国社会とその文化がしたしめるように心がけ、授業ごとに身近なトピックを取りあげていく。

- 第1回～4回：中国人の大学生活と家庭生活
你家有几口人？
- 第5回～7回：中国での旅行
你去过长城了没有？
- 第8回～10回：中国人の食文化
水餃子很好吃。
- 第11回～14回：慣用表現と中国現代社会
她怎么了？
- 第15回：単位認定試験

【評価方法】

出席状況、期末のテストと授業中の学習成果テストを総合して判定する。そして語学ははじめが肝心。基礎を築き上げるまで出席不可欠。

【テキスト】

初級中国語 郭春貴著 白帝社

中国語基礎会話 1 Hは、週2回コース授業である。曹先生（水3限）＋楊（金4限）または曹先生（水4限）＋楊先生（金3限）の授業に出席し、その平均で評価ができる。

中国語基礎会話 1 H

楊 衛平

【授業の概要】

中国語の修得のために、発音・会話・文法・訳読を中心とする講義を行う。特に入門者やさしく楽しく学べるように、短い、実用的な日常会話の練習に重点を置く。単語、テキスト本文を説明する際、現在中国の実情を紹介し、短く、興味深いコミカルな事例を通して、異文化に対する理解を深め、学生諸君の中国への正しい関心を醸成する。同時に、中国語に対して興味と自信を持って貰うように、負担が軽く、なおかつ効率的な会話の復習を繰り返して行う。全講義を通じて、中国語の基礎会話の実力を身につけることを目指す。

【授業計画】

最初に中国語と日本語の違い、および中国語の特徴を紹介する。次に発音練習を中心に繰り返しながら、初対面からのあいさつと自己紹介用語を暗唱させ、毎回一人一人に日本語にない声調が発音でき、また、その違いを聞き取れるように指導を進める。その後、会話形式で、学生を中心にして本文を朗読、暗唱させ、一対一の会話練習を展開する。さらに、本文の翻訳は学生を主体に行い、日常会話の文法を解説し、文型と表現についてもよく理解できるように練習する。その他、ヒアリングの実力をアップするため、録音テープ、映画のビデオカセットも利用する。

【評価方法】

出席状況、授業での平常点を参考に、期末テストの成績を総合的に評価する。

【テキスト】

未定

中国語基礎会話 1 H は、週 2 回コース授業である。曹先生（水 3 限）＋楊先生（金 4 限）または曹先生（水 4 限）＋楊先生（金 3 限）または楊先生（水 1 限）＋鄭先生（木 3 限）の授業に出席し、その平均で評価がでる。

中国語基礎会話 1 H

鄭 澤善

【授業の概要】

前期勉強の延長として、更なる基礎の勉強と会話の習得を目指す。具体的には、ピンインと四声の練習を集中的に行ない、単語から文章及び会話へ段階的に進め、中国語の応用能力の向上に努めたい。

【授業計画】

- 第 1 回：前期勉強した内容の復習、ピンインと正しい発音が主眼。
- 第 2－7 回：テキストの勉強とともに、年代、曜日、電話等の会話練習。
- 第 8－13 回：テキストの内容と関連する時刻、出身、年齢、買い物、挨拶、自己紹介等の会話練習に重点を置く。
- 第 14 回：一年間勉強した内容の総括。

【評価方法】

試験成績に出席率、平常点を加味して総合評価する。

【テキスト】

教室で指示する。

中国語基礎会話 1 H は、週 2 回コース授業である。楊先生（水 1 限）、鄭先生（木 3 限）の両方の授業に出席し、その平均で評価がでる。

中国語会話 1 G

鄭 澤善

【授業の概要】

一年間の勉強を通じて、正しい中国語の発音及び基礎文法を身に付けるようにする。簡単な会話及び平易な読み物が理解できる程度の中国語能力の養成を目指す。

【授業計画】

- 第1回：ガイダンス、中国語とは？共通語と方言、ピンイン入門。
- 第2～5回：ピンイン及び発音の練習、一人一人に発音の練習を指導する。
- 第6～13回：2回の授業につき、1課のペースで、テキストの内容及び文法を詳しく説明するとともに朗読させ、練習問題をやらせよう。
- 第14回：前期勉強の総括。

【評価方法】

試験成績に出席率、平常点を加味して総合評価する。

【テキスト】

教室で指示する。

中国語会話 1 Gは、週 2 回コース授業である。鄭先生（火 4 限）、時先生（木 4 限）の両方の授業に出席し、その平均で評価ができる。

中国語会話 1 G

時 衛国

【授業の概要】

本講義は初心者に現代中国語についての基礎知識を習得してもらうためのものである。具体的には発音・会話・朗読・文法などを中心に進め、受講者の中国語会話の基本能力を養成することが目標である。

【授業計画】

- 第1回 年間計画指示
- 第2～4回 母音・子音とそれらの組み合わせ方、四声、イントネーションなどの説明
- 第5～10回 初級の段階に入り、テキストを中心に進めるが、会話の練習にも力を入れる。

【評価方法】

出席を重視し、平常点と定期試験によって総合的に評価する。

【テキスト】

授業中に指示する。

中国語会話 1 Gは、週 2 回コース授業である。鄭先生（火 4 限）、時先生（木 4 限）の両方に出席し、その平均で評価ができる。

中国語会話 1 H

鄭澤善

【授業の概要】

前期勉強の延長として、正しい中国語の発音の練習に重点を置きながら、簡単な会話ができるように指導するとともに、練習問題を通じて、文法と読解力の向上を目指す。

【授業計画】

- 第1回：前期勉強した内容の復習、ピンインと正しい発音の復習に重点を置く。
- 第2～7回：テキストの勉強とともに年代、曜日、電話等の会話練習。
- 第8～13回：テキストの内容と関連する時刻、出身、年齢、買い物、挨拶、自己紹介等の会話練習に主眼を置く。
- 第14回：一年間勉強した内容の総括。

【評価方法】

試験成績に出席率、平常点を加味して総合評価する。

【テキスト】

教室で指示する。

中国語会話 1 Hは、週 2 回コース授業である。鄭先生（火 4 限）、時先生（木 4 限）の両方の授業に出席し、その平均で評価がでる。

中国語会話 1 H

時衛国

【授業の概要】

本講義は現代中国語についての基礎知識を習得してもらうためのものである。発音・会話・朗読・文法などを中心に進め、受講者の中国語会話の基本能力を養成することを目標とする。

【授業計画】

- 第1回 年間計画指示
- 第2～12回 テキストの内容を中心に読みの練習と短い会話の練習に力を入れるほか、基本文型や簡単な文法について説明し、練習をする。

【評価方法】

出席を重視し、平常点と定期試験によって総合的に評価する。

【テキスト】

授業中に指示する。

中国語会話 1 Hは、週 2 回コース授業である。鄭先生（火 4 限）、時先生（木 4 限）の両方に出席し、その平均で評価がでる。

中国語コミュニケーション1

陳佳平

【授業の概要】

中国語コミュニケーションをしようとするなら、まず正しい発音と声調を身に付けなければならない。そのため、色々な練習を用いて、出来るだけ早く、正しく拼音と声調及び変調などをしっかり覚え、それと共に基礎的な文法を踏まえながら、語彙力と表現力を養い、実践的なコミュニケーション能力の習得を目指す。

【授業計画】

1. 拼音、声調、変調
2. 挨拶語
3. 基本文型、基礎文法
4. 作文、会話
5. ヒアリング

【評価方法】

勉強意欲と平時成績と期末テストにより、総合評価する。

【テキスト】

中国語初級テキスト 生活の中の基礎会話
(丁秀山・坂井田ひとみ著 金星堂)

【参考文献・資料】

中国語百問百答 (丁秀山著 東方書店)

中国語コミュニケーション1

陳惠貞

【授業の概要】

中国語を勉強しようとする学生に、基本的な発音・文型・会話内容を理解し、楽しく学習できるよう努める。授業中にヒアリングの強化と正しい発音を身に付けるため、リピートをし、繰り返して練習をする。さらに、常に復習することによって、無理なく基本的な会話が覚えられるよう心がける。

【授業計画】

1. 中国の紹介と中国語の特徴
2. 中国語の声調とピンイン
3. 子音と母音の発音
4. 簡単な挨拶語・会話
5. 基本的な文型
6. ヒアリング

最初の段階から、より正しい発音ができるように1人1人に練習させ、指導をする。随時、ヒアリングの練習をする。前期の目標としては、簡単な表現ができるようにする。

【評価方法】

授業への参加意欲と期末テストの成績による総合評価。

【テキスト】

中国語初級テキスト 生活の中の基礎会話
(丁秀山・坂井田ひとみ著 金星堂)

【参考文献・資料】

中国語百問百答 (丁秀山著 東方書店)

中国語コミュニケーション2

陳 佳平

【授業の概要】

前期の学習を踏まえ、一を聞いて十を知るように様々な文型、表現を使って練習する。多様多彩かつ日進月歩の中国の事情を了解しながら、個性のある表現力を積極的に高めていくことを目指す。

【授業計画】

1. 復習
2. 様々な文型と表現方法
3. ふさわしい文法
4. 作文、会話
5. ヒアリング

【評価方法】

学習意欲と平時成績と期末テストにより、総合評価する。

【テキスト】

中国語初級テキスト生活の中の基礎会話
(丁秀山・坂井田ひとみ著 金星堂)

【参考文献・資料】

中国語百問百答 (丁秀山著 東方書店)

中国語コミュニケーション2

陳 惠貞

【授業の概要】

前期で習得したものを更にレベルアップし、展開していく。基本的な発音・文型・会話内容を理解するのに加え、書くと朗読する能力を養う。授業中にヒアリングの強化と正しい発音を身に付けるため、リピートをし、繰り返して練習をする。さらに、常時に復習することによって、無理なく基本的な会話が覚えられ、楽しく学習できるよう努める。

【授業計画】

1. 前期の復習
2. より正確な声調とピンインと発音
3. ヒアリング
4. 基本的な文型で構文・応用
5. 会話の練習

一年間の努力を通して、より正しい発音で楽しく会話ができることと簡単な文を書けることを目指している。

【評価方法】

授業への参加意欲と期末テストの成績による総合評価。

【テキスト】

中国語初級テキスト生活の中の基礎会話
(丁秀山・坂井田ひとみ著 金星堂)

【参考文献・資料】

中国語百問百答 (丁秀山著 東方書店)

中国語コミュニケーション3

陳 佳平

【授業の概要】

中国語の学習には正しい発音、声調など基本的な表現力をしっかり覚えることが第一歩である。これは中国語コミュニケーションを始めようとする第一のステップでもある。

楽しみにかつ早く中国語コミュニケーション能力を学生に習得させるため、色々な学習方法を通じて、学生の勉強の意欲と能力を出来るだけ効果的に生かしていくことを工夫する。

【授業計画】

1. 拼音、声調、変調
2. 挨拶語
3. 基本文型、基礎文法
4. 作文、会話
5. ヒアリング

【評価方法】

学習意欲と平常成績と期末テストにより、総合評価する。

【テキスト】

未定

【参考文献・資料】

中国語百問百答（丁秀山著 東方書店）

中国語コミュニケーション3

陳 惠貞

【授業の概要】

中国の文化や習慣に触れながら、楽しく語学を勉強しよう。まずは、基本的な発音・文型・会話内容を理解し、負担なく学習できるよう心がける。授業の進め方は、対話講義とし、それぞれ声を出し、積極的に参加することを望む。

授業中にヒアリングの強化と正しい発音を身に付けるため、リピートをし、繰り返して練習をする。さらに、常時に復習することによって、無理なく基本的な会話が覚えられるよう工夫する。

【授業計画】

1. 中国の紹介と中国語の特徴
2. 中国語の声調とピンイン
3. 子音と母音の発音
4. 簡単な挨拶語・会話
5. 基本的な文型
6. ヒアリング

最初の段階から、より正しい発音ができるように1人1人に練習、指導をする。随時、ヒアリングの練習をする。前期の目標としては、簡単な表現ができるようにする。

【評価方法】

授業への参加意欲と期末テストの成績による総合評価。

【テキスト】

未定

【参考文献・資料】

中国語百問百答（丁秀山著 東方書店）

中国語コミュニケーション4

陳佳平

【授業の概要】

前期の学習を踏まえ、一を聞いて十を知るように様々な文型、表現を使って練習する。多様多彩かつ日進月歩の中国の事情を了解しながら、個性のある表現力を積極的に高めていくことを目指す。

【授業計画】

1. 復習
2. 様々な文型と表現方法
3. ふさわしい文法
4. 作文、会話
5. ヒアリング

【評価方法】

勉強意欲と平常成績と期末テストにより、総合評価する。

【テキスト】

シリーズ中国語テキストⅠ 中国語基礎講座
(丁秀山著 光生館)

【参考文献・資料】

中国語百問百答 (丁秀山著 東方書店)

中国語コミュニケーション4

陳惠貞

【授業の概要】

前期の授業で学んだものを更にレベルアップし、展開していく。基本的な発音・文型・会話内容を理解した上、書くと朗読する能力を養う。習得した語彙や文型を応用し、会話をする。授業中にヒアリングの強化と正しい発音を身に付けるため、リピートをし、繰り返して練習をする。さらに、随時に復習することによって、無理なく基本的な会話が覚えられ、楽しく学習できるよう努める。

【授業計画】

1. 前期の復習
2. より正確な声調とピンインと発音
3. ヒアリング
4. 基本的な文型で構文・応用
5. 会話の練習

一年間の講義を通して、より正しい発音で楽しく会話ができることと簡単な文を書けることを目指している。

【評価方法】

授業への参加意欲と期末テストの成績による総合評価。

【テキスト】

シリーズ中国語テキストⅠ 中国語基礎講座 (丁秀山著 光生館)

【参考文献・資料】

中国語百問百答 (丁秀山著 東方書店)

中国語読解 1

鄭澤善

【授業の概要】

中国の社会、文化及び最新事情に関連する文章を読んで、初歩的な読解力を身につけるようにする。具体的には、文章を精しく読みながら文法を理解し、単語を覚え、読む力の向上を目指す。

【授業計画】

前期では、ピンインの勉強を復習した上、中国の地理、少数民族、方言、苗字、祝祭日等に関連する文章をゆつくり読みながら、文法を詳しく説明して、単語の覚えに重点の置く。読解力の基礎勉強として、ピンイン、基本句型、基本文法をマスターするために、朗読も併せて行なう。

【評価方法】

試験成績に出席率、平常点を加味して総合評価する。

【テキスト】

荒屋 勸・尹 景春・阿倍 博幸著『中国と日本』
朝日出版社

必要に応じて、プリントも併せて使用する。

中国語読解 2

鄭澤善

【授業の概要】

中国の社会、文化及び最新事情に関連する文章を読んで、初歩的な読解力を身につけるようにする。具体的には、文章を精しく読みながら文法を理解し、単語を覚え、読む力の向上を目指す。

【授業計画】

前期勉強の延長として、中国の食文化、庶民生活、国民性、最新事情等関連の文章を、できるだけ早く読むように指導する。文章の説明につき、文法等は詳しく説明するが、黙読の速さの向上に重点を置く。

【評価方法】

試験成績に出席率、平常点を加味して総合評価する。

【テキスト】

荒屋 勸・尹 景春・阿倍 博幸著『中国と日本』
朝日出版社

必要に応じて、プリントも併せて使用する。

中国語読解 3

時 衛国

【授業の概要】

本講義は初級中国語コースで学んだ発音の仕方・文型・文法現象及び関連知識を復習しながら、テキストをもとに総合的読解力と会話力を高めることを念頭に置く。

【授業計画】

- 第1回 年間計画指示
- 第2～12回 テキストを利用して読解・説明・練習

【評価方法】

出席を重視し、平常点と期末試験によって総合的に評価する。

【テキスト】

授業中に指示する。

中国語読解 4

時 衛国

【授業の概要】

本講義は現代中国語の文型・文法現象及び関連知識を中心に、総合的読解力の養成を目標とする。

【授業計画】

- 第1回 年間計画指示
- 第2～12回 テキストを利用して読解・練習

【評価方法】

出席を重視し、平常点と期末試験によって総合的に評価する。

【テキスト】

授業中に指示する。

情報処理基礎技術 a・b

原 伸之

【授業の概要】

パソコン活用の要である「ワープロ」「表計算」「データベース」の習得をめざす。また、パソコンのしくみ、ソフトウェアの機能およびソフトウェアをとりまく諸問題についても学習する。

1. コンピュータの活用—I

- 1) Windows-98の理解
- 2) ワープロ「Word」の実習
 - a. 基礎編（入力・編集）
 - b. 応用編（作表・計算）
- 3) コンピュータのしくみ
- 4) ソフトウェアの機能
- 5) システムの概念
- 6) プログラミング
 - a. アルゴリズムの理解
 - b. フローチャートによる演習

2. コンピュータの活用—II

- 1) 表計算「Excel」の実習
 - a. 基礎編（入力・編集）
 - b. 応用編—1（グラフ作成・編集）
 - c. 応用編—2（データベース作成・抽出・集計）
- 2) データベース「Access」
 - a. データベースの考え方
 - b. 基礎編（入力・抽出・出力）
 - c. 応用編（関数・集計）
- 3) ソフトウェアをとりまく課題
- 4) 日本の情報サービス産業

【授業計画】

配布されたプリントに基づいて、講義・実習を行う。Word、Excel、Accessの実習では、基本を習得して演習に取り組む方法で、理解を深めたい。講義では、テクニカル・タームの説明から始めて正しく理解するように努める。

【評価方法】

Word、Excel、Accessの実習では、その理解度を確認するために小テストを実施し、期末テストの評価とを合わせた総合評価を行う。

情報処理基礎技術 a・b

三和義秀

【授業の概要】

アプリケーション・ソフトウェアやインターネットなどのネットワーク・ツールを上手く使いこなし、コンピュータを問題解決の技法や思考方法をひろげるメディアとして活用できる技術を身に付ける。

(a：前期)

- 第1回 情報、データ、情報処理とは何か
- 第2回 コンピュータの歴史、人間とコンピュータ
- 第3回 キーボード操作
- 第4回から5回 インターネットの基本操作
- 第6回 情報の表現：10進数、2進数、8進数、16進数、文字符号
- 第7回 オペレーティング・システム、コンピュータ・プログラム
- 第8回～10回 日本語・英文ワープロMS-Wordの操作

第11回～13回 表計算ソフト Excel の操作

(b：後期)

- 第1回から第2回 統計処理入門
- 第3回から第5回 Excelを使った統計処理
- 第6回から第7回 ホームページの作成
- 第8回から第9回 プレゼンテーションとPowerPointの基本操作
- 第10回から第13回 Accessによるデータベースの作成

【評価方法】

定期試験、レポート及び出席回数にて総合評価する。特に出席回数を重視する。

【テキスト】

授業中に指示する。

国文学概論 a・b

山下宏明

【授業の概要】

前期には、日本文学の研究史について話す。古代の『万葉集』編纂のための巻の構成に始まり、中古には詠歌のための歌学、これを支えるための物語の読みが課題となる。中世には、諸ジャンルが分化し、近世には国学の隆盛を経て近代を迎え、方法の確立を志向することになる。これら前近代の、対象を相対化する研究を受けて、明治以後、西洋の研究を意識し、特に戦後、研究の批評性を顕著にする。すなわち戦前の文献学的研究から、文芸学、歴史社会学派へと作者論の歩みをたどる。後期には、新批評を転機に読者論に変わること述べ、以後、記号・構造主義、テキスト論、新歴史主義、ポストコロニアル理論、脱構築理論、ジェンダー論、文化論、身体論、口語論などへと展開する。こうした日本文学研究の流れを半年の間に展望する。

余裕があれば、上述の研究史の展望を踏まえ、文学研究の国際的な状況の中で、特に、読者論のための物語の方法を具体的に考察指導する。理論の応用篇である。

【授業計画】

前期には史的展望を行い、後期には、特に読者論や文字・口語論を、古典はもちろんのこと、近・現代の小説・物語、さらには山田洋次の映画、井上ひさしの演劇にも素材を広げて表現・享受の方法を講義する。

【評価方法】

出席状況と、試験による。時にノートの提出を求め、講義の把握・理解の状況を探る資料にする。

【テキスト】

前半の批評史の展望、後半の各論を進める上に必要な作品の部分引用など、各種資料をプリントで用意する。その原資料は、これまでの経験から、ほとんど揃っているが、さらに新しい資料をも追加したり、とりかえを行う。基本的な参考資料として、

T・イーグルトン『文学とは何か』岩波書店

ジェラルド・ジュネット『物語のディスコース』風の薔薇社

大江健三郎『新しい文学のために』岩波書店

大橋洋一『新文学入門』岩波書店

その他を推薦するはずである。

国文学史（1） a・b

日比野浩信

【授業の概要】

- a 日本の古典文学を概観する。上代から中古・中世そして近世に区分し、それぞれの時代において重要視されるべき著名な作品・作家を中心に、その背景となった文化についても考えたい。
- b 日本の古典文学をジャンル別に分類し、それぞれのジャンル史を通観する。また、作品の享受史や研究史をも併せ考えることとする。

【授業計画】

a	1	上代の文学 奈良時代	b	1	和歌文学史 勅撰集
	2	中古の文学 平安前期 平安中期 平安後期			私撰集 諸家集 歌合 歌論・歌学
	3	中世の文学 鎌倉時代時代 南北朝時代 室町時代	2	物語文学史 歌物語 創り物語 歴史物語 軍記物語	
	4	近世の文学 江戸時代	3	日記文学史	
			4	随筆文学史	

【評価方法】

授業への参加状況・態度による平常点および、学期末の試験、もしくはレポートによって評価する。試験かレポートかは、受講人数や授業進度などを考慮して決定する。

【テキスト】

『日本古典文学史』（乾安代他著 双文社出版）

国文学史 (2) a

小倉 斉

【授業の概要】

〈近代文学の諸相〉

日本の近代文学の諸相を、いくつかのテーマを設定しながら、かなめとなる作家・作品・思潮を検討することによって理解し、あわせて日本文学における「近代」とは何かを考える。

【授業計画】

以下の各テーマにしたがって講義をおこなう。

- 1 〈書く〉ことと〈語る〉こと
村上春樹『風の歌を聴け』
- 2 〈模写〉の意味
坪内逍遙『小説神髓』・『当世書生気質』
二葉亭四迷『浮雲』
- 3 〈わたくし〉の発見
森鷗外『舞姫』
- 4 〈こども〉たちの眼差し
谷崎潤一郎『小さな王国』
芥川龍之介『杜子春』
- 5 〈新しい女〉と戯画化された主人公
田山花袋『蒲団』
- 6 〈自然の愛〉と〈社会の掟〉
夏目漱石『それから』
- 7 観念の崩壊と〈新感覚〉
芥川龍之介『歯車』
横光利一『機械』

【評価方法】

授業への出席・参加状況、学期末の試験（自筆ノート持ち込み可・論述問題中心）によって評価する。

【テキスト】

舞姫・うたかたの記（森鷗外 岩波文庫）
蒲団・一兵卒（田山花袋 岩波文庫）
それから（夏目漱石 岩波文庫）
歯車（芥川龍之介 岩波文庫）
日輪・春は馬車に乗って（横光利一 岩波文庫）
近代文学年表（年表の会 双文社出版）

国文学史 (2) b

細谷 博

【授業の概要】

文学における「近代」とは何か、「現代」とは何か。われわれ自身の〈読むこと〉の問題として考える。

大正後期から昭和期に至る文学の諸相を、要点となる作家・作品を端的におさえることによってたどりなおし、作品の各部をたしかに味わいつつ考える文学史をめざす。

【授業計画】

- 第1回 概論、導入
- 第2回 「城の崎にて」他読解
- 第3回 「蜃気楼」他読解
- 第4回 志賀直哉・谷崎潤一郎・芥川龍之介
- 第5回 関東大震災、芥川の死、円本ブーム
- 第6回 近代と現代
- 第7回 横光利一・川端康成
- 第8回 葉山嘉樹・梶井基次郎
- 第9回 堀辰雄・中野重治
- 第10回 太宰治
- 第11回 井伏鱒二・大岡昇平
- 第12回 三島由紀夫・安部公房
- 第13回 単位認定試験

【評価方法】

出席状況と単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【テキスト】

小僧の神様・城の崎にて（志賀直哉著 新潮文庫）
河童・或阿呆の一生（芥川龍之介著 新潮文庫）
現代日本の文学（双文社出版）

国語概説 a・b (音声言語及び文章表現を含む)

増井典夫

【授業の概要】

前期中心テーマー日本語の音声・音韻・アクセント

後期の中心テーマー方言と共通語

<前期>

日本で使われている言語としてアイヌ語や沖縄の言葉について触れたあと、音声言語という面から、世界の中の日本語の位置を考え、さらには日本語の音韻・アクセント等を考察していく。

<後期>

日本語方言学の研究法・調査法をみながら愛知県方言の位置付け、方言と共通語の使い分け、「新方言」といわれる新しい日本語表現等を考えていく。

【授業計画】

講義を行なっていく。

【評価方法】

記述式テスト (定期試験)。

【テキスト】

国語概説 (佐伯・山内編 和泉書院)

国文学講義 (1) 上代 a

大浦誠士

【授業の概要】

古事記には、様々な物語が載せられているが、中でも歌謡を含んで成り立つ歌謡物語は、抒情性に富み、古事記を文学たらしめている要素の一つである。本講義では古事記の歌謡物語の中から主要なものを選び、それらを精読することを通じて、古事記が歌謡を含み持つことの意味、所伝 (物語の部分) と歌謡との関係などについて考えていく。

【授業計画】

1～2回 歌謡物語の概要と研究史

3～4回 赤猪子の物語

5～6回 軽太子の物語

7～8回 イハノヒメの物語

9～11回 ヤマトタケルの物語

12～13回 古代の歌と物語

【評価方法】

学期末の試験により評価する。

【テキスト】

テキストは特に定めない。授業時にプリントを配布する。

国文学講義（1）上代b

島田修三

【授業の概要】

〈万葉史の考察〉

『万葉集』の4500首余りの歌は、おおよそ7世紀の半ばから100年間に詠まれた。この100年間は古代社会が激しくシフトして行く時期と重なる。古代律令国家の成立をはじめとして中国文化の流入、生活民俗の変容など多様なシフトが万葉和歌の成立や成熟に色濃く影響を及ぼしている。本講義では、この100年間の作品を歴史的に追うことによって、文学的問題にとどまらぬ万葉和歌の歴史社会的な諸問題を考えていく。

〈前期〉

a：初期万葉から白鳳万葉へ

万葉和歌の草創期から古代律令国家成立期に至る万葉和歌の展開を追う。作品としては、雄略天皇御製から柿本人麻呂の宮廷讃歌・高市黒人の羈旅歌のあたりまでを対象とする。

〈後期〉

b：奈良朝万葉の世界

奈良朝初期から天平末期に至る万葉和歌の展開を追う。作品としては、山上憶良・大伴旅人から防人歌・大伴家持のあたりまでを対象とする。

【授業計画】

主として下記のテキストおよびプリント資料を用いながら作品を講読していく。

【評価方法】

前期・後期末それぞれのテストもしくはレポートによって評価する。

【テキスト】

〈前期・後期〉

万葉 文学とその背景（島田修三他著 おうふう）

国文学講義（2）中古a・b

久保朝孝

【授業の概要】

中古文学作品に対する基本的姿勢と読解の基本的方法を身につける。特に本文解釈の多様性の所以と可能性について理解する。前期は『伊勢物語』を、後期は「王朝女流日記」諸作品を対象とする。

【授業計画】

〈前期〉

a：伊勢物語

1 導入	7	伊勢物語各章段の精読
2 伊勢物語初段の考察	8	伊勢物語各章段の精読
3 伊勢物語初段の考察	9	伊勢物語各章段の精読
4 伊勢物語初段の考察	10	伊勢物語各章段の精読
5 伊勢物語初段の考察	11	伊勢物語各章段の精読
6 伊勢物語初段の考察	12	まとめ

〈後期〉

b：王朝女流日記

1 導入	7	紫式部日記
2 王朝女流日記への招待	8	更級日記
3 土佐日記	9	成尋阿闍梨母集
4 蜻蛉日記	10	讃岐典侍日記
5 枕草子	11	王朝女流日記の達成
6 和泉式部日記	12	まとめ

【評価方法】

次の諸点を総合して評価する。配分については授業時に説明する。

- ア. 出席状況
- イ. 期末レポート
- ウ. 学外の自主的学習

【テキスト】

前期a：伊勢物語（校注古典叢書 片桐洋一校注 明治書院 1,400円 税込）

後期b：王朝女流日記を学ぶ人のために（久保朝孝編 世界思想社 2,300円 税込）

国文学講義（3）中世 a・b

岩下紀之

【授業の概要】

古典文学は元来写本・版本のかたちで享受されてきた。過去の人々と同じかたちで読書することなしに、古典を解釈・鑑賞することはできない。自分の国の作品では、このような原則的な立場での研究が可能なので、この特権を生かしてほしい。変体仮名の入門を4、5月中に集中しておこなうので、後期からの受講は困難であろう。散文と韻文に触れてみるべく、前期は、御所本宇治拾遺物語（下）、後期は、御所本百人一首抄を講読する。

【授業計画】

一方的に教授することをさげ、学生にしばしば読ませることにしている。

【評価方法】

学期末の試験をもって評価する。

【テキスト】

御所本うち拾遺物語<下>（笠間書院）

御所本百人一首抄（笠間書院）

仮名変体集（新典社）

国文学講義（4）近世 a・b

阿部一彦

【授業の概要】

井原西鶴の浮世草子と近松門左衛門の世話浄瑠璃を読み、近世文学の魅力や面白さを発見し確認していく。

同一事件を題材とした、西鶴の『好色五人女』巻一「姿姫路清十郎物語」・巻三「中段に見る暦屋物語」と近松の『五十年忌歌念仏』・『大経師昔暦』を読み解き、鑑賞する。両作品の比較検討を通して、それぞれの作品・作者の特色を確認するとともに、浮世草子、世話浄瑠璃という近世文学独自のジャンルの創作方法や成立基盤をも考察していく。

<前期>

西鶴の『好色五人女』巻一「姿姫路清十郎物語」と近松の『五十年忌歌念仏』を読んでいく。

最初に「近世」の社会的・文化的特徴と文学史を概説する。つづいて、西鶴の文学活動をごくおおまかに概説してから、「姿姫路清十郎物語」を精読する。『五十年忌歌念仏』は受講者それぞれが、西鶴の作品と比較しつつ読んでいくこととなる。この成果を前期試験の課題とする。

<後期>

西鶴の『好色五人女』巻三「中段に見る暦屋物語」と近松の『大経師昔暦』を読んでいく。

最初に歌舞伎・浄瑠璃の成立史を簡単に説明する。今度は逆に、近松の『大経師昔暦』を精読する。受講者に「中段に見る暦屋物語」を読んでもらう。後期試験では、『大経師昔暦』を論じてもらう。

【授業計画】

講義・講読形式で進めていく。

【評価方法】

前期、後期ともにレポートによる。

【テキスト】

西鶴と近松（松崎仁・白石梯三 和泉書院 1,545円）

国文学講義（5）近代a・b

二瓶浩明

【授業の概要】

- a 現代女性文学の世界
- b 〈旅〉と日本近代文学

【授業計画】

- a
 - はじめに
 - 吉本ばなな
「キッチン」「白河夜船」など
 - 鷺沢萌
「少年たちの終わらない夜」「帰れぬ人々」など
 - 松浦理英子
「ナチュラルウーマン」「親指Pの修業時代」など
 - 山田詠美
「ベッドタイムアイズ」「僕は勉強ができない」など
 - 江國香織
「きらきらひかる」「なつのひかり」「ホリーガーデン」など
 - 長野まゆみ
「少年アリス」「学校ともだち」など
 - 柳美里
「家族シネマ」「ゴールドラッシュ」「フルハウス」など
 - 水村美苗
「私小説」「本格小説」など
 - 斉藤綾子
「ルビーフルーツ」「バージンビューティ」など
 - 笹野頼子
「レストレスドリーム」「タイムスリップコンビナート」など
 - 川上弘美
「蛇を踏む」「いとしい」など
 - おわりに
- b
 - はじめに
 - 旅する前に
 - 森鷗外 「舞姫」
 - 夏目漱石 「草枕」
 - 泉鏡花 「高野聖」
 - 宮沢賢治 「銀河鉄道の夜」
 - 横光利一 「上海」
 - 横光利一 「旅愁」
 - 川端康成 「伊豆の踊子」
 - 川端康成 「雪国」
 - 永井荷風 「濃東綺譚」
 - 太宰治 「津軽」
 - おわりに

【評価方法】

レポート。
出席不良のものは評価しない。

【テキスト】

上記の文庫本。
各自購入のこと。

国語学講義a

犬飼 隆

【授業の概要】

古代日本語の重要問題を取りあげて考察する。諸事実の表面的な説明にとどまるのではなく、それらを研究するにはどのような資料を用いるか、どのような方法があるか、また、それらの現象には日本語の言語としての特徴がどのようにあらわれているか、さらには、言語に歴史的な変化をもたらす動因は何かなど、「考える授業」をめざす。講義形式で行い、毎回まとめの短いレポートを書く。若干の補助プリントを使うが、口頭の説明が主体になるので、ノートを充分にとる用意が必要である。

【授業計画】

- 第1回 日本語の基本的な特徴
- 第2～4回 古代日本語の資料
- 第5～7回 古代語の音韻
- 第8～10回 古代語の文法
- 第11～13回 日本語の文字

【評価方法】

期末試験による。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献・資料】

とくに指定しないが、授業時に紹介する諸論文・著作を読むことが望ましい。

国語学講義 b

増井典夫

【授業の概要】

1年次「国語概説」の授業に引き続き、日本語の諸問題について概説を行なう。

具体的な内容としては、「文字・表記」「文法・敬語」「文章・文体」の問題を中心とする。

【授業計画】

講義を行なう。

【評価方法】

記述式テスト（定期試験）。

【テキスト】

国語概説（佐伯・山内編 和泉書院）

中国文学講義（1） a・b

寺尾剛

【授業の概要】

<先秦漢魏晉南北朝の文学>

唐に至るまでの中国の文学史を理解するとともに漢文の基礎（文法や文化的背景等）を身につける。

<前期>

- ・中国文化の特色－中国人の発想法
- ・『詩経』
- ・『楚辞』
- ・『論語』
- ・秦の統一までの文学史

<後期>

- ・『古詩十九首』
- ・建安文学－曹操・曹植
- ・『出師表』
- ・『蘭亭序』
- ・陶淵明
- ・謝朓
- ・漢代から六朝までの文学史

【授業計画】

中国の文学の流れを具体的に作品を読みながら理解していく。時間的に余裕があれば輪読していく。

【評価方法】

平常点と試験。

【テキスト】

中国詩文（中国詩文研究会編 1,700円）
及びプリント

中国文学講義（2）

寺尾 剛

【授業の概要】

〈唐代の文学〉

唐詩と唐代伝奇小説を読むことを通じ、中国文学研究の方法を理解してゆく。

- ・唐代文学史
- ・『長恨歌』
- ・『杜子春伝』
- ・その他

【授業計画】

時間的に余裕があれば輪読していく。

【評価方法】

平常点及び試験。

【テキスト】

中国詩文（中国詩文研究会編）
及びプリント

国文学演習 I（1） a・b

島田修三

【授業の概要】

〈万葉季節歌群の考察〉

『万葉集』巻10には人麻呂歌集から奈良天平時代の四季の作者未詳歌 540首余りがそれぞれ「雑歌」「相聞」の部立に分かれて収録されている。本授業では、この歌群の子細な読解を通して、四季の節会と歌の場の関係、四季の自然風物が初期の和歌に与えた影響、自然観の深化といった諸問題を考えてみたい。

【授業計画】

〈前期〉a

- 第1回～2回 古代の自然観と暦の変遷
- 第3回～4回 巻10の概観
- 第5回～10回 春の歌 演習発表
- 第11回～12回 夏の歌 演習発表

〈後期〉b

- 第1回～3回 夏の歌 演習発表
- 第4回～9回 秋の歌 演習発表
- 第10回～11回 冬の歌 演習発表
- 第12回 総括

※原則として一人数首の作品を担当し、指示に従った調査結果のレジメの用意をしなければならない。発表に基づいて、受講者や島田の質疑が行われる。

【評価方法】

出席状況、授業期間中の発表、学期末レポートによって総合的に評価する。

【テキスト】

〈前期・後期〉

萬葉集（訳文篇）（佐竹昭広ほか著 塙書房）

国文学演習 I (2) a・b

久保朝孝

【授業の概要】

中古文学作品の読解と研究との基礎的方法を、実践的に身につける。

元来自撰であったと見られる『紫式部集』を読み解きながら、物語作家の生涯を追跡するとともに、その感性や精神構造の実質を探る。また、作品としての『紫式部集』自体の構造等についても考察する。

なお、特に作品論の基礎となるべき本文の「読み」（解釈）を、辞書・注釈書等を参照・批判・整理しつつ、自らの力によって築き上げる過程を重視したい。

演習であるから、担当者の発表のみで終わることなく、それに対する質疑・批判、そして回答・反論等が、全員によって躍動的に展開されることを期待する。

なお、夏季休業中に2泊3日の京都・奈良ゼミ旅行(35,000円)を行う。

【授業計画】

- 一、複数のグループを編成する。
- 二、準備学習。
- 三、担当範囲を決定する。
毎回2～3首。
- 四、研究報告→質疑→回答→討論→助言（毎回の授業）
- 五、学修の成果をレポートにまとめる（期末）。

【評価方法】

次の諸点を総合して評価する。配分については授業時に説明する。

- ア、出席状況
- イ、担当範囲についての研究発表（年間数回）
- ウ、授業中の発言（質問・批判等）
- エ、レポート

【テキスト】

紫式部日記 紫式部集（新潮日本古典集成 山本利達校注 新潮社 2,200円 税込）

国文学演習 I (3) a・b

岩下紀之

【授業の概要】

和歌のうち、当時の社会や、歌をよむにあたっての慣例を知らないといふと解釈が困難な、恋の歌を教材とする。

<前期>

昨年まで後拾遺和歌集の恋の部を講読したが、引き続き金葉・詞花集を取りあげる。新しい歌風を示すこの集はいろいろな意味で興味深い。しかし、古今、新古今には注釈が多いが、その中間に成立した諸集の研究は、まだこれからと感ぜられることが多い。

そういう条件から、本集にとりくむのはやりがいのあることと思われる。

<後期>

前期の教材を継続する予定である。

【授業計画】

はじめ二回ほど概説と作業を教員が行ない、以後学生に発表させる。

【評価方法】

レポートを課する。

【テキスト】

新日本古典文学大系 金葉・詞花和歌集（岩波書店 3,600円）

国文学演習 I (4) a・b

阿部一彦

【授業の概要】

近松門左衛門の〈世話浄瑠璃〉の典型的な作品である『冥途の飛脚』を影印本を使って解説・鑑賞していく。

金銭と恋愛そして封建制度、そこにおける町人の生きざま（義理と人情）がどのように描かれているかを検証してみたい。『曾根崎心中』・『心中天の網島』をも視野に入れ、現代的視点からも問題にしていこうと思っている。

<前期>

最初に近松の生涯についての論文を受講者全員で輪読していく。次に『曾根崎心中』を読み、内容を把握する。作品の要点を指摘するとともに、「世話浄瑠璃」の第一作としてのこの作品の日本の戯曲・文学史上における意義を明確にしておく。文楽の上演をビデオで鑑賞する。『冥途の飛脚』（影印本）を、受講者が、分担して解説、調査、研究、発表をおこなう。およそ「上の巻」を終えることができるであろう

<後期>

引き続き「中・下の巻」に進んでいく。最後に、受講者を三グループに分け、〈人物論〉・〈悲劇論〉・〈義理と人情〉の観点から問題を提起し、全員で討論し、検討していく。外国人向けのビデオを見て総括とする。なお、機会をみて大阪の国立文楽劇場に足を運びたいと思っている。

【授業計画】

受講者の分担による解説・調査・研究を発表する。

【評価方法】

自らの分担の発表が評価の対象となる。そのうえ、前・後期ともにレポートを課す。

【テキスト】

曾根崎心中・冥途の飛脚（岩波文庫）

国文学演習 I (5) a・b

小倉 斉

【授業の概要】

<近代小説の方法—作品をどう読み、どう論ずるか—>

近代の代表的な小説の精読を通して、「小説を読む」という行為を意識化し、多様な読みを生み出す分析方法や文学研究の方法を実践的に身につける。2～3名のグループで、一つの作品あるいは作品のある部分を担当し、それぞれ読み、話し合い、調べ、分析してきたことを、レジュメにより報告する。自分の〈読み〉と〈考え〉を大切にしつつ、それを対象化するために、すぐれた論を読み、質疑応答にも積極的に参加することが望まれる。

【授業計画】

<前期>

- 1 〈読む〉という行為および〈読み〉の実例（2回）
- 2 『明暗』（夏目漱石）（6回）
- 3 『雁』（森鷗外）（3回）
- 4 『痴人の愛』（谷崎潤一郎）（3回）

<後期>

- 1 『濶東綺譚』（永井荷風）（3回）
- 2 『風立ちぬ』（堀辰雄）（3回）
- 3 『笹まくら』（丸谷才一）（3回）
- 4 『私小説from left to right』（水村美苗）（3回）
- 5 『吾輩は猫である』殺人事件（奥泉光）（3回）

【評価方法】

学期末のレポートを中心に、授業への参加状況、レジュメの内容、発表・質疑応答の様子などから総合的に評価する。

【テキスト】

<前期>

- 明暗（夏目漱石 新潮文庫）
雁（森鷗外 新潮文庫）
痴人の愛（谷崎潤一郎 新潮文庫）

<後期>

- 濶東綺譚（永井荷風 新潮文庫）
風立ちぬ・美しい村（堀辰雄 新潮文庫）
笹まくら（丸谷才一 新潮文庫）
私小説from left to right（水村美苗 新潮文庫）
『吾輩は猫である』殺人事件（奥泉光 新潮文庫）

国文学演習 I (6) a・b

都築久義

【授業の概要】

近代の著名な作家を学生の希望に応じてとりあげ、グループ研究する。

<前期>

3人(学生の希望でとりあげる作家を決める)

<後期>

3人(学生の希望でとりあげる作家を決める)

【授業計画】

グループ(4~5人)を編成して、グループ単位で発表。発表を中心に全員で討議する。

【評価方法】

平素の学習態度。

【テキスト】

なし。

国文学演習 I (7) a・b

細谷博

【授業の概要】

近代文学・現代文学の読解と研究を行う(各自のテーマは自由)。

太宰治等の作品を対象として〈読みとり〉の現場を問題とし、自分が実際にどのような読み方をしているのかをまずしっかりと把握しつつ、さらなる〈読み〉の可能性をつかむことを目的とする。

具体的な作品本文を丁寧に読みとることと、それを的確に表現すること、さらに、作品全体を端的にとらえて評価し批評することを同時に試みる場としたい。

前期は、主に太宰治を中心とした作品読解。後期は前期の進み具合を見て決める。

【授業計画】

<前期>

第1回 研究方法指導、発表日程・担当の決定

第2~12回 作品研究発表・質疑応答

第13回 まとめ、レポート提出

<後期>

第1回 研究方法指導、発表日程・担当の決定

第2~12回 作品研究発表・質疑応答

第13回 まとめ、レポート提出

【評価方法】

出席状況と担当発表、レジュメ、質疑応答、レポート等から総合的に評価する。

【テキスト】

女生徒(太宰治著 角川文庫)

走れメロス(太宰治著 新潮文庫)

津軽(太宰治著 新潮文庫)

お伽草紙(太宰治著 新潮文庫)

人間失格 グッド・バイ他一篇(太宰治著 岩波文庫)

太宰治(細谷博著 岩波新書)

【参考文献・資料】

凡常の発見 漱石・谷崎・太宰(細谷博著 明治書院)

その他、授業時に指示

国文学演習 I (8) a・b

佐藤洋一

【授業の概要】

日本現代文学の表現論的研究

－描写と文体・構造と批評性（普遍性）－

1. 主に戦後から80～90年代、そして近年の現代小説を取り上げ、作家固有の方法と時代を超える批評性の根拠を、特に描写や文体・構造の面から検討する。
2. 20世紀から現在に至る文学の方法は、いわゆる19世紀的な「近代文学」の課題や方法を受け継ぎながらも、それらとは異質な方法意識や枠組みによって描かれている（現代文学的方法）。各時代における文学の可能性と批評性の課題を、時代思潮等も踏まえながら方法的な面から検討していく。

【授業計画】

1. 現代小説における家族・個人・恋愛・性・戦争・制度等の課題やテーマが、どのような方法や構造によって描かれているのか。その時代的な意義、文学史的な意味等を学生による演習形式によって考察する。
2. はじめの数回は、演習資料作成の基礎指導を兼ね、配付プリント（短編）で現代文学的方法の分析や学び方、課題発見から追求の方法について講義を行う。
3. 扱う主な作家は、大岡昇平・安岡章太郎・日野啓三・村上春樹・重松清・山田詠美・山本文緒・江國香織等を予定している。

【評価方法】

1. 出欠席と現代文学研究への課題意識。毎回、出欠を確認し講義内容への課題意識や、演習・報告と討議等についての意見内容等を平常点として加える。
2. 演習資料の作成・報告説明・質疑応答等。作品分析と考察、先行研究の資料操作、レジユメの作成、プレゼンテーション技術等を評価に加える。
3. 小レポートによる理解と課題発見、追究内容等。

【テキスト】

配付プリントの他、重松清『ナイフ』（新潮文庫）、村上春樹『レキシントンの幽霊』（文春文庫）、大岡昇平『靴の話・大岡昇平戦争小説集』（集英社文庫）。

その他、必要に応じて講義で指示する。

国文学演習 I (9) a・b

酒井晶代

【授業の概要】

＜日本児童文学の近代＞

皆さんが子どもの頃に親しんだ「児童文学」は、どのような起源を持つのだろうか。本演習では、テキストの読解を中心として、明治期から昭和戦前期までの児童文学とその変容を考察する。児童文学は近代以降、一方では教育と、他方では文学と密接な関わりを持ちながら推移してきた。教育史や文学史を中心に、広く社会史・文化史の視座からテキストを精読する試みを通して、児童文学の特質を探り、さらにはジャンルの捉え直しができたら、と考えている。

【授業計画】

最初の数回は通史を読む。その後、通史の読みかえ/読み直しも念頭に置きながら、時代順に作品を読み進めていく。いずれも、グループによる調査・分析の報告と、参加者間の質疑応答が授業の中心になる。

＜前期＞

第1～4回 日本児童文学史概観

第5～12回 『日本児童文学名作集（上）』収録作を中心に、明治期～大正前期までの作品精読

＜後期＞

第1～11回 『日本児童文学名作集（下）』収録作を中心に、大正後期～昭和戦前期までの作品精読

第12回 全体のまとめ

【評価方法】

出席状況、発表内容や質疑応答の様子、各学期末のレポート等により総合的に行う。

【テキスト】

日本児童文学名作集＜上・下＞

（桑原三郎・千葉俊二編 岩波文庫）

はじめて学ぶ日本児童文学史

（鳥越信編 ミネルヴァ書房）

国語学演習 I a・b

増井典夫

【授業の概要】

方言と共通語。日本語の変遷。

日本語の歴史を考えながら、自分たちの母語（生まれ持っている言葉）である方言の持つ意味を考え、新しい日本語表現の問題やその研究の可能性を考えていく。なお、後期のレポートの一部として、「言葉に関するアンケート調査の実施とその報告」を課す。

【授業計画】

テキストの担当範囲を割り当て、前期に1回、後期に1回の発表をしてもらう。

その他、ビデオを見ての感想提出や、プリント配布による講読も行う。

【評価方法】

レポート等によって評価する。

なお、毎時点呼によって出欠席を調査する。

【テキスト】

日本語ウォッチング（井上史雄 岩波新書）

展望現代の方言（真田信治編 白帝社）

中国文学演習 I a・b

寺尾剛

【授業の概要】

<李白の詩>

盛唐の大詩人李白の作品を、主として清の王琦の注釈（『李太白全集』）に基づいて詳細に分析してゆく。中国古典文学に関する高度な知識（とりわけ文法・文化的背景・歴史・地理・資料調査能力）を養ってゆくつもりなので、その覚悟で授業に臨んで欲しい。

前・後期それぞれ6～8首程度読む。特に絶句体のジャンルの作品。

【授業計画】

2～3人ずつの班に分かれ、毎回班ごとに事前に調査し、まとめた資料を提出し、それに基づき発表する。

【評価方法】

前後期各1回のレポート提出を求めるが、演習時の発表や発言も考慮して成績評価を行う。

【テキスト】

- ・プリント。
- ・漢文研究の手びき四訂増補版（中国詩文研究会 750円）
- ・中国文学語学文献案内第四次修訂本（中国文学語学文献案内編集委員会 750円）
- ・李白詩選（岩波文庫 720円）

国文学演習Ⅱ（１） a・b

島田修三

【授業の概要】

〈天平季節歌の考察〉

『萬葉集』巻8には大伴家持をはじめとする奈良天平期の歌人による四季の歌250首余りが「雑歌」「相聞」の部立に収録されている。本授業では、この歌群の子細な読解を通して、四季の自然と各歌人の歌風との関係、大伴家文化圏と歌の場の問題、自然観の個性化といった諸問題を考えてみたい。

【授業計画】

〈前期〉a

第1回～2回 巻8の概観
第3回～8回 春の歌 演習発表
第9回～11回 夏の歌 演習発表

〈後期〉b

第1回～2回 夏の歌 演習発表
第3回～9回 秋の歌 演習発表
第10回～11回 冬の歌 演習発表
第12回 総括

※原則として一人数首の作品を担当し、指示に従った調査結果のレジメの用意をしなければならない。発表に基づいて、受講者や島田の質疑が行われる。

【評価方法】

出席状況、授業期間中の発表、学期末レポートによって総合的に評価する。

【テキスト】

〈前期・後期〉

萬葉集（訳文篇）（佐竹昭広ほか著 塙書房）

国文学演習Ⅱ（２） a・b

久保朝孝

【授業の概要】

中古文学作品の読解と研究との応用的方法を、実践的に身につける。

『紫式部日記』は寛弘五年（1008）秋から同七年正月までを範囲として、紫式部が仕える彰子中宮の二度にわたる出産前後の行事や宮廷での見聞等を、女房の立場から克明に記述する。そこに見られる現実凝視の行きつく先はどこか。

作品を読み解きながら、作者自身の内省的記述と客観的描写とが交錯する形で展開する作品構造の意味、あるいは消息（手紙）混入の問題など、この日記が抱えるさまざまな問題について考察したい。

なお、夏季休業中に2泊3日の京都・奈良ゼミ旅行（35,000円）を、また、必要に応じてゼミ合宿を行う。

【授業計画】

- 一、複数のグループを編成する。
- 二、以下の諸点についての分担調査報告（準備学習）。
 - A、成立・形態・諸本
 - I、研究文献（注釈書）
 - U、研究文献（上記以外）
 - E、研究状況
 - O、登場人物と時代状況
- 三、担当範囲を決定する。
毎回2頁前後。
- 四、研究報告→質疑→回答→討論→助言（毎回）
- 五、学修の成果をレポートにまとめる。

【評価方法】

次の諸点を総合して評価する。配分については授業時に説明する。

- A、出席状況
- I、担当範囲についての研究発表（年間数回）
- U、授業中の発言（質問・批判等）
- E、レポート

【テキスト】

紫式部日記 紫式部集（新潮日本古典集成 山本利達校注 新潮社 2,200円税込）

国文学演習Ⅱ（3） a・b

岩下紀之

【授業の概要】

『とはずがたり』を読み、中世後宮の女流文学を考える。本年は巻五から読む。

<前期>

宮内庁書陵部本の影印本を使用する。この作品の唯一の伝本で江戸期の書写であり、発見されたのが昭和になってからということで、解釈上問題が多い。諸注にも大きなひらきがあり、学生諸君にも新見を提出する可能性がひらけている。

<後期>

前期から継続する。

【授業計画】

はじめに概説と具体的な指示を行なう。

【評価方法】

レポートを課する。

【テキスト】

とはずがたり 五（笠間書院）

国文学演習Ⅱ（4） a・b

山下宏明

【授業の概要】

『平治物語』を読む。これまでの『平治』論は、戦後の文学批評史の中で、作家論の一環として行われてきたのであるが、最近の動きとして、読者論・受容論的視点の導入が要請されている。こうした状況を受けて、『平治物語』を芸能の語り物として読む。そのために諸本の中の、いわゆる語り系のテキストをとりあげ、現在の語りのあり方に注目する。語り物として読むためである。声の文化と文字の文化の交流を考える。さらに、その語りが行われた中世に配慮し文化史として、その背後にあった源氏将軍の意向をも考慮する。いずれにしても歴史の叙述とは何かを、文学の側から考える。

【授業計画】

参加者をグループに分けて作業班を構成し、報告が一巡したところで、グループを解体し、改めて作業班を構成しなおして、グループに偏りが生じないように配慮する。多様な思考性を有する学生相互の交流をはかりたい。発表の方法、自己の表現方法にも反省の機会を与えることになろう。

【評価方法】

平常の出席状況、報告の内容と方法を毎回評価しつつ、各期の最後にレポートの提出を求めて総合的に判定する。

【テキスト】

岩波新大系、新日本古典文学全集のテキストを使用する。

国文学演習Ⅱ（５） a・b

阿部一彦

【授業の概要】

井原西鶴の町人物の傑作、『日本永代蔵』を影印本で精読し、考察する。「立身出世談や破滅談を通して金銀万能の町人社会の諸相を鋭く抉りだした」（『近世文学研究事典』）といわれる『日本永代蔵』のなかから十編ほどの短編小説を選び、さまざまな方面から考察を加えていく。

<前期>

各短編を受講者が分担して、本文の解説、語釈、口語訳、問題点の指摘と研究、構成と概要、小説としての達成等々の作品研究をおこない、発表する。

<後期>

前期に引き続いて作品の研究をする。

それとともに、この作品は<成立論>がとくに問題にされてきているので、その代表的な論文を取り上げて検討していきたい。そのことによって、近世文学「研究」の初歩的な方法の修得の一助としたい。

また卒論執筆に必要な文献・論文の扱い方についても学んでいくことになるであろう。

【授業計画】

上記のごとき演習形式で進めていく。

【評価方法】

レポートによる。

【テキスト】

未定。

国文学演習Ⅱ（６） a・b

小倉 斉

【授業の概要】

<小説の方法—作品をどう読み、どう論ずるか—>

近・現代の代表的な小説の精読を通して、「小説を読む」という行為を意識化し、多様な読みを生み出す分析方法や文学研究の方法を実践的に身につける。グループで、一つの作品を担当し、それぞれ読み、調べ、分析してきたことを報告する。

【授業計画】

<前期>

- 1 『山椒大夫・高瀬舟』（森鷗外）精読（2回）
- 2 『江戸川乱歩傑作選』（江戸川乱歩）精読（2回）
- 3 『蜘蛛の糸・杜子春』（芥川龍之介）精読（2回）
- 4 『吉野葛』（谷崎潤一郎）精読（2回）
- 5 『金閣寺』（三島由紀夫）精読（2回）
- 6 『和解』（志賀直哉）精読（2回）

<後期>

- 1 『さぶ』（山本周五郎）精読（2回）
- 2 『トラッシュ』（山田詠美）精読（2回）
- 3 『アムリタ』（吉本ばなな）精読（2回）
- 4 『十九歳の地図』（中上健次）精読（2回）
- 5 『銀河鉄道の夜』（宮沢賢治）精読（2回）
- 6 『羊をめぐる冒険』（村上春樹）精読（2回）

【評価方法】

学期末のレポートを中心に、レジュメの内容、発表・質疑応答の様子などから総合的に評価する。

【テキスト】

<前期>：山椒大夫・高瀬舟・阿部一族（森鷗外 角川文庫）、江戸川乱歩傑作選（江戸川乱歩 新潮文庫）、蜘蛛の糸・杜子春（芥川龍之介 新潮文庫）、吉野葛・盲目物語（谷崎潤一郎 新潮文庫）、金閣寺（三島由紀夫 新潮文庫）、和解（志賀直哉 新潮文庫）

<後期>：さぶ（山本周五郎 新潮文庫）、トラッシュ（山田詠美 文春文庫）、アムリタ 上・下（吉本ばなな 角川文庫）、十九歳の地図（中上健次 河出文庫）、銀河鉄道の夜（宮沢賢治 岩波文庫）、羊をめぐる冒険 上・下（村上春樹 講談社文庫）

国文学演習Ⅱ（7） a・b

都築久義

【授業の概要】

卒業論文テーマの作家を中心に演習する。
卒業論文の進行状況を考慮して進行する。

【授業計画】

個人発表。発表内容を中心討論する。

【評価方法】

平素の学習態度。

国文学演習Ⅱ（8） a・b

細谷博

【授業の概要】

近代文学・現代文学の読解と研究を行う（各自のテーマは自由）。

何より作品を丁寧に読みたいと思う者、読むこと、そして書くことを通して、何事かをたしかに考えてみようと思う者を対象とする。自己の〈読み〉の力——言葉による人間形象の把握力——と、他者へむけての表現と討論の力をつちかうことを目的とする。

近代現代のすぐれた作品を対象として〈読みとり〉の現場を問題とし、自分が実際にどのような読み方をしているのかをまずしっかりと把握しつつ、さらなる〈読み〉の可能性をつかむ訓練を行う。

前期は夏目漱石を中心とした読解研究。後期は各自のテーマにそって進める。

【授業計画】

〈前期〉

第1回 研究方法指導、発表日程・担当の決定

第2～12回 漱石作品等研究発表・質疑応答

第13回 まとめ、レポート提出

〈後期〉

第1回 研究方法指導、発表日程・担当の決定

第2～12回 各自のテーマ別研究発表・質疑応答

第13回 まとめ、レポート提出

【評価方法】

出席状況と担当発表、レジュメ、質疑応答、レポート等から総合的に評価する。

【テキスト】

三四郎（夏目漱石著 新潮文庫）

それから（夏目漱石著 新潮文庫）

門（夏目漱石著 新潮文庫）

その他、授業時に指示

【参考文献・資料】

授業中に指示

国語学演習Ⅱ a・b

増井典夫

【授業の概要】

方言と共通語。日本語の変遷。
現代日本語の問題点や方言の問題点等を考えながら新しい日本語研究の可能性を考えていき、卒業論文につながるものを求めていく。

【授業計画】

テキストの担当範囲を割り当て、前期に1回、後期に1回の発表をしてもらう。

その他、ビデオを見ての感想提出や、プリント配布による講読も行う。

【評価方法】

レポート等によって評価する。
なお、毎時点呼によって出欠席を調査する。

【テキスト】

敬語はこわくない (井上史雄 講談社現代新書)
応用社会言語学を学ぶ人のために
(ロング・中井他編 世界思想社)

中国文学演習Ⅱ a・b

寺尾剛

【授業の概要】

<中国古典文学研究法>
中国の古典文学に関する研究法・調査法の養成に重点を置く。テキストは受講生との相談によって決定するつもりであるが、希望がなければ、唐代伝奇小説・『白氏文集』・『宋代詞集』を扱うことにしたい。

<前期>

・共通のテキストを用い、輪読し討論する。

<後期>

・卒論の途中経過や自分の関心を持っていることなどをテーマに発表。

【授業計画】

前期は輪読形式、後期は発表形式で進める予定。

【評価方法】

レポート及び発表の内容で決める。

【テキスト】

- ・プリント
- ・漢文研究の手びき四訂増補版 (中国詩文研究会 750円)
- ・中国文学語学文献案内第四次修訂本 (中国文学語学文献案内編集委員会 750円)

国文学特殊講義 古典基礎 a

久保朝孝

【授業の概要】

古典文学の読解と研究に必要な基礎的事項について、上代・中古を範囲とし、具体例に即しながら分かりやすくていねいに解説する。

古典学修に不安を覚える者は、できるだけ履修することが望ましい。

【授業計画】

1. 導入
2. 古典と文法
3. 古典と国語学
4. 古典と書誌学
5. 古典と文献学
6. 古典と文献資料(1)歴史関係
7. 古典と文献資料(2)辞書事典
8. 古典と文献資料(3)研究書等
9. 図書館の利用法
10. 平安貴族の生活環境
11. 平安貴族の暮らし
12. 古典と宗教・民俗
13. 古典文学の研究テーマ

【評価方法】

出席状況と期末筆記試験及び学外の自主的学習を総合して評価する。配分については授業時に説明する。

【テキスト】

別冊國文學No.42『古典文学基礎知識必携』（学燈社 1,370円 税込）。

その他毎回印刷物を配布する。

【参考文献・資料】

授業時に指示する。

国文学特殊講義 古典基礎 b

阿部一彦

【授業の概要】

古典文学の読解と研究に必要な基礎的事項について、中世・近世を範囲とし、具体例に即しながら分かりやすくていねいに説明する。

古典学修に不安を覚える者は、できるだけ履修することが望ましい。

【授業計画】

1. 日本の伝統文化と現代
2. 〈花・花見〉の文学史
3. 〈文字〉の文学史
4. 古典文学とテキスト—芭蕉自筆本『奥の細道』
5. 古典文学を読む『徒然草』137段
6. 古典文学と時間
7. 古典文学と空間
8. 古典文学と自然
9. 古典文学と芸能
10. 古典文学と絵画
11. 古典文学と出版
12. 文献調査・検索入門

【評価方法】

出席及び筆記試験による。

【テキスト】

プリントを配布する。

【参考文献・資料】

追って発表する。

国文学特殊講義 漢文基礎

寺尾 剛

【授業の概要】

漢文が嫌い、漢文が読めない、漢文の魅力を知りたいといった学生のために特に設けた、漢文の基礎中の基礎を教授する講座。おそらく多くの学生諸君は、高校時代から、漢文句法はただただ暗記するものとして教え込まれてきていてウンザリしていることと思う。この授業はそういった諸君に対して、「なぜ」「どうして」という疑問を徹底的に解きほぐしていくことに主眼を置く。「なぜ漢和辞典は必要なの?」「どうして再読文字なんていう面倒なものがあるの?」などといった根本的な疑問にも答えていくつもりである。そして、この講座が終る段階までには、諸君にも簡単な漢作文が作れるところまでレベルアップさせるというのが本講座の最終目標である。国文学には漢文がつきものである。漢文拒避症からいち早く脱却して、楽しく漢文が読めるようになることを切に願うものである。

【授業計画】

漢文法を中心に行なう。折に触れて文化的背景の説明も行なう。

【評価方法】

平常点及び試験。

【テキスト】

「社会人のための漢詩漢文小百科」(大修館書店 1,000円)

国文学特殊講義 古典文法基礎

伊藤紫野富

【授業の概要】

古文解釈に必要な文法を基礎から学ぶ。用言の活用、助詞、助動詞、敬語法などを、講義を中心に、問題演習を交えながら行う。

【授業計画】

- 第1回 授業内容の説明・文法概略
- 第2回 用言(動詞、形容詞、形容動詞)
- 第3回 助詞(係助詞、接続助詞)
- 第4回 助詞(格助詞、副助詞、終助詞)
- 第5回 問題演習
- 第6回 助動詞(る、らる、す、さす、しむ)
- 第7回 助動詞(き、けり、つ、ぬ、たり、り)
- 第8回 助動詞(ず、じ、む、むず、らむ、けむ)
- 第9回 助動詞(べし、まじ、なり、めり、まし)
- 第10回 問題演習
- 第11回 敬語法
- 第12回 総合問題演習
- 第13回 単位認定試験

【評価方法】

出席状況と単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【テキスト】

古典文法質問箱(大野晋著 角川ソフィア文庫)
新古典文法(監修 小町谷照彦 東京書籍)

国文学特殊講義 王朝物語 a・b

高橋 亨

【授業の概要】

平安朝物語を読む上で必要な諸問題について、『宇津保物語』俊蔭の巻の講読をとおして論じていく。本文批判や注釈、解釈と文法、社会文化史的な文脈などについて講義する。

本年度は『うつほ物語(一)』をテキストとして、物語研究の方法と具体的な個別問題について考えていく。

前期のはじめには、『宇津保物語』の全体について、必要な基礎知識を概説する。その後で、テキストを詳しく読み、解釈に基づいた読みの諸問題を論じていく。物語と神話や漢文伝承との関係、和歌的な表現法と和文との関係などが中心となる。

後期は、物語の表現と構造に加えて、音楽論や漢詩文をふまえた文学史など、より広いテーマへと展開していく。

【授業計画】

テキストにそって読み進めるが、それぞれの部分で個別の問題を分散的に論じていく。受講者はそれを各自で整理してまとめながら理解する必要がある。

【評価方法】

各期末の試験またはレポートにより、出席回数を考慮して採点する。

【テキスト】

うつほ物語(一)(野口元大・明治書院 2,400円)

国文学特殊講義 源氏物語 a・b

高橋 亨

【授業の概要】

文学作品を読む上で必要な諸問題について、『源氏物語』帚木の巻の講読をとおして論じていく。本文批判や注釈、解釈と文法、社会文化史的な文脈などについて講義する。本年度は『帚木』(大島本)をテキストとして、文学研究の方法と具体的な諸問題について考えていく。前期のはじめには、『源氏物語』の全体について、必要な基礎知識を概説する。その後で、テキストを詳しく読み、解釈に基づいた研究上の問題点を論じていく。和歌と物語との関係、語りの表現法などが中心となる。後期は、語りの表現構造に加えて、芸能論や女性論などより広いテーマに展開していく。

【授業計画】

テキストにそって読み進めるが、それぞれの部分で個別の問題を分散的に論じていく。受講者はそれを各自で整理してまとめて理解する必要がある。

【評価方法】

各期末の試験またはレポートにより、出席回数を考慮して採点する。

【テキスト】

帚木(大島本)(高橋亨編 おうふう 971円)

国文学特殊講義 仏教文化論 a・b

渡辺信和

【授業の概要】

日本における文化の発展に多大な影響を与えた仏教は、その渡来から日本独自の仏教思想の形成まで、さまざまな様式と美術を残してきた。本講は日本文学の下地を担うものとしての様々な仏教文化を多方面から確認し、日本文学の基礎的な知識を身につけることを目指とする。

講義には具体的に建築、彫刻、絵画、装飾・模様などを取り上げその背景となる仏教思想を踏まえつつ見ていく。

【授業計画】

最初に仏教文化について定義を行い、前期は仏教の伝播をその造形を中心に、日本に伝来した仏教が、日本化していく過程を見る。

後期は、具体的に建築、荘厳、彫刻、絵画などをあげてその流れを見る。さらに、花祭り（灌仏会）や盆（盂蘭盆会）、などの仏教行事、絵解き、説経などの布教、葬送儀礼などにもふれてみる。

【評価方法】

前期、後期ともレポート。

【テキスト】

講義時に配布。

【参考文献・資料】

岩波文庫『仏教』上・下、岩本裕『仏教説話の源流と展開』（1978）、その他至文堂の日本の美術シリーズの各冊など。

国文学特殊講義 仏教文学 a・b

渡辺信和

【授業の概要】

日本仏教文学とは、日本における仏教思想の影響下に成立した文学作品の謂である。すでに『万葉集』に沙弥満誓の詠歌を見ることができるとして、仏教の伝来からそう遅くない時期に文学への取り入れが始まり、爾来長く仏教文学としての文学作品が作られてきた。特に盛んであったのは、院政期から中世前半期で、多く仏教説話集として編纂された。物語や和歌、歌謡、謡曲などに見られる仏教思想も、それらを仏教文学としてとらえることを可能としている。

今年度は、室町期に成立した御伽草子『熊野の本地』を影印で読む。『熊野の本地』は、天竺（インド）から日本に影向したとする物語である。

本講を通じて、室町時代の作品の読みを考え、その仏教意識を探る。

【授業計画】

講義は影印本で行う。講義時に指名して本文の音読、解釈をしてもらい、その文意、背景に存する説話などについて考察する。講義時に「古語辞典」で語義、文法事項を確認し、有職故実について「国語便覧」を参照することがあるので両書を必携とする。またくずし字が不得手な人はくずし字辞典などを用意すること。

第1講は仏教文学概論と「御伽草子」について

第2講以下前期は上巻を、後期は下巻を読む。

読み終えたら、異本について考察を行う。

【評価方法】

前期は筆記試験を行う。講義時の音読・解釈などの発表を斟酌する。

後期はレポート提出による。

【テキスト】

室町物語影印叢刊6『熊野の本地』（三弥井書店）

【参考文献・資料】

『室町時代物語大成』4、市古貞次『中世小説の研究』（1955）

国文学特殊講義 和歌・連歌 a・b

岩下紀之

【授業の概要】

日本古典文学の核心ともいえるべき、和歌と連歌を、最も代表的な歌論・連歌論の講読を通じて、概観する。

<前期>

藤原定家自筆本近代秀歌の影印本を教材とする。写本の解読の手ほどきをし、あわせて、定家の記述を追って背景の説明を適宜、プリントを配布しつつ説明する。定家歌論を読みとくことはもちろん最終的な目標である。

<後期>

心敬の御所本ささめごと（上）の影印本を教材とする。連歌は現代では縁のうすい文芸となっているので、その概説をおこない、連歌史についても説明する。

【評価方法】

学期末の試験をもって評価する。

【テキスト】

近代秀歌（武威野書院）

御所本ささめごと 上（笠間書院）

写本解説がはじめての受講者は仮名変体集（新典社）を購入しておくこと。

国文学特殊講義 近代詩 a・b

佐藤洋一

【授業の概要】

近現代詩・谷川俊太郎詩のレトリック・表現論

- 1、谷川俊太郎を中心に、詩と詩人の固有な特質と方法を言語・構造・レトリック（言語技術）の観点や、戦後詩以降の現代詩の変遷、1950年代～80年代の歴史的社会的状況との関連等からも考察を行なう。
- 2、文化研究・批評（カルチャラル・スタディーズ）の枠組みの中で、「近代」という制度・戦争と国家・メディアと詩人の表現等の視点から近現代詩の意義と位置づけについて考察する。

【授業計画】

- 1、谷川俊太郎を中心に、戦後詩から現代詩の変遷・詩的言語の構造やレトリックを考察するとともに、近現代詩研究の基本的な方法の体得と主体的な課題意識を育成することが主要なねらいの一つである。
- 2、前後期とも、前半は配付プリントやテキストによる講義を行い、後半は簡単な演習形式で進める。演習はグループによる資料作成と発表・討議を中心に行なう。
- 3、前期は「基礎編」として、詩を読む魅力と方法や多様な個性をもつ近現代詩の諸相について述べ、谷川俊太郎の詩的言語について、子ども・生の意識・世界（コスモロジー）・言葉遊びと日本語の探究等の視点から考察する。後期は「展開編」として、谷川俊太郎詩を鮎川信夫等の戦後詩人や大岡信・茨木のり子等の同世代詩人、それ以降の現代詩人達との対比の中で考察したり、1950年～80年代の文化的歴史的な状況の中でより深く考察することが中心になる。

【評価方法】

- 1、出欠席。毎回出欠を確認し講義や発表に対する意欲・講義内容への課題意識や意見等を平常点に加える。
- 2、演習形式の資料作成・報告・発表の内容。詩の分析と考察・先行文献の理解と資料操作・発表と討議の内容、小レポート等を評価に加える。

【テキスト】

配布プリント、その他による。

テキストは講義で指示。

国文学特殊講義 現代短歌 a・b

加藤孝男

【授業の概要】

依万智さんの『サラダ記念日』が社会現象となったのは、80年代の半ばのことです。それ以降、短歌のつくり手は若い層に広がり、いま歌壇ではきらきらした才能が溢れています。

短歌の世界は面白い、ということをおこの講義で実感してみてください。

【授業計画】

a、前期

- 第1講 短歌の魅力 I
- 2～3 口語短歌と依万智
- 4～6 依万智以降の新人
- 7～9 現代短歌を生み出した人たち
- 10～12 現代短歌の技法
- 13～14 まとめ

b、後期

- 第1講 短歌の魅力 II
- 2～3 与謝野晶子の新しさ
- 4～6 与謝野晶子の周辺
- 7～9 近代・現代の秀歌鑑賞
- 10～12 短歌の宇宙
- 13～14 まとめ

【評価方法】

前期も後期も試験によって評価します。
また、出席・平常点も重視。

【テキスト】

第一回目の講義で指示します。

国文学特殊講義 批評理論 a・b

佐藤洋一

【授業の概要】

現代・文学批評理論

－〈批評〉〈方法〉をめぐる近現代文学入門－

文学批評理論の紹介と考察・作品による具体的検討等を通して、私たちを取り巻く複雑で多面的な「現代」「世界」を文学はどのように描いてきたのか、それを今、どのように読み解いていくかについて検討する。また、現代人の生き方や精神の直面する諸問題や文学作品をめぐるさまざまな課題等も扱っていく。

【授業計画】

- 1、講義では、特に「現代文学作品」を例としながら取り上げるが、現代文学を取り巻く世界（読者・マスメディア・現代社会・人間関係等）も、研究方法（読者論・フェミニズム批評等）も多様化してきている。
- 2、毎回トピック形式でテーマを設定し具体的な作品に即して考察検討していく予定。例、「近代文学と現代文学」「私小説の方法」「描写・語りの技術」「ファンタジーと幻想」「フィクションと事実」「フェミニズムと現代文学」「無意識の発見と主体の分裂」等。
- 3、前後期とも、前半はテキスト・プリントによる講義を行い、後半は学生によるグループ毎の簡単な演習形式の報告・資料作成等を通して発表と討論を行なう予定。特に、前期は「基礎編」としてテキスト講読や資料によって批評理論の歴史と変遷・代表的な理論の背景と特徴・作品と批評理論の関係等について、後期は「展開編」として前期の内容を更に深め、具体的な作品批評を中心に検討する。

【評価方法】

- 1、出欠席。毎回出欠を確認し講義や発表への意欲・講義内容への課題意識や考察等を平常点に加える。
- 2、演習形式の資料作成・報告や発表内容や、数回の小レポートの内容等。

【テキスト】

講義中に指示します。

その他、配布プリントによる。

国文学特殊講義 現代小説 a・b

小倉 斉

【授業の概要】

＜現代小説の方法と課題—作品をどう読むか—＞

「小説を読む」とはどのような行為なのかという課題について、現代日本を代表する小説の精読および方法意識の検討を通して考察し、言語表現としての文学を研究する方法を身につける。「小説を読む」という行為を意識化し、多様な読みを生み出す分析方法を習得することが目標である。主として、高度経済成長後の日本の現代小説を取り上げ、現代の日本社会が抱える困難な問題を小説がどのように作品化しているかについて追究する。

【授業計画】

＜前期＞

- 1 問題の所在：現代小説の方法と課題（2回）
- 2 後藤明生『挟み撃ち』精読（3回）
- 3 宮本輝『蜚川・泥の河』精読（3回）
- 4 日野啓三『砂丘が動くように』精読（3回）
- 5 村上龍『希望の国のエクソダス』精読（3回）

＜後期＞

- 1 問題の所在：森田芳光『家族ゲーム』から（2回）
- 2 大岡昇平『武蔵野夫人』精読（3回）
- 3 小島信夫『抱擁家族』精読（3回）
- 4 古井由吉『杏子・妻隠』精読（3回）
- 5 立松和平『遠雷』精読（3回）

【評価方法】

授業への出席・参加状況、学期末の試験（自筆ノート持ち込み可・論述問題中心）によって評価する。

【テキスト】

＜前期＞

挟み撃ち（後藤明生 講談社文芸文庫）、蜚川・泥の河（宮本輝 新潮文庫）、砂丘が動くように（日野啓三 講談社文芸文庫）、希望の国のエクソダス（村上龍 文春文庫）

＜後期＞

武蔵野夫人（大岡昇平 新潮文庫）、抱擁家族（小島信夫 講談社文芸文庫）、杏子・妻隠（古井由吉 新潮文庫）、遠雷（立松和平 河出文庫）

国文学特殊講義 郷土文学 a・b

都築久義

【授業の概要】

郷土の作家と郷土を描いた作品を研究する。

＜前期＞

郷土出身の作家を10人ほどとりあげる。

＜後期＞

郷土を描いた作品（近代、古典）を10作品くらいとりあげる。

【授業計画】

作品、作家を1回ごとに変える。

【評価方法】

テストを実施。

【テキスト】

プリントを配付。

国文学特殊講義 児童文学 a・b

堀尾幸平

【授業の概要】

1. 児童文学とは何か。その呼称、特質、形態、研究方法等、児童文学理論を研究する。
2. 児童文学が、どのように発祥、展開してきたか、わが国の文学史を把握し、その今後を展望する。
3. 児童文学をテーマにした小論文を書き、実際に童話を創作する。

【授業計画】

〈前期 a〉

1. 児童文学とは何か
2. 明治期の児童文学
3. 三輪弘忠
4. 巖谷小波
5. 大正期の児童文学
6. 小川未明、鈴木三重吉
7. 千葉省三、浜田廣介
8. 少年詩、童謡、金子みすゞ
9. 児童文学研究史
10. 試験

〈後期 b〉

1. 昭和期の児童文学
2. 佐藤紅緑、佐々木邦
3. 宮澤賢治
4. 新美南吉
5. いぬいとみこ、松谷みよ子
6. 中川李枝子、灰谷健次郎
7. 平成期の児童文学
8. 児童文学論文
9. 創作童話
10. 試験

【評価方法】

定期試験、レポート、出席状況等によって総合的に評価する。

【テキスト】

新日本児童文学論（堀尾幸平著 中日文化 2,200円）

【参考文献・資料】

授業中に適宜紹介する。

国文学特殊講義 日本演劇史

林和利

【授業の概要】

日本の演劇史を、古代の神楽から現代の前衛劇にいたるまで、その流れを追って講じる。とくに、伝統演劇である能・狂言・歌舞伎・文楽については詳しく説く。

【授業計画】

1. 授業の目的と方針を提示。
 2. 日本演劇史系統図を示して通史を概説する。
 3. 演劇の発生について
 4. 神楽について
 5. 伎楽について
 6. 舞楽について
 7. 散楽について
 8. 能について
 9. 狂言について
 10. 歌舞伎について
 11. 文楽について
- また、学外の舞台芸術を有料で鑑賞することもありうる。

【評価方法】

出席状況と単位認定試験により、総合的に評価する。

【テキスト】

日本文化論序説（林和利 青山社）

国文学特殊講義 伝統芸能の世界

林 和利

【授業の概要】

日本の伝統芸能の流れを概説したうえで、能・狂言に的をしばり、その技芸の本質について詳しく講じる。公演の案内や鑑賞の手ほどきも行う。

【授業計画】

1. 授業の目的と方針を提示。
2. 日本芸能演劇史概説
3. 能・狂言入門
4. 名人の芸
5. 狂言の世界
6. 足拍子の効果
7. 名古屋の能楽

また、学外の舞台芸術を有料で鑑賞することもありうる。

【評価方法】

出席状況と単位認定試験により総合的に評価する。

【テキスト】

日本文化論序説（林和利著 青山社）

国文学特殊講義 日本映画史

梶川 忠

【授業の概要】

学生であるきみたちは、年に何本の日本映画をみるだろうか。日本映画はみなくていいものになっていないだろうか。

実際には、日本映画は、映画が誕生してすぐに世界の第一線にたっている。世界映画史の中で日本映画は重要な一角を占めているのだ。そういう日本映画を、ビデオを活用しながら、少しずつたどってみることにする。

【授業計画】

- 第1回 日本映画の誕生（明治から大正時代）
- 第2～4回 戦前の日本映画（昭和15年頃まで）
様々な現代劇と時代劇
- 第5回 戦争と映画（昭和20年まで）
- 第6～11回 戦後の日本映画（昭和40年まで）
日本映画の全盛期から衰退期
喜劇・メロドラマなどジャンル別
- 第12回 現在の日本映画

【評価方法】

2回のレポートで採点する。

【テキスト】

日本映画（ドナルド・リチャー著 行路社）

国文学特殊講義 文学と映像表現

梶川 忠

【授業の概要】

日本映画は、日本文学（特に小説）から題材をたくさん得ている。日本文学が盛んでなければ、あるいは日本映画は、存在できなかったかもしれない。いわば日本文学が母であり、日本映画は子供だといえる。

ただしものごとはいい面ばかりではない。日本文学からいつも養分を吸収していることで、日本映画がひ弱になり、現在の衰退を招いたという人もいる。

そういう判断は、しばらく保留しておこう。ここでは個々の小説とその映画化作品とを比較しながら、小説表現の特色や映像表現の特色を探ってみよう。

【授業計画】

最初の6回くらいは、向田邦子の「あ・うん」の小説・テレビドラマ・映画を細かく検討する。映像そのものに慣れるためである。

次に映画監督の書いた本をテキストにしながら、1本の映画をみることにする。

【評価方法】

2回のレポートで採点する。

【テキスト】

あ・うん（向田邦子 文春文庫）

映画の四日間パート2（中島貞夫 萌書房）

国語学特殊講義 ことばの認知科学a・b

増田尚史

【授業の概要】

認知科学とは、人間の知的活動を、哲学、心理学、計算機科学、神経科学、言語学等の立場から、学際的に探求する学問である。

本講義では、人間の知的活動のうち、特に「ことば」の運用に伴う情報処理活動に着目し、「知覚、記憶、思考、発達（学習）」などの観点から検討を加える。さらに、ヒトの脳についての神経科学的知見を概観し、それを基礎とする言語理解モデルについて講究する。なお、受講者には、授業に出席するだけでなく、その中で実施される各種の実験に積極的に参加することが求められる。

【授業計画】

前期（a）

1. 「ことば」に関わる研究分野
2. 「ことば」をめぐる哲学的議論
3. 「ことば」と知覚システム
4. 「ことば」と記憶システム
5. 「ことば」の獲得と喪失

後期（b）

6. 「ことば」の運用に関わる脳部位
7. 「ことば」の理解に関するモデル
8. 「ことば」の運用規則
9. 「ことば」とコミュニケーション
10. 「ことば」をめぐる今日の問題

ただし、受講者数等に鑑みて、順序および内容に変更を加えることもある。

【評価方法】

出席状況と期末試験の成績とによって、総合的に評価する。

【参考文献・資料】

授業の中で、適宜紹介する。

文章表現 a・b

梅田卓夫

【授業の概要】

文章表現の目標を「自分にしか書けないことを、誰にも分かるように書く」ことに置き、ジャンル（詩・小説・評論…）のワクを超えたすべての言語表現に共通する基本事項について学習する。

作品実作の過程で、受講者が自らの言語観・文章観を検討しつつ、より自由で科学的な方法と理論を習得することをめざす。

1. ことばとの自由で柔軟な関係を回復するためのトレーニングを経て、ことばを操ることのたのしさを体験する。
2. 創造的な文章を目ざして、いくつかの作品（作文）を試みる。
3. 文章制作過程の、各段階ごとに制作技法をとりあげ、実作体験しながら学習する。
4. 自己の制作経験をふり返りながら、意識の働きと技法の両面において、普遍的法則をさぐりあてる。
5. その結果を、各自に文章表現法として体系化することを試みる。
6. さまざまなジャンルの多彩な文章に触れて、文章表現の可能性をひろげるようにする。

【授業計画】

実作（実習）と理論化のための講義と作品鑑賞、この三つをくり返しながらすすめる。

【評価方法】

授業の中で制作する作品群、および期末試験によって行う。

【テキスト】

文章表現・400字からのレッスン（梅田卓夫著 ちくま学芸文庫 997円）

高校生のための文章読本（梅田卓夫ほか編 筑摩書房 922円）

書道（書写を中心とする） a・b

堀内千恵子

【授業の概要】

王羲之を中心の中国書道史、空海を中心とした日本書道史をベースに、臨書、鑑賞などの実技を通して、書法の習得をはかる。ある程度、心眼が高まったところで、創作活動への意欲を高め、個々の感性によった作品を創作し、今日的な書の表現はどうあるべきか、芸術としての書の在り方を考えさせる。

<前期>（中国書道史と日本書道史をいれかえる場合もある）

中国書道史（古典と臨書 書法と創作）

◇太古～秦代・篆書・書の意義と特質

◇漢代～六朝時代・漢隸の魅力・六朝文化の特徴

◇隋～唐時代・二大書師について

◇宋～現代まで

・多様化した書道・かな・ペン習字

・書道展の鑑賞

<後期>

日本書道史（臨書と創作 書法と創作）

◇奈良朝以前・かな・用筆法

◇奈良時代～平安時代

・遣唐使と三筆

・和様体と三蹟・創作（気脈貫通 遅速緩急）

◇鎌倉時代～現代 少字数の作品 多字数の作品・結構法・用墨法・創作方法

・禅林風と和様体 近代詩文の作品

・空海の書法と人

・寛永、幕末の三筆

【授業計画】

理論（書道史、書論）40分程度 実技 50分程度

必要に応じて、プリント（顔真卿・良寛・空海等）や手本を配布する。

【評価方法】

・出席日数 ・毎回提出の課題の評価（10段階） ・ペン習字 ・創作活動の評価 ・理論の少テスト ・レポートなどの評価 以上の内容の総合評価

【テキスト】

書道の旅（堀内千恵 株式会社BMC）

言語学 a・b

増田尚史

【授業の概要】

「言語」という広範な現象のうち、特に形態素としての「単語」と、それに内在する統語的、意味的制約（あるいは規則）とについて、言語学的な方法論を踏まえつつ検討を加える。さらに、技術としての形態素解析や、語用論に基づくレトリックの解析についても講究する。なお、個人が晒されている言語環境の再吟味を課題とするショート・レポートを、前後期ともに、適宜課すことを予定している。

【授業計画】

前期 (a)

1. 科学としての言語学
2. 言語学の方法
3. 形態論と形態素としての単語
4. 語形成と統語的制約
5. 語形成と意味的制約

後期 (b)

6. 形態素解析
7. 語彙データ・ベース
8. 心的辞書
9. 語用論
10. 語用論とレトリック

ただし、受講者数等に鑑みて、順序および内容に変更を加えることもある。

【評価方法】

出席状況とショート・レポートの成績とによって、総合的に評価する。

【参考文献・資料】

授業の中で、適宜紹介する。

比較文学 a・b

池谷敏忠

【授業の概要】

比較文学は国際間の（国と国との間の）文学的関係の歴史を調べ研究する学問です。この授業はT.S.エリオットの詩と菊村到の小説など日英米仏文学の影響関係を具体的に考察します。さらにエリオットの詩論と芭蕉俳論などの対比研究も試みます。

【授業計画】

前期は次の事項を予定しています。

- 比較文学の定義と本質
- 日本における *The Waste Land* の受容
- T.S.エリオットと立原正秋
- 共同体と個性の文学
- T.S.エリオットと小林秀雄

後期は次の事項を予定しています。

- T.S.エリオットとベルグソン
- 形而上詩人のアルス・ポエティカ
- 芸術作品の創造と伝統の継承
- Spectrum* に見る西脇詩の原型
- T.S.エリオットと西田幾多郎

テキストを用いて講義・解説します。受講生は必ずテキストを持参して下さい。

【評価方法】

レポートまたはテストと各自の出席状況を加味して評価します。

【テキスト】

比較文学論集（池谷敏忠 晃学出版 2,200円）

外国語としての日本語 a・b

石橋千鶴子

【授業の概要】

日本語の特徴を文法の面から英語を使って考察し、日本語を母語としない人を対象にした日本語教授法を指導する。

【授業計画】

日本語テキストおよびビデオ日本語教材を用いて、初級日本語教育で扱う文型、文法事項の英語による具体的指導法を考察する。外国語としての日本語の文法基礎知識を得ることが期待される。

【評価方法】

期末試験および日常の勉学状況により評価を行う。

【テキスト】

未定。

論文

島田修三 久保朝孝 岩下紀之 山下宏明 阿部一彦
小倉 斉 都築久義 細谷 博 増井典夫 寺尾 剛

【授業の概要】

論文の書き方全般にわたって指導する。

【授業計画】

各担当教員が指示する。

【評価方法】

論文の学術的価値によって評価する。

【テキスト】

各担当教員が指示する。

英文法 a・b

金子輝美

【授業の概要】

高校時代に学習した英文法の知識をさらに深め、英語を使用する際に生かせるように努力する。後期は、教科書に加えて最新の英字新聞や雑誌などの補助教材を用いて、多くの英文に触れ、〈理論〉と〈実践〉の両面から、英語表現そのものの理解し、味読できるようにする。

〈前期 a〉

1. 現在、過去時制
2. 進行形、完了形など aspect (相) に関わる表現
3. 仮定法
4. 助動詞

〈後期 b〉

5. 能動態と受動態
6. 関係詞
7. 不定詞と動名詞
8. 語法

【授業計画】

テキストは懇切丁寧に解説されているので、家庭でそれを熟読し、例文を理解し、練習問題を解いてみることを希望する。授業では、難解な部分を解説し、学生に頻繁に質問することによって理解度を確認する。小テストを実施したり、宿題を出すこともある。基本的文法事項を活用して、自己発信（話す、書く）できるようにする。また、短文ではなくて、まとまったパラグラフを通読する時間を設ける。文法のための文法学習ではなくて、最終的には、オールラウンドな英語力の涵養を目標とする。

【評価方法】

座席を指定し、出席状況を重視する。授業態度も成績評価に加味する。課題、小テスト、定期試験前の予備テスト、定期試験を実施する。各試験では、学習事項に関連した応用問題が出されることもある。

【テキスト】

『コーパス英文法』（柏野健次・内木場努著、開拓社）
（参考図書は授業の中で随時紹介する）

英語音声学 a・b

中郷 慶

【授業の概要】

受講生はこれまでに、英語を何年間も学習してきたとしても、おそらく、何が英語の発音の特徴であるのか理解していないように思われるし、十分な発音指導を受けてきたこともないと思われる。

この授業では、音声学・音韻論だけではなく、統語論・意味論・語用論などさまざまな角度から、英語の音声特徴を理論的かつ体系的にとらえることにする。理論に従って、より英語らしく読み、話す実践的練習のほかに、聞き取り訓練のための時間もできるだけ取る予定である。授業では、歌や映画など幅広く取り上げて、実践的な解説を加える。

英語を勉強していくうえで、一度、徹底的に英語の音声を基礎から勉強しておくことは不可欠なことである。この授業はヒアリング力の向上にも役立つだろう。

【授業計画】

英語（および日本語）音声の特徴の全体像を明らかにするように、次のような内容で授業を進めるが、各項目は独立しているわけではないので、前・後期の受講が望ましい。

前期：発音の基礎知識（声、調音器官等）

日本語と英語の音声特徴
リズムとイントネーション
音韻論と音声学
語強勢と文強勢

後期：音節

音変化（同化・脱落・連結・縮約）
母音と子音の発音と聞き取り

【評価方法】

出席状況、レポート、定期試験の成績により総合的に評価する。

【テキスト】

こうすれば英語が聞ける：Ways to be better listeners
（中郷安浩、中郷 慶共著 英宝社）

【参考文献・資料】

授業中に指示。

English 101 a · b

リチャード・ハリス

[Course Content]

Students will learn practical American English using entertaining and fun situational dialogs. This is a class designed to teach students how to use natural English found in the real world. An American teacher will instruct students using over 40 situational dialogs they are likely to encounter in the real world. Students will master pronunciation skills and applications of English to discuss topics found in everyday lives with confidence.

[Schedule]

(a)

- 1 Basic information Questions
- 2 Everyday actions
- 3 ordering your Own Pizza-Prepositions
- 4 Visiting A Friends House
- 5 Transportation
- 6 Restaurant
- 7 Department Store
- 8 Elements for Describing People
- 9 Borrowing things
- 10 Compliments
- 11 Home Telephone Conversations
- 12 Review

(b)

- 1 Travel reservations
- 2 Reading Maps
- 3 Conversation Starters
- 4 Doctors Office
- 5 Its Nice To See You Again.
- 6 Expressing Concern
- 7 Sports
- 8 Opening a Bank Account
- 9 A Walk In Nature
- 10 Art
- 11 Review
- 12 Final activity

[Assessment]

Class participation, small homework assignments and short quizzes and exams will be used to evaluate students.

[Textbooks]

Textbook will be announced during the first class.

English 101 a · b

ラリー・A. パドウィル

[Course Content]

The aim of this course is to improve your speaking and listening abilities.

Many foreign language learners concentrate on grammar and vocabulary, but never use this English in actual conversation. Emphasis will be given to effectively using the English knowledge you have already acquired and then applying it to conversation practice activities. A variety of topics will be discussed. We will practice in pairs, small groups, and with the whole class.

[Schedule]

The first part of the course will be used to review fundamental English conversational patterns, particularly yes / no and WH... questions and answers. We will then go on to activities in which you can practice communicating.

[Assessment]

You will be graded on your desire to improve your English speaking and listening skills. This means actively participating in class activities. Improving your English is up to you.

[Textbooks]

A text, if necessary, will be announced on the first day of school. You should have a Japanese / English and English / Japanese dictionary.

English 101 a・b

シャレル・A. ラインツマ

[Course Content]

This course is designed to help students improve their communication skills. In this course students will build on skills they already possess. There will be numerous opportunities for the students to practice and hone their skills using a mix of: conversation, pair / group work, activities and projects. The students hold the responsibility for the amount of progress they make.

[Schedule]

A variety of topics will be introduced. In addition, there will be short videos, pronunciation practice, handouts, and some written exercises.

[Assessment]

Assessment is based on attendance and participation, including homework. Desire to improve and motivation will also be factored into the grades.

[Textbooks]

TBA (to be announced)

English 101 a・b

アレン・D. ウィリアムス

[Course Content]

The objective of this course is to develop the students' ability to interact comfortably in English speaking situations. Areas of concentration will include, reading, Writing, listening and pronunciation.

Open discussions will be conducted to facilitate a better overall understanding of English. Teaching methods will include group work, pair and individual work with the main aim being for the student to be able to express themselves confidently in English.

Teaching materials can include, poems, short news stories and other media to provide stimulus for the students' discussions.

[Schedule]

This will be a two semester course.

The students will work through the assigned text with extra work being given in the form of handouts.

[Assessment]

Assessment will be based on class work, homework, speaking and listening ability and tests.

[Textbooks]

To be announced

[Reference]

None

English 101 a · b

フィリップ・サザンズ

【Course Content】

The purpose of this course is to make students more independent both as learners and as speakers of English.

This is a general language course. There will be grammar, reading and listening exercises, as well as diaries and weekly conversations. Developing fluency and self-expression are important goals of the course. Weekly topics include your family, your life, music, food, sports, personalities, etc. But students will also bring their own topics to class.

【Schedule】

Term 1

- 1 - 2 Your classmates, your topics
- 3 - 4 Living arrangements
- 5 - 6 Food, restaurants, likes and dislikes
- 7 - 8 Travel (and student topics)
- 9 - 10 Giving instructions
- 11 - 12 Review, Holidays, test

Term 2

- 1 How do you say hisashiburi?
- 2 - 3 Giving opinions
- 4 - 5 Story-telling and summarizing
- 6 - 7 Review (and student topics)
- 8 - 9 Dreams
- 10 - 11 Reporting
- 12 Test

【Assessment】

Students will receive a weekly mark for a diary, homework and work in class.

【Textbooks】

New Interchange 2

English 102 a · b

ハリー・T. ノリス

【Course Content】

The objective of this course is to develop the students' ability to interact using English. They will be able to speak with an increased degree of fluency and confidence, with other Japanese people and native speakers of English. Areas of concentration will include, listening, pronunciation and other speaking skills. Inter-cultural differences will be explored as will humour and lifestyle, in order for students to gain an overall understanding of English. Teaching methods will include group work and individual work with the main aim being for the student to be able to express opinion and fact in English.

Teaching materials will include video's, short stories, poems and other media to stimulate the students into discussion.

【Schedule】

This will be a two semester course.

The students will work through the assigned text with extra work being given in the form of handouts. These will include but will not be restricted to: Introductions, Pronunciation ex. (L/R and B/V), Natural Word Groups, Homonyms, Large Numbers, Word Groups and Word Relationships, Giving and Receiving Directions

【Assessment】

Assessment will be based on class work, homework, speaking and listening ability and tests.

【Textbooks】

Text to be announced.

【Reference】

None

ドイツ語 a・b

浜田義孝

【授業の概要】

ドイツ語の基礎を習得する。

ドイツ語は英語と同じく西ゲルマン語から出た言語で類似点も多いが、英語に比べてかなり保守的で、面倒な語形変化などがある。しかし一見やっかいそうな文法もいったん慣れてしまえば、かえって語句の関係が明確であり構文の把握も容易になる。

言葉は何よりもまず音声であるから、初めにドイツ語の発音に慣れること。そのためには教師（またはテープ）のドイツ語をよく聞いて、積極的に口を動かして真似ること。こうして繰り返し反復練習することによって、基本的なドイツ語の語句や言い回しになじみ、やさしい文を覚えていけば、週一回という短時間の学習でも、ドイツ語の基礎をマスターできるでしょう。

またドイツ語の学習を通してドイツやオーストリアの生活と文化に触れることもできる。

【授業計画】

テキストは全12課で、各課ともドイツ語の会話と基本的な文法事項、練習問題から構成されている。LL方式のパターン練習で基本構文や表現パターンを覚え、それをペアで行なう対話練習で実践し、段階的に表現能力を身に付けてゆく。

1課を2回の授業で修了するくらいのゆっくりしたペースで進む。

【評価方法】

授業での平常点と期末試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

コミュニケーションのためのドイツ語（在間／田畑共著 第三書房）

フランス語 a・b

清水ベアトリックス

【授業の概要】

この授業は初級者を対象とし、フランス語の習得だけでなく、フランスの風俗、文化、習慣も「味わいながら」学ぶことを意図する。担当講師はフランス語の授業を通じて受講者の対仏国理解を深める手助けをすることを切に望む。

前期

日本で出版された平易なフランス語テキスト（CD付き）、漫画、ポップス、ビデオなどを使用する。

前期には、テキストの目次に沿って進み、フランス人講師が直接教えるので、受講者は「フランスに浸り」、「純粋な」フランス語の発音と文法の基礎を身に付ける。

できる限り前期では、下記の文法を学ぶ：

発音、名詞の『性』と『数』、冠詞、不定詞と動詞の活用：直接法現在形、疑問文：疑問代名詞と疑問形容詞、否定文、品質形容詞。

後期

前期に引き続き同じテキストを使用し、より高レベルの文法・語彙を学ぶ。しかし、特にコミュニケーションに重点を置くので、「純粋なフランスの環境」の中で簡単な作文を書いたり、寸劇をすることにより、受講者自身の考えをフランス語で表現する能力を養成することを主目的とする。

後期では、下記の文法事項を学ぶ：

目的語となる人称代名と強勢形、指示形容詞、所有形容詞、冠詞の縮約、半過去、複合過去。

【授業計画】

毎回学んだフランス語を会話練習に積極的に使用するとともに、文法を体系的に学んだり、平易なフランス語の文章を和訳する。

【評価方法】

定期試験を重視するが、宿題、出席率、受講態度なども考慮に入れる。

【テキスト】

「Elle est gourmande」（藤田裕二、朝日出版社）

ロシア語 a・b

杉本一直

【授業の概要】

みなさん、知っていますか？日本の大学のなかでロシア語を学ぶことができる場所は本当に少ないんですよ。ということは、「ロシア語がわかる人」は日本ではとても希少価値があるのです！「芸術の国ロシア」の言葉を今すぐ学んでみませんか？

この授業では、初歩のロシア語を学びながらロシアの芸術や文化や街について楽しく紹介していきます。映画の鑑賞会もありますから、楽しみにしててくださいね。

【授業計画】

初級のわかりやすい辞書を「テキスト」として授業を進めてきます。まず、例の不思議な形をしたキリル文字を憶え、発音を憶え、そのあとは辞書で遊び(?)ながら「使える単語」「使えるフレーズ」を集めていきます。たくさんたくさん集めたら、あれ、いつのまにかロシア語の達人！

辞書以外に補助教材として会話用プリントを配布します。学ぶ項目は以下のとおりです。

- a. キリル文字と発音
- b. 大きな声であいさつしよう
- c. 買い物に行ってみよう
- d. 乗り物に乗ろう
- f. おなかがすいたら...
- g. 自分について話してみよう
- h. 好きな音楽について
- i. 手紙を書こう (本当にロシアへ送るぞ!)

【評価方法】

定期試験の成績による。

【テキスト】

ロシア語ミニ辞典 (白水社)

英文学基礎演習 a・b

柳原佳枝

【授業の概要】

英文読解力を深めると共に、英文学の作品理解に必要な基礎的知識を高めることを目指す。

文学作品の豊かさや作家それぞれに異なる作風の鑑賞にも留意。

教室では、作品を精読し、構成や人物描写、テーマや作品の背景、その他様々な視点から総合的に作品を理解する演習を行う。

併せて、小説の<読み方>及びレポートや論文の<書き方>についての検討も目指す。

【授業計画】

作品の精読をもとに、受講学生によるレポートや意見の発表に重点をおく。

前期に予定する作家：

Mrs. Gaskell, C. Dickens, 他

後期に予定する作家：

T. Hardy, G. Gissing, R. Kipling, 他

【評価方法】

定期試験、平常点 (積極的な発言、レポート、出席、等) などで総合的に評価する。

【テキスト】

Classic British Short Stories (田中英史・横山幸三 註解 成美堂)

及びプリント配布。

【参考文献・資料】

授業中に随時指示する。

英文学基礎演習 a・b

横関美津紀

【授業の概要】

英文読解力の育成を図りながら、英文学の作品を理解する上で必要な社会や歴史、文化に関する基礎的な知識を深めることで、鑑賞力を高めることを目指します。

また、文学のテキストと併せて、基本的なリスニング・スピーキング力を養うための練習も行います。

輪読形式を取り、受講生主体で進めます。

【授業計画】

イギリス文学の入門として、子供用の読み物として書き直されたり、映画化されることで既に題名や断片的な内容をよく知られている作品が、もとはどのような作品であったのかを案内するテキストに基づき、各作品の原書から抜粋したプリント教材を読みます。時には、それらの作品の映画版も鑑賞する予定です。

(前期)

M. Shelley *Frankenstein*

E. Brontë *Wuthering Heights* 他

(後期)

R. L. Stevenson *Dr. Jekyll and Mr. Hyde*

G. B. Shaw *Pygmalion* 他

【評価方法】

平常点（授業の予習、積極的な参加、出欠席）および学期毎に課すレポートにもとづき総合的な評価をします。

【テキスト】

Popular Classics of English Literature (John Dougill 英宝社)

他にプリント教材

英文学基礎演習 a・b

山田久美子

【授業の概要】

イギリス・アイルランドの小説を精読していくことにより、英文読解力を高め、作品を深く読みとる力を養う。

Oscar Wildeの童話や小説を中心に、Brian Friel、Susan Hillなど、19世紀末から現代までの作品、特に、文学的、文化的コンテクストの多方面に渡って注目されている作品を読んでいく。それぞれの作家の英文や作品構成の特徴、社会・文化的背景から生み出される価値観に対する作家の思想など、多角的な方面から作品を理解する。

【授業計画】

前期

The Disciple

The Nightingale and the Rose

The Sphinx Without a Secret

後期

A Bit of Singing and Dancing

The Illusionist

【評価方法】

授業への参加度、レポート、学期末テストにより総合的に評価する。

【テキスト】

Gems from Wilde (北星堂)

【参考文献・資料】

講義時に適宜紹介する。

米文学基礎演習 a・b

太田直子

【授業の概要】

アメリカ20世紀を代表する5人の作家、Bernard Malamud, Truman Capote, Katherine Anne Porter, Issac Bashevis Singer, John Updikeの短編を読んでいる。作品を読みながら、いろいろな角度からアメリカの姿を読みとってほしい。

【授業計画】

前期：ユダヤ人作家の短編をよむ。

Bernard Malamud, “The Magic Barrel”

Issac Bashevis Singer, “Blood”

後期：Truman Capote, “House of Flowers”

Katherine Anne Porter, “The Grave”

John Updike, “Pigeon Feathers”

【評価方法】

各学期末の試験。

後期にレポート。課題については、授業中に説明する。

【テキスト】

Ayako Maeda (ed.), Best American Short Stories
(II) 太陽社

米文学基礎演習 a・b

小野迪雄

【授業の概要】

テキストを精読することによって、作者がどのような意図で作品を書いたのかを探るのが、中心のテーマである。このことは、読者の方でどんな読み方が出来るかの側面もある。英語を通して、作品の意図を読みとり、それがわれわれにとってどんな意味があるかを考える。

〔前期〕テーマを発展させるために、テキストを読むと同時に、作者や作品の特徴についての知識を習得する。また作品は作者の思想や書かれた時代の社会などを反映していると考えられるから、そこに読みとれる問題を考えてみる。できるだけ比較文学の視点からも説明を加える。テキストは精読していくが、文法事項の説明は必要最小限にとどめる。

本年度はHenry Jamesの中編小説*Daisy Miller*を読む。作者はニューヨーク生まれの作家でアメリカの上流階級の生活を熟知し、繊細な筆で人々の心の動きを見事に描いた。常にアメリカ人という意識をもち、アメリカ対ヨーロッパという、いわゆる国際テーマを扱いながらヨーロッパにおけるアメリカ人の姿を描いた。格調のある流麗な文体で魅力的な文学を生み出したが、初期の作品である*Daisy Miller*はその代表作といえよう。

〔後期〕前期の方針の継続。

【授業計画】

学生の積極的な意欲に期待し、指名などによって、成果を発表してもらう。テキストを中心に進行するが、必要に応じてプリントを配布し、内容理解の補助とする。

【評価方法】

筆記試験、レポート、授業に対する平常の準備（予習）などを総合して行なうが、筆記試験に最も重点をおく。

【テキスト】

Henry James:

Daisy Miller (『アメリカ娘ダイジー・ミラー』) 南雲堂

米文学基礎演習 a・b

今井加寿

【授業の概要】

アメリカ文学への入門講座として、20世紀アメリカを代表する6人の作家の短編小説を精読する。特に作品の中で描写される女性に着目し、作家が描こうとした様々なアメリカ人女性像の特異性、およびその普遍性について考察する。作品の中からひとつ選び、批評をレポートにして提出する。

また映像化されたアメリカ文学の名作をビデオ鑑賞し、作品中のアメリカ人女性像についても考察する。

【授業計画】

学生は毎回、担当箇所をレポート形式で発表する。

- 第1回 授業計画及び評価方法の説明
- 第2回～第13回 テキストに沿って演習
- 第14回 期末試験

前期：Erskine Caldwell, “The Strawberry Season”
Ernest Hemingway, “The End of Something”
William Faulkner, “A Rose for Emily”
ビデオ映画 『風と共に去りぬ』

後期：Carson McCullers, “A Tree, A Rock, A Cloud”
O. Henry, “The Gift of the Magi”
Bernard Malamud, “The First Seven Years”
ビデオ映画『ガラスの動物園』

【評価方法】

出席・授業態度30%、レポート30%、筆記試験40%

【テキスト】

American Stories of Love and Life
(朝日出版社)

Women: A Variety of Lives
(松柏社)

米文学基礎演習 a・b

今井知子

【授業の概要】

現代アメリカ作家Bernard Malamudの長編『The Assistant』を読みながら、アメリカの抱えるいろいろな問題：人種・貧困・差別・宗教・文化といったものを深く洞察し、これらの問題を自分の問題として取り組んでいく姿勢を、作品を通して作り上げたい。

【授業計画】

- 第1回 年間計画の検討。
- 第2回～12回 作品を精読し、作家およびアメリカの問題を考える。
- 第13回 単位認定試験。

【評価方法】

出席状況・平常点・レポート・単位認定試験を統合的に評価する。

【テキスト】

『The Assistant』 by Bernard Malamud (Harper Collins ¥2,730)

英語学基礎演習 a・b

樗木勇作

【授業の概要】

英語学入門

英語の言語的研究について、基礎知識を身につけることを目標とする。英語学研究の基礎力となる、英語の読解・リスニング能力の向上も目指す。

英語学の扱う領域のうち、次の分野について演習を行う。形態論 (Morphology)、音声学 (Phonetics)、音韻論 (Phonology)、統語論 (Syntax)、意味論 (Semantics)、言語の多様性 (Language Variation)、言語変化 (Language Change)、語用論 (Pragmatics)。それぞれの分野の知識を実際の英語運用で活かせるよう、最新映画のスク립トや洋楽の歌詞を使って応用を試みる。

本演習は包括的な概論ではなく、上記分野の特定の側面を垣間見るにすぎない。理論よりも、言語事象に焦点をおく。

【授業計画】

説明→演習問題→解答の確認

<前期 a>

1. Morphology
2. Phonetics
3. Phonology
4. Syntax

<後期 b>

1. Syntax
2. Semantics
3. Language Variation
4. Pragmatics

【評価方法】

レポート+平常点 (出席・授業態度)。

【テキスト】

A Linguistics Workbook Fourth Edition (Ann K Farmer and Richard A. Demers (2001), MIT Press)

英語学基礎演習 a・b

加藤主税

【授業の概要】

ゼミ形式で授業を進めます。自主的、積極的に参加して下さい。全員が毎時間1回以上発言すること。ワイワイ、ガヤガヤとニギヤカにしかも、わきあいあいとエゴ学に取り組んでいきましょう。決していねむりする余裕はありません。

【授業計画】

[前期] 「人がことばを使うには、どんな能力が必要か？」という問題にアプローチするため、母国言語能力を意識化し、規則化する過程を経て、英語分析に進みます。各言語理論、分析方法の概要、基礎を習得し、それを参考にして、各自の収集したデータの規則化を試みます。資料収集方法、問題設定方法、疑問題検索方法については、前期のうちに、充分体得してほしいと思います。

[後期] 前期で体得した分析能力を語用論的分野まで拡大します。さまざまな言語現象を語用論的に分析し、その規則化を試みます。特にこの分野に関心を持つことは、日常の言語感覚を敏感にすることでしょう。この経験は、必ず将来の言語生活に役立つと思います。

【評価方法】

出席を重視します。授業中の発言回数とその内容、さらに積極性あるいは授業態度などを評価します。もちろん定期試験も重要です。

【テキスト】

英語観察学 (奥田隆一著 鷹書房弓プレス)

【参考文献・資料】

日本語七変化 (加藤主税著 中央公論新社)、フシギことば学 (加藤主税著 翔雲社)、日本語発掘—和語の世界 (加藤主税編著 晃学出版) など、その他は授業中に指示。

英語学基礎演習 a・b

丹羽都美

【授業の概要】

英語という言葉について、その背景にある事柄を音韻論、形態論、統語論、意味論などの各領域から分析し、英語の基礎知識を身につけることを目標とします。

【授業計画】

<前期a>

第1回 Introduction (言語とは)

第2回～第4回 音韻論

第5回～第7回 形態論

第8回～第12回 統語論

<後期b>

第1回～第3回 統語論

第4回～第6回 意味論

第7回～第9回 語用論

第10回～第12回 様々な英語

【評価方法】

出席、考査等を総合して評価します。

【テキスト】

必要に応じて配布または指示します。

English 201 a・b

ポール・C. リンガー

【Course Content】

This course covers all four language skills, with particular emphasis on listening and speaking. There will be a detailed treatment of grammar with a variety of controlled and freer practice exercises. Throughout the course there will be emphasis on meaningful communicative practice. Students will have the opportunity to personalize the language they learn, to make use of their own world knowledge, and to express their ideas and opinions.

The course makes frequent use of pairwork, groupwork, and whole class activities, maximizing their opportunity to speak English in class.

The student's role is to participate actively and creatively in learning, using both the materials they study in the course and their own knowledge and language resources.

【Schedule】

(activities will be selected from the following units)

201a

- 1)What a wonderful world
- 2)Happiness
- 3)Telling tales
- 4)Doing the right thing
- 5)On the move
- 6)Likes and dislikes

201b

- 7)The world of work
- 8)Imagine!
- 9)Relationships
- 10)Obsessions
- 11)Tell me about it
- 12)Two weddings, a birth and a funeral

【Assessment】

Assessment is continual and will be based on the following criteria:

Attendance
Class participation
Homework and assignments
End of semester progress test

【Textbooks】

New Headway(Intermediate)
Liz & John Soars
OUP

English 202 a・b

ジョアン・M. ウッドマン

【Course Content】

This course is designed to further develop all four language skills, so students will need to demonstrate how their English skills are improving during the semester.

Consequently, the “on-going” assessment requirements will stress the importance of learning, remembering, and being able to use new “material”. The course will also try to highlight cultural differences which are relevant to the issues or topics being discussed.

The listening comprehension activities, songs, oral presentations, videos, pair work activities etc will require the students to learn new vocabulary and idiomatic expressions whilst also requiring them to formulate opinions.

In first semester students will be required to keep a diary in English (shared with a partner), and in second semester they will record their opinions about current affairs in a journal.

【Schedule】

Section 1 : Topics - Self / family / free time.
Discussion of cultural differences.

Section 2 : Topics - School / sports / music.
Discussion of cultural differences.

Section 3 : Holidays/Dating / Marriage / Funerals
Discussion of cultural differences.

Section 4 : Xmas/New Year / Superstitions.
Discussion of cultural differences.

【Assessment】

First semester :

- 40% Diary
- 30% Class activities/reports
- 30% oral reports or conversation tests

Second semester :

- 40% Journal
- 30% class activities / reports
- 30% oral reports or conversation tests

【Textbooks】

none

比較文化

松本青也

【授業の概要】

日米文化の比較

何気なく喋ったり、行動したりしているつもりでも、私たちは常に自国文化の影響を受けています。「文化」を、集団が共有する価値観や規範の体系としてとらえ、日本人とアメリカ人の考え方や生き方を豊富な事例をもとに比較対照しながら、それぞれの文化の特質を浮き彫りにします。

アメリカのテレビ番組や新聞雑誌の分析を加えながら講義と意見交換で進行するこの授業は、いわば自国文化に縛られた自分の姿を映し出す鏡。覗いてみると、もっと自由で伸びやかな生き方が目の前に広がります。

【授業計画】

1. 文化論
- 2～9. 文化変形規則 (CTR)
10. システムとしての CTR
11. 研究対象としての CTR
12. 日本語の衝突と CTR
13. CTR と学校英語教育
14. これからの日米文化

【評価方法】

レポート、学習態度、出席状況による総合評価。

【テキスト】

松本青也『日米文化の特質』研究社。

英語学概論 a・b

大室剛志

【授業の概要】

英語学の全体像、研究領域の概要、研究課題などについて論じる。英語研究の現状をなるべく平明に紹介し、英語研究への動機を与え基盤を築くことを目標とする。

【授業計画】

前期

1. 英語学とは
2. 統語論（1）文の組み立て
文の構造、句の構造、Xバー理論、節の構造、複文の構造
3. 統語論（2）文法の操作
抽象的な構造、文法操作の性質、島の制約、助動詞の振る舞い

後期

4. 形態論
語の構成要素、派生、複合
5. 音韻論
英語の音、音素、同化と異化、語の強勢
6. 意味論
意味の成分分析、動詞の成分分析、成分分析の不足を補う、意味役割、照応形の解釈

【評価方法】

出席状況と単位認定試験の成績により評価する。

【テキスト】

ファンダメンタル英語学（中島平三著 ひつじ書房）

英文学史 a・b

キース・イズリー

【Course Content】

We will study British literature historically from its beginnings through the mid-Victorian Period. We will focus on the literature itself, from Beowulf through Dickens, reading poetry, fiction, and plays.

【Schedule】

(FIRST SEMESTER) a

From the Anglo-Saxon Period through the 16th century, focusing on Beowulf, Chaucer, and Shakespeare.

(SECOND SEMESTER) b

From the Metaphysicals through the mid-Victorian Period, focusing on Swift, Blake, Wordsworth, Keats, and Dickens.

【Assessment】

Each semester will include several tests, course-work and a final examination. If it is necessary to limit class size, there may be a test in the first lesson.

【Textbooks】

Past Into Present (Gower, Longman)

米文学史 a・b

池谷敏忠

【授業の概要】

文学は言語による芸術で、国の文学は歴史的に、地域的に展開いたします。この講義はアメリカ英語で表現された米文学を通史的に講義・説明し、作家・作品の特質についても指摘いたします。

【授業計画】

前期は下記の内容について講義します。

植民地時代

独立から南北戦争まで

南北戦争から第一次世界大戦まで

後期は下記の内容について講義します。

第一次世界大戦以後

第二次世界大戦以後

テキストを用い、講義・解説します。受講生は必ずテキストを持参してください。

【評価方法】

レポートまたはテストの結果に各自の出席状況を加味して評価します。

【テキスト】

アメリカ文学史入門 (大橋吉之輔 研究社 1800円)

英文学講義 I a・b

山田久美子

【授業の概要】

イギリス・アイルランド文学の中で、20世紀の演劇を取り上げる。20世紀の演劇は、リアリズム演劇や前衛的な演劇など様々な手法やテーマが混在している。それらは、作者の思想、社会・文化的背景によるものである。本講義では、社会・文化的背景を理解した上で、女性の主人公を中心に、「夢と現実」を共通テーマとして、様々な手法の演劇を解説していく。また、視聴覚教材などを利用し、表現芸術としての演劇のおもしろさを理解する。

【授業計画】

前期

George Bernard Shaw, *Pygmalion*

後期

Caryl Churchill, *Top Girls*

【評価方法】

授業への参加度、レポート、学期末テストにより総合的に評価する。

【テキスト】

George Bernard Shaw, *Pygmalion* (英潮社)

Caryl Churchill, *Top Girls* (英潮社)

【参考文献・資料】

講義時に適宜紹介する。

米文学講義 I a・b

太田直子

【授業の概要】

アメリカ文学を形成してきた数多くの作家たちに親しむために、作家たちの生涯や作品形成の裏にあったエピソードなどについて書かれた英文を読みながら、解説していく。文学を読むための基礎的な知識を学習してもらう。

【授業計画】

前期：

- 1 R.W. Emerson
- 2 H.D. Thoreau
- 3 N. Hawthorne
- 4 Herman Melville
- 5 H.W. Longfellow
- 6 Edgar Allan Poe
- 7 Walt Whitman
- 8 Emily Dickinson
- 9 Mark Twain
- 10 Henry James
- 11 Robert Frost
- 12 Jack London

後期：

- 1 Ezra Pound
- 2 Sinclair Lewis
- 3 Eugene O'Neill
- 4 F.Scott Fitzgerald
- 5 William Faulkner
- 6 Ernest Hemingway
- 7 John Steinbeck
- 8 Tennessee Williams
- 9 Arthur Miller
- 10 Henry Miller
- 11 Saul Bellow
- 12 James Baldwin

【評価方法】

各学期末のテスト。

【テキスト】

- ・ *The Writers of American Literature* (John Dougill, Macmillan Language House)
- ・ プリント

英語学講義 a・b

中野弘三

【授業の概要】

コミュニケーションの場での文の発話が伝える意味はどのような内容のものであるか、およびその内容がどのような形を取って文の統語構造に現れるか、という文の意味と統語構造の関係を考察する。

【授業計画】

前期は文や句の統語構造を生成文法理論などの統語理論に基づく分析の仕方、および、統語構造の単位である語の内部構造の分析の仕方を扱う。

後期は文の意味分析を行い、それによって明らかになる文の意味構造と統語構造の関係を扱う。

前期、後期ともに講義内容をよりよく理解してもらうために、練習問題を用意し、宿題とすることもある。

【評価方法】

各学年末の試験により評価する。

【テキスト】

英語学の道しるべ (小林泰秀他著 英潮社)

【参考文献・資料】

- 統語論[現代の英語学シリーズ5] (鈴木英一著 開拓社)
- 一歩すすんだ英文法 (今井邦彦他著 大修館書店)
- 英語の意味 (池上嘉彦他著 大修館書店)

英米文学特殊講義 I a・b

ベヴァリー・F. M. カレン

【Course Content】

Britain shaped a “national” literary identity through borrowing from other languages and inflected and inflected other languages and literatures in the course of cultural migrations that occurred in Europe since at least the medieval period onward. English as a language and as a literature, however, has not been contained by national boundaries for some time, and in fact is now more comfortably conceived in the plural, or as uncountable, like a multidirectional flow. In this course, we will look at how literature “travels” across languages, cultures, genres and media.

【Schedule】

The course will begin examining the notion of “intertextuality” and how one story can be found in another. We will then move on to look at how a story can “travel” by examining examples of traditional stories changing by adaptation, translation, or rewriting. One of the works we will consider is Shakespeare's *Othello* and how it is rewritten in Canadian literature in black playwright Djanet Sears' *Harlem Duet*.

【Assessment】

Assessment is ongoing and based on attendance, effort, and participation in discussion. An essay will be assigned and evaluated, as well.

【Textbooks】

Texts will be announced in class.

English 301 a・b

ポール・C. リンガー

【Course Content】

A series of fluency practice activities will be used to improve the listening and speaking abilities of intermediate students of English. This course will focus on the development of listening and speaking skills, but will also include activities that develop the student's reading and writing skills.

Communicative activities are provided to stimulate real conversation as much as possible. The students will find that they are strongly motivated by the desire to receive, offer, and exchange information by the realism and the value of the task themselves.

【Schedule】

Each unit will be covered over a two or three week period and will include the following topics:

301 a

- 1) Personal information
- 2) Strange Phenomena
- 3) Shopping
- 4) Weather and climate
- 5) The past
- 6) Entertainment

301 b

- 1) The future
- 2) Health
- 3) Work and the world
- 4) Vacation
- 5) Current events
- 6) Controversy

【Assessment】

Assessment will be continuous and will be based on the following criteria:

- ATTENDANCE
- CLASS PARTICIPATION/EFFORT
- HOMEWORK AND ASSIGNMENTS
- END OF SEMESTER REPORT

【Textbooks】

Great Ideas
Leo Jones & Victoria Kimbrough
CUP

English 301 a • b

ポール・ルイス

【Course Content】

During this course, students will practice listening and speaking activities intended to increase their ability to communicate in a wide variety of situations. In particular we shall focus on Learning Strategies and the role of intonation in communicating. At the same time, efficient and effective strategies for learning vocabulary will be considered. The aim of this course is to improve students' fluency, flexibility, and confidence in English.

The course will be presented entirely in English, and students are urged to minimise the amount of Japanese they use in the class.

【Schedule】

Students will work mostly in groups or pairs, practising the strategies outlined above. Among other activities, we shall look at information exchange and negotiation, problem solving, and occasionally role-plays.

【Assessment】

Assessment will be according to class participation, attendance, and occasional homework reports. No test will be given.

【Textbooks】

No textbook will be used.

English 301 a • b

ハリー・T. ノリス

【Course Content】

This course is designed to be taken in two semesters. (a+b)

The course aims to improve the students' ability to communicate using English.

To help them transmit their ideas to other Japanese people and native speakers of English. The course will show students key points about public speaking that will allow them to speak English confidently in front of groups. Teaching strategies and techniques, voice control, and use of teaching aids will be studied. Reading, writing, listening and speaking will be addressed throughout the course.

Speaking and listening being the main areas of assessment.

【Schedule】

(a) The first semester course, will be aimed mainly at teaching techniques used to increase confidence when speaking English.

(b) The second semester course, will be aimed at students giving seminars on a variety of topics in English.

【Assessment】

(a) First semester assessment will be based on attendance, speaking ability and improvement, attitude and a report.

(b) Second semester assessment will be based on attendance, research, seminar and a report.

【Textbooks】

No text, as necessary worksheets will be given.

English 301 a・b

ジョアン・M. ウッドマン

【Course Content】

This course is designed to explore aspects of Australian language and culture through analysis of poems, short stories, songs, movies, TV programs, news, etc.

Contemporary and historical examples will be used. A variety of topic areas will be covered, for example : personal problems ; environmental problems; current issues in society etc.

Students will be required to spend considerable time on vocabulary development (including idiomatic expressions) , hence the majority of assessment will be based on vocabulary tests, as well as participation in class discussions/activities.

【Schedule】

Section 1.Topics. Aust. Pop songs / traditional songs / Advice columns

Section 2.Topics. Babe / Crocodile Dundee / Famous Australians

Section 3.Topics. Poet-A.B. Paterson / Man from Snowy River

Section 4.Topics. More pop songs / traditional songs / annual events

Section 5.Topics. Dramas / Movies / Newspaper articles

【Assessment】

-Class activities /reports -30%

-Vocabulary tests - 70%

【Textbooks】

None

NOTE: Students who take my English 301 course can also take my English 302 course, and vice versa.

English 301 a・b

リチャード・ハリス

【Course Content】

(1 st semester)

The aim of the course is for students to learn how to write in many different ways and styles, and to discuss their work in both small and large groups.

We will examine many different writing styles during the course. Students will be encouraged to explore different writing methods. The class will be exposed to both intensive and extensive writing, as well as some personal letter writing.

(2 nd semester)

The aim of this course is for students to practice speaking as much as possible. Students will learn how to be an active speaker and listener in both small group and large group interactions. Students will also learn how to write and perform small speeches and persuasive debates.

【Schedule】

(1 st semester)

Lesson 1 ~ 2 telling a story

Lesson 3 ~ 4 writing personal letters

Lesson 4 ~ 5 Business letters

Lesson 7 ~ 8 writing descriptions of people

Lesson 9 writing about a fictional event in the future.

Lesson 10~12 writing a technical paper.

(2 nd semester)

Lesson 1 ~ 3 Stating personal opinions

Lesson 4 ~ 5 The power of advertising

Lesson 6 ~ 7 Radio announcing practice

Lesson 8 How to write a speech outline

Lesson 9 ~ 10 Writing a speech

Lesson 11~12 Speech presentations

【Assessment】

(1 st semester)

Students will be evaluated through their written work and class participation.

(2 nd semester)

Students will be evaluated through class participation, written work and course projects.

【Textbooks】

(1 st semester)

Textbook will be announced during the first class

(2 nd semester)

Textbook will be announced.

English 301 a・b

ジョナサン・E. ロング

【Course Content】

In this course the students will watch videos, without subtitles, based on famous short stories in English. They will also extensively discuss and write in English about these videos in regards to their literary, cinematic and cultural significance. In this way the students will employ all four language skills and critical thought.

【Schedule】

Usually, each video will require three weeks:

- 1 st Week script
- 2 nd Week video
- 3 rd Week discussion

【Assessment】

Assessment is based on attendance, class participation in English and reaction papers to be written for each video .

【Textbooks】

none

English 302 a・b

ジョアン・M. ウッドマン

【Course Content】

This course is designed to explore vocabulary and other aspects of language and culture through analysis of poems, short stories, songs, and movies. Contemporary materials will be used , covering such topic areas as :- young people and their changing behaviour; relationships ; personal problems ; environmental problems; current issues in society etc.

Students will be required to spend considerable time on vocabulary development, hence the majority of assessment will be based on vocabulary tests, as well as participation in class discussions.

【Schedule】

To be decided.

【Assessment】

Class activities /reports -30%
Vocabulary tests -70%

【Textbooks】

None

NOTE : Course content varies, so students who take my English 301 course can also take my English 302 course, and vice versa.

English 302 a・b

デイビッド・C. ダイカス

【Course Content】

The general goal of this course is continue students' development in the four skills. There will be a strong focus on discussion and problem solving activities as a means of exchanging ideas and opinions. The approach will be topic based but will involve mastery of relevant grammatical structures needed to clearly express oneself in such discussions, especially those involving modals and conditional forms to perform communicative functions like criticizing and expressing regret. Another focus will be on learning and using phrasal verbs commonly used in conversational English.

Discussion topics/activities will provide the basis for writing assignments.

【Schedule】

The topics around which lessons will be based will be determined in part after consultations with students. As for specific grammatical structures involving modals and conditional forms, they will be studied starting first with simpler forms and advancing to the more complex ones. They will be studied in connection with discussion topics. Phrasal verbs will be studied independently of discussion topics.

【Assessment】

Assessment will be based on attendance and completion of exercises/activities during class, homework, occasional quizzes, and an end of term test.

【Textbooks】

To be announced

English 302 a・b

キース・イーズリー

【Course Content】

DRAMA/DIALOGUE

The course concentrates on the elements of drama and aims to encourage the active use of English.

Attention will be paid to the situational use of English, including body language, pronunciation and rhythm, coordination of speech and movement, timing, and the development of dialogue through relationships. There will be role-plays, improvisations and extensive use of video selections.

During the course students will write, develop, practise and act a range of dramatic dialogues. There will be a number of readings, written dialogues and small dramas to be presented in groups.

Class size may be limited and there may be a test in the first lesson.

【Schedule】

Dramatic dialogues in the first semester focus on giving instructions, persuading others, promoting products, making and keeping appointments, and small talk.

In the second semester longer scenarios will be developed using restaurant and other social situations.

【Assessment】

Assessment will be continuous, and will be based on participation, writing and a number of performance tests in which students act together.

【Textbooks】

None

English 302 a・b

ベヴァリー・F. M. カレン

【Course Content】

This course will combine film and language learning through voice acting. Students will be taught how to use a video as a model for pronunciation, and as a tool for listening and speaking practice. The cultural implications of language and gesture will also be discussed.

【Schedule】

In each semester, at least two films will be chosen for viewing and language practice. First, students will engage in communal voice acting of a single scene, and then extend that practice to pair work. In the next film, students will work more independently in pairs or small groups to select a scene from the film and enact it.

【Assessment】

Assessment will be based on effort and participation in all classes, as well as progress and proficiency.

【Textbooks】

None

English 302 a・b

フィリップ・サザンズ

【Course Content】

The focus of this course is on using more complex language and increasing accuracy. Students will practice recognizing language patterns and correcting their own mistakes.

At this level, it is necessary for students to be active participants. That means they must take risks by guessing and daring to express their opinions. Students will also be expected to remember what they learn. Therefore, we will do many fun problem-solving activities and frequent quizzes. As well, students will write and revise short essays.

A major goal of language learning at this level is self-expression. Therefore, students will be expected to read news articles, bring interesting topics to class and express informed opinions in their essays.

【Schedule】

Team 1
Chapters 1 - 6

Team 2
Chapters 7 - 12

【Assessment】

Assessment will be based on classroom work and written assignments. Students must participate every week.

【Textbooks】

The textbook is *Language in Use* – Intermediate (Adrian Doff and Christopher Jones CUP)

English 302 a・b

ハリー・T. ノリス

【Course Content】

The aim of the course is to develop students' comprehension of English. This will be a four skills course, ie reading, writing, listening and speaking. Popular videos using English subtitles will be studied. Vocabulary found in the videos will be an important part of the discussion and comprehension of the movies. Work sheets and reports will be completed with each movie.

【Schedule】

On the first day of classes the students will be given a selection of CINEX videos to choose from. Once the videos have been selected a three week cycle will include vocabulary study, movie viewing, comprehension discussion and report writing.

【Assessment】

Attendance, classwork, participation and homework will be used for assessment.

【Textbooks】

None.

英文学講義演習 I a・b

柳原佳枝

【授業の概要】

<英文学とキリスト教文化 I>

欧米の文化の根底をなすものの一つはキリスト教の信仰や精神である。英語という言葉そのものにも、又その文学にも、聖書やキリスト教世界の諸相が深く関わっている。この講義演習では、その点を重視しながら、英文学の作品理解を深めることを目指す。

【授業計画】

受講学生によるテキストの読解やレポートを中心に、授業担当者が随時補足する。

〈前期〉

C. G. Rossetti による詩を取り上げる。多くの作品にみられる、信仰・希望・愛、そして生と死のテーマ、更に色彩豊かな描写など、様々な視点から作品の理解を深める。

〈後期〉

異なる作家の短編小説及び児童文学などを数編取り上げ、そのキリスト教的主題や背景などを考察する。

積極的な質疑応答や研究発表を通して、作品の読解や鑑賞力を深めると共に、英文学の基礎的知識を習得する努力を重ねたい。

【評価方法】

期末のレポートと平常点（事前の準備、活発な意見の発表、授業に参加する積極的な姿勢など）で総合的に評価する。

【テキスト】

前期：プリント配布。

後期：授業中に随時指示。プリント教材も含む。

【参考文献・資料】

授業中に随時指示する。

英文学講義演習 I a・b

久野幸子

【授業の概要】

16世紀から現代までの英文学作品から数篇を選び、原作を読み解くと同時に、それらが書かれた時代との関係、歴史的、社会的、文化的視点から考察する。英文学作品は映像化されている場合が多いので、視聴覚教材を多用する予定である。

【授業計画】

前期は〈英文学と新世界発見〉をテーマに、16世紀から18世紀までの英文学から作品を選ぶ。原作を深く読む楽しさを実感することを目指す。

後期は〈英文学と帝国主義〉をテーマに、19世紀から現代までのイギリス小説から作品を選ぶ。後期は、原作を読むことに加え、文献リサーチ法も学び、どのようにして論文あるいはレポートにまとめるのかも各自体験してもらおう。個人発表やグループ発表、クラス討議も適宜行なう予定である。

【評価方法】

平常点（出席、受講・発表態度、教室での発言など）とレポートで総合的に評価する。

【テキスト】

未定

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

英文学講義演習 I a・b

大野光子

【授業の概要】

アイルランド文学演習では、19世紀末のアイルランド文芸復興運動の中で W. B. Yeats 等が復活させた古代ケルト神話や妖精物語・詩から出発し、時代を遡る形でアイルランド文学史を概観することによって、独自の伝統を理解する。主に詩の読解力をつけるとともに、文学や映像メディアを通してアイルランド社会や文化全般についての知識を深める。

1. ケルトの薄明の中へー妖精と英雄の物語
 - (1) 文芸復興と妖精詩：W. B. Yeats を中心に
 - (2) ケルト神話とキリスト教：口承物語の伝統
 - (3) 妖精とヴィクトリア朝文学：絵画的表現との関係
2. 植民地アイルランドの独立ー貧困と移民の物語
 - (1) アイルランド詩の伝統：古代から19世紀まで
 - (2) 独立運動と文学：D. Hyde, Lady Gregory, J. M. Synge を中心に
 - (3) 詩／小説／劇に見るアイルランド社会（研究発表）

【授業計画】

前期で詩や物語など英語文献の多読・速読を通して英語力を養成し、併せて英文学の基礎知識を習得したことを前提に、後期はディスカッションを通して作品の解釈・観賞力を高めるとともに、文献リサーチ法を学び、ジャンル別に選択した作品についてグループごとの研究発表を行なう。なお、アイルランド文学講演や朗読会の参加等の学外教育が行われることがある。

【評価方法】

ゼミでの積極的な発言や研究発表を含む平常点と、学期毎のレポートによって成績評価をおこなう。

【テキスト】

Irish Literature - A Reader (Syracuse University Press) 予定

他にプリント教材

英文学講義演習 I a・b

山田 豊

【授業の概要】

日本も今日、わずかながら兆候を見せはじめている「多言語社会」を分析した本であり、世界の色々な地域のフィールドワークや、ある幾つかの言語を歴史的な視点から特徴をとらえたりと多岐に渡って書かれている。様々な言語が飛び交うと、融合したり、合体したり、対立したり、頑固に自己主張をしたりと様々な反応が起こるらしい。我等が英語は合体した言語の典型だろうし、EUの中では今でもフランス語とドイツ語は張り合っているが、英語が相手だと共同で対抗している。だがスイスでは英語を一番早くから勉強する事にしたらしい。アラブとアメリカの対立の根底には英語とアラビア語の根本的な違いがあるのかも知れない。

この様に言語達はほおって置くと、喧嘩や自己宣伝、引き籠もり、融合を繰り返すのだが、この著者はこの自然状態にどうやって国などが止めに入ったり、けしかけたりするかの方法を考えるプロである。しかし、我等日本人は未だそこまで考える状態には至っていない。だから日本語しかできないのだが、経験したことのない「多言語社会」を本の中で覗いて見よう。

【授業計画】

200ページ程度の厚さなので、全部読むのはきついで、前期はパート1の50ページ足らずを目標とし、後期は残りの部分を選んで読むと考えている。英語の講読の授業のように順番にあてて訳してもらいながら進もうと思う。それほど難しい英文ではないから大丈夫。それと同時に、各人が関心のある事柄、一つの国の言語の状況でも、一つの言語でも何でもよいから見つけて欲しい。早いほうが良いに決まっているが、あわてる必要はない。言語と言うものは誰もが使っている物だから構えなくとも、身近なテーマでもOKだ。教科書を補足するために新書版の本を中心に、比較的読みやすいものを何冊か読もう。第二外国語で少しは知識のあるヨーロッパから行こう。まずは、岩波新書の「現代ヨーロッパの言語」を四月までにゲットして軽く読んでおいて下さい。著者は田中克彦とH. ハールマン。参考図書として、田中克彦の「ことばと国家」P. トラッドギルの「言語と社会」等。英語のテキストが読み終わったら [The French Book] を二冊目に読もう。これも厚くないが、かなり「眼からウロコ」な本なのだ。

【評価方法】

テストはしない。出席及び積極的に参加したかで決める。

【テキスト】

Language Wars & Linguistic Politics. Luis-Jean Calvet: Oxford Uni.P.(1998).

The French Book. Henri-Jean Martin: Johns Hopkins University Press.(1996).

英文学講義演習 I a・b

横関美津紀

【授業の概要】

英語文学の研究 I

最近、従来の「英米文学」という言葉とともに「英語で書かれた文学」という言葉が用いられるようになってきましたが、これはどのような意味を持つのか、最近の文学の動向に注目します。そして、作品が書かれた時代や社会、歴史、文化に関する文献と併せて作品を読解し、テーマや表現方法等についての理解を深めることを目標とします。

また、日々楽しんで聴いている洋楽の歌詞は、私達が最も親しみを持って接している詩であると考えられます。そこで、受講生の皆さんが「面白い」と感じられた歌詞を持ち寄り、テキストとして分析を試みる実験にもチャレンジする予定です。

【授業計画】

第一回 イントロダクション

第二回以降 主に19世紀以降のイギリス、アイルランド、アメリカの作家による詩や詩論、小説、劇作品、洋楽の歌詞などを取り上げます。

テキストの精読を通して英語の読解力を養い、ディスカッションを行うことで、作品をどのように読むことができるのかを検討する場にしたいと考えています。

【評価方法】

学期毎に課すレポートに平常点（授業の事前準備、積極的な参加）を加味して総合的に評価します。

【テキスト】

アイルランド文学小事典（松村賢一編 研究社）

他にプリント教材

英語学講義演習 I a・b

樗木勇作

【授業の概要】

現代英語学 I

最近の英語学の研究動向を知ること、研究テーマを見出すこと、英語力を向上させることを目標とする。英語を言語学的な点から研究している論考・論文を雑誌や論集から選び、ディスカッションの材料とする。同時に、英字新聞やテレビの英語ニュースを教材にして、英語運用能力の向上も目指す。

【授業計画】

1. 英字新聞講読
2. リスニング練習 (CNN)
3. テキスト精読
4. 論文レポート

【評価方法】

レポート+小テスト+平常点 (出席・授業態度)。

【テキスト】

Linguistics An Introduction to Language and Communication FIFTH EDITION

(Adrian Akmajian, Richard A. Demers, Ann K. Farmer, and Robert M. Harnish (2001), MIT Press \$35.00 (paper))

英語学講義演習 I a・b

太田浩司

【授業の概要】

このゼミでは言語を人間の社会活動の重要な「道具」とすると同時に「産物」とみなし、我々がそれをどのように使用しながら毎日の生活をしているかを社会言語とコミュニケーションという立場から探っていく。予定しているトピックは以下の通りである。

1. What is a language?
2. Language variation
3. Language attitudes
4. Speech accommodation & Intercultural Communication
5. Politeness
6. Bilingualism

【授業計画】

授業の計画は学期の最初に詳しく説明する。授業形態は前期・後期を通して教科書を読んだのディスカッション、及び実験などのミニグループプロジェクトの発表である。

【評価方法】

出席、個人発表、グループプロジェクト

【テキスト】

未定

英語学講義演習 I a・b

丹羽都美

【授業の概要】

英語学基礎演習で学んだ内容をもとに、英語学の様々な領域の中から、特に言語の構造に注目した分野である統語論と、実際に言葉が話される場合に何がおきているのかに注目した分野である語用論とを中心にして、さらに一歩踏み込んだ研究をする。

【授業計画】

前期 a

第1回 Introduction

第2回 基礎知識の復習

これ以降、統語論・語用論の二分野を内容に応じて、毎時二本立て、もしくは、1週交替で研究していく。場合に応じて、関連する論文・書物を和文・英文をまじえて読み、研究する。

後期 b

前期の方法に準じながら、自分が最も興味をもった分野についてさらに資料研究を進める。最終的に自分の研究した内容をレポートにまとめる。

【評価方法】

授業に望む姿勢、レポートなどを総合的に評価する。

【テキスト】

必要に応じて配布・指示する。

英語学講義演習 I a・b

小泉直

【授業の概要】

英文法再考

最近の文法研究で得られた成果を盛り込みながら、日本人が興味を持ちそうな文法事項を中心に英文法を再考する。また、英語を多面的に捉える目を養うため、時々社会言語学や言語文化学の研究についても紹介する。

【授業計画】

学生が輪番で割り当てられたセクションをレポートし、必要に応じて補足説明を加えていく。

取り上げる文法事項

前期：様々なタイプの文・句

後期：品詞、構文等

【評価方法】

平常点（出席状況や授業での発表）と章ごとに課す課題とにより総合的に評価する。

【テキスト】

Essentials of Modern English Grammar (K. Imai et al. 研究社)

【参考文献・資料】

授業中に適宜紹介する。

米文学講義演習 I a・b

唐澤 恪

【授業の概要】

この講義演習では、19世紀から現代にかけてのアメリカの主要な文学作品のうち、主に小説をとりあげて概観する。英文概説書を読み、これを補足する形で授業を行う。学生諸君は、いずれかの作品を選んで読み、卒業論文への手掛かりをつかんでもらいたい。

前期に扱う作家：E.A.Poe, F.Douglass, N.Hawthorne, H. Melville, H. James, M. Twain, W. Cather

後期に扱う作家：F. S. Fitzgerald, E. Hemingway, W. Faulkner, J. Steinbeck, R. Wright, J. D. Salinger, J. Kerouac, T. Pynchon, T. Morrison

以上の作家の作品以外にも、重要と思われる詩人、劇作家、思想家の著作について学んでいく。

【授業計画】

英文概説書の輪読、質疑応答、教師による補足・敷衍という順序で授業を行う。適時に課題を与え、発表を求める予定。

【評価方法】

テスト（前期）、レポート（後期）の成績に平常点を加味して評価する。

【テキスト】

Popular Classics of American Literature
(M. Kowalewski 英宝社)

米文学講義演習 I a・b

池谷敏忠

【授業の概要】

アメリカ近代詩研究と題し、19世紀アメリカの代表的詩人の作品を取り上げ、絵画性、音楽性を考えながら、意味を考察します。

【授業計画】

前期は下記の詩人の作品を取り上げます。

Walt Whitman

E. A. Poe

and others

後期は下記の詩人の作品を取り上げます。

Emily Dickinson

Anne Bradstreet

and others

信頼できる詩集の有名な詩を選んでプリントにし、輪読します。

【評価方法】

レポートまたはテストに演習内容、各自の出席状況を加味して評価します。

【テキスト】

原書のプリント。

米文学講義演習 I a・b

太田直子

【授業の概要】

20世紀アメリカ小説の研究 I

20世紀アメリカ文学を中心に、代表的な作品を読み、アメリカ文学を概観する。

【授業計画】

前期：

Stephen Crane, *The Open Boat*
Theodore Dreiser, *An American Tragedy*
Sherwood Anderson, *The Egg*
Sinclair Lewis, *Babbitt*
John Dos Passos, *U.S.A.*
William Faulkner, "A Rose for Emily"
Ernest Hemingway, "The Killers"

後期：

John Steinbeck, "The Chrysanthemums"
Richard Wright, *The Ethics of Living Jim Crow*
Ralph Ellison, *Invisible Man*
Saul Bellow, *Mosby's Memoirs*
John Updike, "The Alligators"
James Baldwin, *A Native Son*

【評価方法】

ゼミでの発表等の平常点とレポート

【テキスト】

上野直蔵 *Masters of American Literature - An Anthology* 2nd Edition 南雲堂

英文講読 I a・b

中島賢二

【授業の概要】

エドガー・アラン・ポーと並んで推理小説の元祖とされているウィルキー・コリンズの短編推理小説をテキストにして、英文を正確に読む訓練をします。翻訳されたものと対照して読みながら、自分だったら、この英文はこう訳す、というような姿勢で授業に臨み、日本語にも関心がある人、また、推理、ミステリー小説の好きな人の受講を望みます。

【授業計画】

前期 「家族の秘密」

後期 「夢の女」

【評価方法】

簡単なレポート、定期試験、授業に積極的に参加したかなど、総合的に判断します。

【テキスト】

ウィルキー・コリンズ作『夢の女・恐怖のベッド』（岩波文庫）

プリント配布

【参考文献・資料】

ゴシック小説を読む（小池 滋 著 岩波書店）

英文講読Ⅱ a・b

デイビッド・C. ダイカス

【Course Content】

This course will involve students reading different types of reading materials for different purposes using different reading skills. The focus will be on developing reading speed and accuracy, and on building vocabulary. In the first part of each class students will study the same materials and practice the same skills using the class textbook. The other part of each class will be devoted to using the SRA reading laboratory materials for both intensive reading and speed reading practice at a level that suits each student's level of ability. Other materials and activities will be used to supplement the textbook and the SRA materials.

【Schedule】

Specific decisions regarding the order in which material will be read, skills practiced, and vocabulary/structures studied will be made after a reading placement test is administered to the class.

【Assessment】

Assessment will be based on 1) attendance and participation (since most work will be done in class), 2) occasional quizzes, 3) the amount and quality of work done on the SRA materials as shown in the SRA record book students will keep, and 4) a test at the end of the semester.

【Textbooks】

To be announced

英米事情 a・b

ポール・ルイス

【Course Content】

This course will examine how Britain and the West are changing, in particular with regard to their unique mixture of tradition and innovation. In many cases, the old stereotypes are no longer relevant, and we shall study the most recent developments in various areas, including culture, society, politics, education, industry, and the arts.

The course will be presented entirely in English, and students are urged to minimise the amount of Japanese they use in the class.

【Schedule】

Each class will feature one topic (e.g., food, theatre, youth culture); after some initial input from the teacher and various materials, students will be given the chance to discuss and do other activities.

【Assessment】

Assessment will be according to class participation, attendance, and project work.

【Textbooks】

First semester:

Windows on Britain (Richard MacAndrew OUP)

Second semester

Inside stories USA (Jeff Martin Seibido)

英文講読Ⅲ a・b

水岡 久

【授業の概要】

テキストは、retoldされたものであるが、副筋や脇後が十分配慮され、原作の持ち味が生かされたものである。最初の講義で、シェイクスピアの波乱万丈に富んだ人生をビデオで紹介する。本講に於いては、作品 Romeo and Juliet を扱う。この作品は、シェイクスピア初期の作であり、運命悲劇とか抒情悲劇と称されている。作品を通じて「運命」や「恋愛」について考察する。劇中最も有名なバルコニーでの場面のロミオの愛の告白である独白 *But soft, what light through yonder window breaks? / It is in the east, and Juliet is the sun.* (静かに！何だろう。向こうの窓からもれてくる光は？東の方だ。ジュリエットは太陽だ。) これに対してジュリエットは、*O Romeo, Romeo! wherefore art thou Romeo?* (ああ、ロミオ、ロミオ！何故、あなたはロミオなの?) と言って、人目惚れした相手が宿敵モンタギュ家のものであることを嘆く。ジュリエットは、ロミオと別れる際に *Good night, good night! parting is such sweet sorrow, / That I shall say good night till it be morrow.* (お休みなさい、お休みなさい！別れは嬉しいような悲しいです。明日までお休みなさいと言い続けますわ。) このように有名な台詞や独白が巻末に記されているのでシェイクスピアの技巧的な言語芸術も味わう。

【授業計画】

本講では、読解力を身につけることが主眼であるが、毎時間この作品のテープを聴き、併せて聴解力も養う。読了してから、「ロミオとジュリエット」のビデオを鑑賞する。最初に「シェイクスピアの生涯と作品」と題するレポートと最後にこの作品に関する小論文を課す。

【評価方法】

定期試験の成績、レポート・小論文の評価、出席・予習状況、受講態度などの総合評価を行う。

【テキスト】

New Tales from Shakespeare (R. L. Green・川地美子
注解 成美堂 1,200円)

英文講読Ⅲ a・b

天野純子

【授業の概要】

トーマス・ハーディの短編小説を読んでいく。作品の文体、構成、及び時代背景についても学んでいきたい。

【授業計画】

1回の授業で1セッションずつ進めて行く予定。

【評価方法】

出席状況、平常点、定期テストによる。

【テキスト】

ALICIA'S DIARY (姉の日記) (成瀬小四郎註解 成美堂)

英文学講義Ⅱ a・b

山田 豊

【授業の概要】

イギリスの文芸が最も開花した時代の一つであるエリザベス一世の時代を扱う。シェークスピアの時代でもあり、イギリスが世界に発展し、英語が世界語になったきっかけの時代でもある。後のイギリスが世界に広めた自由や人権の先駆けとなった時期でもあり、良い面ばかりが強調されてきた。その反動もあろうが、ここ20年位はまるで独裁国家のような言われ方である。確かに、身分の低いシェークスピアが政治を自由に語り、大貴族がラブソングを書き、と一見自由な時代に見えるが、実は不自由な時代だったらしい。いずれにせよ今とは全く違う世界で、見た目は同じ人間だが、中身はまるで違う人間たちだったようだ。そんな人間の書いたものを現代人の眼で読んで、泣くべきところで笑っているのも一つの読み方である。だが、どんな時代に書かれたのか等を考えるのも楽しい。又、現在の特にアメリカで出版されている文学研究書を読むためにも、ミッシェル・フーコー用語を知らないとお手上げな状況である。この種の語彙も覚えよう。まずはイギリス文学史のエリザベス朝あるいはルネッサンスの章をコピーしよう。

【授業計画】

前期——時代を知る。

- エリザベス朝の世界観 ティリヤード著 筑摩叢書 367
- エリザベス一世 植村雅彦著 教育社歴史新書 A21
- ミッシェル・フーコー 内田隆三著 講談社現代新書
- その他 英語のコピーを用意する予定

後期——文学作品を読む。

- 予定 リチャード三世、ヴェニス商人。
恋愛詩をいくつか。
及び英語の論文のコピー。

【評価方法】

英語が読んで訳せるか、及び用語や作品、作家についての簡単な知識を問う。

英語のコピーはあてて訳してもらう。

【テキスト】

上に記した本。

米文学講義Ⅱ a・b

唐澤 恪

【授業の概要】

19世紀のアメリカ小説には、18世紀ヨーロッパに顕著になった人間観の変化を反映するかのように、二重的な、あるいは多層的な人物像が数多く提示されている。この講義では、その典型的な実例を観察し、19世紀アメリカ小説についての理解を深めていきたい。

前期には、アメリカ初期小説の作家C. B. Brownの作品から始めて、R. M. Bird、G. Lippard等の作品を取り上げ、後期には、E. A. PoeやN. Hawthorneから、自然主義作家に至る諸作家の作品を取り上げる。作品の抜粋も示し、そのスリリングな面白味を味わってもらいたいと思う。

【授業計画】

作家・作品紹介、作品抜粋の鑑賞、評釈、という順序で講義し、適時に時代背景や用語について解説する。

【評価方法】

適切な範囲についてのテストを行い、これについての評点に平常の学習態度の評価を加味する。

【テキスト】

プリント配布。

英米文学特殊講義Ⅱ a・b

山田幹郎

【授業の概要】

シェイクスピア作『ロミオとジュリエット』の講読と解釈。

楽しい授業は楽しいテキストから、と言っても、シェイクスピアを原文で読むのは大変です。幸い、このテキストはできるだけ多くの人に、できるだけ近づきやすいように読みやすく工夫してあります。この悲劇を精読（時に速読）する過程で、その批評・解釈史上の問題点について基本的な知識を修得し、さらにその知識を踏まえつつシェイクスピアの悲劇について考えることにしましょう。

【授業計画】

前期

- 1 序論
- 2 第1幕
- 3 第2幕
- 4 第3幕

後期

- 1 第4幕
- 2 第5幕
- 3 『ロミオとジュリエット』批評史とその問題点
- 4 シェイクスピアの悲劇

【評価方法】

レポート及び各学年末試験により評価する。

【テキスト】

Romeo and Juliet (岩崎宗治 編注 大修館書店)

英語学特殊講義Ⅱ a・b

大室剛志

【授業の概要】

概念意味論の基本的なメカニズムについて講義した後、英語の具体的な構文をいくつか取り上げ、その構文の統語的特徴、意味的特徴などについて論じる。英語学の研究テーマの発見の仕方、英語学での議論の立て方などを学ぶ。

【授業計画】

前期

概念意味論の基本的なメカニズムについての講義、存在文、動名詞構文、挿入文、名詞節としてのif節、半動名詞構文、など。

後期

同族目的語構文、動作表現構文、One's Way構文、特定の同族目的語、No sooner...than構文のバリエーション、I'd rather you didn'tをめぐって、など。

【評価方法】

出席状況と単位認定試験の成績により評価する。

【テキスト】

入門 生成言語理論 (田中伸一、阿部潤、大室剛志著 ひつじ書房)

インターリンガルコミュニケーション a・b

ジョアン・M. ウッドマン

【Course Content】

This course aims to engage the students in discussions about contemporary Japanese culture, whilst also providing some introductory training for basic interpreting.

Students will have to talk about, and explain, aspects of Japanese culture and lifestyle in English. Participants in the course will be required to display self-confidence in discussions, and demonstrate a learned interest in Japanese culture as well as cultural differences.

Students who have already travelled overseas, or who have a keen interest in communicating with foreigners, will benefit the most from this course.

【Schedule】

- Section 1. Topics. “How to Survive in Japan” .
Section 2. Topics. “Show and Tell”
Section 3. Topics. Beat Takeshi's TV program will be used to stimulate discussion about Japan , from the point of view of 100 foreigners .
Section 4. Topics. Student videos/ “Show and Tell”

【Assessment】

- First semester :- 3 x 10 minute tape recordings - 60 %
- class activities - 40 %
Second semester :- 1 x 10 minute Video + script - 60 %
- class participation - 40 %

【Textbooks】

None

クリエイティブライティング a・b

キース・イーズリー

【Course Content】

The aim of this course is to develop students' abilities to produce original imaginative writing in English. Models of prose, poetic & dramatic forms will be studied, with a view to students producing their own work in these forms. The course will, therefore, involve some reading & critical discussion, but the emphasis throughout will be on the students' own writing.

The course will be limited to a maximum of fifteen students. Prospective students must bring an example of their own writing to the first class: this may be any form of original, imaginative writing. Eligibility for the course will depend on the quality of this writing.

【Schedule】

In the first semester we will focus on descriptive writing, poetry, and narrative. In the second semester we will also concentrate on dialogue, situation and viewpoint expressed in a number of forms.

【Assessment】

The course involves regular written homework. Assessment will be continuous. There will be no final test.

【Textbooks】

NONE.

英文学講義演習Ⅱ a・b

柳原佳枝

【授業の概要】

＜英文学とキリスト教文化Ⅱ＞

3年次の＜英文学とキリスト教文化Ⅰ＞に引き続き、英文学とキリスト教文化の関わりに視点をおいて英文学の作品研究を進める。

【授業計画】

受講学生による読解や意見の発表、及びレポートを中心に、授業担当者が適宜補足する。

〈前期〉

J. Donne, W. Blake, J. H. Newman, などによる宗教詩を取り上げ、そこにみられる心象や象徴などについて検討し、詩想を考察する。

〈後期〉

G. Greene, M. Spark などによる長編小説を取り上げ、その特性を考察する。

題材は受講学生が選択し、レポートを担当する。

【評価方法】

期末のレポートと平常点（事前の準備、活発な意見の発表、担当した課題についてのレポートの成績、など）で総合的に評価する。

【テキスト】

前期：プリント配布。

後期：授業中に指示。

【参考文献・資料】

授業中に随時指示。

英文学講義演習Ⅱ a・b

大野光子

【授業の概要】

アイルランド文学演習Ⅱでは、ノーベル賞受賞者 Seamus Heaney の作品を含む、20世紀のアイルランド文学を読む。アイルランド国内作家の他、イギリスやアメリカに移住した作家の作品や、現代女性作家や詩人の作品も視野に入れて、文学批評をおこなう。

3. 20世紀のアイルランド文学

—カトリック・アイルランドとナショナリズム

(1) W. B. Yeats と S. O'Casey の女性像をめぐって

(2) J. Joyce の *The Dubliners*

(3) 検閲制度と表現

(4) アメリカ移民とアイルランド映画

4. 現代アイルランド文学

—紛争を越えて

(1) 南北アイルランド社会と文学表現

S. Heaney, M. Longley, B. Friel を中心に

(2) 文学とジェンダー

E. Boland, N. Ní Dhomhnaill を中心に

(3) 詩／小説／劇／映画 に見るアイルランド社会

【授業計画】

「演習Ⅰ」に続いて、詩・演劇・小説の各ジャンルから学生が選択した作品について、グループ毎にリサーチや討論を行い、パソコンによる資料作成や英語によるプレゼンテーションも含めて、2回程度の発表を課す。個々のゼミ論文作成指導も行ない、学生はゼミ論文集を編集・制作する。なお、アイルランド文学講演や朗読会への参加等の学外教育が行われることがある。

【評価方法】

ゼミでの積極的な発言や研究発表を含む平常点と、学期毎のレポートによって成績評価をおこなう。

【テキスト】

Irish Literature - A Reader (Syracuse University Press) 予定

他にプリント教材

英文学講義演習Ⅱ a・b

久野幸子

【授業の概要】

イギリス小説とそれらが書かれた時代との関係を、社会の諸制度、政治、経済、歴史、宗教、生活習慣などさまざまな視点から検討・考察する。視聴覚教材も多用する予定である。

【授業計画】

今年度は「イギリス女性作家とコロニアリズム」をテーマに、イギリス小説と英国社会との関係を考察する。作家としては、17世紀のアフラ・ベーン、18世紀のセアラ・スコット、19世紀のメアリー・シェリー、ジェイン・オースティン、シャーロット・ブロンテなどを扱う予定である。

各期の始め、講義も行なうが、全体として、受講者全員に個人及びグループによるクラス発表やディスカッションの機会を多く提供することを目指す。最後にプレゼンテーションしたものをもとに、受講者全員に執筆してもらい、「2003年ゼミレポート」（仮題）を編集・作成する予定である。

【評価方法】

平常点（出席、受講・発表態度など）と期末の筆記テスト・レポートで総合的に評価する。

【テキスト】

未定

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

英語学講義演習Ⅱ a・b

樗木勇作

【授業の概要】

現代英語学Ⅱ

最近の英語学の研究動向を知ること、研究テーマについての考察を深めること、英語力を向上させることを目標とする。英語の言語学的な研究など、英語についての各自の研究テーマを、英語でプレゼンテーションする。同時に、英字新聞やテレビの英語ニュースを教材にして、英語運用能力の向上も目指す。

【授業計画】

1. 英字新聞講読
2. リスニング練習 (CNN)
3. テキスト精読
4. 英語プレゼンテーション

【評価方法】

レポート+小テスト+平常点（出席・授業態度）。

【テキスト】

Linguistics An Introduction to Language and Communication FIFTH EDITION

(Adrian Akmajian, Richard A. Demers, Ann K. Farmer, and Robert M. Harnish (2001), MIT Press \$35.00 (paper))

英語学講義演習Ⅱ a・b

五島幸一

【授業の概要】

人の言語および非言語行動に影響を及ぼす文化について、日本とアメリカを例にとりながら考える。それとともに、スピーチや新聞報道などを含んだ言語表現についても考察していく。

【授業計画】

テキストを中心に行うが、副教材としてプリント、ビデオなどを使用する。ゼミでは学生の発表を主体とする。

【評価方法】

授業への参加度およびタームペーパーにて評価する。

【テキスト】

Beyond Culture (Edward T. Hall, Anchor Books)

英語学講義演習Ⅱ a・b

太田浩司

【授業の概要】

本演習では、演習Ⅰで培った社会言語学の基礎をベースにして、コミュニケーションという方面へ目をむけて行く。特に異なった社会集団に属する人々同士の間で行われるコミュニケーションにおいて、人々がどのように自らの言葉を調節しているかについて、その心理面、言語面、人間関係面に焦点をあてて探っていく。演習Ⅰ同様、テキストや論文を読んで知識を高めると同時に、実験・観察などを通して実際に集めたデータを分析しながら言語に対する感覚をより高めていきたい。

【授業計画】

各学期の最初の授業に詳しい予定を提示する。

【評価方法】

出席、口頭発表、ペーパー

【テキスト】

Introduction to Sociolinguistics Mesthrie, R他 編集
Edinburgh University Press
その他、論文を適宜配布する

英語学講義演習Ⅱ a・b

小泉 直

【授業の概要】

英文で書かれた文法書を、特に日本人が苦手とする文法事項を中心に精読し、英文法に関する知識を深めることを目指す。

使用する文法書は最近の文法研究の成果を取り入れているだけでなく、旧来の規範的な立場を排し、徹底的な事実中心主義の立場から解説を行っているので、新しい文法観の形成にも役立つものと思われる。

【授業計画】

学生が輪番で割り当てられたセクションをレポートし、必要に応じて補足説明を加えていく。

取り上げる文法事項

前期：冠詞、時制・相、法助動詞等

後期：条件文、間接目的語、不定詞・動名詞等

【評価方法】

平常点（出席状況や授業での発表）と章ごとに課す課題により総合的に評価する。

【テキスト】

授業中に随時プリントを配布する。

米文学講義演習Ⅱ a・b

唐澤 恪

【授業の概要】

この講義演習では、プリント資料により、アメリカ史の重要事項を次のような区分で概観し、これと各時代の文化との関連を考察する。

<前期>

1. ヴァイキングたちの北米への進出から南北戦争時代まで。
2. 南北戦争後から大恐慌前まで。

<後期>

3. 大恐慌時代から現代まで。

後期にはさらに、上記の1～3の時代について、主に宗教、文学などの観点から考察する。

【授業計画】

要所所で宿題を課し、報告を求める。毎回、(学生の報告)→学生の訳読ないし大意発表→質疑応答→教師による注釈、という順序で授業を進める。

【評価方法】

成績評価は、平常点（特に重視する）とレポートによる。

【テキスト】

プリント配布。

米文学講義演習Ⅱ a・b

池谷敏忠

【授業の概要】

現代アメリカの代表的詩人の重要な詩を取り上げ、絵画的性、音楽性などを多角的に探究して、思想、情緒を研究します。

【授業計画】

前期は下記の詩人の代表的な作品を取り上げます。

Wallace Stevens

Robert Frost

W. C. Williams

and others

後期は下記の詩人の代表的な作品を取り上げます。

T. S. Eliot

Robert Bly

James Wright

and others

プリントを用いて講義・解説し、討論もします。

【評価方法】

レポートまたはテストと出席状況を加味して評価します。

【テキスト】

信頼できる原書のプリント。

米文学講義演習Ⅱ a・b

太田直子

【授業の概要】

20世紀アメリカ小説研究Ⅱ

William Faulknerの*Light in August*を読む。南部の歴史、作品の構成、時代背景を考察する。

【授業計画】

前期：

1章～10章

後期： 発表形式で

11章～21章

【評価方法】

レポートおよび、平常点（発表）

【テキスト】

William Faulkner, *Light in August* Vintage International,

論文

柳原佳枝 大野光子 久野幸子 池谷敏忠 唐澤 恪
太田直子 樗木勇作 五島幸一 太田浩司 小泉 直

【授業の概要】

各自が選定したテーマに関して、「論文」担当者（ゼミ担当教員）の指導のもとに卒業論文を完成させる。なお、論文は英語で書き、ワープロを使用するのが望ましい。

【授業計画】

「論文」担当者の指示に従い、「論文」を受講する。さらに、次の各締切日は厳守しなければならない。

5月7日（水）	午後4時	提出締切 論文骨子（2～3ページ）
7月10日（木）	午後4時	提出締切 論文梗概（5～6ページ）
10月10日（金）	午後4時	提出締切 論文初稿（約30ページ）
12月10日（水）	午後4時	提出締切 論文

【評価方法】

「論文」担当者を中心に、題目の選定、論旨の展開、文章表現法、注のつけ方等に着目し、総合的に評価する。

【テキスト】

各担当教員の指示に従うこと。

論文の書き方の一般的な説明については、以下の図書を参考にするとよい。

『英文科学生必携ハンドブック』（研究社）

『MLA新英語論文の手引』（北星堂）

『卒論を書こう』（棚木伸明 三修社）

言語学 a・b

アンドリュー・J・ムーディー

【Course Content】

This course will introduce students to the study of language variation as it occurs as a result of language contact and within monolingual environments. Topics that will be covered include regional, social, ethnic and gendered variation, bilingualism and multilingualism, pidgins, creoles and trade languages, second language variation, and language and identity. Students are expected to have a good understanding of linguistics and language structure before they enter the course, as these topics will depend upon a prerequisite knowledge of linguistics. Throughout the study of language contact phenomena, this study will introduce students to the theories and methods used to examine and understand sociolinguistics.

【Schedule】

- pidgins and creoles
- bilingualism/multilingualism
- second language variation
- code switching
- language attitudes
- endangered languages/endangered cultures
- dialectology
- regional variation
- social variation
- ethnic variation
- gender variation

【Assessment】

quizzes 20%
homework 20%
examinations 60%

【Textbooks】

東照二（1997）社会言語学入門

【Reference】

- Thomason, S. (2001) Languages in Contact: An Introduction.
Labov, W. (1994) Principles of Linguistic Change: Internal Factors.
Labov, W. (2001) Principles of Linguistic Change: Social Factors.
Coulmas, F. (ed.) (1997) The Handbook of Sociolinguistics.

比較文学 a・b

池谷敏忠

【授業の概要】

比較文学は国際間の（国と国との間の）文学的関係の歴史を調べ研究する学問です。この授業はT.S.エリオットの詩と菊村到の小説など日英米仏文学の影響関係を具体的に考察します。さらにエリオットの詩論と芭蕉俳論などの対比研究も試みます。

【授業計画】

前期は次の事項を予定しています。

- 比較文学の定義と本質
- 日本における *The Waste Land* の受容
- T.S.エリオットと立原正秋
- 共同体と個性の文学
- T.S.エリオットと小林秀雄

後期は次の事項を予定しています。

- T.S.エリオットとベルグソン
- 形而上詩人のアルス・ポエティカ
- 芸術作品の創造と伝統の継承
- Spectrum* に見る西脇詩の原型
- T.S.エリオットと西田幾多郎

テキストを用いて講義・解説します。受講生は必ずテキストを持参して下さい。

【評価方法】

レポートまたはテストと各自の出席状況を加味して評価します。

【テキスト】

比較文学論集（池谷敏忠 晃学出版 2,200円）

外国語としての日本語 a・b

石橋千鶴子

【授業の概要】

日本語の特徴を文法の面から英語を使って考察し、日本語を母語としない人を対象にした日本語教授法を指導する。

【授業計画】

日本語テキストおよびビデオ日本語教材を用いて、初級日本語教育で扱う文型、文法事項の英語による具体的指導法を考察する。外国語としての日本語の文法基礎知識を得ることが期待される。

【評価方法】

期末試験および日常の勉学状況により評価を行う。

【テキスト】

未定。

英文学海外セミナーⅡ

大野光子 キース・イズリー

【授業の概要】

＜イギリス文化・英語春期研修＞

春期休暇期間中に、本学交流提携大学であるイギリスのイースト・アングリア大学において、英国の歴史・文化・文学及び英語の総合指導を受けた後、英国内等の研修旅行を行う。修了者には、2単位が認定される。2003年度の子定は下記の通り。

2月中旬～3月初旬

3週間の UEA 英語・英国文化研修

その後1週間の英国・アイルランド国内バス旅行

午前及び午後：主に教室内学習

午後または夜：見学または観劇等

合計約40時間の学習

週末は、ケンブリッジ大学等視察

現地では、ホームステイ

【授業計画】

イースト・アングリア大学 CEB による本学学生用特別プログラムで、本学教員は原則的に同行しない。従って、全期間にわたり、全ての指導は現地教員により英語で行われる。

【評価方法】

CEB 教員の評価により本学が単位を認定する。

【テキスト】

現地にて指示。

本プログラムに参加するには、事前に「イギリス文化」または「アイルランド文化」を受講し、単位を取得することが条件となる。

アイルランド文化

ブライアン・カレン

【Course Content】

The course will be centered around Irish history, moving from early history up to the formation of the Irish Republic. The culture, traditions and literature of Ireland will also be presented through short readings, videos, puzzles and activities. Most of the factual information will be presented in a source book. Depending on time, some of this material will not be covered in class. Students are encouraged to read further into their areas of interest in the source book or in the other reference materials which are suggested.

The literature of Ireland shall also be introduced through short pieces from famous Irish writers. There will be a mixture of new and old, including Yeats, Patrick Kavanagh, Oscar Wilde, Roddy Doyle and George Bernard Shaw. The songs of Ireland will also be well-represented in the course, linking into the various topics as much as possible.

【Schedule】

Method : Students will be required to participate actively in class discussions and activities.

【Assessment】

Assessment : Grades will be based on participation, homework and a test.

【Textbooks】

Text book : An original text compiled by the teacher will be made available before the start of the course.

イギリス文化

キース・イズリー

【Course Content】

英語によるイギリス文化理解のための特別講座

イギリスの文化全般について、特にイースト・アングリア大学で行われる春期研修へとつながる内容を含みながら、英語聴解・発表力を養成すべく、指導するものである。併せて日本文化を相対化する視点・獲得も意図する。

The course will last for approximately twelve weeks, one period a week. Many of the following subject areas will be considered :

Britain's Contribution to World Culture

Money and Work

Language & History

Education

Food & Drink

Traditions, Manners, and Attitudes

Art, Film and Music

Britain's Class System.

Britain & Japan

Everyday Living

These subjects are not exclusive of one another, & their interconnectedness will be emphasised.

Throughout the course, the aim will be to show Britain's place in the World, historically & now. As opportunities arise, the connections between ASU & UEA will be emphasised. Class size will be limited and there may be a test in the first lesson.

【Schedule】

The course will be taught entirely in English. Each week there will be a lecture on one of the topics.

【Assessment】

Assessment will be continual, supplemented by a test at the end of the semester, & an individual written project to be completed by each student during the semester.

【Textbooks】

None

図書館情報学概論Ⅰ

村主朋英

【授業の概要】

この科目は、図書館情報学に関する学習の基礎固めのためのものである。Ⅰでは、図書館情報学における基本的な考え方および分野の特徴について概説する。

【授業計画】

1. 情報と知識の研究と実務に関わる分野
図書館学／情報学／図書館情報学
図書館情報学を学ぶための情報源／指定図書
2. 情報の流過程
情報の流れ／情報メディア
事例：学術情報の流過程
3. 情報の概念
概念・考え方・観点・立場
定義の多様性と現象の多面性
情報概念の歴史／情報・知識・データ
定義の整理のための枠組み／構造的な理解
認識・認知・こころ／人間・人・ヒト

【評価方法】

定期試験

- 注1) 「図書館情報学概論Ⅰ」の単位を取得済でない学生については、「同Ⅱ」の単位を認定しない。
- 注2) 「図書館情報学概論Ⅰ」の最終日に夏休みレポート課題を提示する。採点は「同Ⅱ」の成績に組み込む。今年度「同Ⅱ」のみ履修予定の学生は、7月初旬までに問い合わせること。

【テキスト】

『図書館情報学用語辞典』日本図書館情報学会用語辞典編集委員会編 丸善 3,800円(税別定価)

図書館情報学概論Ⅱ

村主朋英

【授業の概要】

この科目は、図書館情報学に関する学習の基礎固めのためのものである。Ⅱでは、図書館・情報サービスの実際に関して、最低限知っておくべき事項を紹介し、今後の学習への指針を提供する。

【授業計画】

1. 図書館・情報サービスの世界
構成要素と機能／情報システムとしての図書館
2. 館種ごとの概説
国立図書館／大学図書館／公共図書館／学校図書館／専門図書館
3. 協力と競合
図書館ネットワーク／競合する情報サービスの中で／電子図書館の概念
4. 図書館員と情報専門職の世界
5. 図書館情報学の将来

【評価方法】

定期試験と夏休みレポート

- 注1) 「図書館情報学概論Ⅰ」の単位を取得済でない学生については、「同Ⅱ」の単位を認定しない。
- 注2) 「図書館情報学概論Ⅰ」の最終日に夏休みレポート課題を提示する。採点は「同Ⅱ」の成績に組み込む。今年度「同Ⅱ」のみ履修予定の学生は、7月初旬までに問い合わせること。

【テキスト】

『図書館情報学用語辞典』日本図書館情報学会用語辞典編集委員会編 丸善 3,800円(税別定価)

卒業論文ゼミ I

岡澤和世

【授業の概要】

情報学の誕生とその時代背景を振り返り、その軌跡を共通認識として、情報行動を中心に情報システムとの関係を論じる。

特に、社会と人間と情報を中心テーマに、人間と機械のインターフェースや人への影響などの問題点を利用者の観点から評価し、社会と人間と機械の賢明な関係を模索する。講義中心の授業よりも、自主的な参加型授業を行う。

オリエンテーション

1. 情報学の起源

- 1) 図書館学の歴史と教育
- 2) Meadowsの考え
- 3) Sheraの考え

2. 情報学の研究範囲

1) 情報学の基準 2) B. C. Vickeryの範囲 3) 情報学の主要論文

3. 情報学の基礎

1) B. C. Brookes 2) 社会と情報 3) 情報の研究-F. Machlupら

4. 課題と展望

【授業計画】

講義は教科書を使って共通確認を共有する。その後、各自の意見や考えを出し合い討論する。

新聞記事などを使って人間・メディア・社会についての問題を考える。

【評価方法】

レポート 卒業論文

【テキスト】

情報学講義ノート<3> (岡澤和世 敬文堂, 1989)

インフォ・リッチ: インフォ・ブア

(Travor Haywood 岡澤和世訳 敬文堂, 1997)

卒業論文ゼミ I

西荒井学

【授業の概要】

情報システムの構築に必要な情報処理技術、ならびにプログラミング技術に関わる問題を扱う。この範囲内で受講者各自が設定すべき卒業論文のテーマについての指導を行っていく。

- 1) 卒業論文の書き方
- 2) テーマの選び方
- 3) 基本図書の調査と内容紹介
- 4) 先行研究についての調査と紹介
- 5) 卒論テーマの決定と研究方法

【授業計画】

受講者各自が、支持された内容について、指定日時までに必要な作業を実施してくる。これら作業内容に関して、作業方法、作業結果、問題点などについて、各自が報告する。

報告された内容については、受講者全員で検討していく。受講者全員が、4年次での卒論作成作業に問題なく移行できるように準備をする。なお、情報処理技術ならびにプログラミング技術における新しい専門用語などについても、折りに触れて学習していく。

【評価方法】

提示課題についての進捗状況、提示課題の報告内容、平常の作業活動内容、課題レポートなどによって総合評価する。

【テキスト】

テキスト使用せず。

卒業論文ゼミ I

野添篤毅

【授業の概要】

自然科学分野、とくに生物医学、健康分野における各種情報の流通過程で起こっている種々の問題について卒業研究を行っていくための足がかりを得るためのセミナーを行う。

【授業計画】

受講生の関心のあるテーマについて、最新の内外の学術研究論文を、デジタル情報資源などによって調査、収集し、その中から適切なものを個人個人が読みレポートをまとめ、発表し、討論していく。

【評価方法】

ゼミへの参加度および毎回のレジュメ。

【テキスト】

その都度、指示する。

卒業論文ゼミ I

林 博司

【授業の概要】

生命現象の中心である自己複製、種の多様化、環境への適応等の現象を司っている情報を整理し、新しい情報を産み出す事を目的として卒論をかく。取り上げる問題には脳神経系、内分泌系、免疫応答系、消化栄養系、生殖系がある。これらに関する情報整理、データベースの利用と開発を理解する。

上記の身体情報システムについての疾患と予防・治療・原因の整理。

遺伝情報を変化させるバイオテクノロジー技術の整理。

突然変異・遺伝子組み換えに関する情報の整理。

環境破壊因子・環境改善策・地球環境の変化等に関する政策と活動の整理。

ゲノム解析、ゲノムの機能解析に関する知見の整理。

以上のトピックス以外の生命情報に関する研究に関しても、各人の興味あるテーマを選んで、それらの歴史・現状・問題点を関連論文の収集、整理を通じて分析する。

基本的には卒論をスタートさせるための基盤の検討とテーマの選択を目的とし、そのための準備である。

【授業計画】

関連論文、総説を収集し理解し、随時まとめた原稿を討論の対称とし、論文にするための方法を考察する。卒業論文作成に役立つ資料と論議の進め方を学習する。英文の要旨の作成を行う。

【評価方法】

まとめた原稿を提出し、その内容と発表を以って評価し、学期の間の進歩を高く考慮する。出席とゼミ活動を含めた総合評価とする。

【テキスト】

特に定めません。日経サイエンスなどの科学雑誌に注目して下さい。

卒業論文ゼミⅠ

山崎茂明

【授業の概要】

現代社会の発展を基礎づけている科学研究活動を対象として、コミュニケーションと情報メディアに着目して、さまざまな視点から考察してみたいと思います。卒業論文テーマの明確化のために、関連文献の収集とレビューを行ない、調査対象の特定と方法について検討する。そして、論文発表と口頭発表のためのプレゼンテーション技法について学ぶ。

【授業計画】

みなさんが取りあげるテーマは多岐にわたると思いますが、ゼミ学生相互の意見交換はお互いに有益なものになると考えますので、ゼミを発表と討論の場として活用してください。今ひとつテーマをしばらく切れないといった悩みも問題解決のための一歩と考えていますので、そのことに正面から向き合うよう希望します。英文論文は良いものを選んでじっくり取り組んでみてください。多様な考えや新しいアプローチなど、みなさんの世界を広げてくれるはずです。

【評価方法】

卒業論文、レポート。

【テキスト】

講義内容に関係する基本文献を随時配付する。

卒業論文ゼミⅠ

山本 進

【授業の概要】

卒論のテーマとして取り上げる分野—館種を問わず図書館現場における『資料組織』・『サービス』・『施設と設備』・『図書館サービスの地域計画と図書館のシステムサービス』・『図書館協力』・『図書館業務のコンピュータ処理』・『図書館員の専門性』等—配付資料（講義シラバス）によって解説を行う。

【授業計画】

シラバスによる解説と、私からの問題提起、それに対する全員でのディスカッション、その中から問題意識を喚起し、ある程度の方向性を見出して、それらについてのノウハウを与え卒論の仮テーマを考える。

1～3月中旬に、公共図書館・大学図書館の現場で学外研修を実施し、卒論テーマを決定し、文献収集のうえ卒論の骨組みを決める。

【テキスト】

使用しない。

卒業論文ゼミ I

菅野育子

【授業の概要】

図書館情報学の中心課題の一つである情報流通に関する研究を行なう。特に情報メディアから見た情報流通について検討する。情報メディアとは、情報が生産され利用される場面で媒体として機能するものを意味するが、たとえば、図書、雑誌、学術論文、新聞記事、ネットワーク情報資源などである。これらの情報メディアが情報の生産、加工、蓄積、利用の過程でどのような役割を果たしているのかについて、現状を把握するための調査や実験を行なう。また、その基礎となる文献講読を行ないながら、背景知識を得る。卒業論文の作成は、文献レビューと調査を基に研究成果を記述することである。

【授業計画】

3年後期から開始されるゼミでは、3年次中に研究テーマを決定する。この間は、関連文献を探し、主要な文献のレビューを行ない、その内容をレジュメとともに口頭で発表する。4年次（卒業論文ゼミⅡ・Ⅲ）からは、研究テーマに基づく調査や実験を行なう。既往研究も参考にしながら、調査方法を検討した上で調査を実施する。夏期休暇中にゼミ合宿を行ない、中間報告をレジュメと口頭で行なう。卒業論文を執筆した後は、最終発表会に向けてパワーポイントを用いたプレゼンテーションの準備を行なう。

【評価方法】

研究への取り組みとゼミでの発表内容から評価する。

【テキスト】

なし

卒業論文ゼミ I

三和義秀

【授業の概要】

現在のハイパーテキスト・システムの仕組みやその応用分野を理解し、既存のハイパーテキスト・システムの機能を評価しながら本質的な問題点を探る。

ハイパーテキストが応用されているシステム（CD-ROM百科事典、WWWなど）を実際を使ってそれらシステムの機能を評価し、さらにその仕組みについて理解する。特に、インターネットとハイパーテキストの相互関係及びJava、CGI (Common Gateway Interface) またはC言語によるプログラミングに焦点を当てる。この範囲内で各自の卒論テーマの決定及び卒論執筆に向けての準備作業の指導を行う。

【授業計画】

講義及びコンピュータを使った実習にて進める。

【評価方法】

レポートにて評価する。

【テキスト】

授業中に指示する。

卒業論文ゼミ I

村主朋英

【授業の概要】

卒業論文のための研究の準備を行う。各自の問題意識を醸成し、それと研究動向についてのレビューをもとにテーマを決め、研究に入る。

【授業計画】

1. 仮テーマ決定
2. 用語調査と概念マップ作成
3. 関連分野の同定
4. 基本文献の収集・分析
5. 研究テーマの決定
6. 図書館情報学と自分のテーマの関係付け

【評価方法】

平常点（出欠、課題の提出状況）、最終レポート

【テキスト】

情報と文献の探索 第3版（丸善）（諸君がすでに履修した別講義で使用）

卒業論文ゼミ I

伊藤真理

【授業の概要】

卒業論文に向けて研究準備を行う。人文学分野を中心として、各自の興味のあるテーマについて関連文献の収集、分析を行い、卒業論文テーマの決定および研究方法を検討する。

【授業計画】

まず論文作成について概説する。履修者は各自の関心テーマに基づいて、4年次での卒業論文作成作業に必要な文献収集を行い、文献のまとめを報告する。各自の報告を履修者全員で討議、検討し、研究テーマ、調査方法決定の準備段階とする。

【評価方法】

平常点、レポートの総合評価。

【テキスト】

使用せず。

卒業論文ゼミⅡ・Ⅲ

岡澤和世

【授業の概要】

現在既存の情報システムが利用者の多様な要求に応えられない理由を明らかにし、情報技術へのヒューマン・ファクターと人間工学の導入の必要性を指摘する。利用者を中心に据えた情報技術の方法と道具を考察する。ゼミの目的は変動の激しい情報環境に生きている私たち利用者が、氾濫する情報に溺れることなく、正しい情報理解能力（リテラシー）を習得し、活用する方法を考察することである。

<前期>

オリエンテーション：情報環境

1. 情報と知識を結ぶ鎖
2. 情報アクセス
3. 情報瞬間
4. 情報と文化の関係
5. 情報メディア
6. 書物の歴史
7. 図書館の役割
8. 情報と女性
9. レポートの書き方

<後期>

オリエンテーション：卒論について

1. 情報環境
2. 情報学の歴史
3. 情報過多現象
4. 人間工学
5. インターネット
6. 情報政策
7. 情報の要求と利用
8. 情報社会の展開過程
9. 将来の情報環境

【授業計画】

前期は講義を中心に行なう。後期は各自の卒論テーマに従って解説する。

【評価方法】

レポート。卒業論文。出席回数。

【テキスト】

情報学講義ノート<3> (岡澤和世 敬文堂 1989)

インフォ・リッチ：インフォ・ブア

(Trevor Haywood 岡澤和世訳 敬文堂 1997)

卒業論文ゼミⅡ・Ⅲ

西荒井学

【授業の概要】

3年次履修科目である卒業論文ゼミⅠにおいて、各自が設定した卒業論文のテーマに従い、卒論指導を行う。

作業スケジュール

- 1) 卒業論文タイトルの決定 (4月)
- 2) 卒論(章)の構成 (5月上旬)
- 3) 文献リスト作成 (5月下旬)
- 4) 卒論(節)の構成 (6月)
- 5) 1節分の論文執筆仮提出 (7月下旬)
- 6) 中間発表 (8月下旬～9月上旬)
- 7) 卒論仮提出 (11月中旬)
- 8) 卒論本提出 (12月中旬)

【授業計画】

受講者各自が、卒論作成年間スケジュールに従い、それぞれ指示された内容について、指定日時までに必要な作業を実施してくる。受講者各自の卒論テーマに関する問題点について、受講者同志互いに発表、討論していくことにより、卒論完成に向けての相乗効果を図っていく。なお、中間発表は、夏期休暇中に合宿にて行う場合もあるので、注意すること。

【評価方法】

卒論作成作業の進捗状況、報告内容などについても一部考慮しない訳ではないが、その大半は提出卒業論文の内容により評価する。

【テキスト】

テキスト使用せず。

卒業論文ゼミⅡ・Ⅲ

野添篤毅

【授業の概要】

3年後期に行った卒業論文ゼミⅠによって、絞り込まれた卒業研究のテーマに沿って調査・研究、論文作成の指導を行う。

【授業計画】

毎回、自己のテーマについてのレポートをまとめ、発表し、討論していく。

【評価方法】

ゼミへの参加度および毎回のレジュメ。

【テキスト】

その都度、指示する。

卒業論文ゼミⅡ・Ⅲ

林博司

【授業の概要】

卒業論文ゼミⅠの期間に各自が設定した研究テーマに基づき卒業論文を完成させる。そのために各自で文献の収集、データの整理、問題点の把握、論旨の展開を行う。このゼミでは、こうした作業の進行状況を随時報告し、他の構成員らから建設的な批判を受け、論文をより深いものとするを目的とする。

【授業計画】

11月中旬までにドラフトが完成するよう、各学生に応じた方法で弾力的に指導する。

【評価方法】

各学生の積極性を重視し、楽しく学ぶ人を評価する。

【テキスト】

特に定めない。必要に応じて配布資料を教員が用意する。

卒業論文ゼミⅡ・Ⅲ

山崎茂明

【授業の概要】

現代社会の発展を基礎づけている科学研究活動を対象にして、コミュニケーションと情報メディアに着目して、さまざまな視点から考察してみたいと思います。4年後期には、論文テーマについての文献レビューや調査データについて、さらに発表と討論を積み重ね卒業論文をまとめていきます。

【授業計画】

みなさんが取りあげるテーマは多岐にわたると思いますが、ゼミ学生相互の意見交換はお互いに有益なものになると考えますので、ゼミを発表と討論の場として活用してください。今ひとつテーマをしばらく切れなないといった悩みも問題解決のための一歩と考えていますので、そのことに正面から向き合うよう希望します。英文論文は良いものを選んでじっくり取り組んでみてください。多様な考えや新しいアプローチなど、みなさんの世界を広げてくれるはずです。

【評価方法】

卒業論文、レポート。

【テキスト】

講義内容に関する基本文献を随時配付する。

卒業論文ゼミⅡ・Ⅲ

山本進

【授業の概要】

3年後期の「卒業論文ゼミ」において決定した卒業論文のテーマに従って、論文の構成・使用文献等についての集団指導及び個別指導を行い、夏休み前までには卒業論文の全体構成が眼に見える形になるよう、組み立てを終える。

【授業計画】

卒業論文に調査や調査統計が必要な場合は、調査の内容や項目、方法・結果の集約と纏めについて、具体的な調査の実施方法について指導を行う。

卒業論文の進捗状況中間発表のため、9月の上・中旬に2泊3日のゼミ合宿を実施し発表や討論を行う。

12月上旬卒業論文の提出、1月中旬に行われる卒業論文の発表に向けて指導を行う。

【テキスト】

使用しない。

卒業論文ゼミⅡ・Ⅲ

菅野育子

【授業の概要】

図書館情報学の中心課題の一つである情報流通に関する研究を行なう。特に情報メディアから見た情報流通について検討する。情報メディアとは、情報が生産され利用される場面で媒体として機能するものを意味するが、たとえば、図書、雑誌、学術論文、新聞記事、ネットワーク情報資源などである。これらの情報メディアが情報の生産、加工、蓄積、利用の過程でどのような役割を果たしているのかについて、現状を把握するための調査や実験を行なう。また、その基礎となる文献講読を行ないながら、背景知識を得る。卒業論文の作成は、文献レビューと調査を基に研究成果を記述することである。

【授業計画】

4年次からは、研究テーマに基づく調査や実験を行なう。3年次で検討した既往研究も参考にしながら、調査方法を吟味した上で調査を実施する。夏期休暇中にゼミ合宿を行ない、中間報告をレジュメと口頭で行なう。卒業論文を執筆した後は、最終発表会に向けてパワーポイントを用いたプレゼンテーションの準備を行なう。

【評価方法】

研究への取り組みと卒業論文の内容から評価する。

【テキスト】

なし

卒業論文ゼミⅡ・Ⅲ

三和義秀

【授業の概要】

各自の研究テーマに関する指導を行う。
卒業論文を完成するために、各自のテーマに従った先行研究の理解やシステム構築のためのプログラミングを行う。

【授業計画】

個別指導及び各自研究の進捗をゼミ生全員で発表・討論する。

【評価方法】

卒業論文にて評価する。

【テキスト】

授業中に指示する。

卒業論文ゼミⅡ・Ⅲ

村主朋英

【授業の概要】

卒業論文のための研究過程に沿って指導する。
卒論ゼミは、学術論文を作成するための機関である。ゼミでは、ほかのゼミ生や担当教員との意見交換を行いながら、基本的には自分で判断し、自分のモチベーションを機動力に研究を進める必要がある。

【授業計画】

1. 先行研究の分析、研究動向の把握
2. 問題設定
3. 研究方法の決定
4. 研究計画の策定
5. 研究の実施
6. 論文の企画・執筆

【評価方法】

平常点（出欠、課題の提出状況）。

【テキスト】

なし。

卒業論文ゼミⅡ・Ⅲ

伊藤真理

【授業の概要】

3年次に設定した各自のテーマに従って、学術論文を作成するための指導を行う。履修者全員による発表・討議を通して研究を進め、卒業論文をまとめていく。

【授業計画】

前期では、3年次から継続している先行研究のレビューのまとめと批判的考察を行い、各自で実施する調査について履修者全員で討議、検討する。
後期では、論文の文章表現法、執筆規程、引用などについて授業を行い、個別指導を中心とする。

【評価方法】

平常点、レポートの総合評価。

【テキスト】

使用せず。

図書館情報学特殊演習 I

岡澤和世

【授業の概要】

「情報環境」というコンセプトに焦点を当て、現代社会の情報問題を考える。演習を中心に各自の中心のテーマを決め、相互理解を深めていく。

今、情報環境が大きな変貌を遂げようとしている。高度情報化社会に生きている私たちは変わりゆく情報環境について認識を深め、氾濫する情報に溺れることなく、正しい情報理解力（リテラシー）を発揮するよう求められている。本講義では、そのために必要な情報は何かを中心に論じる。

【授業計画】

オリエンテーション：情報環境

1. 情報環境とニューメディア
2. 情報メディア
3. 情報アクセス
4. 情報不均衡
5. 情報と知識を結ぶ鎖
6. 記憶と情報
7. ニューラル・ネットワーク
8. 言語と会話
9. 書物の歴史
10. 女性と情報
11. インフォ・リッチ：インフォ・プア
12. 情報の質
13. 情報過多
14. 情報と文化の関係
15. 情報と漫画
16. 情報と広告
17. 情報とテレビ
18. 情報の一極集中化
19. 社会変化
20. 情報社会の展開過程と現状

【評価方法】

小論文と出席日数。

【テキスト】

情報学講義ノート〈3〉(岡澤和世 敬文堂 1989)

インフォ・リッチ：インフォ・プア

(Trevor Haywood 岡澤和世訳 敬文堂 1997)

図書館情報学特殊演習 I

西荒井学

【授業の概要】

各自が設定したテーマに応じ、プログラム言語あるいはアプリケーション・ソフトウェアを使用して、実際にシステム構築（もしくはプログラム開発）を行い、それらの内容を演習形式で学習していく。

- 1) テーマの決定
- 2) プログラム設計
- 3) プログラミング
- 4) テスト
- 5) 仕様書の作成
- 6) 評価

【授業計画】

受講者各自が設定したテーマに従って、毎時間実際にシステム構築（もしくはプログラム開発）に必要な各種作業を実施していく。取り扱うプログラミング言語あるいはアプリケーション・ソフトウェアについては、情報科学センターが所有するソフトウェアの範囲内であれば、それ以上の条件は別に設定しない。ただし、表計算ソフトウェアなどのアプリケーション・ソフトウェアを使用する場合には、マクロを使用するなど、唯一、プログラミングの要素を含むことを条件とする。

なお受講者各自に対して、最終的には、開発の目的、プログラム設計書（入力、出力、ファイル、プロセス）、ソース・リスト、操作マニュアル、総合評価からなるレポートの提出を義務付ける。

【評価方法】

プログラム開発の理解度ならびに進捗状況、課題レポートなどによって評価する。

【テキスト】

テキスト使用せず。

図書館情報学特殊演習 I

野添篤毅

【授業の概要】

自然科学分野、とくに生物医学分野における学術情報資源を探すための種々の手段（マニュアル、オンライン、CD-ROM、インターネット）、デジタル化されたツールについて演習形式で学んでいく。

取りあげるテーマとしては、

MEDLINE データベース (PubMed) の索引手法と検索、原文献（電子媒体を含む）の収集、および検索文献の質的評価（フィルタリング）の実習

を予定している。インターネットを使用するので情報科学教育センターでIDを取得すること。

【授業計画】

上記のテーマについて演習を行い、レポートをまとめる。また、PowerPointなどを使って演習成果の発表会を各学期末に行う予定。

【評価方法】

演習への参加度およびレポート、発表会。

【テキスト】

その都度、指示する。

図書館情報学特殊演習 I

林 博司

【授業の概要】

生命現象の中心である自己複製、種の多様化、環境への適応等の現象を司っている情報を収集・整理・分析・評価するための手法を学習する。自然科学のレビュー誌、紹介記事等を元にデータベースの構築をする為の基礎を研究する。資料は国内紙に留めず英文のバイオ関係科学誌からも取り入れる。4年生時の特殊演習のための基礎を作る。

邦文・英文の生命科学雑誌・学術雑誌・レビュー誌の紹介。

現在の論文検索システムの紹介とその利用。

キーワードに依る検索とキーワードの設定。

遺伝子・ゲノム・タンパク質分子の機能等のデータベースの紹介。

遺伝情報の解読・セントラルドグマ等の理解。

古典進化学と分子進化の理解。

演習では情報の作成・情報の伝達等について広範な知識を習得し、それを基に、情報の整理と利用度の拡張・新方式の作成を行う為の基礎作りをする。そのために、これまでの講義の内容の復習も取り入れる。

【授業計画】

講義以外は演習室を利用し、可能な限り実際のプロセスを楽しんでもらう。その為に文献を読む・整理する等に力を注ぐ。

【評価方法】

レポート、出席状況、論文・レビュー等の内容の把握努力で評価する。

意見の発表の頻度・内容を評価対象とする。

【テキスト】

特に定めない。

図書館情報学特殊演習Ⅰ

山崎茂明

【授業の概要】

フォーマルコミュニケーションの最も主要なメディアとして発展してきた学術雑誌を主たるテーマにして、学術雑誌の創刊時を中心とした歴史的アプローチ、現在の出版状況を数量的に把握する生態論的アプローチ、電子ジャーナルを中心とした未来論的アプローチ、レフェリーシステムに代表される本質論的アプローチ、投稿や雑誌の利用に焦点をあてた行動的アプローチなど、さまざまな視点から学術雑誌の機能を検討します。ゼミ参加者は情報学Ⅲ（科学コミュニケーション）と情報メディア論Ⅴ（科学技術情報）を履修し、そこで話されている内容に興味ある方が適切です。

3年時には、執筆、投稿、審査、編集、流通といったプロセスを、著名な総合科学雑誌NATURE誌を例にして、その歴史的な発展や電子化への取り組み、ニュースメディアとの関係、記事の種類と役割など、具体的に取りあげます。また、レフェリーシステムの役割をロールプレイにより体験し、信頼性の高い学術情報がいかに形成されているかを理解してみましょう。実際に多くの学術雑誌を手に触れながら、どのような人が、どんな目的で発表し、読んでいるのか、科学研究世界への想像力を持って取り組みたい。

【授業計画】

各自やグループにおける問題解決のプロセスを実践的に学ぶ機会としたい。そのために、基本文献の概要と動向のまとめ（文献レビュー）、論文のまとめかたと会議でのプレゼンテーション（PowerPoint実習を含む）など、調査と発表のための基礎知識もとりあげます。

【評価方法】

総合研究報告、レポート。

【テキスト】

講義内容に関係する基本文献を随時配付する。

図書館情報学特殊演習Ⅰ

山本進

【授業の概要】

取り上げるテーマは、館種を問わず、図書館の現場における資料組織、サービス、図書館の施設設備、図書館建築の諸問題、図書館サービスの地域計画、図書館サービスの測定と評価、図書館員の専門性等の諸問題について論ずる。

【授業計画】

講義内容に沿った資料を配付し、順次論述を進め、その中から、毎月1回程度レポートの提出を義務づけ、問題意識の集約を図る。

1～3月中に、公共図書館・大学図書館の現場で学外研修を実施し、研究テーマを確定したうえ文献収集を行い論文の骨組みを決める。

【テキスト】

使用しない。

図書館情報学特殊演習Ⅰ

菅野育子

【授業の概要】

図書館や博物館といった図書館情報学関連のテーマを題材に、特殊演習ゼミ生全員でガイドを共同作成する。ガイド作成は以下のような段階で行なう。

- (1) テーマに関する基礎知識を得るために、関連文献を探索し講読する
- (2) 関連文献を評価するために、文献の要旨についてレジュメと口頭で発表する
- (3) テーマに関する現状を把握するために、取材を行なう
- (4) 文献と取材から得たデータや知識を文章にまとめる
- (5) ガイドの構成やレイアウトを検討する
- (6) ガイドに採用する検索システムを決定するために、検索システムの調査を行なう

【授業計画】

3年次の半期間は、ガイド作成のための基礎知識をゼミ生全員で共有するために、文献の探索、講読、口頭発表を繰り返す。それと同時に、ガイドの構成や内容についてコンセンサスを得るために話し合いを定期的に行なう。ゼミの最終週には、次年度に向けての計画について報告会を開く。

【評価方法】

ゼミ活動への取り組みと発表内容から評価する

【テキスト】

なし

図書館情報学特殊演習Ⅰ

三和義秀

【授業の概要】

ハイパーテキストの仕組みを理解して本質的な問題点を探り、その改善手法について討論する。その範囲内で最終レポートのテーマ等を決定する。

CD-ROM百科事典やWWWなどを実際に使ったり、HTML、Java、CGI (Common Gateway Interface) などを使ってホームページを作りながらハイパーテキスト・システムの機能を評価して本質的な問題点を探る。また、それら問題の解決手法の関する先行研究を調査する。

【授業計画】

講義及び実習で進める。

【評価方法】

レポートにて評価。

【テキスト】

授業中に指示する。

図書館情報学特殊演習Ⅰ

村主朋英

【授業の概要】

私の特演ゼミでは、歴史情報に関わる演習を行なう。情報に関わる事物（情報活動・情報技術・情報サービス・情報学の理論・情報専門家など）に加えて、科学技術・哲学・文学・芸術・芸能・音楽、また教育や法律など、人間の生活や社会活動に関わるあらゆる事象の中から、各自でテーマを決め、歴史の探求を進める。3年次においては、予備知識・基礎知識をかため、問題意識を育むための作業を行う。

【授業計画】

1. テーマの設定
2. 用語調査と概念マップ作成
3. 年表の枠組みの検討
4. 基本文献の同定・講読
5. 年表（概略版）の作成および基礎知識のまとめ

【評価方法】

平常点（出欠、課題の提出状況）、最終報告書。

【テキスト】

情報と文献の探索 第3版（丸善）
（諸君がすでに履修した別の講義で使用）

図書館情報学特殊演習Ⅰ

伊藤真理

【授業の概要】

インターネットが普及している今日の環境において、情報の組織化（メタデータ）とその利用の意義について理解を深めることを目的とする。人文学分野の電子情報資源を対象として、メタデータおよびその利用、提供について演習を通して検討する。

【授業計画】

3年次では、電子情報資源の組織化に関する基礎的な知識の習得を中心とする。前半は講義形式で電子情報資源を対象とした様々な記述フォーマットなどについての基礎知識を学び、後半は様々な事例の考察を通して理解を深める。

【評価方法】

平常点、レポートの総合評価。

【テキスト】

使用せず（プリント配布）。

図書館情報学特殊演習Ⅱ・Ⅲ

岡澤和世

【授業の概要】

「情報環境」というコンセプトに焦点を当て、現代社会の情報問題を考える。演習を中心に各自の中心のテーマを決め、相互理解を深めていく。

今、情報環境が大きな変貌を遂げようとしている。高度情報化社会に生きている私たちは変わりゆく情報環境について認識を深め、氾濫する情報に溺れることなく、正しい情報理解力（リテラシー）を発揮するよう求められている。本講義では、そのために必要な情報は何かを中心に論じる。

【授業計画】

オリエンテーション：情報環境

1. 情報環境とニューメディア
2. 情報メディア
3. 情報アクセス
4. 情報不均衡
5. 情報と知識を結ぶ鎖
6. 記憶と情報
7. ニューラル・ネットワーク
8. 言語と会話
9. 書物の歴史
10. 女性と情報
11. インフォ・リッチ：インフォ・プア
12. 情報の質
13. 情報過多
14. 情報と文化の関係
15. 情報と漫画
16. 情報と広告
17. 情報とテレビ
18. 情報の一極集中化
19. 情報倫理
20. 情報社会の展開過程と現状

【評価方法】

出席とレポート。

【テキスト】

情報学講義ノート〈3〉（岡澤和世 敬文堂 1989）

インフォ・リッチ：インフォ・プア

（Trevor Haywood 岡澤和世訳 敬文堂 1997）

図書館情報学特殊演習Ⅱ・Ⅲ

西荒井学

【授業の概要】

各自が設定したテーマに応じ、プログラム言語あるいはアプリケーション・ソフトウェアを使用して、実際にシステム構築（もしくはプログラム開発）を行い、それらの内容を演習形式で学習していく。

- 1) テーマの決定
- 2) プログラム設計
- 3) プログラミング
- 4) テスト
- 5) 仕様書の作成
- 6) 評価

【授業計画】

受講者各自が設定したテーマに従って、毎時間実際にシステム構築（もしくはプログラム開発）に必要な各種作業を実施していく。取り扱うプログラミング言語あるいはアプリケーション・ソフトウェアについては、情報科学センターが所有するソフトウェアの範囲内であれば、それ以上の条件は別に設定しない。ただし、表計算ソフトウェアなどのアプリケーション・ソフトウェアを使用する場合には、マクロを使用するなど、唯一、プログラミングの要素を含むことを条件とする。

なお受講者各自に対して、最終的には、開発の目的、プログラム設計書（入力、出力、ファイル、プロセス）、ソース・リスト、操作マニュアル、総合評価からなるレポートの提出を義務付ける。

【評価方法】

プログラム開発の理解度ならびに進捗状況、課題レポートなどによって評価する。

【テキスト】

テキスト使用せず。

図書館情報学特殊演習Ⅱ・Ⅲ

野添篤毅

【授業の概要】

自然科学分野、とくに生物医学分野における学術情報資源を探すための種々の手段（マニュアル、オンライン、CD-ROM、インターネット）、デジタル化されたツールについて演習形式で学んでいく。

取りあげるテーマとしては、

- a. インターネットでアクセスできる生物医学関係の情報資源の調査・分析・評価（4年前期）
- b. インターネットによる情報発信の実習（ホームページの作成など）（4年後期）

など、を予定している。インターネットを使用するので情報科学教育センターでIDを取得すること。

【授業計画】

上記のテーマについて演習を行い、レポートをまとめる。また、PowerPointなどを使って演習成果の発表会を各学期末に行う予定。

【評価方法】

演習への参加度およびレポート、発表会。

【テキスト】

その都度、指示する。

図書館情報学特殊演習Ⅱ・Ⅲ

林博司

【授業の概要】

3年後期に引き続き、生命科学を中心とした、自然科学情報のデータベース作成を目指す。階層構造の構成から、データのコンポーネントまで全員で検討し、わかりやすく、楽しく、役に立つデータベースの構築を成し遂げる。

【授業計画】

目的を達成するために必要な指導を構成員のニーズに合わせて弾力的に展開する。

【評価方法】

各学生の作業への関わり方を総合的に評価する。

【テキスト】

必要に応じて手交する。

図書館情報学特殊演習Ⅱ・Ⅲ

山崎茂明

【授業の概要】

フォーマルコミュニケーションの最も主要なメディアとして発展してきた学術雑誌を主たるテーマにして、学術雑誌の創刊時を中心とした歴史的アプローチ、現在の出版状況を数量的に把握する生態論的アプローチ、電子ジャーナルを中心とした未来論的アプローチ、レフェリーシステムに代表される本質論的アプローチ、投稿や雑誌の利用に焦点をあてた行動的アプローチなど、さまざまな視点から学術雑誌の機能を検討します。4年次には、個人やグループで特定テーマを設定し、最終的には「特殊演習報告書、総合研究：学術雑誌」としてまとめることを目標にして、調査と発表をおこなっていきます。

【授業計画】

各自やグループにおける問題解決のプロセスを実践的に学ぶ機会としたい。文献検討だけでなく、訪問調査、見学なども取り入れ、実践的に考えていきたい。

【評価方法】

総合研究報告、レポート。

【テキスト】

講義内容に関係する基本文献を随時配付する。

図書館情報学特殊演習Ⅱ・Ⅲ

山本進

【授業の概要】

3年後期で問題意識の集約をした事項について、研究のテーマを決定し、論文の構成・使用文献等についての集団指導及び個別指導を行い、夏休み前までには研究論文の全体構成が眼に見える形になるよう、組み立てを終える。

【授業計画】

研究論文に調査や調査統計が必要な場合は、調査の内容や項目、方法・結果の集約と纏めについて、具体的な調査の実施方法について指導を行う。

12月上旬研究論文を提出。

【評価方法】

指導教員が日常の受講態度、出席状況、提出研究論文の内容等を審査し評価する。

【テキスト】

使用しない。

図書館情報学特殊演習Ⅱ・Ⅲ

菅野育子

【授業の概要】

図書館や博物館といった図書館情報学関連のテーマを題材に、特殊演習ゼミ生全員でガイドを共同作成する。ガイド作成は以下のような段階で行なう。

- (1) テーマに関する基礎知識を得るために、関連文献を探索し講読する
- (2) 関連文献を評価するために、文献の要旨についてレジュメと口頭で発表する
- (3) テーマに関する現状を把握するために、取材を行なう
- (4) 文献と取材から得たデータや知識を文章にまとめる
- (5) ガイドの構成やレイアウトを検討する
- (6) ガイドに採用する検索システムを決定するために、検索システムの調査を行なう
- (7) 作成したガイドを公表し、第3者による評価を行なう

【授業計画】

3年次に講読した文献からのデータも参考にしながら、前半は取材活動を中心に行なう。この間も、文献の探索・講読や、ガイドの構成・内容についての話し合いを継続する。ガイド作成後は、第3者によるガイド評価を行ない、その結果も含めた最終報告書を作成する。

【評価方法】

ゼミ活動への取り組みとガイドの内容から評価する

【テキスト】

なし

図書館情報学特殊演習Ⅱ・Ⅲ

三和義秀

【授業の概要】

各自のリポート・テーマに関する研究を行い、リポートを完成する。

各自の研究内容に関するシステム構築のためのプログラミングを行う。

【授業計画】

講義及び実習を進める。

【評価方法】

リポートにて評価。

【テキスト】

授業中に指示する。

図書館情報学特殊演習Ⅱ・Ⅲ

村主朋英

【授業の概要】

3年次に引続き、歴史情報に関わる演習を進める。ゼミの最終報告書となるプロダクトは、下記のいずれかのパターンとする（どれか一つ、または複数のパターンの組み合わせ）。

- (1) 叙述（物語・描写）
- (2) 詳細な年表（年表データベース、ハイパー年表）
- (3) 論考（仮説・検証）
- (4) 史料データベース作成
- (5) その他（WWWページ作成など）

【授業計画】

1. 問題の分析と仮説の設定
2. 史料の網羅的収集
3. 史料から得られる情報の分析・総合
4. プロダクト（報告書）の作成
5. プレゼンテーション（口頭発表等）

【評価方法】

平常点（出欠、課題の提出状況）、最終報告書

【テキスト】

使用せず。

図書館情報学特殊演習Ⅱ・Ⅲ

伊藤真理

【授業の概要】

3年次に習得した電子情報資源の組織化（メタデータ）に関する知識を応用しながら、個々の環境にあわせたメタデータの利用・提供について考察する。各自（個人又はグループ）で特定のテーマを選び、メタデータの効果的な利用について学ぶ。

【授業計画】

前期では、メタデータの利用・提供について事例を収集し、比較検討を行う。併せて各自のテーマを選定する。後期では、前期に提出したテーマに基づいて、電子情報資源を対象としたレファレンスツールの作成を行う。

【評価方法】

平常点、レポートの総合評価。

【テキスト】

使用せず。その都度指定する。

調査研究法Ⅰ（調査の基礎）

菅野育子 三和義秀 村主朋英 伊藤真理

【授業の概要】

図書館情報学における研究・調査のために必要な基礎的知識と技術を習得することを目的とする。

- 1 図書館情報学の研究方法
 - 1.1 図書館情報学研究の特徴
 - 1.2 図書館情報学の調査方法
社会調査法／記録資料の分析
- 2 研究計画と調査方法
 - 2.1 研究目的
 - 2.2 調査目的と対象
- 3 研究関連文献の探索と入手
 - 3.1 文献探索の方法
 - 3.2 二次資料の利用法
 - 3.3 原報入手の方法と書誌記述
- 4 学術文献の読み方・書き方
 - 4.1 学術文献をなぜ書くか・なぜ読むか
 - 4.2 学術文献をどう書くか・どう読むか
- 5 統計的方法
 - 5.1 Lotus 1-2-3を用いたデータの入力と分析
 - 5.2 統計的方法と表・グラフおよび算術的記述

【評価方法】

出席回数、授業中の課題、期末試験の結果を総合的に評価する。

【テキスト】

図書館情報学のための調査研究法（緑川信之他 勁草書房）

調査研究法Ⅱ（研究方法論）

菅野育子 三和義秀 村主朋英 伊藤真理

【授業の概要】

図書館情報学における研究・調査の事例を参考にしながら、実際に文献講読とレビュー作成、統計的手法を用いたデータ整理を行う。この過程において、研究・調査のための知識と技術を習得する。

- 1 図書館情報学の研究目的と調査方法の事例
 - 1.1 科学コミュニケーションの解明
ピフリオメトリックス／インフォーマル・コミュニケーション
 - 1.2 情報検索システムの構築と評価
データベースの構築例／データベース・二次資料の評価
 - 1.3 図書館サービスの評価
図書館建築／蔵書回転率／OPACの利用
- 2 レビュー作成の方法
 - 2.1 引用の形式と文体
 - 2.2 文献の引用に基づく論述の方法
 - 2.3 レビューの文体
- 3 Lotus 1-2-3を用いた統計的方法
 - 3.1 データの収集
無作為抽出法／標本の大きさ
 - 3.2 データの整理と表示
度数分布表、ヒストグラム、算術平均、標準偏差
 - 3.3 データの検定と分析
相関係数／SQRT関数

【評価方法】

出席回数、授業中の課題、期末試験の結果を総合的に評価する。

【テキスト】

図書館情報学のための調査研究法（緑川信之他 勁草書房）

プラクティカルイングリッシュ

山崎茂明

【授業の概要】

図書館員や情報専門家として働くときに必要と思われる英文資料や情報源を教材として取りあげ、読解力と背景となる事象へのアプローチを学ぶ。職業人として求められる身近な英語の文章を読んでいく。

【授業計画】

例えば、求人広告欄、書評、ニュース記事、学会参加申し込み、雑誌講読申し込み、図書購入、施設訪問手紙、図書館案内パンフレット、ホームページ、レファレンス資料の前書き、百科事典の記述項目などをとりあげる。参加者は、必ず英和辞典を持参すること。時間内での英訳や自宅での課題など予定している。

【評価方法】

訳読レポート、試験。

【テキスト】

課題文や資料を随時配付する。

プロフェッショナルリーディング

村主朋英

【授業の概要】

情報学・図書館学の学術論文等、専門的な文献を読解し利用する技能を養うための科目である。演習を中心に進めるが、英文であることを意識せずに効果的・効率的に読むことをめざすため、高度な英語力は要求しない。4年生の履修も大いに歓迎する。

【授業計画】

1. 論文の流れの掴み方
文章の構造的性/効率的な読解のテクニック/
専門用語を憶えることの意義
2. 演習(1): 短文全訳で腕試し
3. 演習(2): 文脈のわかっている英文の読解
4. 演習(3): 長文の斜め読み
5. 演習(4): コンピュータ関連の英文
6. レジュメの作り方
レジュメの要件/読みながらのレジュメ作成

【評価方法】

- (1) 平常点 (出欠および宿題の提出状況)
- (2) 試験 (情報関連の専門用語、短文読解)
- (3) レポート (外国語論文を読んでレジュメを作成)

【テキスト】

図書館情報学用語辞典 (日本図書館学会用語辞典編集委員会編 丸善 税別定価3,800円)

そのほか、各自英和辞典を持参すること。

情報学Ⅰ（生命情報増幅）

林 博司

【授業の概要】

生命は多くの情報システムによって支えられている。原始生命以来存在する先天的な遺伝情報系について学ぶ。

- 1：地球の誕生と生命の起源
- 2：遺伝子とは何か
- 3：核酸の構造と遺伝暗号
- 4：遺伝情報の伝達と発現
- 5：タンパク質の構造と機能
- 6：情報発現の制御機構
- 7：遺伝子像の変遷
- 8：遺伝子による生命現象の支配
- 9：遺伝情報系と言語情報系

【授業計画】

テキストに沿って体験的、視聴覚的に学ぶ。

【評価方法】

出席率、発言、レポートなどを基に総合的に評価する。

【テキスト】

生物の情報システム（竹村彰祐・大井龍夫著 講談社サイエンティフィク 2,800円）

情報学Ⅱ（生命情報増幅）

林 博司

【授業の概要】

生命は多くの情報システムによって支えられている。ここでは後天的な情報システムである脳神経系の情報処理について学ぶ。

- 1：脳科学の歴史
- 2：脳の構造と機能
- 3：神経細胞の成り立ちと神経回路
- 4：脳の可塑性
- 5：記憶のメカニズム
- 6：意識・感情についての理解
- 7：感覚系の進化
- 8：情報とは何か

【授業計画】

テキストに沿って体験的、視聴覚的に学ぶ。

【評価方法】

出席率、発言、レポートなどを基に総合的に評価する。

【テキスト】

生物の情報システム（竹村彰祐・大井龍夫著 講談社サイエンティフィク 2,800円）

【参考文献・資料】

情報生物学入門（鈴木英雄ほか著 培風館 2,427円）

情報学Ⅲ（図書館と情報検索の歴史）

村主朋英

【授業の概要】

図書館サービスと情報検索サービスの発達過程を中心に図書館情報学分野に関わる歴史を概観する。古代から、ルネサンス期までを対象とし、IVに引き継ぐ。

【授業計画】

0. オリエンテーション

歴史を学ぶ意義／情報化社会論と情報史

1. 古代文明のメディアと情報・知識
2. ギリシア・ローマにおける革新
3. 中世の学術と書物・図書館
4. 印刷革命
5. 学術情報流通システムの成立

【評価方法】

定期試験 ※穴埋め・訂正問題、論述問題

【テキスト】

『歴史のなかの科学コミュニケーション』勁草書房 税別定価3,800円

『図書館情報学用語辞典』丸善 税別定価3,800円

情報学Ⅳ（図書館と情報検索の歴史）

村主朋英

【授業の概要】

図書館サービスと情報検索サービスの発達過程を中心に図書館情報学分野に関わる歴史を概観する。Ⅲに続き、近代および現代を対象とする。

【授業計画】

1. 図書館の世紀

近代公共図書館／国立図書館の確立／図書館界の成立／書誌の発達

2. 図書館学とドキュメンテーション
3. 情報技術の起源
4. 情報検索サービスの成立
5. 情報学の成立
6. 情報史の現在
7. 理想の情報検索システムを求めて
Vannevar BushとMemex構想をもとに

【評価方法】

定期試験 ※穴埋め・訂正問題、論述問題

【テキスト】

『歴史のなかの科学コミュニケーション』勁草書房 税別定価3,800円

『図書館情報学用語辞典』丸善 税別定価3,800円

情報学V (科学コミュニケーション)

山崎茂明

【授業の概要】

現在社会の発展を基礎づけている科学研究活動を対象にして、そこで発生するコミュニケーションの実態を、情報メディアと研究者に着目して、具体的な事例をもとに検討したい。とくに、科学研究の不正行為に焦点をあて、科学コミュニケーションの生態と機能を明らかにし、全体像への理解を試みる。

1. 科学研究の目的
2. 研究資金、研究者、成果としての学術論文
3. 17-21世紀の科学研究
4. 科学は信頼されているか
5. 科学研究の不正行為
6. 不正行為の生態
7. 日本における事例
8. 海外での事例
9. 主要国における対応
10. レフェリーシステムと不正行為
11. 学術論文の撤回と不正行為
12. 雑誌編集者の役割
13. 信頼できる科学コミュニケーションの確立

【授業計画】

講義を中心に行う。教科書はできるだけ事前に読んでもらいたい。講義内容に関係する資料を随時配付する。

【評価方法】

期末レポート、小レポート (授業時間内)

【テキスト】

山崎茂明『科学者の不正行為』丸善

【参考文献・資料】

Broad, W. 他『背信の科学者たち』化学同人
Price, D.J.D.『リトルサイエンス・ビッグサイエンス』創元社
白楽ロックビル『アメリカの研究費とNIH』共立出版
山崎茂明『生命科学論文投稿ガイド』中外医学社
山崎茂明『論文投稿のインフォマティクス』中外医学社
根岸正光・山崎茂明『研究評価』丸善
科学技術白書 (<http://www.wpi.mext.go.jp/>)

情報処理概説 I

西荒井学

【授業の概要】

情報処理に必要なコンピュータのハードウェアおよびソフトウェアに関する基礎知識の習得、ならびに情報処理機器の基本操作、技法をコンピュータ実習に重点を置きながら習得していく。特に、コンピュータ技術は日進月歩の勢いで変化してきているが、その原理・原則には不変、かつ共通している部分が少なくない。本授業では、情報のコンピュータ内部表現、コンピュータの基本機能など、ハードウェアならびにソフトウェアにおいて普遍的なコンピュータ技術基盤に焦点を絞って学習していく。

- 1) コンピュータの歴史的発展過程
- 2) 情報の表現と情報単位 (1)
- 3) 情報の表現と情報単位 (2)
- 4) コンピュータの仕組み
- 5) キー・タイピング練習：実習
- 6) 基本ソフトウェアと応用ソフトウェア
- 7) 基本ソフトウェアの操作・実習
- 8) 応用ソフトウェアの操作：ワープロ・ソフト基礎実習
- 9) 応用ソフトウェアの操作：ワープロ・ソフト応用実習
- 10) ネットワークの利用 (電子メール)：実習
- 11) ネットワークの利用 (WWW)：実習
- 12) 情報処理方式とシステム形態
- 13) 計測・制御システムの機能と特徴
- 14) 情報構造 (ファイルとデータベース)
- 15) 情報処理技術の応用分野と今後の情報処理

【授業計画】

講義と情報科学センターにおけるコンピュータ実習とを約半々の割合で授業を進行していく。

【評価方法】

学期末試験ならびにコンピュータ実習課題提出内容によって評価する。

【テキスト】

情報処理のテクニック (西荒井学・三和義秀 共立出版)

情報処理概説II

西荒井学

【授業の概要】

情報処理技術におけるソフトウェアの意義、ならびに有用性について、基礎的なプログラミング実習を通して、必要な基礎知識を習得していく。また、パッケージ系ソフトウェアとユーザー・ジョブ・プログラムの本質的な相違点を理解すると共に、ソフトウェア開発の本質的意義、および基本的な技法について学習していく。

なお、プログラミング実習については、VB (Visual Basic) を使用することから、VB の特徴、機能等についても併せて触れていく。

- 1) 開発系ソフトウェアの種類と歴史
- 2) パッケージ系ソフトとユーザー・ソフト
- 3) 表計算ソフトウェア基礎：実習
- 4) 表計算ソフトウェア応用：実習
- 5) プレゼンテーション・ソフト：実習
- 6) 情報処理ステップ
- 7) プログラム開発基礎手順（問題解析、開発）
- 8) VB (Visual Basic) の特徴と機能
- 9) プログラミングの前に、VB の起動、操作：実習
- 10) 演算処理、プロジェクトの保存／呼び出し：実習
- 11) 判断分岐、繰り返し処理：実習
- 12) 関数の利用、配列：実習
- 13) モジュールの追加、変数の共有：実習
- 14) VB アプリケーション開発練習1：実習
- 15) VB アプリケーション開発練習2：実習

【授業計画】

講義と情報科学センターにおけるコンピュータ実習とを約半々の割合で授業を進行していく。

【評価方法】

学期末試験ならびにコンピュータ実習課題提出内容によって評価する。

【テキスト】

情報処理のテクニック（西荒井 学・三和 義秀 共立出版）

ネットワークリテラシ

三和義秀

【授業の概要】

情報社会を形成する重要な社会技術のひとつであるネットワーク技術について、その機能の有用性と脆弱性を主に実習を積み重ねながら習得していく。特に、現在の重要な情報基盤であるインターネット環境に焦点を当て、情報の受発信に係る操作・作成技法を学習する。操作技法については、電子メールおよびWWW (World Wide Web) での応用操作技術、ならびに作成方法については、WWW 上でのホームページを効果的に作成・運用していく技術、CGIプログラミングを通してのネットワーク構築、およびセキュリティ技術を本授業の中心課題とする。

なお、授業内容に準じて、ネットワーク技術利用の意義、作成する情報コンテンツに対する配慮や心構え、および情報倫理、セキュリティの問題についても触れていく。

【授業計画】

- 1) コンピュータ技術とネットワーク技術の概要
- 2) インターネット環境の基礎
- 3) 電子メールの応用操作技術（1）：実習
- 4) 電子メールの応用操作技術（2）：実習
- 5) WWWの応用操作技術：実習
- 6) Web ページの基本構造とHTMLタグ
- 7) Web ページの作成（HTMLの記述1）：実習
- 8) Web ページの作成（HTMLの記述2）：実習
- 9) Web ページの作成（画像の貼り付け）：実習
- 10) CGIの仕組みと機能
- 11) CGIプログラミング（プログラミングの手順）：実習
- 12) CGIプログラミング（基本文法）：実習
- 13) CGIプログラミング（ネットワーク構築技術）：実習
- 14) CGIプログラミング（セキュリティ技術）：実習
- 15) まとめ（情報発信の意義と責任）

【評価方法】

出席回数、課題（プログラミング）、および定期試験により評価を行う

【テキスト】

授業時に指示する

プログラミング論

三和義秀

【授業の概要】

適切な情報処理を実現するにあたって、ユーザー・ジョブ・プログラムの開発は、必要不可欠な場合が多い。このようなことから、本授業では、プログラミングの必要性、意義を理解すると共に、原則的なプログラム開発手順ならびにアルゴリズムを中心とするプログラム開発に必要な基礎知識を習得する。

なお、具体的なプログラム開発手順およびアルゴリズムを正しく理解していくために、本授業では、UNIX/Cを用いる際のプログラミングにおける問題点や考え方を例示していく。よって、プログラミングの問題点と共に、UNIXについても併せて触れていくこととする。

【授業計画】

- 1) アルゴリズム (1)
- 2) アルゴリズム (2)
- 3) プログラミングとコーディング
- 4) フローチャート
- 5) UNIXセッションとコマンド
- 6) UNIXのエディタ (1)
- 7) UNIXのエディタ (2)
- 8) C言語プログラムの開発手順 (1)
- 9) C言語プログラムの開発手順 (2)
- 10) 情報の表現方法 (1)
- 11) 情報の表現方法 (2)
- 12) 変数とデータ型 (1)
- 13) 変数とデータ型 (2)
- 14) 書式指定子
- 15) 算術演算子

【評価方法】

出席回数、レポート、及び定期試験により評価を行う。

【テキスト】

情報処理のテクニック (西洗井 学・三和 義秀 共立出版)

プログラミング実習

三和義秀

【授業の概要】

プログラミングは、単なる机上の問題として理解していくことだけでは、残念ながら、真の意味での理解には繋がらない。本授業では、C言語とJavaを用いて、実際に手続き指向、並びにオブジェクト指向のプログラミング実習を重ねていくことにより、プログラミングの基礎能力を養うと共に、プログラミングの本質を理解していく。

提示するプログラミング実習課題に関して、問題の解析から最終的なコーディングに至るまでの一連の作業を繰り返していくことにより、基本的なプログラミング・テクニックを習得していく。なお、実習課題を解決するために必要な処理の概要ならびに技術的な問題については、適宜、補足的に説明していくこととする。

【授業計画】

- 1) プログラム制御 (1)
- 2) プログラム制御 (2)
- 3) プログラム制御 (3)
- 4) 配列の考え方
- 5) 配列の処理 (一次元)
- 6) 配列の処理 (多次元)
- 7) アルゴリズムとプログラミング (1)
- 8) アルゴリズムとプログラミング (2)
- 9) アルゴリズムとプログラミング (3)
- 10) C言語による関数設計 (1)
- 11) C言語による関数設計 (2)
- 12) Javaによるクラス設計 (1)
- 14) Javaによるクラス設計 (2)
- 15) Javaによるクラス設計 (3)

【評価方法】

出席回数、レポート、及び定期試験により評価を行う。

【テキスト】

入門Javaプログラミングのテクニック (三和 義秀 共立出版)

プログラム設計応用 I (C)

三和義秀

【授業の概要】

構造化プログラミングの技法と UNIX/C によるプログラミングを行う。さらにオブジェクト指向の考え方を学び、Visual C++によるプログラミングを行う。

【授業計画】

- 第1回から第2回 記憶クラス
- 第3回から第4回 アドレスとポインタ
- 第5回から第6回 構造体
- 第7回から第8回 ファイル操作
- 第9回 オブジェクト指向プログラミング
- 第10回から第13回 Visual C++によるオブジェクト指向プログラミング

【評価方法】

定期試験、レポート及び出席にて総合評価する。特に出席回数を重視する。

【テキスト】

授業中に指示する。

プログラム設計応用 II (COBOL)

西荒井学

【授業の概要】

近年、アプリケーション・ソフトウェアの中でも多様なパッケージ・ソフトウェアが提供されることが多くなってきている。しかしながら、提供されるパッケージ・ソフトウェアだけで、すべてを充足することは困難を極める場合が少なくない。本授業では、事務処理用言語である COBOL を使用して、実際のプログラム作成に関する基礎技術を学習していくことにより、プログラミングの本質を理解していく。

プログラミングは、単なる机上の問題ではなく、実際にコンピュータ実習を重ねていくことにより、理解を一層深めていくことができる。よって、授業内では出来る限り COBOL プログラムを数多く作成していくことにより、プログラミングの本質的な問題点を理解していくと共に、COBOL というプログラム言語が持っている本質的な特徴を理解していく。なお、COBOL プログラミングの実習については、情報処理における基本的な処理プロセスを題材にした実習問題を解決していく。

- 1) プログラミングの必然性と基本手順
- 2) COBOL の基本構造と特徴
- 3) 予約語、利用者定義語、コーディング書式
- 4) 識別部の役割とコーディング
- 5) 物理装置と論理装置に対する考え方
- 6) 環境部の役割とコーディング
- 7) ファイルの構造とレベル番号
- 8) データ部の役割とコーディング 1 (FILE 記述、レコード記述)
- 9) データ部の役割とコーディング 2 (作業領域、出力編集)
- 10) 手続き部の役割とコーディング 1 (手続き名、入出力文)
- 11) 手続き部の役割とコーディング 2 (制御文、その他)
- 12) プログラミング実習 1 (実習問題 A~H)
- 13) プログラミング実習 2 (実習問題 A~H)
- 14) プログラミング実習 3 (実習問題 A~H)
- 15) プログラミング実習 4 (実習問題 I~)

【授業計画】

全授業回数の内、前半は COBOL 言語に関する文法について解説していく。後半は、提示された課題プログラムの作成を各自実習形式で行なう。

【評価方法】

提出課題プログラム数、提出課題プログラムの内容、ならびに学期末試験にて総合評価する。

【テキスト】

テキスト使用せず (プリント配布)

プログラム設計応用Ⅲ (Java)

三和義秀

【授業の概要】

オブジェクト指向の考え方を学び、Javaを用いてオブジェクト指向プログラミングの基礎を習得する。

【授業計画】

- 第1回 オブジェクト指向、オブジェクト指向プログラミングとは
- 第2回 Javaの特徴とJavaプログラムの開発環境
- 第3回から5回 クラス設計とJavaのプログラム構造
- 第6回から9回 オブジェクトとコンストラクタ
- 第10回から第11回 クラスの継承と抽象クラス
- 第12回から第13回 アクセス制御

【評価方法】

定期試験、レポート及び出欠席にて総合評価する。特に出席回数を重視する。

【テキスト】

入門Javaプログラミングのテクニック (三和義秀 共立出版)

データ管理論Ⅰ (表計算と統計)

三和義秀

【授業の概要】

調査研究において収集したデータを整理・分類し、それらの性質や状態を数量的に表現して全体としての法則性を見つけ出すための手法と、どのようにコンピュータを統計処理に活用するかについて表計算ソフト Excelを使って学ぶ。

【授業計画】

- 第1回 統計とは何か、度数分布表とヒストグラム
- 第2回 データ入力、表・グラフの作成
- 第3回 関数の使い方
- 第4回 統計量の求め方
- 第5回 度数分布表、ヒストグラムの作成
- 第6回 ドットプロット、クロス集計表の作成
- 第7回 平均値、範囲、最頻値、分散と標準偏差等の意味
- 第8回 代表値と散布度を求める
- 第9回 確率分布と正規分布
- 第10回 2項分布と標準正規分布
- 第11回 相関係数の求め方とその意味、回帰分析
- 第12回 散布図の作成、相関係数、回帰係数
- 第13回 検定の仕組みと方法

【評価方法】

定期試験、レポート及び出欠席にて総合評価する。特に出席回数を重視する。

【テキスト】

Excelで学ぶ“やさしい統計処理のテクニック” (三和義秀 共立出版株式会社)

データ管理論Ⅱ (DB構築)

原 伸之

【授業の概要】

パソコン活用の3本の柱の1つである「データベース」を取り上げる。世の中のコンピュータ利用の大部分が、このデータベース利用であると言っても過言ではない。金融機関での預金の出し入れ、座席の予約さらにコンビニでの商品管理など。これらは、データベースの応用システムである。

授業では、これらのシステムの核となっている「データベース」の理解・構築技法・利用方法を講義と実技で体験・習得する。

1. データベース概論

…データベースとは
データベースの構築技法
関係データベースの設計

2. データベース・ソフトウェア「ACCESS」

データベースの定義
データベースの構築
データベースの利用

3. 関係データベースの構築

…事例を作成・体験
Wordで作成した文書のデータベース化
インターネットから取り込んだ画像のデータベース化
諸関数を使用したデータ解析

4. 構築したデータベースの事例発表

…習得したデータベースの構築技法を使って、身近なところで考えられるデータベースを構築し、その活用をレポートする。

【授業計画】

配布されたプリントに基づいて、講義・実習を行う。カード型データベースでは、「住所録」を事例として取り上げる。また、関係データベースでは、小売業などでの商品管理を事例として構築する。

【評価方法】

習得した技術および知識を基にして、各自が構築した「身近なところで考えられるデータベース」の内容を評価し、成績とする。

【テキスト】

プリント配布。

情報システム設計基礎Ⅰ

西荒井学

【授業の概要】

情報システムの設計・開発に必要なシステムの概念、システム設計の基本的枠組や基本的な設計手順、ならびに設計技法について学習していく。通常の住宅建設においても、施主の要望を十分に充足することができるように、種々の建築設計が行われ、各設計書に基づき実際に施工・工事がなされていく。このことは、システム構築においても、建築設計とは設計内容等の差異はあれ、決して例外ではない。本授業では、システムの具体的な設計内容に重要な影響を及ぼすシステム分析、要求定義ならびに基本設計に焦点を絞り、システム設計の考え方や設計技法について理解していく。

なお、コンピュータ技術の急速な進展に伴い、システムは巨大化、高度化してきた。この結果、システム技術においても専門化、多様化してきており、システム設計自体にも変化が見え隠れしてきている。このようなことから、授業内容に準じて、システム設計に関わる技術背景や技術変遷等についても、その都度解説していく。

- 1) システム化の必然性と情報システムの種類
- 2) システムの定義と概念
- 3) システムの基本機能とシステムの階層性
- 4) システム設計手順の全体像
- 5) システム設計へのアプローチ
- 6) コンピュータ業務区分とSEの役割
- 7) SEの基本的要件
- 8) ソフトウェア開発の現状と問題
- 9) ソフトウェア工学（開発技法、開発工程）
- 10) コンピュータ・システムの処理形態
- 11) コンピュータ技術と通信技術の進展
- 12) システム分析の意義と内容
- 13) 要求分析の必然性
- 14) 環境調査から機能分析まで
- 15) 基本設計の内容と重要性

【授業計画】

毎週講義終了10～15分間を使用して、小テストを実施する。

【評価方法】

小テスト、課題レポート、ならびに学期末試験にて総合評価する。

【テキスト】

図解システム設計の基礎（加藤英雄 共立出版）

情報システム設計基礎Ⅱ

西荒井学

【授業の概要】

情報システム設計は、究極的にはプログラム開発に至るまでの一連の情報システム構築手順において、重要な要素を担っている。システム設計の良し悪しが、情報システムの有効性、効率性、ならびに運用性の良否に帰結する。本授業では、情報システム設計手順における概要設計および詳細設計に焦点を絞り、具体的なシステム設計内容ならびに設計技法について学習していく。

なお、具体的な概要設計および詳細設計における考え方、方法を学習していくと共に、情報システム設計の成果であるソフトウェア・ドキュメントの意義や作成方法、および各システム設計段階における問題点についても解説していく。簡単な事例システムを取り上げ、実習形式を中心にして具体的に学習する。

- 1) 情報システム設計の意義と役割
- 2) 基本設計、概要設計、詳細設計の3段階
- 3) コードの機能とコードの種類
- 4) コード設計の意義と設計内容 (実習を含む)
- 5) ユーザー・インターフェースについての考え方
- 6) 出力設計の意義と設計内容 (実習を含む)
- 7) 入力設計の意義と設計内容 (実習を含む)
- 8) ファイル設計の意義と設計内容 (実習を含む)
- 9) データベース設計への展開
- 10) 情報処理における基本処理パターン
- 11) プロセス設計の意義と設計内容 (実習を含む)
- 12) システム障害における障害対策・保守
- 13) 信頼性設計の意義と設計内容 (実習を含む)
- 14) ソフトウェア・ドキュメントの種類と特質
- 15) システムの評価、システム監査

【授業計画】

毎週講義終了10～15分間を使用して、小テストを実施する。

【評価方法】

小テスト、課題レポート、ならびに学期末試験にて総合評価する。

【テキスト】

図解システム設計の基礎 (加藤英雄 共立出版)

情報システム論Ⅰ (情報システム開発)

西荒井学

【授業の概要】

情報システム開発の骨格ならびに開発工程における技法や問題点について、実際にシステム開発手順を実習形式にて学習していくことにより習得していく。特に、情報ファイルの設計ならびに管理の問題、中でも電子化されていく情報ファイルの問題に焦点を当てて解説していく。また、最近の電子情報の多きが、文字情報からイメージ情報にまで拡大してきている現状を踏まえ、今後の電子情報ファイルが抱える課題や将来象についても触れていく。

なお、システム開発実習については、簡単な文書データ検索システムのサブ・システム構築を事例に取り上げるが、授業では個人単位でのシステム開発実習とグループ単位でのシステム開発実習を併せて実施していく。開発実習で利用するソフトウェアは、本来、プログラム言語の利用が望ましいが、本授業ではExcelのマクロ、あるいはVBA (Visual Basic for Application) を対象とする。

- 1) システム開発の概要と意義
- 2) システム開発工程手順
- 3) 電子ファイリング・システムの必要性
- 4) 電子ファイリング・システムの機能と特徴
- 5) 画像イメージと記録媒体
- 6) 電子ファイリング・システムの適用分野
- 7) 事例：文書データ検索システムの機能と特徴
- 8) ExcelのマクロとVBAの概要
- 9) マクロの利用方法
- 10) システム開発実習1 (個人別課題)
- 11) システム開発実習2 (個人別課題)
- 12) システム開発実習3 (グループ別課題)
- 13) システム開発実習4 (グループ別課題)
- 14) システム開発実習5 (グループ別課題)
- 15) システム評価

【授業計画】

前半では、システム開発全般に関する問題について講義を実施する。後半では、受講者をグループに分け、簡単なシステムを実際に開発する。

【評価方法】

出席状況、課題レポート、実習課題の成果、ならびに学期末試験にて評価する。

【テキスト】

テキスト使用せず (プリント配布)

情報システム論II (情報ネットワーク)

野添篤毅

【授業の概要】

研究・教育活動を支援する大学・学術図書館における学術情報サービスの基盤となる情報ネットワークについて論じる。とくに、米国で構築されている、情報資源マネジメントを基礎とした医科大学における情報システム、そして米国国立医学図書館を中心とした医学・医療情報ネットワーク、インターネット上の仮想図書館であるデジタル図書館について考察する。

1. 学術情報資源マネジメントの考え方
2. 情報マネジメントを基礎とした未来の図書館へのシナリオ
3. 組織内における情報ネットワークの構築
4. 統合型学術情報マネジメント・システム IAIMS の考え方
5. IAIMS の実現例、次世代の IAIMS
6. インターネットと情報サービス
7. 米国国立医学図書館を中心としたデジタル情報資源サービス・ネットワーク
8. デジタル情報資源の評価方法
9. Evidence Based Medicine (根拠に基づく医療) と情報活動
10. インターネット環境下の新しい情報専門職 (Informationist)

【評価方法】

レポート (2 回程度) および小テスト。

【テキスト】

プリントを配布予定。

情報サービス基礎論 I

逸村 裕

【授業の概要】

情報化社会は社会における産業構造の変化をもたらしている。「情報」を扱う産業は、急速に増大し、社会に大きな影響力を与えている。この科目では、現代社会において特徴的な情報産業の現状を概観し、「情報」を商品化するプロセスを考察するとともに、すべての職業において進展している「情報化」の持つ意味を検討する。また進路としての情報関連産業について論じる。さらに、情報産業の事例紹介を論じ、職業倫理と勤労観についても言及する。

【授業計画】

1. 情報化社会と情報産業
 2. 情報産業の概況
 3. 産業と職業における情報の意味
 4. 情報産業と IT 化
 5. 情報サービス事例 1 : ソフトウェア産業
 6. 情報サービス事例 2 : メディア産業
 7. 情報サービス事例 2 : 通信産業
 8. 情報サービス事例 2 : 出版産業
 9. 情報サービス事例 3 : 図書館情報
 10. 情報サービス事例 4 : マルチメディアリソース
 11. 情報サービス事例 5 : 情報分析・シンクタンク
 12. 情報産業におけるキャリアパターン
 13. 情報産業における勤労観と職業倫理
- 講義中心に行なう。適宜、小テスト、レポートを課す。「インターネット講習会」を受講しておくこと。

【評価方法】

小テスト、レポート、期末試験による評価。
詳細は初回講義の際に説明する。

【テキスト】

使用せず。

情報サービス基礎論Ⅱ

逸村 裕

【授業の概要】

図書館で行われる情報サービスには幅広いものがある。また、これらのサービスはその対象、館種、主題、規模ごとに多くの特徴を持つ。さらに今日、伝統的な図書館サービスに加え、情報技術の普及発展に伴う新たな対応を迫られている。

これら図書館情報サービスの紹介と評価の視点から講義を行なう。

1. この講義の対象と範囲
2. パブリック・サービス（奉仕－直接サービス）
 - A. 貸出閲覧
 - B. レファレンスサービス
 - C. 相互協力
 - D. 視聴覚資料
 - E. パブリックサービスの今後
3. テクニカル・サービス（資料組織－間接サービス）
 - A. 選書
 - B. 収書
 - C. 整理
 - D. 雑誌
 - E. テクニカルサービスの今後
4. 評価の視点から見た情報サービス
 - A. 蔵書
 - B. 人的サービス
 - C. その他のサービス

【授業計画】

講義中心に行なう。適宜、小テスト、レポートを課す。「インターネット講習会」を受講しておくこと

【評価方法】

小テスト、レポート、期末試験による評価。詳細は初回講義の際に説明する。

【テキスト】

使用せず。

情報メディア基礎論Ⅰ・Ⅱ

菅野育子

【授業の概要】

情報流通における情報メディアの役割について論じる。各種メディアの生産から流通までを対象に、その過程での問題点について議論し、より効果的な情報流通のための情報メディアのあり方を検討する。

【授業計画】

- 1 情報流通と情報メディア
- 2 学術情報の流通モデル
- 3 情報メディアの特徴と問題点
 - (1) 図書
出版流通過程と制度
オンライン書店、オンデマンド出版
 - (2) 雑誌
学術雑誌の機能、査読制度
雑誌論文の構成
抄録作成法、引用法、
プレプリント、e-print
レター、editorial comment
 - (3) 新聞
新聞の流通制度
新聞記事の構成
 - (4) 会議資料
学会、会議録
 - (5) 特許資料
特許制度
パテントファミリー、引用特許
 - (6) 規格票
規格制度、情報関連の標準化活動
 - (7) データベース
情報検索システムの歴史
検索技術、シソーラス
 - (8) インターネット
ネットワーク情報資源の特徴
WWWの評価
Web citation、メタデータ
ウェブ・アーカイビング
- 4 情報流通モデルの修正
- 5 電子環境下における情報メディア

【評価方法】

期末試験と出席回数によって評価する。

【テキスト】

なし。

情報メディア論Ⅰ (マルチメディア)

三和義秀

【授業の概要】

社会、教育現場における情報機器の発展経緯、種類、機能、ならびに情報メディアの発達と変化について論じながら、情報メディアの特性、視聴覚メディア、図形処理と画像処理を中心とするソフトウェア、インターネットとシミュレーションに係るツールの活用方法、情報メディアと情報通信(ネットワーク)技術やマルチメディアとの関係について考察する。また、技術的な側面として、インターネットでの情報の検索手法、ハイパーテキスト・システムの本質的問題、およびその設計・開発手法についても触れていく。

【授業計画】

- 1) ガイダンス：授業の目的、方法、授業計画について説明
- 2) メディアとは何か
- 3) 情報機器の発展経緯と種類、機能
- 4) 情報メディアの発展経緯と特性
- 5) 視聴覚メディアの種類と特性
- 6) 図形・画像処理とソフトウェア
- 7) 情報通信とメディア
- 8) マルチメディアと情報通信技術
- 9) ネットワーク技術とインターネット
- 10) 放送の高度化とマルチメディア
- 11) 通信の高度化とマルチメディア
- 12) インターネットとシミュレーション
- 13) インターネットでの情報の検索手法
- 14) ハイパーテキストの仕組みと本質的問題
- 15) ハイパーテキスト・システムの作成手法

【評価方法】

出席回数、レポート、および定期試験により評価を行う。

【テキスト】

授業時に提示する。

情報メディア論Ⅲ (医学情報メディア)

野添篤毅

【授業の概要】

科学分野での効果的な情報サービスを行うための基礎として自然科学分野の学術情報の発生から加工・利用までの一連の過程について学ぶ。とくに生物医学分野の学術情報の流れを中心に論じる。

1. 自然科学分野の研究の広がり
2. 科学研究活動の指標
3. 研究活動と情報活動
4. 情報の発生・加工・利用のサイクル
5. 一次情報-学術雑誌
6. 二次情報-抄録誌・索引誌・データベース
7. 主要な情報機関の活動-米国立医学図書館
8. 文献データベースMEDLINE-入力から出力まで
9. わが国の学術情報サービスの動向
10. 学術情報サービスの最近のトピックス

【評価方法】

レポート(2回程度)および小テスト。

【テキスト】

医学文献サーチガイド 第2版(山崎茂明 日本医書出版協会 2,575円)

情報メディア論Ⅳ (人文社会情報メディア)

菅野育子

【授業の概要】

人文・社会科学分野における情報メディアの特徴から、学問分野における学術情報の生産と利用について検討することを目的とする。

【授業計画】

- 1 学問分野と情報メディア
- 2 自然科学分野と人文・社会科学分野
- 3 人文・社会情報メディア
 3. 1 美術分野
 3. 2 音楽分野
 3. 3 文学
 3. 4 ビジネス分野
 3. 5 法律分野
 3. 6 心理学
 3. 7 図書館情報学
- 4 情報メディアからみた情報の生産と利用

【評価方法】

レポートと出席回数によって評価する。

【テキスト】

使用せず。

情報メディア論Ⅴ (科学技術情報メディア)

山崎茂明

【授業の概要】

自然科学領域における主要な一次情報源である学術雑誌を中心に解説します。学術雑誌と科学論文についての知識は、情報サービス専門家に欠かせない知識です。学術雑誌を理解するポイントは、図書館資料としての狭い枠組みでなく、研究活動と科学コミュニケーションのなかで、その役割や問題を知ることにあります。とくに、研究者による論文生産の視点から、学術雑誌について検討します。

1. 環境としての学術情報
2. 文献情報と文献調査
3. 学術雑誌の歴史と生態
4. 総合誌、レビュー誌、レター誌
5. 日本からの英文論文発表
6. 主要海外誌への日本からの発表傾向
7. 生物医学雑誌への統一投稿規程
8. オーサーシップからみた学術論文
9. 出版倫理と利害の衝突
10. ニュースメディアと学術雑誌
11. レフェリーシステム
12. 一流誌への発表
13. インパクトファクターの批判的吟味
14. 電子メディア (データベース、一次雑誌) の現在

【授業計画】

講義を中心に行う。教科書はできるだけ事前に読んでもらいたい。講義内容に関する資料を随時配付する。

【評価方法】

期末レポート、小レポート (授業時間内)

【テキスト】

山崎茂明『論文投稿のインフォマティクス』中外医学社

【参考文献・資料】

- Lambert, J. 『電子時代の学術雑誌』日本図書館協会
Thompson, J.W. 『出版産業の起源と発達』出版同人
中山茂 『歴史としての学問』中央公論社
山崎茂明 『生命科学論文投稿ガイド』中外医学社
山崎茂明 『医学文献サーチガイド 第2版』日本医書出版協会
根岸正光・山崎茂明 『研究評価』丸善

情報検索演習 I

櫻木貴子

【授業の概要】

各種情報資源およびその利用に関する知識・技術を学び、基本的な情報リテラシーを修得する。

なお、履修希望者は図書館オリエンテーションおよび学内LAN講習会を履修前に必ず受講しておくこと。

また、授業の際には「図書館情報学用語辞典第2版」および本授業で使用する全配付資料を毎回必ず持参すること。

【授業計画】

- (1) 情報資源の種類および特徴を知る
 - ・一次資料と二次資料
 - ・書誌情報
- (2) 情報資源の探索法を知る
 - ・目録、書誌などの二次資料の種類・特徴
 - ・各種オンライン目録、データベース、サーチエンジンの種類・特徴・利用法
 - ・論理演算
 - ・部分一致
- (3) 既習の探索法を利用して収集した情報を基に、レポートを作成する。
 - ・引用と引用文献の書誌情報の書き方 (SIST02およびISO 690、690-2)
 - ・著作権

【評価方法】

平常点、レポート、試験によって評価する。

【テキスト】

使用せず (配付資料)。

情報検索演習 I

松井美紀

【授業の概要】

各種情報資源およびその利用に関する知識・技術を学び、基本的な情報リテラシーを修得する。

なお、履修希望者は図書館オリエンテーションおよび学内LAN講習会を履修前に必ず受講しておくこと。

また、授業の際には「図書館情報学用語辞典第2版」および本授業で使用する全配付資料を毎回必ず持参すること。

【授業計画】

- (1) 情報資源の種類および特徴を知る
 - ・一次資料と二次資料
 - ・書誌情報
- (2) 情報資源の探索法を知る
 - ・目録、書誌などの二次資料の種類・特徴
 - ・各種オンライン目録、データベース、サーチエンジンの種類・特徴・利用法
 - ・論理演算
 - ・部分一致
- (3) 既習の探索法を利用して収集した情報を基に、レポートを作成する。
 - ・引用と引用文献の書誌情報の書き方 (SIST02およびISO 690、690-2)
 - ・著作権

【評価方法】

平常点、レポート、試験によって評価する。

【テキスト】

使用せず (配付資料)。

情報検索演習Ⅰ

伊藤真理

【授業の概要】

各種情報資源およびその利用に関する知識・技術を学び、基本的な情報リテラシーを修得する。

なお、履修希望者は図書館オリエンテーションおよび学内LAN講習会を履修前に必ず受講しておくこと。

また、授業の際には「図書館情報学用語辞典第2版」および本授業で使用する全配付資料を毎回必ず持参すること。

【授業計画】

(1) 情報資源の種類および特徴を知る

- ・一次資料と二次資料
- ・書誌情報

(2) 情報資源の探索法を知る

- ・目録、書誌などの二次資料の種類・特徴
- ・各種オンライン目録、データベース、サーチエンジンの種類・特徴・利用法
- ・論理演算
- ・部分一致

(3) 既習の探索法を利用して収集した情報を基に、レポートを作成する

- ・引用と引用文献の書誌情報の書き方 (SIST02およびISO690、690-2)
- ・著作権

【評価方法】

平常点、レポート、試験によって評価する。

【テキスト】

使用せず (配付資料)。

情報検索演習Ⅱ

伊藤真理

【授業の概要】

学術論文を中心として、オンライン情報検索システムの活用に必要な知識と技術を習得することを目的とする。テーマ検索の実習に基づき、検索過程の把握と検索結果に対する評価について理解する。

当科目は、情報検索演習Ⅰ (図書館情報学科の学生のみ)、図書館情報学概論Ⅰ、Ⅱの履修を前提条件とする。

【授業計画】

1. 情報検索とは
2. 学術論文の検索
 - 2.1 インターネット検索
 - 2.2 CD-ROM検索
3. オンライン情報検索システム
 - 3.1 JOIS
 - 3.2 DIALOG
4. テーマ検索

【評価方法】

平常点、小テストと、レポート作成の総合評価。

【テキスト】

使用せず (プリント配布)。

情報検索演習Ⅱ

松井美紀

【授業の概要】

学術論文を中心として、オンライン情報検索システムの活用に必要な知識と技術を習得することを目的とする。テーマ検索の実習に基づき、検索過程の把握と検索結果に対する評価について理解する。

なお、情報検索演習Ⅰと図書館情報学概論Ⅰ・Ⅱを履修していること。ただし、他級聴講者は図書館情報学概論Ⅰ・Ⅱのみでも構わない。

【授業計画】

1. 情報検索とは
2. CD-ROMでの検索
3. オンライン情報検索システム
 3. 1 JOIS
 3. 2 DIALOG
4. テーマ検索

【評価方法】

小テストおよび小レポートと、テーマ検索のレポート。以上を総合評価する。

【テキスト】

使用せず（プリントを配布）。

情報検索演習Ⅲ

菅野育子

【授業の概要】

「情報検索Ⅱ」の授業によって得られた知識や技能を基礎として、さらに高度な情報検索能力を習得するための実習を行なう。検索対象となる多種多様な情報検索システムやデータベースを比較検討することから、情報検索システムの評価方法についても議論する。

この実習を経験することから、情報検索技術者やレファレンス担当者としての基礎技能を習得する。

【授業計画】

- 1 雑誌記事の検索
 - 日外ASSIST-MAGAZINEPLUS
 - DIALOG-MAGAZINE DB/ISA/ERIC
 - JOIS-JICSTファイル
- 2 新聞記事の検索(全文検索)
 - 日経テレコン21-各種新聞ファイル
 - G-Search-新聞記事DB
 - DIALOG-the NY Times Fulltext
- 3 図書の検索(目次・所蔵情報の検索)
 - 日外ASSIST-BOOKPLUS
 - NII-WebCAT
 - OCLCFirstSearch-WorldCat
- 4 横断検索
 - DIALOG-DIALINDEX
- 5 シソーラスの活用
 - JOIS-JICSTファイル
 - DIALOG-MEDLINE
- 6 引用関係による検索
 - 引用索引ファイル
 - DIALOG-Social SCISearch
 - 引用特許の検索
 - DIALOG-DerwentWPI
- 7 電子雑誌へのリンク(一次資料の入手)
 - OCLCFirstSearch-ArticleFirst
 - NLM/NCBI-PubMed
- 8 Web Resources DBの検索
 - CSA-LISAファイル

【評価方法】

レポートと出席回数によって評価する。

【テキスト】

なし。

情報メディア分析論

菅野育子

【授業の概要】

情報メディアの機能に関する基礎的な知識を学ぶために、学術情報だけでなく一般社会における情報の流通に関係する各種情報メディアについて概説する。

具体的には、新聞（新聞記事）、雑誌（雑誌記事）、図書、特許資料、絵画（美術作品）などを取り上げ、その特徴を概観する。

さらに、各情報メディアの分析を行ないながら、分析結果からどのような情報を得ることができるのかについて議論する。

【授業計画】

- 1 情報メディアの機能
- 2 情報メディア（1）新聞
- 3 新聞記事の分析：新聞記事DBとの比較
- 4 情報メディア（2）雑誌
- 5 雑誌記事の分析：索引語付与と抄録作成
- 6 情報メディア（3）図書
- 7 図書の分析：主題分類と書誌記述
- 8 情報メディア（4）特許資料
- 9 特許資料の分析：技術動向調査
- 10 情報メディア（5）：絵画（美術作品）
- 11 絵画の分析：CDWAとAATシソーラス
- 12 情報メディアの分析から得られる情報

【評価方法】

レポートと出席回数で評価する。

【テキスト】

なし。

情報利用論 I（情報探索行動論）

岡澤和世

【授業の概要】

情報社会に関する史的展開、情報と知識の性質、コミュニケーションについて論じる。焦点は、情報とは何か、利用者の住む情報社会とはどんな社会か、情報と人、文化との相互関係、アクセス権利の倫理面、データ保護、個人のプライバシー、インターネットなど情報技術がもたらす諸問題についてである。これらを情報環境との関係から概説する。

【授業計画】

- 1) 情報社会とは
- 2) 情報社会に至る史的展開
- 3) 情報と知識の性質
- 4) 情報の質と信頼性
- 5) 情報の理解とコミュニケーション
- 6) 情報、知識、文献の管理
- 7) 情報社会の特徴
- 8) 情報倫理－権利と義務
- 9) 情報倫理－知的所有権とデータ保護
- 10) 情報社会と人間
- 11) 情報と文化的問題
- 12) 情報と経済的問題
- 13) 情報と政治的問題
- 14) 情報環境
- 15) 情報教育と未来

【評価方法】

出席とレポート

【テキスト】

インフォ・リッチ：インフォ・プア
(Trevor Haywood 岡澤和世訳 敬文堂 1997)
その他配布資料

情報利用論Ⅱ（情報探索行動論）

岡澤和世

【授業の概要】

教育を受けたいという強い希望、誰もが自由に情報を利用できるアクセス機会の平等を求める運動、民主主義の伝統、そして誰にも頼らない自主探索意欲が巧妙に入り混じってできたのが図書館である。そしてその理想は常に利用者の要求を満足させるところに置かれてきた。しかし、20世紀になると様々なテクノロジーが開発され、従来の図書館が大きく様変わりし始め、それに伴って情報を探す利用者の行動も変わり始めた。この講義では、情報行動について論じる。ニューメディア、インターネット、情報環境などについても概説する。

【授業計画】

オリエンテーション

1. 情報の伝達と利用
 - 1) 情報の定義
 - 2) 情報の特質
2. 科学のコミュニケーション
3. 研究活動とインフォーマル・コミュニケーション
 - 1) インフォーマルコミュニケーションの研究
 - 2) 見えざる大学
4. 見えざる大学の調査研究について
5. 情報利用者調査と用語の説明
6. User Studyの概説とUser Studyの方法論
7. 方法の種類
8. 比較・検討
9. User Studyの調査例
10. 行政

【評価方法】

小テストで評価。

【テキスト】

情報学講義ノート<1><2>（岡澤和世 敬文堂1990）

情報利用論Ⅲ（問題解決と情報活用）

田村俊作

【授業の概要】

日常生活において情報を要求し利用する行動は、仕事上での情報収集のように、社会的に規定された側面を持つと同時に、私達を新たな知識の水準、生活の新たな場面へと導く創造的な面も持っている。また、探索には、ブラウジングや検索システムの利用など、独特の行動様式やツールが存在している。この講義では、こうした探索の社会的側面および発見に導く心理的側面、ツールの利用、行動様式などを取り上げて、情報探索利用行動の特質を描き出してみたい。

1. 情報探索利用行動の基礎概念
2. 情報探索利用過程
3. 探索様式
4. 情報探索の社会的側面
5. 情報探索利用行動の特色

日常誰でも経験するあたりまえのことを、私なりの視点で掘り下げてみようとする授業。自分の経験にひきつけて理解してほしい。

【授業計画】

集中講義、事前に配布するプリントを読んでおいてもらい、プリントの内容に関する疑問を交えながら講義を進めて行く。出席者はプリントをあらかじめ読んでおくこと。

【評価方法】

最後の時間に試験を行う。

【テキスト】

事前にプリント配布。

【参考文献・資料】

Varlejs, J., ed. 『情報の要求と探索』 勁草書房1993
田村俊作編 『情報探索と情報利用』 勁草書房2001

情報利用論Ⅳ（情報と経営）

高山正也

【授業の概要】

図書館・情報学で学ぶ知識や理論は単に図書館や学術教育の分野のみで有効なものではありません。より広く、ビジネスをはじめ、様々な実務分野においても大いに応用できます。この授業では、ビジネスの場において、経営のために情報が如何に必要になるのかを考え、その情報の収集から利用、保管、保存・廃棄に至る情報管理の全過程を概観します。対象とする資料は、単に学術出版物に限らず、非営利出版物に加え、社内の業務文書も対象にします。対象とする情報はビジネス上、役に立つ情報は全てが対象になりますから、いわゆる学術情報だけでなく、必要に応じては広告やチラシ、統計や会計上の数値データ、さらには人間の行動や会話の類、すなわち知識管理論で言うところの形式知のみならず暗黙知の世界もこの授業の対象領域に含まれています。すなわち、授業の内容は図書館・情報学だけでなく、記録管理論、ビジネス・アーカイヴズ論に及びます。

【授業計画】

時間の許す範囲で、概ね以下のような項目の授業を行います。

- 1：専門図書館とビジネス情報
(1) 定義、(2) 意思決定と情報、(3) ビジネス・ライブラリーの歴史
- 2：記録管理と知識管理
(1) 出版物と業務文書、(2) 形式知と暗黙知、(3) 記録管理の概要、(4) ビジネス・アーカイヴズ
- 3：ビジネス情報の管理と利用
(1) 情報公開とアカウントビリティ、(2) 情報の分析と加工、(3) その他

【評価方法】

毎日、最後の時間に簡単な小テストを行い、そのテスト結果と〔受講の条件〕として、提出されたレポートとを総合して評価します。

【テキスト】

〈改訂版〉ファイリング・デザイナー（日本経営協会）
この他にも授業の中で紹介します。

【参考文献・資料】

〈改訂版〉ファイリング・デザイナー（日本経営協会）
この他にも授業の中で紹介します。

〔受講の条件〕以下のレポートを提出した人だけが受講が認められます。

次の(1)と(2)の両方をレポートしなさい。

- (1) 「高山正也」著の専門図書館やビジネス情報についての論著を10件以上検索し、その文献のリスト(A4版1枚)を作りなさい。
- (2) 上記(1)でリストにあげた文献を読み、高山正也の考えるビジネス情報管理のあり方をA4版2枚以内にまとめなさい。

上記(1)(2)のレポートを授業初日の第1時限目に提出のこと

情報学特殊Ⅰ（普及学概説）

宇野善康

【授業の概要】

「普及学」は新しい学問領域であるというだけでなく、心理学、社会学、教育学、人類学、経済学、法律学などの他の諸研究分野を総合的に扱うコミュニケーション科学に属する研究分野です。

この講義では、とくに知識情報に着目し、知識情報はどのように形成され、蓄積され、発信されて、人びとの間に普及していくものであるかについて述べます。

最初に普及学のあらましについて述べます。

1. イノベーションとしての普及学
2. 普及学の構想
3. さまざまな普及現象と普及過程のモデル
4. 普及に関する法則
5. 普及と流行
6. 普及と文化的文脈
7. 普及学のより一層の進展のために

【授業計画】

テキストはこちらでコピーを用意して配布し、各章を解説していきますが、普及学は、皆さんの日常生活に身近な研究分野なので、テキストの内容に関連する日常経験などを述べていただいで、時には、ディスカッションもまじえて進めていきたいと思います。

【評価方法】

当日の講義の前の時間におこなった話しや皆さんの日常体験などについて書いていただくことを、たびたびおこなうつもりです。評価はその蓄積に対しておこないます。

【テキスト】

宇野善康著「普及学講義－イノベーション時代の最新科学」有斐閣 刊

テキストは各自で買う必要はなく、そのコピーを配布して使用していただきます。

情報学特殊Ⅱ（異文化間屈折）

宇野善康

【授業の概要】

知識情報が普及するとき、その情報の内容は変わることなく普及していくと考えられがちですが、実は、人から他の人へ、ある国から他の国へ、ある文化圏から異文化圏へ普及するとき、知識情報のいろいろな側面が、いろいろな形に変化して普及していきます。

たとえば、「フェミニスト」という言葉は、少し以前まで、日本では、女性に親切的な男性の意味でした。しかし、その原語である「feminist」は、アメリカでは、男女同権を主張する女性の意味で使われていました。ことばの意味は、その普及過程で、性転換することすらあるのです。

歌劇「カルメン」の舞台上、カルメンがドン・ホセに対して投げた花は、紅いバラであると日本人は思っていますが、そのオリジナルのヨーロッパではうす黄色のカシの花であったのです。

空気中から水中に光線が進むとき、その境界で進路が屈折して曲るように、知識情報も異文化圏に普及するときは、いろいろな側面や意味までも変化（屈折）するのです。

この現象を異文化屈折現象といいます。この現象がなぜ生ずるのかについて、いろいろな興味深い実例をあげて述べていきます。

【授業計画】

授業計画は、前期の情報学特殊Ⅰと同じです。

【評価方法】

評価方法は、前期の情報学特殊Ⅰと同じです。

【テキスト】

テキストは必要に応じてコピーを当方で用意して配布しますので購入の必要はありません。

情報学特殊Ⅲ（情報史の探究）

村主朋英

【授業の概要】

人類の歴史全体の中で情報が果たしてきた役割を考えるために、図書館史や情報検索の歴史を拡張・発展させ、コンピュータ史とコミュニケーション史を統合した情報史の概念を追究する。

【授業計画】

0. オリエンテーション：情報の概念／コミュニケーションの概念／歴史の概念
1. 情報史の構造
 1. 1Stevensの情報史の概念
 1. 2情報史のモデル：情報空間の概念
2. コミュニケーション史：洞窟絵画から／イニス／マクルーハン／コミュニケーション史の動向
3. 情報史探求へのステップ
 3. 1歴史家による情報研究の成果
 3. 2情報史の構成要素：情報史における既存の著作／情報史の多面性
 3. 3図書館情報学の歴史と図書館情報学から見た歴史：上田修一の方法／桂英史の考え方
4. 総合的な情報史の素描

【評価方法】

試験。

【テキスト】

歴史のなかのコミュニケーション（新曜社 税別定価 3,800円）

レファレンスサービス論

杉江典子

【授業の概要】

図書館で実施されるレファレンスサービスについて、その意義とサービス内容を理解することを目的とする。この科目は、「レファレンスメディア論」と相互に補完するものとして扱う。講義を中心に進める。

【テキスト】

レファレンスサービス—図書館における情報サービス
(長澤雅男 丸善 2,369円)

レファレンスメディア論

杉江典子

【授業の概要】

レファレンス質問の回答に利用される情報源にはどのようなものがあるのか、それぞれの情報源にはどのような特徴があるのか、を理解することを目的とする。講義を中心に進めるが、講義で学んだ知識を生かして演習課題を解き、具体的な探索方法についても学ぶ。

【テキスト】

情報と文献の探索 第3版 (長澤雅男 丸善 3,296円)

資料組織論

伊藤真理

【授業の概要】

情報の組織化に関する理論と概念について理解することを目的とする。様々な情報資源を念頭において、資料組織業務の標準化と統一化の流れを把握し、目録の機能を理解することを目指す。

目録に関する用語と、英米目録規則、日本目録規則、主要な分類表および主題件名標目表を網羅する。

【授業計画】

- 第1回 ガイダンス
資料の組織化；資料組織業務の位置づけ
- 第2回 目録について
- 第3回 書誌コントロール
書誌ユーティリティ
- 第4回 目録規則の標準化、統一
- 第5回 記述目録と主題目録
記述目録（1）AACR 2 r、NCR
- 第6回 記述目録（2）アクセス・ポイントの選定；標目形
- 第7回 記述目録（3）典拠コントロール
- 第8回 主題目録（1）分類法
- 第9回 主題目録（2）分類法
- 第10回 主題目録（3）件名標目表
- 第11回 MARC
- 第12回 インターネット情報資源の記述

【評価方法】

平常点、期末試験

【テキスト】

初回時にテキスト配布。

資料組織演習

岡澤和世 伊藤真理

【授業の概要】

資料組織論で学んだ理論について、実習を通してより深い理解と習得することを目的とする。

講義内容は、記述目録法と主題目録法の2部から成り、オムニバス形式で授業を進める。主題目録法では日本十進分類法や基本件名標目表などを取り上げ、記述目録については、国際的な標準規則として認められている英米目録規則を用いる。主に図書資料を対象として、書誌レコードを作成する。

本科目の履修については、「資料組織論」の履修を条件とする。

【授業計画】

- ・目録作業の概要
- ・主題目録法
分類：NDC
主題件名標目表：B S H
- ・記述目録法
I S B D
アクセス・ポイント
標目形
- ・MARCについて

【評価方法】

出席、実習およびレポート提出

【テキスト】

「資料組織論」で配布したテキストを使用

図書館経営論

山本 進

【授業の概要】

図書館の技術的な面—分類・目録等—資料組織とは別に図書館運営上の諸問題—司書の専門職制の問題、図書館の地域サービスと図書館網計画、図書館の経営評価と見直し等、を図書館経営論として論述する。

【授業計画】

- | | |
|---------------------------------|----|
| 0, オリエンテーション・図書館の経営論の意義 | 1回 |
| 1, 図書館種別の経営上の問題点と管理原則 | 1回 |
| 2, 図書館学の五法則と図書館員の関わり | 1回 |
| 3, 図書館の自由に関する宣言 | 2回 |
| 4, 図書館員の倫理綱領 | 2回 |
| 5, 図書館員と労働基準法解説 | 1回 |
| 6, 図書館関係法規と図書館のサービス基準解説 | 1回 |
| 7, 図書館サービスの測定と評価（事例課題によるレポート提出） | 1回 |
| 8, 図書館計画の立案と事例解説 | 2回 |
| 9, 生涯学習と図書館及び利用者教育 | 2回 |
- ※講義の中から関心のある事項についてレポート提出2回

【評価方法】

期末テスト実施—記述式、前期全体の講義の中から問題を2～3問と、提出されたレポートと記述試験の採点を併せて評価する。

【テキスト】

講義シラバスを配付する。

図書館学特殊 I

山本 進 山崎茂明 菅野育子 伊藤真理

【授業の概要】

「図書館実習」を受講するための前提科目。
各教員が実務的な内容を主としてオムニバス形式で上記担当教員が2回程度実施する。詳細日程は4月当初提示する。

【授業計画】

1. 図書館の勤務時間と勤務内容
2. 図書館の職階制と司書職制度
3. 学校図書館法上の司書教諭問題
4. 統計から見た図書館の現状
5. 図書館と様々な情報サービス
6. 図書館とIT技術、メタデータ

【評価方法】

レポートとテストによる総合評価

【テキスト】

プリント配布

図書館実習

山本 進 山崎茂明 菅野育子 三和義秀

【授業の概要】

各図書館現場での実習を行う。
前提科目として必ず「図書館学特殊Ⅰ」を受講すること。
平成15年度は(1)から(3)それぞれ6日間程度の実習を行う。

- (1)愛知県図書館他、受入実績のある図書館での実習
- (2)自己開拓
- (3)北京図書館実習(北京大学および北京国家図書館)

(1)には定員枠がある。詳細は図書館学特殊Ⅰ第一回講義にて述べる。

【授業計画】

実習受入先の図書館の作成した実習カリキュラムに従い、実習受入館の指導者によって行う。

【評価方法】

実習受入先の図書館の評定に基づく。

【テキスト】

実習受入先の作成した資料による。

図書館学特殊Ⅲ (児童サービス論)

福永智子

【授業の概要】

図書館における児童サービスの理論と実際について、基礎的理解を図る。具体的には、児童用資料の特性、利用者としての児童の特性、公立図書館・学校図書館における児童サービスの現状について検討する。とりわけ、学校図書館のサービスに重点を置いて解説する。

【授業計画】

1. 公立図書館の児童サービス
 - (1) 児童サービスの法的基盤
 - (2) 児童図書館員の役割と専門性
 - (3) サービス対象としての児童：読書興味の発達段階
 - (4) 児童用資料の特性とコレクション構築の実際
 - (5) 児童サービスの企画と運営、施設・設備
 - (6) 周辺領域：子ども文庫活動、ブックスタート活動
2. 学校図書館と情報活用能力の育成
 - (7) 戦後教育改革と学校図書館の制度化
 - (8) 1997年の学校図書館法改正と「人」の問題
 - (9) 情報センター、学習センター、読書センター機能
 - (10) 学校図書館における図書館利用教育のガイドライン
3. 公立図書館と学校図書館の協力体制
 - (11) 異館種間ネットワーク構築の原理
 - (12) 地方自治体における先進事例の紹介
4. 試験(1.~13.)

【評価方法】

出席状況と単位認定試験の成績によって、総合的に評価する。

【参考文献・資料】

- 児童サービス論(堀川照代編著 日本図書館協会)
児童サービス論(佐藤涼子編 教育史料出版会)
学校図書館論 補訂版(塩見昇編 教育史料出版会)

生涯学習概論

古野有隣

【授業の概要】

生涯学習という言葉は最近かなり知名度が高くなってきているが、その意味や意義については必ずしも正確に理解されているとはかぎらない。

この講義では生涯学習の意味するところを、その理念の提唱時からの推移の説明をまじえて、理解を深めることをねらいとしたい。また、先の長い人生を持っている自分にとって生涯学習とは何なのかを考える契機となればとも思っている。

1. 生涯教育の理念～推移を含めて～
ユネスコ以降わが国における推移
生涯教育のめざすもの
生涯教育と生涯学習の関係
2. 生涯教育と社会教育・学校教育との関係
生涯教育と社会教育
生涯教育と学校教育
3. 社会教育の内容・方法・形態
行政社会教育の主要領域
社会教育の内容・方法・形態
4. 生涯学習関連施設の現状と展望
生涯学習関連施設の範囲
社会教育施設の種類と現状
5. 生涯学習指導者
生涯学習指導者の範囲
生涯学習指導者の役割

【授業計画】

講義。

【評価方法】

テスト。

【テキスト】

資料集（予価500円）を開始時に頒布。

個人コミュニケーション論Ⅰ（認知心理学）

岩原昭彦

【授業の概要】

見る、聞く、話す、覚える、考えるなどの知的機能を総称して認知という。認知心理学では、人間を高次な情報処理体として見なし、情報の入力と出力との間に生じるさまざまな認知的過程を実験とシュミレーションにより理論化している。本講義では、人間の記憶活動と言語活動がどのように営まれているのかを明らかにするとともに、それらの活動を支える基盤が、脳の中でどのように組織化されているのかを検討する。また、講義を通じて、我々が日常生活の中で体験する不思議な現象を認知心理学的に解明していきたい。

【授業計画】

1. 短期記憶
2. 長期記憶
3. 潜在記憶と顕在記憶
4. 符号化・処理・作業記憶
5. 想起と忘却
6. 日常記憶
7. 知識
8. 談話認知
9. 単語認知と読み
10. 理解
11. 発話と思考
12. 言語と意志伝達

【評価方法】

期末試験と授業中に実施する実験・調査への参加回数。

【テキスト】

使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

個人コミュニケーション論Ⅱ (認知心理学)

岩原昭彦

【授業の概要】

人間の脳の中にはさまざまな意識的・無意識的な処理過程が存在している。意識されない刺激情報も私たちの認知や行動に影響を及ぼしている。その事実やその脳内のプロセスを実験結果や脳損傷患者の症例から解き明かすことが本講義の目的である。さらに、「人間はなぜ間違いを犯すのか?」、「人間は自分のとった行動をどれほど理解しているのか?」という問題についても検討してみたい。

【授業計画】

1. 幻覚
2. 認識と失認
3. 閾下知覚
4. 自動的処理過程
5. 潜在記憶
6. 記憶障害
7. 記憶錯誤
8. 感情と認知
9. 自己と他者
10. 意志決定
11. 思考のバイアス
12. 判断のバイアス

【評価方法】

期末試験と授業中に実施する実験・調査への参加回数。

【テキスト】

使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

博物館概論

長谷川銑治

【授業の概要】

博物館とは何かからはじめて、その発達の歴史をたどり、日本と世界の博物館を概観する。

- ア はじめに…学芸員の資格、博物館学とは何かなど学習の基礎となる事項を説明する。
- イ 博物館の定義…ICOMの定義、博物館法の定義を中心に「博物館」とは何かを考えていく。
- ウ 博物館の始原…博物館の歴史を概観するにあたって、その始原をたずねてみる。
- エ 博物館の萌芽…ルネサンス期からの人々の文芸に対する態度の探求と博物館的な施設の形を探る。
- オ 近代博物館の発端Ⅰ…王権の誇示の手段としての財宝の展示などから博物館を考える。
- カ 近代博物館の発端Ⅱ…市民革命などの動きにあわせて市民への公開がなされていく過程を考える。
- キ ヨーロッパの博物館…近世から現代までを主要な博物館を例にとり、その特徴をまとめる。
- ク アメリカの博物館…独立から現代までをヨーロッパの博物館と対比しつつ、その特徴を探る。
- ケ 博物館の新しい波…企業博物館、エコ・ミュージアム、テーマ・パークなど、今後の博物館の形態をみずえて、新しい動きをひろってみる。
- コ 日本の博物館…日本の博物館の歴史を概観する。
 - ・大陸文化の請来から床の間の普及まで
 - ・幕末から明治期にかけての博物館の発端
 - ・国威の宣揚と博物館
 - ・通俗教育による教化と博物館
 - ・十五年戦争と博物館
 - ・戦後の再出発

【授業計画】

授業概要の展開順にそって講義する。

【評価方法】

- ・数回にわたるテストとレポートの提出で評価する。
- ・出席率も重要な評価対象である。

【テキスト】

博物館学概説 (長谷川銑治 戸谷印刷)

博物館概論

早川正一

【授業の概要】

「博物館概論」とは、愛知淑徳大学が文部省の認可のもとに、学芸員と呼ぶ博物館や美術館に不可欠な専門職員になるため、基礎知識をカリキュラムを通じて取得させる基幹の学科目である。したがって、この養成課程の当初に受講させるので真剣に取り組まないと脱落しかねない。十分な心構えが肝要である。

次のような単元のもとに講義を展開してゆく予定である。

【授業計画】

博物館や美術館の基本概念と必要性
専門職員としての「学芸員」とは何か
博物館と美術館の発達とその時代背景
博物館と呼ぶ施設の機能と多様性
博物館の分類と現代性
博物館の日常的な組織と運営の局面への学芸員のかかわり方、そして館外活動への配慮
博物館の相互協力と情報の活用

毎時間、入念にノートをさせる。コピーは許さない。
無用な欠席は不合格につながるので、注意されたい。

長谷川鏑治『博物館学論考』(1995)をはじめ、大学図書館に所蔵の関連文献を通読しておくこと。

【評価方法】

学期末の筆記試験をはじめ、毎時間の出席状況、受講態度などで総合評価する。資格認定のため厳格である。

【テキスト】

博物館学概説(長谷川鏑治 戸谷印刷)

博物館学各論 I

長谷川鏑治

【授業の概要】

博物館について、その機能、役割、組織、運営、学芸員、施設・設備、情報化、協力などにふれ、学芸員資格にかかわる基本的事項を学習する。

- ア 博物館の機能…生涯学習のための施設の一つと定義づけられていることを念頭におき、その機能について考える。
- イ 博物館の分類…種類別、設置者別、制度別などの分類わけをとおして、博物館の役割やあり方を考えていく。
- ウ 博物館の組織…公立博物館を例にとり、典型的な組織の状態をみていく。
- エ 博物館の運営…名古屋市博物館を例にとり、運営の実際を知る。
- オ 学芸員考…現在、学芸員のおかれている地位、実態などに焦点をあて、「学芸員」はいかにあるべきかを考える。外国のCURATORとも比較してみる。
- カ 予算など…博物館のマネジメントについて、予算を中心に考える。
- キ 博物館の施設・設備…人文系博物館・動物園・植物園・水族館などについて、その設置基準をもとに施設・設備についてみる。
- ク 博物館と情報…情報化社会の発展、情報技術の進歩と博物館のあり方を探ってみる。
- ケ 博物館の協力…博物館はもちろんのこと、大学・研究機関などとの連携について考える。

【授業計画】

授業概要の展開順にそって講義する。

【評価方法】

- ・数回にわたるテストとレポートの提出で評価する。
- ・出席率は重要な評価対象である。

【テキスト】

博物館学概説(長谷川鏑治 戸谷印刷)

博物館学各論Ⅰ

早川正一

【授業の概要】

愛知淑徳大学の学芸員課程委員会が計画したカリキュラムに準拠し、前段階の「博物館概論」を修得した学生に受講させる。したがって、この講義も基幹をなす学科目であるから、年次計画を考慮し、真面目に受講しないと、資格取得につながらないので、注意が肝要である。

【授業計画】

次の単元を土台として講義を展開する予定である。
博物館や美術館の展示と陳列構造
博物館がとり扱う資料の収集と保存
博物館と所属する学芸員のおこなう調査と研究
博物館や美術館のおこなう普及活動と教育
文化財の種類と保護にかかわる諸問題
生涯学習の必要性和博物館の関連事業

毎時間、入念にノートさせる。コピーは許さない。
無用な欠席は不合格につながるので、注意してほしい。

博物館学論考（長谷川銹治 1995）をはじめ、大学図書館に所蔵の関連文献を通読しておくこと。

【評価方法】

本学の学長の名において資格を認定する以上、定期試験を厳格に実施し、出席状況や受講態度を含めて総合評価する。

【テキスト】

博物館学概説（長谷川銹治 戸谷印刷）

博物館学各論Ⅱ

長谷川銹治

【授業の概要】

博物館は「もの」による生涯学習の機関である。そこで、博物館資料とは何かの定義づけからはじめ、資料の取扱い方を含めて学習する。また、博物館の調査・研究についても考えとともに、文化財の保護についても考察してみる。

- ア 博物館の資料…「物」が博物館資料と位置づけられるのはどのようなことかを考え、一次資料、二次資料の具体的な内容を知る。
- イ 博物館資料の実際…資料について実技を含めて具体的に学ぶ。
 - 1 資料の収集
 - 2 資料の取扱い
 - ・掛軸
 - ・古文書
 - ・和装本
 - ・やきもの
 - ・茶碗
 - ・瓦など
 - 3 資料の整理・保存
 - 4 資料の保全
- ウ 資料情報の管理…資料情報の管理についてその実際と今後の方向を探る。
- エ 調査・研究…博物館における調査と研究、成果の公表などについて考えていく。
- オ 文化財の保護…わが国の文化財保護の現状、実態、問題点などについて考察する。
あわせて世界遺産についても考えてみる。

【授業計画】

授業概要の展開順にそって講義し、実技も行う。

【評価方法】

- ・数回にわたるテストとレポートの提出で評価する。
- ・出席率も重要な評価対象である。

【テキスト】

博物館学概説（長谷川銹治 戸谷印刷）

博物館学各論Ⅱ

秋元悦子

【授業の概要】

博物館の活動の基礎は「資料」にあり、それを有効活用することではじめて博物館と言えよう。本講座では、その収集・取り扱い・整理・保存・活用について具体的事例や実習を取り入れながら学んでいく。

【授業計画】

1. 博物館資料とは……「博物館資料」とは、何を指すか、理念およびその具体的種類を知る。
 2. 資料収集……資料の収集に際しての、収集方針の重要性、収集方法の事例を学ぶ。
 3. 資料の取り扱い……基本資料の取り扱いを実習し、習得するとともに、その構造を知り展示方法等も学ぶ。やきもの、和装・卷子本、掛け軸その他で実習する。
 4. 資料整理……資料の整理について、分類方法やその整理登録方法を考え、資料カードの作成を実習する。
 5. 資料情報……整理された資料の情報、二次的資料の情報の管理運営について考える。
 6. 資料保管……資料の保管に関しての、保存条件や方法、問題点などを学ぶ。
 7. 資料活用……資料を活用した調査研究活動の実際とその意義を知る。
- また、4年次の「博物館実習」に備えた情報や、準備について説明する。

【評価方法】

実習態度、レポートおよび小テストで評価する。

【テキスト】

博物館学概説（長谷川銹治）

必要に応じてプリントを配布し、ビデオ・スライド等も利用する。

博物館学各論Ⅱ

松村冬樹

【授業の概要】

「資料」をもたない博物館はあり得ない。では、「モノ」をもっていれば博物館といえるだろうか？「モノ」と「資料」はどう違うのだろうか？

この講座では、「博物館資料」の考え方にはじまり、資料取扱の基本までを、実習を中心に学習する。

【授業計画】

かび臭い貴重品という「博物館資料」のイメージをくつがえし、博物館や美術館見学時に役立つ基本知識や心構えを修得する。

- ア 資料とはなにか
- イ 博物館と資料
- ウ 収集の方法
- エ 資料の取扱（理論と実際）
- オ 整理と分類（観察とドキュメンテーション）
- カ 調査と研究
- キ 保管と保全
- ク 管理と活用
- ケ 資料情報の公開
- コ 資料と学芸員

【評価方法】

実際の美術品を用いた実習が主体となるので、出席は重視する。

基礎的知識の修得度と、文化財取扱に対する心構え（適性）を評価する。

【テキスト】

『博物館学概説』（長谷川銹治 戸谷印刷 青本）。
随時プリントを配布する。

博物館実習

長谷川 銑治

【授業の概要】

学芸員の基本的な役割について、人文系博物館に例をとり、講義、展示演習、博物館見学、館務実習などを通して、実践的に学習する。

ア 展示論……展示とは何かからはじめて、展示についての学問的側面、実際の運びなどをみていく。

- 1 展示とは
- 2 展示のポイント
・動線 ・視線
・照明
・温度 ・湿度

- 3 展示の施設
- 4 展示のプロセス
- 5 展示と保全

イ 普及・教育論……生涯学習が重要課題となっている現代社会にあって、博物館が果たす役割はどんなものかを探っていく。

ウ 博物館見学……土・日曜日に展覧会や施設の見学に出かける。

エ 館務実習……夏休み中に各博物館に依頼して館務実習を行う。

オ 海外特別実習……夏休み中に希望者と海外の博物館の見学に出かけ現地で学習する。

カ 県外実習……エ、オに参加できない者は、9月に県外へ博物館の見学に出かける。

【授業計画】

授業概要の展開順にそって講義・実習・見学をすすめる。

【評価方法】

- ・実習はもちろん、学外での研修にかならず参加し、それぞれレポートを提出する。
- ・実習にあたってはすすんで学習する姿勢で臨む。
- ・その都度、提出させるレポートを中心に実習態度なども勘案して評価する。

【テキスト】

博物館学概論（長谷川 銑治 戸谷印刷）

博物館実習

秋元悦子

【授業の概要】

学芸員資格を取得するにあたって、展示演習、博物館見学、博物館実習を中核に、具体的な学芸員活動を様々な観点から学習する。

【授業計画】

1. 展示とは……展示という手法について、その実際と未来像を考える。
2. 展示の実際……計画から、手法、条件などの展示の実際の概要を具体的な事例をふまえながら、学んでゆく。
3. 展示にかかわる事業……展示をとりまく、様々な事業（解説、広報、印刷物、講座など）の存在を知る。
4. 展示の実習……各自で模擬展示の計画書を作成し、展示方法やその活用法を実習する。
5. 展示と教育普及事業……展示を通じての生涯学習機関として、博物館の今後になう役割と未来を探る。

授業以外に、

- 土曜日に、博物館の展示・施設見学を行う。
- 夏休み中に、各博物館に依頼し館務実習を行う。

【評価方法】

授業および学外での研修の出席・レポート、模擬展示の口頭発表およびその計画書で評価する。

【テキスト】

博物館学概論（長谷川 銑治 戸谷印刷）

必要に応じてプリントを配布し、ビデオ・スライド等も利用する。

博物館実習

川合 剛

【授業の概要】

「展示」は、博物館と利用者とを結ぶインターフェイスであり、博物館の「顔」といえる。この授業では、「展示」に関わる知識・技術を学び、各種博物館の見学を通じて、その実践例を見る。

【授業計画】

「展示」を実施する際の各場面を疑似体験できるよう、「実技」の時間を多くとる。また、ビデオなど視聴覚教材を用いて、具体的なイメージでとらえられるようにする。

- (a) 展示とは
- (b) 展示のプロセス
- (c) 展示の構成要素
- (d) 展示と資料保全
- (e) 着想から実施まで
- (f) 解説の方法と印刷物
- (g) まとめ

- * 1 土曜日に近隣の博物館の展示見学、施設見学を行う（年5～6回程度）。
- * 2 夏休み中に各博物館に依頼し、館務実習を行う。
- * 3 夏休み中に海外博物館見学の研修を行う。
* 2、* 3に参加しなかった者は、県外博物館の見学を行う。

【評価方法】

実技を行うので出席状況を重視する。あわせて、レポートと課題の提出、(時間内)小テストの結果などにより評価する。

【テキスト】

『博物館学概論』（長谷川銑治 戸谷印刷）。

【参考文献・資料】

授業の進行状況に応じ、文献・論文などを指示する。

教職入門

小木曾通男

【授業の概要】

本講義は、教員という職業がどのような意義を持っているのか、学校での教師の職務と役割がどのようなものであるかを、学生の被教育体験を生かしながら具体的に解説する。職務の個々の内容について、現在の中学高校の実体を踏まえて詳説する。その上で、今日の学校が抱えている問題解決の方途を、中教審、教課審の答申を学び、求められている教師像を明らかにすることによって教職につくかどうか、自らの適性を見極めて決定する情報と機会を提供したい。

【授業計画】

1. 東西の優れた教育者をとりあげ、教育とは何か、教育者とは何かを考える契機とする。
2. 近代市民社会の教育需用の増大と教育養成についてイギリス、アメリカにおける教員養成の概要及び日本における教員養成を歴史的に概観する。
3. 社会構造の変化の著しい現代社会における教員への期待について、地域構造、家族構造、職業構造等の変化に伴い教員の役割の変化と多様化・個性化した保護者・生徒の教員への期待と変化への対応を考える。
4. 中学校、高等学校における望ましい教員像とは何かを学級担任、教科担任、部活顧問、進路指導、生徒指導において各人の体験をもとに考えてみたい。
5. 信頼される教員とはどんな教員か、生徒の人間性の尊重とは何か、生徒との望ましいコミュニケーションのあり方を考えてみたい。
6. 21世紀の教育を担う教員の在り方を求め、社会の進歩と変化に対応する不断の研修と教育技術の開発により、常に新鮮な教育を行う努力は教員にとって不可欠であることを理解する。

【評価方法】

授業中にテキストに添付した用紙に記載する感想文とレポートによる総合評価とする。

【テキスト】

「教職入門」300円

【参考文献・資料】

授業時に紹介する。

教職入門

梅村敏郎

【授業の概要】

本講義は、教員という職業がどのような意義を持っているのか、学校での教師の職務と役割がどのようなものであるかを、学生の被教育体験を生かしながら具体的に解説する。職務の個々の内容について、現在の中学高校の実体を踏まえて詳説する。その上で、今日の学校が抱えている問題解決の方途を、中教審、教課審の答申を学び、求められている教師像を明らかにすることによって教職につくかどうか、自らの適性を見極めて決定する情報と機会を提供したい。

【授業計画】

- 1 教師像の変遷
- 2 現代の理想的教師像
 - (1) 教科指導者としての教師
 - (2) 特別活動の指導者としての教師
 - (3) 教師とカウンセリング
 - (4) 学級経営者としての教師
 - (5) 教師と校務
 - (6) 共生社会における教師の仕事
- 3 家庭人としての教師
- 4 市民としての教師
- 5 子どもの未来を開く魅力ある人間としての教師
- 6 まとめ

【評価方法】

筆答試験による。

【テキスト】

「教職入門」300円

【参考文献・資料】

授業時に紹介する。

教師論

佐藤実芳

【授業の概要】

日本における明治維新以降の教員養成制度について、教員免許・資格、教員に求められていた資質等の歴史を学習する。

多様化と個性化、国際化、情報化、高学歴化等の現代社会の急激な社会変化の中において期待される教員像を求め、学生の被教育体験を交えて模索することによって、教職への理解を深め、目的意識をもって教職への道を歩む人材の育成を目指す。

【授業計画】

1. 日本における教員養成の制度
 - (1) 戦前の教員養成
 - (2) 戦後教育改革と教員養成
 - (3) 教職課程の仕組
 - (4) 教員の採用
2. 様々な教師に学ぶ
 - (1) 新採用教員の一年
 - (2) エリオット先生の差別体験授業
 - (3) 授業崩壊からの脱出
 - (4) 現職教員の研修
3. 教師物語に学ぶ

【評価方法】

レポート、受講態度などにより総合的に評価する。

【テキスト】

使用しない。必要に応じて資料を配布する。

教育原理

佐藤実芳

【授業の概要】

高等教育機関への高い進学率を誇っている日本では、教育といえば学校教育を思いうかべることが多いであろう。しかし、学校教育を受けるのは、人生の一時期にしかすぎない。しかも学校教育をめぐる様々な問題が生じている今日、学校とは何か、教育とは何か、そのあるべき姿を真剣に考える必要がある。本講義では、教育の本質と目的を中心に教育とは何かを考察していく。

【授業計画】

1. ガイダンス
2. 教育とは何か
3. 人間と教育
 - ・動物学からみた人間の特殊性
 - ・人間の成長と環境
 - ・教育の重要性
 - ・人間形成の場
4. 教育の本質
 - ・注入主義
 - ・開発主義
5. 教育の目的
 - ・教育目的とは
 - ・教育目的の歴史の変遷
6. 現代の教育

【評価方法】

試験、受講態度などにより総合的に評価する。

【テキスト】

授業中に指示する。

教育原理

五島敦子

【授業の概要】

高等教育機関への高い進学率を誇っている日本では、教育といえば学校教育を思いうかべることが多いであろう。しかし、学校教育を受けるのは、人生の一時期にしかならない。しかも学校教育をめぐる様々な問題が生じている今日、学校とは何か、教育とは何か、そのあるべき姿を真剣に考える必要がある。本講義では、教育の本質と目的を中心に教育とは何かを考察していく。

【授業計画】

1. 教育とは何か
 - (1) 開発主義と注入主義
 - (2) 発達と環境
 - (3) 教育と教化
2. 学校とは何か
 - (1) 学校の登場と近代学校の性格
 - (2) 近代市民社会成立期の教育思想
3. 教育目的の変化
 - (1) 日本における近代公教育制度の成立
 - (2) 教育勅語体制から戦時体制へ
 - (3) 戦後新教育と戦後教育改革の修正
 - (4) 高度経済成長と教育爆発
4. 現代日本の教育改革
 - (1) 教育改革の背景
 - (2) ゆとりと新しい学力観
 - (3) 教育改革の功罪

【評価方法】

定期試験、授業内小テスト、出席状況による総合評価

【テキスト】

田嶋一他『やさしい教育原理』有斐閣アルマ

【参考文献・資料】

寄田啓夫・山中芳和『日本の教育の歴史と思想』ミネルヴァ書房

荻谷剛彦『教育改革の幻想』ちくま新書

教育思想史

梅村敏郎

【授業の概要】

教育は、人間の本質的な営みの一つであって、既に古代から哲学者や思想家の考察の対象となってきた。これらの思想は、思想家たちが生きた時代や文化の主要な潮流や思想家自身の思考方法の特徴によって極めて多様な思想や理論が形成された。

この授業では、古代から現代まで各時代を代表するような偉大な教育思想を時代順に辿るのではなく、現代の教育についての基本的な考え方や主要な概念に直接的な影響を与え、そのため現代教育と直接的なつながりを持つと思われる17世紀のコメニウスを出発点として、それ以後今日に至るまで最も重要と考えられてきた教育者たちの思想を取り上げる。

その際、学生はそれらの思想についての他人の解釈や解説を聴くことも必要ではあろうが、むしろそれらの思想と直接に対決することがより大切である。

専門的な研究者にとっては、それらの思想はそれが書かれた元の言語で読まれるべきであろうが、初歩の学生は先ずそれらの書物の良い日本語訳によって、これらの思想に直接触れることが必要である。

【授業計画】

- 1 教育思想史を勉強することの意義
- 2 コメニウス
- 3 ルソー
- 4 ペスタロッチ
- 5 フレーベル
- 6 デューイ

【評価方法】

評価はレポートの提出、あるいは資料持ち込み自由の試験による。

【テキスト】

特定のテキストは使用しない。参考文献は授業中に適宜紹介する。

欧米教育文化史

江藤恭二

【授業の概要】

欧米教育文化史における「近代化」とは具体的に何を意味するのか、という点に焦点をあて、欧米教育・文化の全体的・構造的な変遷過程に着目しつつ、比較教育史的なアプローチを試みる。

1. 欧米教育文化史の視点と課題
2. 中世後期の欧米教育・文化
3. ルネサンスと宗教改革
4. 近代教育・文化の生誕と展開
5. 啓蒙思想と教育
6. 市民革命期の教育思想
7. 産業革命と教育

【授業計画】

講義方式、時折、欧米文化に関する Video 教材を用いる。

【評価方法】

試験又はレポート。

【テキスト】

西洋近代教育史 (江藤他編 学文社 2,300円)

教育心理学 I

富安玲子

【授業の概要】

中学・高校生についての理解を深めるために乳幼児期から青年期までの発達の姿を概観し、発達課題について考えると共に、障害のある幼児、児童、生徒への理解を通して発達の可能性について考えていく。その上で、教育を受ける側と教育する側との相互の人間関係の中で展開される「教育」の営みについて、学習のメカニズムや動機づけの理論を通して考え、心理学的知見を実践の中に生かしていくことを目的としたい。

【授業計画】

1. 教育心理学を学ぶということ
 - ・教育の機能と教育心理学の位置づけ
2. 発達について考える
 - ・生涯発達の視点
 - ・障害のある幼児、児童、生徒の理解と発達可能性
 - ・発達段階と発達課題
 - ・認知の発達
3. 学習の過程を考える
 - ・学習の成立過程
 - ・学習における知識の役割
 - ・学習意欲を育てる
 - 外発的動機づけと内発的動機づけ／
 - 原因帰属をめぐって／知的好奇心の喚起／
 - 報酬の意味／目標のありかた

【評価方法】

期末試験によるが、授業への参加関与度を考慮する。

【テキスト】

使用せず。

【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

教育心理学Ⅰ

小池理穂

【授業の概要】

中学・高校生についての理解を深めるために乳幼児期から青年期までの発達を概観し、発達課題について考えると共に、障害児への理解を通して発達の可能性について考えていく。その上で、教育を受ける側と教育する側との相互の人間関係の中で展開される「教育」の営みについて、学習のメカニズムや動機づけの理論を通して考え、心理学的知見を実践の中に生かしていくことを目的としたい。

【授業計画】

1. 教育心理学を学ぶということ
 - ・教育の機能と教育心理学の位置づけ
2. 発達について考える
 - ・生涯発達の視点
 - ・障害の意味と発達可能性
 - ・発達段階と発達課題
 - ・認知の発達
3. 学習の過程を考える
 - ・学習の成立過程
 - ・学習における知識の役割
 - ・学習意欲を育てる
 - 外発的動機づけと内発的動機づけ／原因帰属をめぐって／知的好奇心の喚起／報酬の意味／目標のありかた

【評価方法】

筆記試験またはレポートに加えて、授業への参加関与度を考慮する。

【テキスト】

使用せず。

【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

教育心理学Ⅱ

富安玲子

【授業の概要】

人間を発達可能性をもつ存在として生涯発達の視点から考えながら、一人ひとりが自分の教育観・発達観の基礎づくりをすることを目的にしたい。自己意識の発達などのプロセスを辿りながら、教育的働きかけとの関わりを考え、今日の問題への理解を深めると共に、自分自身の自己形成のプロセスへの関心も深め、自己理解を促進していくことも視野にいれて学んでいく。

【授業計画】

- 1 教職課程の中での発達の心理学
 - －発達心理学を学ぶ／発達心理学から学ぶ－
 - (1)教育の対象者への理解
 - (2)教育対象の理解から自己理解へ
 - (3)発達の可塑性（可変性）の存在と限界
 - (4)青年期の意味
- 2 発達と学習
 - (1)発達を規定する要因
 - (2)成熟と学習
 - (3)発達の個人差
 - (4)発達と教育
- 3 自己意識の発達
 - (1)「自分」の諸相
 - (2)乳児期 「自分でない」世界の認識から
 - (3)幼児前期 第一「反抗」期
 - (4)幼児後期 自我と他我
 - (5)児童期 他律的規範への順応
 - (6)青年期 第二の誕生／アイデンティティの確立
 - (7)成人期以降
- 4 生涯発達の視点と生き方
 - －自分探しの旅と人間関係－

【評価方法】

期末試験によるが、授業への参加関与度を考慮する。

【テキスト】

使用せず

【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

障害児の教育

加藤文子

【授業の概要】

障害児についての基本的理解をし、障害児の教育的環境、福祉施設の役割などの実情を理解する。また、就学指導の仕組みを理解し、特殊教育の現状と課題を認識するとともに、基本的には人間尊重の精神を涵養する。

【授業計画】

1 心身障害児の理解

- ・「心身障害児理解のために」VTR視聴（感想文）
- ・心身障害児と家族の関係 VTR視聴（感想文）

2 心身障害児の種類と程度

- ・心身障害児とは
- ・学校教育で対象とする障害児と児童福祉施設で対象とする障害児
- ・視覚・聴覚・肢体不自由・病虚弱児の障害の程度と発生原因
- ・知的障害児の障害の程度と発生原因
- ・言語障害・情緒障害・重度重複障害児の教育的環境

3 心身障害児の早期教育、後期中等教育の重要性

- ・なぜ早期発見、早期教育が必要か
- ・社会自立に向けた後期中等教育の現状

4 心身障害児の就学指導の仕組み

5 心身障害児（者）教育の歴史

- ・心身障害児（者）教育を開拓した人々
- ・心身障害児（者）教育の歴史の変遷

6 まとめ

【評価方法】

出席状況・授業態度・レポート・期末試験の成績により総合的に評価する

【テキスト】

テキストは使用せず。必要に応じて資料を配布する

教育制度

佐藤実芳

【授業の概要】

社会の変化にともなう学校の誕生や変化に基づき、社会において学校教育が果たしてきた役割について考えるとともに、学校教育制度の類型的比較及び学校教育制度の歴史の変遷から、学校教育制度の基本的な事項を理解する。さらに、学校経営や教育行政に関する規定がある教育法規を取り上げ、現在の日本の教育制度の特徴を考察していく。

【授業計画】

1. 教育制度の意義

2. 現代学校教育制度の起源

- ・大学の成立
- ・中等学校の成立
- ・初等学校の成立

3. 学校教育制度の類型

4. 日本の学校教育制度

5. 教育法規

- ・教育法規とは
- ・日本国憲法
- ・教育基本法
- ・学校教育法
- ・学校教育法施行令
- ・学校教育法施行規則
- ・地方教育行政の組織及び運営に関する法律
- ・その他

6. 外国の学校教育制度

【評価方法】

試験、受講態度などにより総合的に評価する。

【テキスト】

授業中に指示する。

教育制度

五島敦子

【授業の概要】

社会の変化にともなう学校の誕生や変化に基づき、社会において学校教育が果たしてきた役割について考えるとともに、学校教育制度の類型的比較及び学校教育制度の歴史の変遷から、学校教育制度の基本的な事項を理解する。さらに、学校経営や教育行政に関する規定がある教育法規を取り上げ、現在の日本の教育制度の特徴を考察していく。

【授業計画】

1. 教育制度の概観
 - (1) 学校教育制度の類型
 - (2) 教育段階とその課題
2. 諸外国の教育制度
 - (1) 世界の教育改革
 - (2) 先進国
 - (3) 発展途上国
3. 教育を受ける権利
 - (1) 子どもの権利条約
 - (2) 日本国憲法・教育基本法
 - (3) 学校教育法
 - (4) 教育的弱者のための権利保障
4. 教育行政と学級経営
 - (1) 教育委員会
 - (2) 学級経営と指導計画
 - (3) 教育評価

【評価方法】

定期試験、レポート、受講態度による総合評価

【テキスト】

田嶋一他『やさしい教育原理』有斐閣アルマ

【参考文献・資料】

宮澤康人他『世界の教育』放送大学教育振興会
佐藤三郎編『世界の教育改革』東信堂
兼子仁『教育小六法』

比較教育論

渡辺かよ子

【授業の概要】

進展する国際化・情報化の中であって、人間は次世代にどのような夢や願いを託すことができるのか。教育は、自らが社会問題であると共に、貧困や不平等など現代の社会問題に対する有力な解決策でもある。本講では、日本を含む各国の教育と全世界的教育の状況の比較研究を通じて、日本の教育の特徴と現代教育の課題を明らかにしていく。

【授業計画】

1. 比較教育学の基礎理論
2. 社会発展論と教育
3. 近代化と各国の教育制度（識字と就学）
4. 「発展途上」国と「先進」国の教育の実態
5. 近現代日本の教育制度の成立と特徴
6. 文化と教育、異文化交流としての教育
7. 人権としての教育
8. 比較教育と教育改革

【評価方法】

試験とレポート。

【テキスト】

使用せず。（資料配布）

【参考文献・資料】

比較国際教育学（石附実編著 東信堂）
世界の学校（二宮皓編著 福村出版）
多文化教育（中島智子編著 明石書店）
学歴社会 新しい文明病（ドーア著 岩波書店）
外国の教科書と日本（吉沢柳子著 丸善ブックス）
比較高等教育論（アルトバック著 玉川大学出版部）
被抑圧者の教育学（フレイレ著 亜紀書房）
情報消費型社会と知の構造（中西新太郎 旬報社）
国際歴史教科書対話（近藤孝弘著 中公新書）
教育の比較文化誌（石附実著 玉川大学出版部）
比較教育学の理論と方法（シュリーバー編著 東信堂）

教育課程

小木曾通男

【授業の概要】

特定の発達段階にいる子どもを対象として、各レベルの学校がその教育目的・目標を十分に達成するために、子どもにどの種の教科・教材をどのように学習させるか、またどの種の活動をどう体験させるかについての全体的な教育計画である教育課程(カリキュラム)を学習する。

なお、各学校が教育課程を編成する場合に、広範な人間の文化領域のなかから、子どもが学習・体験すべき教育内容を選択し組織化する原理が何であるかという問題に焦点をあてて教育課程について考察する。

【授業計画】

1. 教育課程とは
 - (1) 教育課程の原理と理論
 - (2) 教育課程の構造と種類
 - (3) 教育課程の歴史の変遷
2. 諸外国の教育課程の概観
3. わが国の教育課程
 - (1) 戦前の教育課程の構造
 - (2) 戦後の教育課程の構造
 - (3) 現在の中学校の教育課程の改正の趣旨と構造
 - (4) 現在の高等学校の教育課程の改正の趣旨と構造
4. 総合的な学習の時間の設定の趣旨と具体的な展開
5. まとめ
 - (1) 教育課程研究と教師
 - (2) 望ましい教育課程の展開

【評価方法】

中間小テスト(レポート)及び期末考査

【テキスト】

「教育課程概説」資格教育センター編 300円

【参考文献・資料】

中学校学習指導要領(文部省)
高等学校学習指導要領(文部省)

教育課程

梅村敏郎

【授業の概要】

特定の発達段階にいる子どもを対象として、各レベルの学校がその教育目的・目標を十分に達成するために、子どもにどの種の教科・教材をどのように学習させるか、またどの種の活動をどう体験させるかについての全体的な教育計画である教育課程(カリキュラム)を学習する。

なお、各学校が教育課程を編成する場合に、広範な人間の文化領域のなかから、子どもが学習・体験すべき教育内容を選択し組織化する原理が何であるかという問題に焦点をあてて教育課程について考察する。

【授業計画】

1. 教育課程とは
 - (1) 教育課程の原理と理論
 - (2) 教育課程の構造と種類
 - (3) 教育課程の歴史の変遷
2. 諸外国の教育課程の概観
3. わが国の教育課程
 - (1) 戦前の教育課程の構造
 - (2) 戦後の教育課程の構造
 - (3) 現在の中学校の教育課程の改正の趣旨と構造
 - (4) 現在の高等学校の教育課程の改正の趣旨と構造
4. 総合的な学習の時間の設定の趣旨と具体的な展開
5. まとめ
 - (1) 教育課程研究と教師
 - (2) 望ましい教育課程の展開

【評価方法】

中間小テスト(レポート)及び期末考査

【テキスト】

「教育課程概説」資格教育センター編 300円

【参考文献・資料】

中学校学習指導要領(文部省)
高等学校学習指導要領(文部省)

教育課程

渡辺かよ子

【授業の概要】

特定の発達段階にいる子どもを対象として、各レベルの学校がその教育目的・目標を十分に達成するために、子どもにどの種の教科・教材をどのように学習させるか、またどの種の活動をどう体験させるかについての全体的な教育計画である教育課程(カリキュラム)を学習する。

なお、各学校が教育課程を編成する場合に、広範な人間の文化領域のなかから、子どもが学習・体験すべき教育内容を選択し組織化する原理が何であるかという問題に焦点をあてて教育課程について考察する。

【授業計画】

1. 教育課程とは
 - (1) 教育課程の原理と理論
 - (2) 教育課程の構造と種類
 - (3) 教育課程の歴史の変遷
2. 諸外国の教育課程の概観
3. わが国の教育課程
 - (1) 戦前の教育課程の構造
 - (2) 戦後の教育課程の構造
 - (3) 現在の中学校の教育課程の改正の趣旨と構造
 - (4) 現在の高等学校の教育課程の改正の趣旨と構造
4. 総合的な学習の時間の設定の趣旨と具体的な展開
5. まとめ
 - (1) 教育課程研究と教師
 - (2) 望ましい教育課程の展開

【評価方法】

中間小テスト(レポート)及び期末考査

【テキスト】

「教育課程概説」資格教育センター編 300円

【参考文献・資料】

中学校学習指導要領(文部省)
高等学校学習指導要領(文部省)

国語科教育法 I

佐々木亜紀子

【授業の概要】

中学校学習指導要領には、「国語」の教科目標として、「国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を養い言語感覚を豊かにし、国語に対する認識を深め国語を尊重する態度を育てる。」とある。この目標を正しく理解して、高等学校あるいは中学校生徒にいかにか教えるかを考える授業にしたい。具体的には、教材研究の方法、学習指導案の作成方法、板書方法、授業の進め方、評価の方法などを学び、教育現場に対応し得る力を養う。

【授業計画】

- 1 講 導入
国語科教育の概観
新・学習指導要領における国語科教育の目標
- 2 講 学習指導案の作成方法
- 3～5 講 「論説文」(中学校)の学習指導
(教材研究・指導案・授業・評価などの方法)
- 6～8 講 「評論」(高等学校)の学習指導
(同上)
- 9～10 講 古典導入教材の学習指導(中学校)
(同上)
- 11～12 講 古典導入教材の学習指導(高等学校)
(同上)

【評価方法】

授業への参加態度と課題の内容との平常点、及び単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【テキスト】

実践的国語科教育法—新・学習指導要領準拠—
(原國人編 新典社 2,000円)

【参考文献・資料】

高等学校学習指導要領解説 国語編
中学校学習指導要領解説 国語編

国語科教育法Ⅱ

佐々木亜紀子

【授業の概要】

中学校学習指導要領の趣旨に沿って、国語を正確に理解し、適切に表現する能力を高めるためにどのような授業を行えばよいか、中学校の教科書を用い、学習指導案の作成と模擬授業を行いながら、具体的・実践的な指導法を研究する。

【授業計画】

- 1 講 導入
新・学習指導要領における中学校の国語科教育
- 2～4 講 「論説文」教材の学習指導
(教材研究・指導案・授業・評価などの方法と模擬授業)
- 5～8 講 「物語」「小説」教材の学習指導
(同上)
- 9～12 講 「詩」「俳句」「短歌」教材の学習指導
(同上)
- 13 講 「言語活動例」を用いた学習指導
(同上)

【評価方法】

授業への参加態度と課題の内容との平常点、及び単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【テキスト】

実践的国語科教育法—新・学習指導要領準拠—
(原國人編 新展社 2,000円)

【参考文献・資料】

中学校学習指導要領解説 国語編

国語科教育法Ⅲ

佐々木亜紀子

【授業の概要】

高等学校学習指導要領の趣旨に沿って、国語への関心を高め、表現力を伸ばし、日本の文化と伝統について理解を深める総合的な国語教育の在り方を求め、高等学校の教科書を用い、学習指導案の作成と模擬授業を行いながら、具体的・実践的な指導法を研究する。

【授業計画】

- 1 講 導入
新・学習指導要領における高等学校の国語科教育
- 2 講 『国語表現』の学習指導
(教材研究・指導案・授業・評価などの方法と模擬授業)
- 3 講 『国語総合』現代文教材の学習指導
(同上)
- 4～8 講 『国語総合』古文教材の学習指導
(同上)
- 9～13 講 『古典』漢文教材の学習指導
(同上)

【評価方法】

授業への参加態度と課題の内容との平常点及び単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【テキスト】

実践的国語科教育法—新・学習指導要領準拠—
(原國人編 新展社 2,000円)

【参考文献・資料】

高等学校学習指導要領解説 国語編

英語科教育法 I

松本青也

【授業の概要】

英語教育法をテーマとして、目的論、技能論、方法論を中心に、日本における英語教育の歴史、諸外国の言語政策と英語教育、マルチメディアを活用した英語教育、などの話題を含めて考察する。

【授業計画】

1. 目的論：問題提起。コミュニケーション能力
2. 学習指導要領。学校英語教育の目標
3. 異文化と国際理解
4. 機能論：Sound
5. Listening
6. Speaking
7. Reading & Writing
8. 方法論：教授法の歴史（日本）
9. 教授法の歴史（外国）
10. 外国語教授理論
11. 新しい教授法
12. マルチメディア利用の可能性と課題
13. 〈模擬授業〉指導過程の構成
14. まとめ：これからの英語教育
15. テスト

【評価方法】

テストの成績、学習態度、出席状況等による総合評価。

【テキスト】

未定。

英語科教育法 II

高橋美由紀

【授業の概要】

学習指導要領の趣旨に沿って、コミュニケーション能力の基礎を育成するためには、日本の中学校ではどのような授業を行えばよいのか、模擬授業を行いながらその具体的な指導法を研究する。

【授業計画】

1. オリエンテーション：中学校英語教師の資質について、テキスト説明、小・中・高・大の英語教育について
2. 授業の組み立て：授業を盛り上げるための教材・教具について、教案作成ワークショップその1、ビデオによる模範授業参観その1
3. 授業の組み立て：歌やゲームを取り入れた授業展開、教案作成ワークショップその2、ビデオによる模範授業参観その2
4. 授業研究：テキスト内容に沿ったオリジナル教材・教具の作成、生徒を引きつける授業の様々なアイデア
- 5～14. 各グループによる模擬授業
15. 予備日

【評価方法】

テストは実施しない、出席状況、授業態度、課題レポート、模擬授業

【テキスト】

山岡多美子・高橋美由紀『Sunshine Kids Book 1』開隆堂出版
高橋美由紀・山岡多美子『Sunshine Kids Book 2』開隆堂出版
松本青也他『Sunshine 1・2・3』開隆堂出版
その他、ゲーム集、歌、カセット、CD等はコピーを使用する。

【参考文献・資料】

教材・教具作成のために画用紙、マジックなどの文具類が必要である。

英語科教育法Ⅲ

島村恭輔

【授業の概要】

学習指導要領の趣旨に沿って、コミュニケーション能力を育成することに主眼をおいて、生徒の多様化した日本の高等学校における英語教育を効果的に行うにはどのようなようにするか、具体的、実践的に指導する方法を研究する。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2～3回 授業の組み立て（その1）
- 第4～5回 授業の組み立て（その2）
- 第6～12回 マイクロティーチング

【評価方法】

出席状況・作成した教案等の提出物・マイクロティーチング等を総合して評価する。

【テキスト】

- 『Sunshine I』（開隆堂）
- 『Expressways I』（開隆堂）
(standard Edition)

道徳指導法

加藤文子

【授業の概要】

道徳とはなにか、わが国の道徳教育の基盤、義務教育における道徳教育の在り方を探求する。その上で、今日の道徳教育に至るまでの歴史の変遷を学び、さらに道徳性の発達理論を考察する。また、道徳指導の実践についての具体例をとりあげ、その理解を深める。

【授業計画】

- 1 道徳と道徳教育
- 2 児童・生徒を生かす道徳教育
- 3 公教育における道徳教育の歴史
 - ・明治5年学制公布から明治23年教育勅語発布までの過程
 - ・戦後の道徳教育の変遷
- 4 道徳性の発達理論と学校道徳教育
- 5 学校における道徳教育の実践
 - ・道徳教育の目標
 - ・道徳教育の内容
 - ・「道徳の時間」の指導計画、指導案の作成
 - ・「道徳の時間」の指導の実践、VTR視聴
 - ・まとめ

【評価方法】

期末試験の成績に、毎時間の出席状況、授業中の態度、課したレポート内容を加味して総合的に評価する。

【テキスト】

テキストは使用せず。必要に応じて資料を配布する。

特別活動指導法

不破民由

【授業の概要】

中学校・高等学校の特別活動の変遷とその具体的な活動として学級活動、ホームルーム活動、生徒会活動、学校行事についての指導法を考察する。

そのなかで望ましい人間関係、基本的な生活習慣の形成を通して個人及び社会の一員としての在り方、生き方に関する指導の充実を図ることを学習目標とする。

【授業計画】

1. 自由度の高い特別活動の可能性
2. 特別活動の歴史の変遷
3. 学級活動
4. 生徒会活動
5. 学校行事
 - (1) 儀式的行事 (2) 学芸的行事 (3) 健康安全・体育的行事 (4) 遠足・集団宿泊的行事 (5) 勤労生産・奉仕的行事等

以上の内容の他に、各自のサークル、ゼミ、学園祭等の大学における活動を話題としてとり入れる。

【評価方法】

数回のレポート

【テキスト】

北杜夫『どくとるマンボウ青春記』（新潮文庫）
『特別活動への誘い』

【参考文献・資料】

高旗正人・倉田侃司編著『特別活動』（ミネルヴァ書房）等

学級経営

前田勝洋

【授業の概要】

学級崩壊、担任不信等学校を取り巻く教育環境が問題となっている今日の教育状況を正しく理解し、学級担任として、どのように生徒に接したらよいか、どのようにして生徒の信頼を回復するのか探求するとともに、楽しい、生き生きとした学級作りを具体的な事例から求めて行きたい。

【授業計画】

- 小学校、中学校の学級経営事例に学びながら、教師の資質向上を図る方策を探っていきたい。
- (1) 学級づくりと学級こわしの関係
 - (2) 生徒理解と学級担任の役割
 - (3) 共感的学級経営の実践
 - (4) 成就型教育観と参加型教育観
 - (5) 学級担任と言葉の問題
 - (6) カルテ（個人記録）と一人ひとりを生かす経営
- 以上のような視点を軸にしながら、互いに事例について意見交換を行うなど、担任教師としての資質を磨きたい。

【評価方法】

毎回の受講感想レポートと「事例に対する意見記述」を中心に行いたい。

【テキスト】

後日、必要に応じて採用し、活用する。

教育方法

霜田一敏

【授業の概要】

今日親も教員も子供の本当の姿が見えなくなり、確かな指導の手だてが見出せず苦悩している。この現状を打破するためには、子供理解を深め、子供の立場に立つて教材を開発し、教育方法を構築し、実践する力量が求められている。

テキストを中心に、ビデオ教材、学生同士の討議を加えた参加型授業形態で行い、教員としての教育的力量を培う教育方法を解明したい。

【授業計画】

1. 人間回復の学力と教師の在り方
 - (1) 中学・高校における学力論と教師論の検討
 - (2) 生徒の思考の発展を目指す授業方法
 - (3) 生徒の自主的な学習を育てる学習指導法
 - (4) 生徒の側に立った学習指導技術
2. 情報機器及び教材の活用方法
 - (1) 情報機器の特色とその効果的な利用方法
 - (2) 視聴覚教材の特色とその効果的な活用方法
 - (3) メディアの進歩と新しいリテラシーの育成方法
3. 学習者にとって個を生かす学習集団とは
 - (1) 多様化した生徒への対応の仕方
 - (2) 中学校における個を生かす学習集団
 - (3) 高等学校における個を生かす学習集団

【評価方法】

学生の積極的な授業参加と毎時提出するミニレポート、期末に行う論文試験等によって評価する。

【テキスト】

子どもの側に立つ授業論 (霜田一敏著 明治図書 2,370円)

教育方法

東浦信博

【授業の概要】

今日親も教員も子供の本当の姿が見えなくなり、確かな指導の手だてが見出せず苦悩している。この現状を打破するためには、子供の理解を深め、子供の立場に立つて教材を開発し、教育方法を構築し、実践する力量が求められている。

テキストを中心に、ビデオ教材、学生同士の討議を加えた参加型授業形態で行い、教員としての教育的力量を培う教育方法を解明したい。

【授業計画】

1. 人間回復の学力と教師の在り方
 - (1) 中学・高校における学力論と教師論の検討
 - (2) 生徒の思考の発展を目指す授業方法
 - (3) 生徒の自主的な学習を育てる学習指導法
 - (4) 生徒の側に立った学習指導技術
2. 情報機器及び教材の活用方法
 - (1) 情報機器の特色とその効果的な利用方法
 - (2) 視聴覚教材の特色とその効果的な活用方法
 - (3) メディアの進歩と新しいリテラシーの育成方法
3. 学習者にとって個を生かす学習集団とは
 - (1) 多様化した生徒への対応の仕方
 - (2) 中学校における個を生かす学習集団
 - (3) 高等学校における個を生かす学習集団

【評価方法】

資料持込不可の論述式定期試験。

【テキスト】

教育の方法、技術を学ぶ。(福村出版 ¥1,700)

生徒指導（進路指導を含む）

加納篤憲

【授業の概要】

生徒指導を管理監督、非行の防止といった消極的な視点からではなく、21世紀に生きる青少年の健全な育成を目指す。個人の尊厳と人格を尊重した生徒指導により生徒の生きる力を養う生徒指導の在り方を求める。

進路指導においては、その理念及び目的を具体的に学習する。

これらの学習をとおして、生徒指導にあたる教員の在り方及び人間観について具体的に指導する。

【授業計画】

1. 生徒指導

現代社会における構造変化に注目し生徒指導を考える。

- (1) 社会集団の教育機能の低下と学校における生徒指導の役割
- (2) 青少年非行と矯正教育
- (3) 中学校における生徒指導の在り方と留意点
- (4) 高等学校における生徒指導の在り方と留意点

2. 進路指導

進路指導の基本理念及びその目的を学習する。

- (1) 進路指導における教員の在り方と留意点
- (2) 進路に関する情報伝達と進路相談
- (3) 中学校における進路指導の在り方と留意点
- (4) 高等学校における進路指導の在り方と留意点

【評価方法】

期末試験の成績と、レポートの評価及び出席率を総合する。

【テキスト】

生徒指導講義ノート（小木曾通男編 250円）
自作プリント教材

生徒指導（進路指導を含む）

不破民由

【授業の概要】

生徒指導を生徒の管理監督、青少年非行の防止といった消極的な視点からとらえるのではなく、21世紀に生きる生徒の健全な育成を目指す。進路指導においては、その理念及び目的を、具体的に学習する。こうした学習をとおして生徒に接する教員の在り方及び人間観についても具体的に指導する。

【授業計画】

1. 生徒指導の歴史の変遷
2. 生徒指導の国際比較（イギリスを中心に）
3. 生徒指導の難しさと喜び
4. 教育相談
5. 「生き方」指導としての進路指導
等

【評価方法】

数回のレポート

【テキスト】

佐野真一『遠い「山びこ」』（文春文庫）
『生徒指導論の試み』

【参考文献・資料】

- 広田照幸『教員言説の歴史社会学』（名古屋大学出版会）
森嶋通夫『イギリスと日本』（岩波新書）
P. ウィルス『ハマータウンの野郎ども』（ちくま学芸文庫）
P. アリエス『<子ども>の誕生』（みすず書房）
本多和子『異文化としての子ども』（ちくま学芸文庫）
J. J. ルソー『エミール』（岩波新書）
H. スペンサー『知育・徳育・体育』（明治図書）
天野正輝編『生徒指導・進路指導』（協同出版）
等

教育相談（カウンセリングを含む）

富安玲子

【授業の概要】

教育相談の役割が認識されるようになった背景からその必要性を考え、教育相談への理解を深めて実践につなげていきたい。教育相談は生徒一人ひとりに関心をもつところから始まる。そこで生徒理解のあり方や不適応行動への対応について考えたい。また、傾聴の大切さを中心にして情報提供や助言の仕方なども含めた面接の進め方を学び、カウンセリングの基礎知識も併せて学んでいく。

【授業計画】

1. 今、なぜ「教育相談」「カウンセリング」か
2. 教師と生徒の人間関係
 - ・「自分」は他者との関係の中で育つ
 - ・教師－生徒の相互影響過程
 - ・生徒理解
3. 教育相談
 - ・学校における教育相談
教育相談の位置づけ/相談担当と学級担任の役割/
教育相談における人間関係の確立/教育相談の形態と場面構成/教育相談の特質
 - ・教育相談の進め方
カウンセリングの基礎
4. 学校という生活環境と適応
 - ・適応と不適応
 - ・問題行動のとらえ方とその対応
 - ・学校への不適応を考える
 - ・非行・いじめを考える

【評価方法】

期末試験によるが、授業への参加関与度を考慮する。

【テキスト】

使用せず。

【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

カウンセリング

富安玲子

【授業の概要】

我々が人の話を傾聴するとき、その話を自分にとって都合のよいように切り取って聞いているか、反対に自分に都合の悪い部分を切り捨てて聞いているか、という事実がある。そうした事実を体験的に理解するために試行カウンセリングを行い、傾聴の際の学生が陥りやすいタイプを学ばせたい。従来、ロジャースのいう受容、共感、自己一致の中でも受容と共感に力点が過重に置かれすぎてきたように思われるので、自己一致の重要性を伝えていきたい。

【授業計画】

「教育相談」での学習を更に進めて、実習を取り入れながら、「聴く」ことの意味と「聴く」人である自分について考えていきたい。

1. 教育相談とカウンセリングを巡って
2. カウンセリングにおける人間理解
 - ・カウンセリングの歴史
 - ・カウンセリングの人間観
 - ・カウンセリングの理論
3. カウンセラーに必要な基本的態度・行動
4. 「聴く」練習－ロールプレー
5. カウンセリングの実際例
6. 応答訓練
7. ミニ試行カウンセリング
8. カウンセリングにおける諸問題
 - －試行カウンセリング/ロールプレイのまとめから考える－

【評価方法】

期末提出の課題レポートとロールプレイ・レポートに、授業への出席・関与度を加えて評価する。

【テキスト】

使用しない。必要な資料等は授業時に配付する。

【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

総合演習

小木曾通男 梅村敏郎 富安玲子 佐藤実芳
加藤文子 霜田一敏 渡辺かよ子

【授業の概要】

社会構造や家族構造の変化する現代社会において、青少年をとりまく現実的な課題について分析及び検討することにより、総合的な見地に立って未来に生きる中学生、高校生をどのように教育するか、その方法を探究し、総合的な指導力を備えた教員の育成をめざし、次の7テーマに別れて演習を行なう。(各テーマ20名以内)

- (1) いじめ問題 (梅村敏郎)
- (2) 福祉—障害のある人も健全な人も共に生きるコミュニティについて— (加藤文子)
- (3) 国際化を考える (小木曾通男)
- (4) 社会と子育て (佐藤実芳)
- (5) 高齢者福祉の実態と未来 (霜田一敏)
- (6) ジェンダーと教育 (富安玲子)
- (7) 生涯学習における学校 (渡辺かよ子)

【授業計画】

※印は後期日程 (於 星ヶ丘)

1. 全体、各テーマ別 7月30日 ※1月28日
 - (1) 総合演習とは、これからのすすめ方
 - (2) 各テーマの概要説明 (各担当者)
 - (3) 希望テーマ提出、テーマ別編成
 - (4) 各テーマ別に課題設定と学習法の指導
2. 9月5日 ※2月27日
課題レポートの提出 (必要部数の印刷)
3. 各テーマ別 9月12日 ※3月5日
 - (1) 課題レポートについて報告 (1人10~15分)
 - (2) 質疑応答、問題点について討議
4. 各テーマ別 9月19日 ※3月12日
 - (1) 問題点について分析検討
 - (2) グループとして課題について整理、代表者の選出
5. 全体 9月26日 ※3月19日
 - (1) グループ代表者の発表 (1名15~20分)
 - (2) 担当教員の指導
 - (3) 感想文の作成と提出

【評価方法】

レポートと感想文により評価

教育実習指導 (介護体験事前指導を含む)

加藤文子

【授業の概要】

教育実習前の指導として、学校教育全般にわたる基本的理解並びに教育実習の意義、実習生としての望ましい態度・技能を習得する。また、介護体験実習にむけて個人の尊厳、社会連帯の理念に関する認識を深めさせる。

【授業計画】

- 1 教育実習の意義と目的
 - ・前年度実習者からのアンケート結果
 - ・「先輩からの一言」
- 2 教育実習の内容と方法
 - ・教育実習の領域
 - ・教育実習の方法
- 3 教育実習記録
 - ・実習記録の意義
 - ・実習記録の方法
- 4 授業研究
 - ・教材研究、教具の意義
 - ・学習理解を深めるための発問・板書の活用方法
- 5 教育実習についての全般的諸注意並びに事後指導
- 6 介護体験事前指導
 - ・社会福祉施設等の理解と社会連帯の理念
 - ・特殊教育諸学校教育の理解
 - ・障害児(者)介護への心構え
- 7 介護体験事後指導
- 8 まとめ、アンケート実施

【評価方法】

毎時間の授業態度、課したレポート内容、期末試験の結果(実習・体験評価を参考)により総合的に評価する。

【テキスト】

教育実習指導では使用せず、必要に応じて資料を配布。介護体験事前指導では、介護体験ガイドブック「フィリア」(全国特殊学校長会編著 ジアーズ教育新社)使用。

教育実習指導（介護体験事前指導を含む）

小木曾通男

【授業の概要】

教育実習前の指導として、学校教育全般にわたる基本的理解並びに教育実習の意義、実習生としての望ましい態度・技能を習得する。また、介護体験実習にむけて個人の尊厳、社会連帯の理念に関する認識を深めさせる。

【授業計画】

- 1 教育実習の意義と目的
 - ・前年度実習者からのアンケート結果
 - ・「先輩からの一言」
- 2 教育実習の内容と方法
 - ・教育実習の領域
 - ・教育実習の方法
- 3 教育実習記録
 - ・実習記録の意義
 - ・実習記録の方法
- 4 授業研究
 - ・教材研究、教具の意義
 - ・学習理解を深めるための発問・板書の活用方法
- 5 教育実習についての全般的諸注意並びに事後指導
- 6 介護体験事前指導
 - ・社会福祉施設等の理解と社会連帯の理念
 - ・特殊教育諸学校教育の理解
 - ・障害児（者）介護への心構え
- 7 介護体験事後指導
- 8 まとめ、アンケート実施

【評価方法】

毎時間の授業態度、課したレポート内容、期末試験の結果（実習・体験評価を参考）により総合的に評価する。

【テキスト】

教育実習指導では使用せず、必要に応じて資料を配布。介護体験事前指導では、介護体験ガイドブック「フィリア」（全国特殊学校長会編著 ジアーズ教育新社）使用。

教育実習Ⅰ

加藤文字

【授業の概要】

教科に関する専門科目及び教職に関する専門科目で学習した成果を実践し、検証する機会である。

実習校での3週間の教育実習を通じて、教師という専門職としての自覚と誇りを高めるとともに、生徒から親愛と信頼の念をもって迎えられる実習生となるよう、努力と工夫をして3年間の成果を存分に発揮してほしい。

【授業計画】

実習校において、教師としての仕事を行う。

- (1) 学級担任として
 - 朝の打合せ、STの諸連絡と生徒観察にはじまり、帰りの清掃指導にいたるまでの仕事内容を理解し、生徒指導にあたる。
 - また、道徳教育、総合的な学習の指導にあたりるとともに学級事務を担当する。
- (2) 教科担任として
 - 前半においては、指導教官の授業参観と授業案の作成及び教材の準備を行う。
 - 後半においては、授業案にもとづいて授業を実施し、指導教官の指導と助言をえて、授業をより充実させるよう努める。
- (3) 特別活動として
 - 学級活動、生徒会活動、学校行事、クラブ・部活動に積極的に参加する。

【評価方法】

実習校の評価（生徒指導、学習指導、実習態度）に基づいて評価する。

【テキスト】

「教育実習指導」の授業時に配付の『教育実習記録』を活用する。

教育実習Ⅱ

小木曾通男

【授業の概要】

教科に関する専門科目及び教職に関する専門科目で学習した成果を実践し、検証する機会である。

実習校での2週間の教育実習を通じて、教師という専門職としての自覚と誇りを高めるとともに、生徒から親愛と信頼の念をもって迎えられる実習生となるよう、努力と工夫をして3年間の成果を存分に発揮してほしい。

生涯学習概論

渡辺かよ子

【授業の概要】

生涯教育ないしは生涯学習とは、従来の学校教育・家庭教育・社会教育を垂直的水平的に統合してとらえ、生涯発達を支援しようとする教育学の一分野である。本講義では、生涯教育ないしは生涯学習に関する理論、ならびに各国における生涯学習の実態と問題点の理解を通じて、人間が学ぶことの社会的意味、生涯発達と自己形成における生涯学習の意義を概説し、社会教育施設の独自の教育的役割とその可能性を論究する。

【授業計画】

- 第1-2講 オリエンテーション、生涯学習の理念
- 第3-5講 社会教育の伝統と生涯学習の現状（先進国、発展途上国、日本）
- 第6-7講 現代日本の学習機会と生涯学習に関する法制
- 第8-11講 生涯発達と生涯学習の内容と方法
- 第12-13講 生涯学習における教養・人権と社会改革
- 第14講 生涯学習の今後の課題、総括

【評価方法】

平常レポート、書評、学期末試験。

【テキスト】

生涯発達と生涯学習（麻生誠・堀薫夫 放送大学教育振興会）

【参考文献・資料】

- 社会教育基礎論（小林文人・末本誠編 国土社）
- 苦悩する先進国の生涯学習（黒沢唯昭他編 社会評論社）
- 生涯教育（ジェルピ 東京創元社）
- 被抑圧者の教育学（フレイレ 亜紀書房）
- 国際成人教育論（ポーラ 東信堂）
- 高齢者教育論（松井政明他編 東信堂）
- 「わざ」から知る（生田久美子 東京大学出版会）
- 学びの復権（辻本雅史 角川書店）
- 学問のすすめ（福沢諭吉 岩波文庫）
- 水と原生林のはざままで（シュヴァイツェル 岩波書店）
- 大学改革と生涯学習（宮坂広作 明石書店）
- 消費社会の神話と構造（ボードリヤール 紀伊国屋書店）
- ハマータウンの野郎ども（ウィリス ちくま文芸文庫）

国際理解教育論

小木曾通男

【授業の概要】

日本の近代化の過程において、どのような教育経路により先進諸国の文明が導入されたかを考察する。中学校、高等学校の日常的な教科指導、特別教育活動等において、どのように国際理解教育を展開すべきかを考えてみたい。

【授業計画】

1. 日本の近代化の過程における外国文明の摂取について、次の視点から考察する。
 - (1) 海外留学生の派遣と帰国後の活躍
 - (2) 外国人教員の雇用とその教育への影響
 - (3) 技術伝習による日本の産業の近代化
2. 現代の学校教育における国際化について次の視点から考察する。
 - (1) 教科教育における国際理解教育
 - (2) 特別活動、学校教育における国際理解教育
 - (3) 海外留学生の派遣と海外からの留学生の受け入れ
 - (4) 外国人英語教員の雇用とその役割
3. 現在の日本の国際化の現状を分析し、真の意味での日本の国際化について、教育の視点から考察する。
(授業において、皆さんの体験を踏まえて具体的な事例について、ともに考えて行きたい)

【評価方法】

授業中に課す「感想、意見」の提出及びレポートにより総合評価を行なう。

【テキスト】

国際理解教育論講義概要 (300円)

【参考文献・資料】

授業中にその都度紹介する。

読書指導

梅田卓夫

【授業の概要】

今日の中高校生は全くという程本を読まないといわれている。この実態を解明するために、本好きになった要因や本嫌いになった要因をまず明らかにしたい。そこで漫画本や少女小説が読書好きにさせるかなど具体的な問題も取り上げたい。本講義は、読書指導法の講義ばかりでなく、受講者自身が読書好きになるような参加型授業にしたい。特に学校内における制約のない読書の時間、「黙読の時間」や「自由選択読書の時間」などの事例を取り上げ、その実体と教育的な意義を論究する。

【授業計画】

1. 読書のよこび
人はどのようにして読書の楽しみと出会うか
先人たちの例、受講者自身の場合
2. 人間形成と読書
読み聞かせの意味——幼児期の精神形成との関わり
黙読の意味——読書の本質。内言語・内省・思索の能力と読書
学校の中の読書指導——「読み聞かせ」「10分間読書」「朝の黙読」などの実践例
他人による助言——家庭、学校、図書館、読書の友
読書サークル
3. 読書の技術
情報化時代の読書——探す・調べる・読む・考える
本を読む生活——愛読書、「書物の敵」
4. 文化史の中の書物
古代アレキサンドリア大図書館から今日まで「英知の容れ物」に関わった人間の営み

【評価方法】

授業の中で与えるテーマに沿っての発表、および期末試験、によって行う

【テキスト】

本の歴史 (B. プラセル著、荒俣宏監修、木村恵一訳 創元社)

ほかに適宜プリントを配布する

学校経営と学校図書館

小木曾通男

【授業の概要】

学校教育における学校図書館の教育的意義を確認し、より効果的な学校図書館の活用を目指し、教職員のみでなく、生徒会及びPTAとの連携を視野に入れた望ましい学校図書館の組織と運営はいかにあるべきかを、次の点に視座をあてて、具体的な成功事例を紹介し学習する。

【授業計画】

1. 学校図書館の管理運営組織
 - (1) 生徒の利用時間の設定
 - (2) 生徒への図書等の貸し出し方法
 - (3) 長期休業期間中の開館状況
2. 魅力ある学校図書館について
 - (1) 生徒が親しみやすい雰囲気のある学校図書館
 - (2) 学校図書館の図書・資料等の整備拡充
 - (3) 生徒が利用しやすい学校図書館経営
3. 学校図書館と生徒会活動の連携
 - (1) 生徒会図書委員会の組織と活動
 - (2) 読書週間、読書コンクール、図書館だより
 - (3) 学校図書館の利用PR活動
4. 学校図書館の充実
 - (1) PTA組織を活用した寄贈図書等
 - (2) 地域社会への呼びかけによる寄贈図書等
 - (3) 関係機関への呼びかけによる寄贈図書等

【評価方法】

出席状況及び課題による。

【テキスト】

プリント配布。

学校図書館メディアの構成

中村和夫

【授業の概要】

情報化の著しい進展と共に、従来の活字メディア中心の学校図書館は児童生徒の活字離れにより、大きく変容を迫られている。これからの学校図書館は、児童生徒が喜んで利用できるよう、そのニーズに応え、多様なメディアを取り入れなければならない。この点を中心にして、これからの学校図書館のメディア構成を考えてみたい。

【授業計画】

1. 児童生徒が喜んで利用するメディア構成
 - (1) 現在の学校図書館メディア構成の実態分析
 - (2) 児童会・生徒会図書委員会と学校図書館の資料選定
 - (3) 児童生徒の学校図書館に期待するものは何か
2. 教育課程にマッチしたメディア構成
 - (1) 教養中心から教科学習に必要な資料の収集
 - (2) 「総合学習の時間」の視点からのメディア構成
 - (3) 「情報」「オーラル英語」等の新しい教科科目の教材
3. 情報化時代にふさわしいメディアの特質の理解
 - (1) ビデオ、DVD、CD等の視聴覚的メディア
 - (2) CD-ROM、マイクロフィルム等の活字メディアに代わるもの
4. 学校図書館メディアの組織化
 - (1) 分類の意義と分類作業の基本
 - (2) 目録の種類と目録作業の基本、目録の機械化

【評価方法】

出席状況及びレポート等による。

【テキスト】

使用しない。

学習指導と学校図書館

加納篤憲

【授業の概要】

学校図書館は、児童生徒の豊かな人間性の育成に貢献することが必要であるのは論をまたないところであるが、同時に、学校における学習指導に深くかかわるものであることを看過してはならない。学習指導に効果的な学校図書館のあり方やその活用方法について、教育実践例に基づいて、次の視点に立って学習する。

【授業計画】

1. 学習活動を促進する学校図書館
 - (1) 利用しやすい本や資料の配架の工夫
 - (2) 教科・科目別の配架、コーナーの設定
 - (3) 教科・科目に関係のある本や資料の充実
2. 学習指導と学校図書館の利用
 - (1) 各教科・科目の課題学習と学校図書館の利用
 - (2) 学校図書館を利用した共同研究・グループ研究
3. 各教科・科目の学習指導
 - (1) 学校図書館を利用する各教科・科目の課題学習
 - (2) 学校図書館を利用する各教科・科目の予習課題
4. 新設された「情報」の学習指導
 - (1) 「情報」における学校図書館の活用方法
5. 新設された「総合的な学習の時間」
 - (1) 「総合的な学習の時間」における学校図書館の役割
 - (2) 学校図書館を利用した「総合的な学習の時間」におけるテーマ別学習、課題学習、グループ学習の展開

【評価方法】

試験、レポートの成績と出席状況を総合して評価。

【テキスト】

自作プリント

読書と豊かな人間性

梅田卓夫

【授業の概要】

現在、児童生徒の読書離れの傾向は拡大し、まったくと言っていいほど本を読まなくなってきた。

児童生徒の読書離れの要因と実態を解明するとともに、学校図書館が「読書と豊かな人間性」の視点に立って、どのような役割を果たすべきかを、具体的な実例を紹介するとともに、一方的な講義に終わることなく、受講者自身の体験も取り入れ、以下のような視座に立った参加型授業を展開する。

【授業計画】

1. 読書のよここび
 - (1) 人はどのようにして読書の楽しみと出会うのか
 - (2) 代表的な先人の読書経験から学ぶもの
 - (3) 受講者自身の学校図書館での本との出会い
2. 人間形成と読書
 - (1) 幼児期における読み聞かせの教育的意味
 - (2) 少年期の決定的・運命的な読書との出会い
 - (3) 読書における、内省、思索の意義
3. 学校教育における読書指導
 - (1) 教員による本の紹介、読み聞かせ
 - (2) 「十分間読書」「朝の黙読」等の実践例
4. 読書と仲間作り
 - (1) 家庭での読書についての親子の対話
 - (2) 友達同士の読書グループ、読書会
 - (3) 学区図書館を利用した共同研究
5. 読書の技術
 - (1) 情報化時代の読書のあり方
 - (2) 愛読書、好きな作家

【評価方法】

出席状況及びレポートによる。

【テキスト】

使用しない。

情報メディアの活用

東浦信博

【授業の概要】

学校図書館の高度情報化は21世紀には避けて通れない状況である。現在の状況は必ずしも満足はできないが、学校図書館に将来関係すると思われる新しいメディアの運用についての基礎知識と技能は、今後学校図書館の仕事に携わる教員にとって必須だと言える。以上の観点から、次のテーマで実践的な学習を行ない、これからの情報化される学校図書館の効果的な活用を目標とする。

【授業計画】

1. 学校図書館と情報機器
 - (1)学校図書館におけるコンピュータの役割と活用
 - (2)学校図書館に設置する情報機器
2. 学校図書館とコンピュータとの関わり
 - (1)図書検索とコンピュータ (OPAC)
 - (2)インターネットを使用する資料の収集
3. 学校図書館の情報メディアの活用
 - (1)視覚メディアとしてのVTR等
 - (2)聴覚メディアとしてのDVD、CD等
 - (3)活字メディアに代わるCDRom、マイクロフィルム等

【評価方法】

出席状況及び試験による。

【テキスト】

使用しない。

生涯学習概論

古野有隣

【授業の概要】

生涯学習という言葉は最近かなり知名度が高くなってきているが、その意味や意義については必ずしも正確に理解されているとはかぎらない。

この講義では生涯学習の意味するところを、その理念の提唱時からの推移の説明をまじえて、理解を深めることをねらいとした。また、先の長い人生を持っている自分にとって生涯学習とは何なのかを考える契機となればとも思っている。

1. 生涯教育の理念～推移を含めて～
ユネスコ以降わが国における推移
生涯教育のめざすもの
生涯教育と生涯学習の関係
2. 生涯教育と社会教育・学校教育との関係
生涯教育と社会教育
生涯教育と学校教育
3. 社会教育の内容・方法・形態
行政社会教育の主要領域
社会教育の内容・方法・形態
4. 生涯学習関連施設の現状と展望
生涯学習関連施設の範囲
社会教育施設の種類と現状
5. 生涯学習指導者
生涯学習指導者の範囲
生涯学習指導者の役割

【授業計画】

講義。

【評価方法】

テスト。

【テキスト】

資料集（予価500円）を開始時に頒布。

図書館情報学概論Ⅰ

村主朋英

【授業の概要】

この科目は、図書館情報学に関する学習の基礎固めのためのものである。Ⅰでは、図書館情報学における基本的な考え方および分野の特徴について概説する。

【授業計画】

1. 情報と知識の研究と実務に関わる分野
図書館学／情報学／図書館情報学
図書館情報学を学ぶための情報源／指定図書
2. 情報の流通過程
情報の流れ／情報メディア
事例：学術情報の流通過程
3. 情報の概念
概念・考え方・観点・立場
定義の多様性と現象の多面性
情報概念の歴史／情報・知識・データ
定義の整理のための枠組み／構造的な理解
認識・認知・こころ／人間・人・ヒト

【評価方法】

定期試験

- 注1) 「図書館情報学概論Ⅰ」の単位を取得済でない学生については、「同Ⅱ」の単位を認定しない。
- 注2) 「図書館情報学概論Ⅰ」の最終日に夏休みレポート課題を提示する。採点は「同Ⅱ」の成績に組み込む。今年度「同Ⅱ」のみ履修予定の学生は、7月初旬までに問い合わせること。

【テキスト】

『図書館情報学用語辞典』日本図書館情報学会用語辞典編集委員会編 丸善 3,800円（税別定価）

図書館情報学概論Ⅱ

村主朋英

【授業の概要】

この科目は、図書館情報学に関する学習の基礎固めのためのものである。Ⅱでは、図書館・情報サービスの実際に関して、最低限知っておくべき事項を紹介し、今後の学習への指針を提供する。

【授業計画】

1. 図書館・情報サービスの世界
構成要素と機能／情報システムとしての図書館
2. 館種ごとの概説
国立図書館／大学図書館／公共図書館／学校図書館
／専門図書館
3. 協力と競合
図書館ネットワーク／
競合する情報サービスの中で／電子図書館の概念
4. 図書館員と情報専門職の世界
5. 図書館情報学の将来

【評価方法】

定期試験と夏休みレポート

- 注1) 「図書館情報学概論Ⅰ」の単位を取得済でない学生については、「同Ⅱ」の単位を認定しない。
- 注2) 「図書館情報学概論Ⅰ」の最終日に夏休みレポート課題を提示する。採点は「同Ⅱ」の成績に組み込む。今年度「同Ⅱ」のみ履修予定の学生は、7月初旬までに問い合わせること。

【テキスト】

『図書館情報学用語辞典』日本図書館情報学会用語辞典編集委員会編 丸善 3,800円(税別定価)

図書館経営論

山本 進

【授業の概要】

図書館の技術的な面—分類・目録等—資料組織とは別に図書館運営上の諸問題—司書の専門職制の問題、図書館の地域サービスと図書館網計画、図書館の経営評価と見直し等、を図書館経営論として論述する。

【授業計画】

- | | |
|---------------------------------|----|
| 0, オリエンテーション・図書館の経営論の意義 | 1回 |
| 1, 図書館種別の経営上の問題点と管理原則 | 1回 |
| 2, 図書館学の五法則と図書館員の関わり | 1回 |
| 3, 図書館の自由に関する宣言 | 2回 |
| 4, 図書館員の倫理綱領 | 2回 |
| 5, 図書館員と労働基準法解説 | 1回 |
| 6, 図書館関係法規と図書館のサービス基準解説 | 1回 |
| 7, 図書館サービスの測定と評価(実例課題によるレポート提出) | 1回 |
| 8, 図書館計画の立案と実例解説 | 2回 |
| 9, 生涯学習と図書館及び利用者教育 | 2回 |
| ※講義の中から関心のある事項についてレポート提出 | 2回 |

【評価方法】

期末テスト実施—記述式、前期全体の講義の中から問題を2～3問と、提出されたレポートと記述試験の採点とを併せて評価する。

【テキスト】

講義シラバスを配付する。

情報サービス基礎論Ⅰ

逸村 裕

【授業の概要】

情報化社会は社会における産業構造の変化をもたらしている。「情報」を扱う産業は、急速に増大し、社会に大きな影響力を与えている。この科目では、現代社会において特徴的な情報産業の現状を概観し、「情報」を商品化するプロセスを考察するとともに、すべての職業において進展している「情報化」の持つ意味を検討する。また進路としての情報関連産業について論じる。さらに、情報産業の事例紹介を論じ、職業倫理と勤労観についても言及する。

【授業計画】

1. 情報化社会と情報産業
2. 情報産業の概況
3. 産業と職業における情報の意味
4. 情報産業とIT化
5. 情報サービス事例1：ソフトウェア産業
6. 情報サービス事例2：メディア産業
7. 情報サービス事例2：通信産業
8. 情報サービス事例2：出版産業
9. 情報サービス事例3：図書館情報
10. 情報サービス事例4：マルチメディアリソース
11. 情報サービス事例5：情報分析・シンクタンク
12. 情報産業におけるキャリアパターン
13. 情報産業における勤労観と職業倫理

講義中心に行なう。適宜、小テスト、レポートを課す。「インターネット講習会」を受講しておくこと。

【評価方法】

小テスト、レポート、期末試験による評価。
詳細は初回講義の際に説明する。

【テキスト】

使用せず。

情報サービス基礎論Ⅱ

逸村 裕

【授業の概要】

図書館で行われる情報サービスには幅広いものがある。また、これらのサービスはその対象、館種、主題、規模ごとに多くの特徴を持つ。さらに今日、伝統的な図書館サービスに加え、情報技術の普及発展に伴う新たな対応を迫られている。

これら図書館情報サービスの紹介と評価の視点から講義を行なう。

1. この講義の対象と範囲
2. パブリック・サービス（奉仕—直接サービス）
 - A. 貸出閲覧
 - B. レファレンスサービス
 - C. 相互協力
 - D. 視聴覚資料
 - E. パブリックサービスの今後
3. テクニカル・サービス（資料組織—間接サービス）
 - A. 選書
 - B. 収書
 - C. 整理
 - D. 雑誌
 - E. テクニカルサービスの今後
4. 評価の視点から見た情報サービス
 - A. 蔵書
 - B. 人的サービス
 - C. その他のサービス

【授業計画】

講義中心に行なう。適宜、小テスト、レポートを課す。「インターネット講習会」を受講しておくこと

【評価方法】

小テスト、レポート、期末試験による評価。詳細は初回講義の際に説明する。

【テキスト】

使用せず。

レファレンスサービス論

杉江典子

【授業の概要】

図書館で実施されるレファレンスサービスについて、その意義とサービス内容を理解することを目的とする。この科目は、「レファレンスメディア論」と相互に補完するものとして扱う。講義を中心に進める。

【テキスト】

レファレンスサービス—図書館における情報サービス
(長澤雅男 丸善 2,369円)

レファレンスメディア論

杉江典子

【授業の概要】

レファレンス質問の回答に利用される情報源にはどのようなものがあるのか、それぞれの情報源にはどのような特徴があるのか、を理解することを目的とする。講義を中心に進めるが、講義で学んだ知識を生かして演習課題を解き、具体的な探索方法についても学ぶ。

【テキスト】

情報と文献の探索 第3版 (長澤雅男 丸善 3,296円)

情報検索演習Ⅱ

伊藤真理

【授業の概要】

学術論文を中心として、オンライン情報検索システムの活用に必要な知識と技術を習得することを目的とする。テーマ検索の実習に基づき、検索過程の把握と検索結果に対する評価について理解する。

当科目は、情報検索演習Ⅰ（図書館情報学科の学生のみ）、図書館情報学概論Ⅰ、Ⅱの履修を前提条件とする。

【授業計画】

1. 情報検索とは
2. 学術論文の検索
 2. 1 インターネット検索
 2. 2 CD-ROM検索
3. オンライン情報検索システム
 3. 1 JOIS
 3. 2 DIALOG
4. テーマ検索

【評価方法】

平常点、小テストと、レポート作成の総合評価。

【テキスト】

使用せず（プリント配布）。

情報検索演習Ⅱ

松井美紀

【授業の概要】

学術論文を中心として、オンライン情報検索システムの活用に必要な知識と技術を習得することを目的とする。テーマ検索の実習に基づき、検索過程の把握と検索結果に対する評価について理解する。

なお、情報検索演習Ⅰと図書館情報学概論Ⅰ・Ⅱを履修していること。ただし、他級聴講者は図書館情報学概論Ⅰ・Ⅱのみでも構わない。

【授業計画】

1. 情報検索とは
2. CD-ROMでの検索
3. オンライン情報検索システム
 3. 1 JOIS
 3. 2 DIALOG
4. テーマ検索

【評価方法】

小テストおよび小レポートと、テーマ検索のレポート。以上を総合評価する。

【テキスト】

使用せず（プリントを配布）。

情報メディア基礎論 I・II

菅野育子

【授業の概要】

情報流通における情報メディアの役割について論じる。各種メディアの生産から流通までを対象に、その過程での問題点について議論し、より効果的な情報流通のための情報メディアのあり方を検討する。

【授業計画】

- 1 情報流通と情報メディア
- 2 学術情報の流通モデル
- 3 情報メディアの特徴と問題点
 - (1) 図書
出版流通過程と制度
オンライン書店、オンデマンド出版
 - (2) 雑誌
学術雑誌の機能、査読制度
雑誌論文の構成
抄録作成法、引用法、
プレプリント、e-print
レター、editorial comment
 - (3) 新聞
新聞の流通制度
新聞記事の構成
 - (4) 会議資料
学会、会議録
 - (5) 特許資料
特許制度
パテントファミリー、引用特許
 - (6) 規格票
規格制度、情報関連の標準化活動
 - (7) データベース
情報検索システムの歴史
検索技術、シソーラス
 - (8) インターネット
ネットワーク情報資源の特徴
WWWの評価
Web citation、メタデータ
ウェブ・アーカイビング
- 4 情報流通モデルの修正
- 5 電子環境下における情報メディア

【評価方法】

期末試験と出席回数によって評価する。

【テキスト】

なし。

情報メディア論IV (人文社会情報メディア)

菅野育子

【授業の概要】

人文・社会科学分野における情報メディアの特徴から、学問分野における学術情報の生産と利用について検討することを目的とする。

【授業計画】

- 1 学問分野と情報メディア
- 2 自然科学分野と人文・社会科学分野
- 3 人文・社会情報メディア
 - 3.1 美術分野
 - 3.2 音楽分野
 - 3.3 文学
 - 3.4 ビジネス分野
 - 3.5 法律分野
 - 3.6 心理学
 - 3.7 図書館情報学
- 4 情報メディアからみた情報の生産と利用

【評価方法】

レポートと出席回数によって評価する。

【テキスト】

使用せず。

情報メディア論V (科学技術情報メディア)

山崎茂明

【授業の概要】

自然科学領域における主要な一次情報源である学術雑誌を中心に解説します。学術雑誌と科学論文についての知識は、情報サービス専門家に欠かせない知識です。学術雑誌を理解するポイントは、図書館資料としての狭い枠組みでなく、研究活動と科学コミュニケーションのなかで、その役割や問題を知ることにあります。とくに、研究者による論文生産の視点から、学術雑誌について検討します。

1. 環境としての学術情報
2. 文献情報と文献調査
3. 学術雑誌の歴史と生態
4. 総合誌、レビュー誌、レター誌
5. 日本からの英文論文発表
6. 主要海外誌への日本からの発表傾向
7. 生物医学雑誌への統一投稿規程
8. オープンアクセスからみた学術論文
9. 出版倫理と利害の衝突
10. ニュースメディアと学術雑誌
11. レフェリーシステム
12. 一流誌への発表
13. インパクトファクターの批判的吟味
14. 電子メディア（データベース、一次雑誌）の現在

【授業計画】

講義を中心に行う。教科書はできるだけ事前に読んでもらいたい。講義内容に関係する資料を随時配付する。

【評価方法】

期末レポート、小レポート（授業時間内）

【テキスト】

山崎茂明『論文投稿のインフォマティクス』中外医学社

【参考文献・資料】

- Lambert, J. 『電子時代の学術雑誌』日本図書館協会
Thompson, J.W. 『出版産業の起源と発達』出版同人
中山茂 『歴史としての学問』中央公論社
山崎茂明 『生命科学論文投稿ガイド』中外医学社
山崎茂明 『医学文献サーチガイド 第2版』日本医書出版協会
根岸正光・山崎茂明 『研究評価』丸善

資料組織論

伊藤真理

【授業の概要】

情報の組織化に関する理論と概念について理解することを目的とする。様々な情報資源を念頭において、資料組織業務の標準化と統一化の流れを把握し、目録の機能を理解することを目指す。

目録に関する用語と、英米目録規則、日本目録規則、主要な分類表および主題件名標目表を網羅する。

【授業計画】

- 第1回 ガイダンス
資料の組織化；資料組織業務の位置づけ
- 第2回 目録について
- 第3回 書誌コントロール
書誌ユーティリティ
- 第4回 目録規則の標準化、統一
- 第5回 記述目録と主題目録
記述目録（1）AACR 2r、NCR
- 第6回 記述目録（2）アクセス・ポイントの選定；標目形
- 第7回 記述目録（3）典拠コントロール
- 第8回 主題目録（1）分類法
- 第9回 主題目録（2）分類法
- 第10回 主題目録（3）件名標目表
- 第11回 MARC
- 第12回 インターネット情報資源の記述

【評価方法】

平常点、期末試験

【テキスト】

初回時にテキスト配布。

資料組織演習

岡澤和世 伊藤真理

【授業の概要】

資料組織論で学んだ理論について、実習を通してより深い理解と習得することを目的とする。

講義内容は、記述目録法と主題目録法の2部から成り、オムニバス形式で授業を進める。主題目録法では日本十進分類法や基本件名標目表などを取り上げ、記述目録については、国際的な標準規則として認められている英米目録規則を用いる。主に図書資料を対象として、書誌レコードを作成する。

本科目の履修については、「資料組織論」の履修を条件とする。

【授業計画】

- ・目録作業の概要
- ・主題目録法
分類：NDC
主題件名標目表：BSH
- ・記述目録法
ISBD
アクセス・ポイント
標目形
- ・MARCについて

【評価方法】

出席、実習およびレポート提出

【テキスト】

「資料組織論」で配布したテキストを使用

図書館学特殊Ⅲ（児童サービス論）

福永智子

【授業の概要】

図書館における児童サービスの理論と実際について、基礎的理解を図る。具体的には、児童用資料の特性、利用者としての児童の特性、公立図書館・学校図書館における児童サービスの現状について検討する。とりわけ、学校図書館のサービスに重点を置いて解説する。

【授業計画】

1. 公立図書館の児童サービス
 - (1) 児童サービスの法的基盤
 - (2) 児童図書館員の役割と専門性
 - (3) サービス対象としての児童：読書興味の発達段階
 - (4) 児童用資料の特性とコレクション構築の実際
 - (5) 児童サービスの企画と運営、施設・設備
 - (6) 周辺領域：子ども文庫活動、ブックスタート活動
2. 学校図書館と情報活用能力の育成
 - (7) 戦後教育改革と学校図書館の制度化
 - (8) 1997年の学校図書館法改正と「人」の問題
 - (9) 情報センター、学習センター、読書センター機能
 - (10) 学校図書館における図書館利用教育のガイドライン
3. 公立図書館と学校図書館の協力体制
 - (11) 異館種間ネットワーク構築の原理
 - (12) 地方自治体における先進事例の紹介
4. 試験（1.～13.）

【評価方法】

出席状況と単位認定試験の成績によって、総合的に評価する。

【参考文献・資料】

- 児童サービス論（堀川照代編著 日本図書館協会）
児童サービス論（佐藤涼子編 教育史料出版会）
学校図書館論 補訂版（塩見昇編 教育史料出版会）

情報学Ⅲ (図書館と情報検索の歴史)

村主朋英

【授業の概要】

図書館サービスと情報検索サービスの発達過程を中心に図書館情報学分野に関わる歴史を概観する。古代から、ルネサンス期までを対象とし、IVに引き継ぐ。

【授業計画】

0. オリエンテーション
歴史を学ぶ意義／情報化社会論と情報史
1. 古代文明のメディアと情報・知識
2. ギリシア・ローマにおける革新
3. 中世の学術と書物・図書館
4. 印刷革命
5. 学術情報流通システムの成立

【評価方法】

定期試験 ※穴埋め・訂正問題、論述問題

【テキスト】

『歴史のなかの科学コミュニケーション』勁草書房 税別定価3,800円

『図書館情報学用語辞典』丸善 税別定価3,800円

情報学Ⅳ (図書館と情報検索の歴史)

村主朋英

【授業の概要】

図書館サービスと情報検索サービスの発達過程を中心に図書館情報学分野に関わる歴史を概観する。Ⅲに続き、近代および現代を対象とする。

【授業計画】

1. 図書館の世紀
近代公共図書館／国立図書館の確立／図書館界の成立／書誌の発達
2. 図書館学とドキュメンテーション
3. 情報技術の起源
4. 情報検索サービスの成立
5. 情報学の成立
6. 情報史の現在
7. 理想の情報検索システムを求めて
Vannevar BushとMemex構想をもとに

【評価方法】

定期試験 ※穴埋め・訂正問題、論述問題

【テキスト】

『歴史のなかの科学コミュニケーション』勁草書房 税別定価3,800円

『図書館情報学用語辞典』丸善 税別定価3,800円

個人コミュニケーション論Ⅰ（認知心理学）

岩原昭彦

【授業の概要】

見る、聞く、話す、覚える、考えるなどの知的機能を総称して認知という。認知心理学では、人間を高次な情報処理体として見なし、情報の入力と出力との間に生じるさまざまな認知的過程を実験とシミュレーションにより理論化している。本講義では、人間の記憶活動と言語活動がどのように営まれているのかを明らかにするとともに、それらの活動を支える基盤が、脳の中でどのように組織化されているのかを検討する。また、講義を通じて、我々が日常生活の中で体験する不思議な現象を認知心理学的に解明していきたい。

【授業計画】

1. 短期記憶
2. 長期記憶
3. 潜在記憶と顕在記憶
4. 符号化・処理・作業記憶
5. 想起と忘却
6. 日常記憶
7. 知識
8. 談話認知
9. 単語認知と読み
10. 理解
11. 発話と思考
12. 言語と意志伝達

【評価方法】

期末試験と授業中に実施する実験・調査への参加回数。

【テキスト】

使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

情報メディア論Ⅰ（マルチメディア）

三和義秀

【授業の概要】

社会、教育現場における情報機器の発展経緯、種類、機能、ならびに情報メディアの発達と変化について論じながら、情報メディアの特性、視聴覚メディア、図形処理と画像処理を中心とするソフトウェア、インターネットとシミュレーションに係るツールの活用方法、情報メディアと情報通信（ネットワーク）技術やマルチメディアとの関係について考察する。また、技術的な側面として、インターネットでの情報の検索手法、ハイパーテキスト・システムの本質的問題、およびその設計・開発手法についても触れていく。

【授業計画】

- 1) ガイダンス：授業の目的、方法、授業計画について説明
- 2) メディアとは何か
- 3) 情報機器の発展経緯と種類、機能
- 4) 情報メディアの発展経緯と特性
- 5) 視聴覚メディアの種類と特性
- 6) 図形・画像処理とソフトウェア
- 7) 情報通信とメディア
- 8) マルチメディアと情報通信技術
- 9) ネットワーク技術とインターネット
- 10) 放送の高度化とマルチメディア
- 11) 通信の高度化とマルチメディア
- 12) インターネットとシミュレーション
- 13) インターネットでの情報の検索手法
- 14) ハイパーテキストの仕組みと本質的問題
- 15) ハイパーテキスト・システムの作成手法

【評価方法】

出席回数、レポート、および定期試験により評価を行う。

【テキスト】

授業時に提示する。

博物館概論

長谷川 銑治

【授業の概要】

博物館とは何かからはじめて、その発達の歴史をたどり、日本と世界の博物館を概観する。

- ア はじめに…学芸員の資格、博物館学とは何かなど学習の基礎となる事項を説明する。
- イ 博物館の定義…ICOMの定義、博物館法の定義を中心に「博物館」とは何かを考えていく。
- ウ 博物館の始原…博物館の歴史を概観するにあたって、その始原をたずねてみる。
- エ 博物館の萌芽…ルネサンス期からの人々の文芸に対する態度の探求と博物館的な施設の形を探る。
- オ 近代博物館の出發 I…王権の誇示の手段としての財宝の展示などから博物館を考える。
- カ 近代博物館の出發 II…市民革命などの動きにあわせて市民への公開がなされていく過程を考える。
- キ ヨーロッパの博物館…近世から現代までを主要な博物館を例にとり、その特徴をまとめる。
- ク アメリカの博物館…独立から現代までをヨーロッパの博物館と対比しつつ、その特徴を探る。
- ケ 博物館の新しい波…企業博物館、エコ・ミュージアム、テーマ・パークなど、今後の博物館の形態をみずえて、新しい動きをひろってみる。
- コ 日本の博物館…日本の博物館の歴史を概観する。
 - ・大陸文化の請来から床の間の普及まで
 - ・幕末から明治期にかけての博物館の出發
 - ・国威の宣揚と博物館
 - ・通俗教育による教化と博物館
 - ・十五年戦争と博物館
 - ・戦後の再出發

【授業計画】

授業概要の展開順にそって講義する。

【評価方法】

- ・数回にわたるテストとレポートの提出で評価する。
- ・出席率も重要な評価対象である。

【テキスト】

博物館学概説（長谷川銑治 戸谷印刷）

博物館概論

早川 正一

【授業の概要】

「博物館概論」とは、愛知淑徳大学が文部省の認可のもとに、学芸員と呼ぶ博物館や美術館に不可欠な専門職員になるため、基礎知識をカリキュラムを通じて取得させる基幹の学科目である。したがって、この養成課程の当初に受講させるので真剣に取り組みないと脱落しかねない。十分な心構えが肝要である。

次のような単元のもとに講義を展開してゆく予定である。

【授業計画】

- 博物館や美術館の基本概念と必要性
- 専門職員としての「学芸員」とは何か
- 博物館と美術館の発達とその時代背景
- 博物館と呼ぶ施設の機能と多様性
- 博物館の分類と現代性
- 博物館の日常的な組織と運営の局面への学芸員のかかわり方、そして館外活動への配慮
- 博物館の相互協力と情報の活用

毎時間、入念にノートをさせる。コピーは許さない。無用な欠席は不合格につながるので、注意されたい。

長谷川銑治『博物館学論考』（1995）をはじめ、大学図書館に所蔵の関連文献を通読しておくこと。

【評価方法】

学期末の筆記試験をはじめ、毎時間の出席状況、受講態度などで総合評価する。資格認定のため厳格である。

【テキスト】

博物館学概説（長谷川銑治 戸谷印刷）

博物館学各論 I

長谷川銑治

【授業の概要】

博物館について、その機能、役割、組織、運営、学芸員、施設・設備、情報化、協力などにふれ、学芸員資格にかかわる基本的事項を学習する。

- ア 博物館の機能…生涯学習のための施設の一つと定義づけられていることを念頭におき、その機能について考える。
- イ 博物館の分類…種類別、設置者別、制度別などの分類わけをとおして、博物館の役割やあり方を考えていく。
- ウ 博物館の組織…公立博物館を例にとり、典型的な組織の状態をみていく。
- エ 博物館の運営…名古屋市博物館を例にとり、運営の実際を知る。
- オ 学芸員考…現在、学芸員のおかれている地位、実態などに焦点をあて、「学芸員」はいかにあるべきかを考える。外国のCURATORとも比較してみる。
- カ 予算など…博物館のマネージメントについて、予算を中心に考える。
- キ 博物館の施設・設備…人文系博物館・動物園・植物園・水族館などについて、その設置基準をもとに施設・設備についてみる。
- ク 博物館と情報…情報化社会の発展、情報技術の進歩と博物館のあり方を探してみる。
- ケ 博物館の協力…博物館はもちろんのこと、大学・研究機関などとの連携について考える。

【授業計画】

授業概要の展開順にそって講義する。

【評価方法】

- ・数回にわたるテストとレポートの提出で評価する。
- ・出席率は重要な評価対象である。

【テキスト】

博物館学概説（長谷川銑治 戸谷印刷）

博物館学各論 I

早川正一

【授業の概要】

愛知淑徳大学の学芸員課程委員会が計画したカリキュラムに準拠し、前段階の「博物館概論」を修得した学生に受講させる。したがって、この講義も基幹をなす学科目であるから、年次計画を考慮し、真面目に受講しないと、資格取得につながらないので、注意が肝要である。

【授業計画】

次の単元を土台として講義を展開する予定である。
博物館や美術館の展示と陳列構造
博物館がとり扱う資料の収集と保存
博物館と所属する学芸員のおこなう調査と研究
博物館や美術館のおこなう普及活動と教育
文化財の種類と保護にかかわる諸問題
生涯学習の必要性と博物館の関連事業

毎時間、入念にノートさせる。コピーは許さない。
無用な欠席は不合格につながるので、注意してほしい。

博物館学論考（長谷川銑治 1995）をはじめ、大学図書館に所蔵の関連文献を通読しておくこと。

【評価方法】

本学の学長の名において資格を認定する以上、定期試験を厳格に実施し、出席状況や受講態度を含めて総合評価する。

【テキスト】

博物館学概説（長谷川銑治 戸谷印刷）

博物館学各論Ⅱ

長谷川銑治

【授業の概要】

博物館は「もの」による生涯学習の機関である。そこで、博物館資料とは何かの定義づけからはじめ、資料の取り扱いを含めて学習する。また、博物館の調査・研究についても考えるとともに、文化財の保護についても考察してみる。

ア 博物館の資料…「物」が博物館資料と位置づけられるのはどのようなことかを考え、一次資料、二次資料の具体的な内容を知る。

イ 博物館資料の実際…資料について実技を含めて具体的に学ぶ。

1 資料の収集

2 資料の取扱い

- ・掛軸
- ・古文書
- ・和装本
- ・やきもの
- ・茶碗
- ・瓦など

3 資料の整理・保存

4 資料の保全

ウ 資料情報の管理…資料情報の管理についてその実際と今後の方向を探る。

エ 調査・研究…博物館における調査と研究、成果の公表などについて考えていく。

オ 文化財の保護…わが国の文化財保護の現状、実態、問題点などについて考察する。

あわせて世界遺産についても考えてみる。

【授業計画】

授業概要の展開順にそって講義し、実技も行う。

【評価方法】

- ・数回にわたるテストとレポートの提出で評価する。
- ・出席率も重要な評価対象である。

【テキスト】

博物館学概説（長谷川銑治 戸谷印刷）

博物館学各論Ⅱ

秋元悦子

【授業の概要】

博物館の活動の基礎は「資料」にあり、それを有効活用することではじめて博物館と言えよう。本講座では、その収集・取り扱い・整理・保存・活用について具体的な事例や実習を取り入れながら学んでいく。

【授業計画】

1. 博物館資料とは……「博物館資料」とは、何を指すか、理念およびその具体的種類を知る。

2. 資料収集……資料の収集に際しての、収集方針の重要性、収集方法の事例を学ぶ。

3. 資料の取り扱い……基本資料の取り扱いを実習し、習得するとともに、その構造を知り展示方法等も学ぶ。やきもの、和装・卷子本、掛け軸その他で実習する。

4. 資料整理……資料の整理について、分類方法やその整理登録方法を考え、資料カードの作成を実習する。

5. 資料情報……整理された資料の情報、二次的資料の情報の管理運営について考える。

6. 資料保管……資料の保管に関しての、保存条件や方法、問題点などを学ぶ。

7. 資料活用……資料を活用した調査研究活動の実際とその意義を知る。

また、4年次の「博物館実習」に備えた情報や、準備について説明する。

【評価方法】

実習態度、レポートおよび小テストで評価する。

【テキスト】

博物館学概説（長谷川銑治）

必要に応じてプリントを配布し、ビデオ・スライド等も利用する。

博物館学各論II

松村冬樹

【授業の概要】

「資料」をもたない博物館はあり得ない。では、「モノ」をもっていれば博物館といえるだろうか？「モノ」と「資料」はどう違うのだろうか？

この講座では、「博物館資料」の考え方にはじまり、資料取扱の基本までを、実習を中心に学習する。

【授業計画】

かび臭い貴重品という「博物館資料」のイメージをくつがえし、博物館や美術館見学時に役立つ基本知識や心構えを修得する。

- ア 資料とはなにか
- イ 博物館と資料
- ウ 収集の方法
- エ 資料の取扱（理論と実際）
- オ 整理と分類（観察とドキュメンテーション）
- カ 調査と研究
- キ 保管と保全
- ク 管理と活用
- ケ 資料情報の公開
- コ 資料と学芸員

【評価方法】

実際の美術品を用いた実習が主体となるので、出席は重視する。

基礎的知識の修得度と、文化財取扱に対する心構え（適性）を評価する。

【テキスト】

『博物館学概説』（長谷川鏑治 戸谷印刷 青本）。
随時プリントを配布する。

博物館実習

長谷川鏑治

【授業の概要】

学芸員の基本的な役割について、人文系博物館に例をとり、講義、展示演習、博物館見学、館務実習などを通して、実践的に学習する。

ア 展示論……展示とは何かからはじめて、展示についての学問的側面、実際の運びなどをみていく。

- 1 展示とは
- 2 展示のポイント
 - ・動線 ・視線
 - ・照明
 - ・温度 ・湿度
- 3 展示の施設
- 4 展示のプロセス
- 5 展示と保全

イ 普及・教育論……生涯学習が重要課題となっている現代社会にあつて、博物館が果たす役割はどんなものかを探っていく。

ウ 博物館見学……土・日曜日に展覧会や施設の見学に出かける。

エ 館務実習……夏休み中に各博物館に依頼して館務実習を行う。

オ 海外特別実習……夏休み中に希望者と海外の博物館の見学に出かけ現地で学習する。

カ 県外実習……エ、オに参加できない者は、9月に県外へ博物館の見学に出かける。

【授業計画】

授業概要の展開順にそつて講義・実習・見学をすすめる。

【評価方法】

- ・実習はもちろん、学外での研修にかならず参加し、それぞれレポートを提出する。
- ・実習にあたってはすすんで学習する姿勢で臨む。
- ・その都度、提出させるレポートを中心に実習態度なども勘案して評価する。

【テキスト】

博物館学概論（長谷川鏑治 戸谷印刷）

博物館実習

秋元悦子

【授業の概要】

学芸員資格を取得するにあたって、展示演習、博物館見学、博物館実習を中核に、具体的な学芸員活動を様々な観点から学習する。

【授業計画】

1. 展示とは……展示という手法について、その実際と未来像を考える。
2. 展示の実際……計画から、手法、条件などの展示の実際の概要を具体的事例をふまえながら、学んでゆく。
3. 展示にかかわる事業……展示をとりまく、様々な事業（解説、広報、印刷物、講座など）の存在を知る。
4. 展示の実習……各自で模擬展示の計画書を作成し、展示方法やその活用法を実習する。
5. 展示と教育普及事業……展示を通じての生涯学習機関として、博物館の今後になう役割と未来を探る。

授業以外に、

- 土曜日に、博物館の展示・施設見学を行う。
- 夏休み中に、各博物館に依頼し館務実習を行う。

【評価方法】

授業および学外での研修の出席・レポート、模擬展示の口頭発表およびその計画書で評価する。

【テキスト】

博物館学概論（長谷川銑治 戸谷印刷）

必要に応じてプリントを配布し、ビデオ・スライド等も利用する。

博物館実習

川合 剛

【授業の概要】

「展示」は、博物館と利用者とを結ぶインターフェイスであり、博物館の「顔」といえる。この授業では、「展示」に関わる知識・技術を学び、各種博物館の見学を通じて、その実践例を見る。

【授業計画】

「展示」を実施する際の各場面を疑似体験できるよう、「実技」の時間を多くとる。また、ビデオなど視聴覚教材を用いて、具体的なイメージでとらえられるようにする。

- (a) 展示とは
- (b) 展示のプロセス
- (c) 展示の構成要素
- (d) 展示と資料保全
- (e) 着想から実施まで
- (f) 解説の方法と印刷物
- (g) まとめ

- * 1 土曜日に近隣の博物館の展示見学、施設見学を行う（年5～6回程度）。
- * 2 夏休み中に各博物館に依頼し、館務実習を行う。
- * 3 夏休み中に海外博物館見学の研修を行う。
* 2、* 3に参加しなかった者は、県外博物館の見学を行う。

【評価方法】

実技を行うので出席状況を重視する。あわせて、レポートと課題の提出、(時間内)小テストの結果などにより評価する。

【テキスト】

『博物館学概論』（長谷川銑治 戸谷印刷）。

【参考文献・資料】

授業の進行状況に応じ、文献・論文などを指示する。

生涯学習概論

渡辺かよ子

【授業の概要】

生涯教育ないしは生涯学習とは、従来の学校教育・家庭教育・社会教育を垂直的水平的に統合してとらえ、生涯発達を支援しようとする教育学の一分野である。本講義では、生涯教育ないしは生涯学習に関する理論、ならびに各国における生涯学習の実態と問題点の理解を通じて、人間が学ぶことの社会的意味、生涯発達と自己形成における生涯学習の意義を概説し、社会教育施設の独自の教育的役割とその可能性を論究する。

【授業計画】

- 第1-2講 オリエンテーション、生涯学習の理念
- 第3-5講 社会教育の伝統と生涯学習の現状（先進国、発展途上国、日本）
- 第6-7講 現代日本の学習機会と生涯学習に関する法制
- 第8-11講 生涯発達と生涯学習の内容と方法
- 第12-13講 生涯学習における教養・人権と社会改革
- 第14講 生涯学習の今後の課題、総括

【評価方法】

平常レポート、書評、学期末試験。

【テキスト】

生涯発達と生涯学習（麻生誠・堀薫夫 放送大学教育振興会）

【参考文献・資料】

- 社会教育基礎論（小林文人・末本誠編 国土社）
- 苦悩する先進国の生涯学習（黒沢唯昭他編 社会評論社）
- 生涯教育（ジェルビ 東京創元社）
- 被抑圧者の教育学（フレイレ 亜紀書房）
- 国際成人教育論（ポーラ 東信堂）
- 高齢者教育論（松井政明他編 東信堂）
- 「わざ」から知る（生田久美子 東京大学出版会）
- 学びの復権（辻本雅史 角川書店）
- 学問のすすめ（福沢諭吉 岩波文庫）
- 水と原生林のはざままで（シュヴァイツェル 岩波書店）
- 大学改革と生涯学習（宮坂広作 明石書店）
- 消費社会の神話と構造（ボードリヤール 紀伊国屋書店）
- ハマータウンの野郎ども（ウィリス ちくま文芸文庫）

生涯学習概論

古野有隣

【授業の概要】

生涯学習という言葉は最近かなり知名度が高くなってきているが、その意味や意義については必ずしも正確に理解されているとはかぎらない。

この講義では生涯学習の意味するところを、その理念の提唱時からの推移の説明をまじえて、理解を深めることをねらいとしたい。また、先の長い人生を持っている自分にとって生涯学習とは何なのかを考える契機となればとも思っている。

1. 生涯教育の理念～推移を含めて～
 - ユネスコ以降わが国における推移
 - 生涯教育のめざすもの
 - 生涯教育と生涯学習の関係
2. 生涯教育と社会教育・学校教育との関係
 - 生涯教育と社会教育
 - 生涯教育と学校教育
3. 社会教育の内容・方法・形態
 - 行政社会教育の主要領域
 - 社会教育の内容・方法・形態
4. 生涯学習関連施設の現状と展望
 - 生涯学習関連施設の範囲
 - 社会教育施設の種類と現状
5. 生涯学習指導者
 - 生涯学習指導者の範囲
 - 生涯学習指導者の役割

【授業計画】

講義。

【評価方法】

テスト。

【テキスト】

資料集（予価500円）を開始時に頒布。

視聴覚教育メディア論

東浦信博

【授業の概要】

「学芸員のための」を前提としながらも幅広く視聴覚教育メディア全般の特性を検討し、最近のマルチメディアまでの各視聴覚教育メディアを論ずる。

【授業計画】

1. 視聴覚教育の意義と効果
2. 博物館と視聴覚教育メディア（手段としてのメディア、目的物としてのメディア）
3. 視聴覚教育メディア各論

領域と種類

録音メディア（レコード・テープ・CD等）

映像メディア1（スライド・OHP等）

映像メディア2（映画・ビデオ等）

マルチメディアと情報ネットワーク

講義中心であるが、OHP、ビデオを多用する。

【評価方法】

論述式定期試験（テキスト・ノート持込み可）。

【テキスト】

視聴覚メディアと教育（樹村房 ¥1,800+税）

教育学概論

渡辺かよ子

【授業の概要】

現代世界は南北問題、環境問題、人権問題など多くの問題を抱えている。教育問題はこれらの問題の一つであると同時に、またこれらの社会問題の解決方法として希望を託されているのも教育である。あるべき教育とはどういう教育なのだろうか。またなぜこれほどあるべき教育が語られるのに教育問題は解決しないのだろうか。本講義はこれらの問いを教育と社会との連関から考察する。

【授業計画】

1. オリエンテーション
2. 教育学の課題と方法
3. 教育の歴史：近代以前
4. 教育の歴史：近代以後（学校を中心とする教育）
5. 教育制度：各国の教育制度
6. 教育内容・教育課程
7. 教育方法とその工夫
8. 家庭教育：家庭における社会化の意義
9. 社会教育・生涯学習
10. 学校の経営管理および教師
11. 人権としての教育：人権としての教育の意義と家庭・教師の役割。
12. 総括

【評価方法】

レポートと試験

【テキスト】

天野郁夫編『教育への問い』東京大学出版会1997年

【参考文献・資料】

必要な参考図書は授業中に紹介する。

民俗学

谷沢 明

【授業の概要】

なにげなくくりかえしている日々の暮らしの中に、古い生活の投影がある。現代人の物の見方、考え方の中にも、伝統的な生活文化が反映している。民俗学においては、日本人はいかなる文化をつくりあげて今日にいたったかを、民衆の立場にたち、民衆の生活の中から、社会・経済・儀礼・信仰などの伝承をとおして具体的にみつめていきたい。また、古いものが今日の暮らしの中にもどのように残存しているか、新しく変わった部分はどこで、何が新しくさせていく力になったかも考えてみたい。

【授業計画】

1. 民俗学を学ぶ～方法論と調査研究法～
2. 稲作と日本文化～伝統的文化のとらえかた～
3. 農耕儀礼～田遊びを中心に～
4. 年中行事～正月行事を中心に～
5. 年中行事～盆行事を中心に～
6. 人生儀礼～人生の折りにあたって～
7. 暮らしの中の習俗～海に生きる人々～
8. 暮らしの中の習俗～山に生きる人々～
9. 庶民信仰を探る～絵馬に託された願い～
10. 庶民信仰を探る～庚申信仰～
11. 日本民俗学のあゆみ～柳田國男の役割～
12. 日本民俗学のあゆみ～宮本常一のまなざし～

【評価方法】

中間レポート及び授業内小テスト・試験による

【テキスト】

『フィールドワークで探る民俗と地域文化』

日本美術史

神谷 浩

【授業の概要】

日本美術史の中で、海外に最も親しまれている浮世絵に注目し、通史的に論じながら、その魅力と特質について考えます。

講義では、毎回豊富なスライドを用いて作品を鑑賞します。学芸員にとって最も重要な能力、自分の目で見ても価値を見出し、それを自分の言葉で表現できること、これができるようになることをめざします。

【授業計画】

- 1 ガイダンス 授業のすすめ方、浮世絵の基礎
- 2 ガイダンスII 浮世絵の基礎
- 3 風俗画から浮世絵の成立・浮世絵師1 菱川師宣ら
- 4 浮世絵師2 春信 錦絵の誕生
- 5 浮世絵師3 歌麿 女性を描く名手の真実
- 6 浮世絵師4 写楽 新しい役者絵 日本よりも海外で最初に評価されたのはなぜか
- 7 浮世絵師5 北斎 風景画の誕生。北斎芸術の本質。世界で最も有名な絵画作品は「モナリザ」か北斎の「大波」か。
- 8 浮世絵師6 広重 抒情の世界。北斎との違いは。
- 9 浮世絵師7 美人画さまざま 栄之、清長ら
- 10 浮世絵師8 役者絵さまざま
- 11 浮世絵師9 幕末浮世絵 再評価すべき国芳ら
- 12 浮世絵師10 明治の浮世絵 終焉と新たな出発
- 13 浮世絵のまとめ
- 14 美術の見方 枠にとらわれず、自分の目で作品を見るにはどうするのか。自分の見方の発見について考える。

【評価方法】

授業中に扱った作品の解説を求めるレポートを提出。自分の目で作品を鑑賞し、それを自分の言葉で表現できるかによって評価します。

【テキスト】

カラー版 浮世絵の歴史 (美術出版社 小林忠監修)

日本考古学概論

柴垣勇夫

【授業の概要】

考古学は、遺跡・遺物をもとに人間の営んできた歴史を明らかにする学問である。その研究方法には、層位学や型式学、分類学などの科学的方法論がとられ、人文科学の中でもとりわけ自然科学との結びつきが強い学問でもある。そうした学問の基本を学び、考古学が明らかにしてきた日本の歴史の一面を把握する。特に、全国各地で行われている遺跡の発掘調査によって、知られるようになった最近の新しい遺構、遺物を紹介し、学際的な研究の進展を学ぶ。また遺跡調査への関心を高め、文化財の保護という現代的課題についても考える。現代に生きる我々がどういふ社会を築くかを、歴史の中から学ぶ際に、考古学の果たす役割と受け継ぐべき文化遺産の重要性を認識する。

まず、考古学の方法を学び、世界の考古学研究の発展過程を眺める。次に日本の旧石器時代から近世に至る、日本考古学の研究成果を把握する。なかでも原始・古代遺跡における最近の新発見や社会構造の捉え方の変化、中世から近世の城館や都市遺跡の発掘調査から判明してきた当時の生活様式などに理解を深める。また日本考古学の研究対象が近世・近代にまで広がっていることを認識するとともに、遺跡や遺物の文化財としての保存の必要性和その活用方法についても考える。

【授業計画】

各時代毎の解説の後、スライド・OHPなどにより視覚的に確認し、次の時代に進む。新聞記事等最近のニュースも逐次取り入れる。旧石器時代から近世の江戸時代まで12章にて構成する。

【評価方法】

講義内容から出題するテスト。集中授業での欠席 1/3 を越えたものは受験資格を失うこととする。

【テキスト】

印刷物をテキストとして配布する。

ドイツ語 a・b

浜田義孝

【授業の概要】

ドイツ語の基礎を習得する。

ドイツ語は英語と同じく西ゲルマン語から出た言語で類似点も多いが、英語に比べてかなり保守的で、面倒な語形変化などがある。しかし一見やっかいそうな文法もいったん慣れてしまえば、かえって語句の関係が明確であり構文の把握も容易になる。

言葉は何よりもまず音声であるから、初めにドイツ語の発音に慣れること。そのためには教師（またはテープ）のドイツ語をよく聞いて、積極的に口を動かして真似ること。こうして繰り返し反復練習することによって、基本的なドイツ語の語句や言い回しになじみ、やさしい文を覚えていけば、週一回という短時間の学習でも、ドイツ語の基礎をマスターできるでしょう。

またドイツ語の学習を通してドイツやオーストリアの生活と文化に触れることもできる。

【授業計画】

テキストは全12課で、各課ともドイツ語の会話と基本的な文法事項、練習問題から構成されている。LL方式のパターン練習で基本構文や表現パターンを覚え、それをペアで行なう対話練習で実践し、段階的に表現能力を身に付けてゆく。

1課を2回の授業で修了するくらいのゆっくりしたペースで進む。

【評価方法】

授業での平常点と期末試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

コミュニケーションのためのドイツ語（在間／田畑共著 第三書房）

フランス語 a・b

清水ベアトリックス

【授業の概要】

この授業は初級者を対象とし、フランス語の習得だけでなく、フランスの風俗、文化、習慣も「味わいながら」学ぶことを意図する。担当講師はフランス語の授業を通じて受講者の対仏国理解を深める手助けをすることを切に望む。

前期

日本で出版された平易なフランス語テキスト（CD付き）、漫画、ポップス、ビデオなどを使用する。

前期には、テキストの目次に沿って進み、フランス人講師が直接教えるので、受講者は「フランスに浸り」、「純粋な」フランス語の発音と文法の基礎を身に付ける。

できる限り前期では、下記の文法を学ぶ：

発音、名詞の『性』と『数』、冠詞、不定詞と動詞の活用：直接法現在形、疑問文：疑問代名詞と疑問形容詞、否定文、品質形容詞。

後期

前期に引き続き同じテキストを使用し、より高レベルの文法・語彙を学ぶ。しかし、特にコミュニケーションに重点を置くので、「純粋なフランスの環境」の中で簡単な作文を書いたり、寸劇をすることにより、受講者自身の考えをフランス語で表現する能力を養成することを主目的とする。

後期では、下記の文法事項を学ぶ：

目的語となる人称代名と強勢形、指示形容詞、所有形容詞、冠詞の縮約、半過去、複合過去。

【授業計画】

毎回学んだフランス語を会話練習に積極的に使用するとともに、文法を体系的に学んだり、平易なフランス語の文章を和訳する。

【評価方法】

定期試験を重視するが、宿題、出席率、受講態度なども考慮に入れる。

【テキスト】

「Elle est gourmande」（藤田裕二、朝日出版社）

ロシア語 a・b

杉本一直

【授業の概要】

みなさん、知っていますか？日本の大学のなかでロシア語を学ぶことができる場所は本当に少ないんですよ。ということは、「ロシア語がわかる人」は日本ではとても希少価値があるのです！「芸術の国ロシア」の言葉を今すぐ学んでみませんか？

この授業では、初歩のロシア語を学びながらロシアの芸術や文化や街について楽しく紹介していきます。映画の鑑賞会もありますから、楽しみにしててくださいね。

【授業計画】

初級のわかりやすい辞書を「テキスト」として授業を進めてきます。まず、例の不思議な形をしたキリル文字を覚え、発音を覚え、そのあとは辞書で遊び(?)ながら「使える単語」「使えるフレーズ」を集めていきます。たくさんたくさん集めたら、あれ、いつのまにかロシア語の達人！

辞書以外に補助教材として会話用プリントを配布します。学ぶ項目は以下のとおりです。

- a. キリル文字と発音
- b. 大きな声であいさつしよう
- c. 買い物に行ってみよう
- d. 乗り物に乗ろう
- f. おなかがいっぱいなら...
- g. 自分について話してみよう
- h. 好きな音楽について
- i. 手紙を書こう (本当にロシアへ送るぞ！)

【評価方法】

定期試験の成績による。

【テキスト】

ロシア語ミニ辞典 (白水社)

英語コミュニケーション5

石橋千鶴子

【授業の概要】

パラグラフ・ライティングを含む英語総合演習。

【授業計画】

英語の4技能、すなわちリスニング、スピーキング、リーディング、ライティングにおける運用能力の育成を目指し、総合的な英語活動を行う。

授業では英語ビデオ教材を使い、内容把握のための活動を英語で行っていく。また、ライティング学習では、英文の基本であるパラグラフの構成と、その中でいかにしてトピックを展開させるかを学ぶ。与えられたトピックでパラグラフ・ライティング、レター・ライティングなどを行い、ライティングにおける運用能力の育成をはかる。語いの増強と読解力養成のため、英字新聞記事の講読も行う。

なお、後期「英語コミュニケーション6」の履修を希望する者は、「英語コミュニケーション5」を履修しておくことが望ましい。

【評価方法】

期末試験及び日常の勉強状況により評価を行う。

【テキスト】

英字新聞記事のコピーなどを配布。

英語コミュニケーション5

安田千恵

【授業の概要】

LLを利用した主にリスニング、スピーキングの力を養成することを目的とした英語演習

【授業計画】

ビデオ、音声テープを利用し、出来るだけ大量の英語を聴き、日本語を介さず、英文をそのまま理解する力を養うと共に、聴き取った内容に対して、英語で感想を述べる練習を通じ、スピーキングの力も養成したい。

テキストは、アメリカの文化、日常生活を紹介しており演習を通して、アメリカ文化に対しての理解を深めていきたい。

又、LL機能を利用し、発音の訓練も行う。

なお、第1回目の講義時に、64分テープを持参すること。

【評価方法】

出席状況、平常点、試験等によって総合的に評価する。

【テキスト】

CUBIC LISTENING CLOSING THE CULTURE GAP
(Timothy Kiggell, Kevin Cleary MACMILLAN
LANGUAGEHOUSE)

英語コミュニケーション6

石橋千鶴子

【授業の概要】

TOEIC対策を含む英語総合演習。

【授業計画】

英語の4技能、すなわちリスニング、スピーキング、リーディング、ライティングにおける運用能力の強化を目指し、総合的な英語活動を行う。

前期「英語コミュニケーション5」に引き続き、ビデオ英語教材を使い、内容把握のための活動を英語で行う。また、TOEIC問題の演習を行い、さらなる個人学習を促したい。語いの増強と読解力養成のため、英字新聞記事の講読も行う。

なお、本科目履修希望者は、前期「英語コミュニケーション5」を履修しておくことが望ましい。

【評価方法】

期末試験及び日常の勉学状況により評価を行う。

【テキスト】

TOEICテスト スーパー模試600問(発行 アルク)
英字新聞記事のコピーなどを配布。

英語コミュニケーション6

安田千恵

【授業の概要】

リスニング、ディスカッションの演習を通して自分の考えを英語で表現する力を養う。

【授業計画】

社会や日常生活上の様々なトピックについてリスニング、表等の資料の読み取り、ディスカッションの演習を行いながら、その中で使用されている表現方法や語彙を習得し、トピックに対しての意見を英語で論理的に表現出来るよう指導する。表等の資料の読み取り練習は、TOEIC対策としても有効と思われる。

又、LLを利用して、音読の訓練も行う。

なお、第1回目の講義時に60分の音声テープを持参すること。

【評価方法】

出席状況、平常点、試験等によって総合的に評価する。

【テキスト】

別途指示する。

英語コミュニケーション7

中村栄造

【授業の概要】

世界の様々な出来事が国際ニュースとして、われわれの手元にすぐ届けられる時代を迎えて久しい。この授業では、日々われわれが接する膨大な情報から必要な情報を的確に入手することを念頭に、主にリスニングとリーディングを中心とした英語運用能力の獲得を目指す。

主にリスニング教材とするのは、VOA (Voice of America) のニュースである。これを毎回、ディクテーションする。リーディングは英字新聞や、雑誌 Newsweek などから幅広く教材を選び、読解を試みる。

【授業計画】

リスニングのトレーニングを30分、リーディングを30分毎回行う。なお、毎回、授業内容に関する確認テストを実施する (30分)。

【評価方法】

授業内に行う確認テスト、およびリーディング教材の読解度、中間試験、定期試験を総合して判断する。

【テキスト】

毎回プリントを配布。

英語コミュニケーション8

大鐘洋司郎

【授業の概要】

商社、外資系会社、製造業者、外国為替銀行、海運会社、航空貨物会社、国際運送会社や保険会社などに就職しようとする学生に役に立つ体験から帰納した内容をやさしく解説。

海外からの商品の物流、代金決済方法の理解は一般企業就職希望者にも役に立つ。

授業担当者は全米最大の小売業者シアーズ社などの取引経験から、教科書の事例を解説し、英語ビジネスコミュニケーションの手法を学ぶ。

TOEICにも役立つ体験的英語上達法。

【授業計画】

- 第1回 何を学習するか。レター・フォーマットの解説。その他。
- 第2回 海外取引先紹介依頼及び取引先紹介者への礼状
- 第3回 信用照会及びその返信
- 第4回 取引開始申し込み
- 第5回 ビデオ視聴（内容は下記参照）
- 第6回 一般取引条件協定書の交換
- 第7回 基本貿易価格FOB及びCIF
- 第8回 オファー、価格表及びカウンターオファー
- 第9回 発注及びその確認
- 第10回 注文書、売約書の送付
- 第11回 信用状修正依頼及び受領確認
- 第12回 船積みに関して
- 第13回 ビジネス英会話（時間と受講生数次第で実行）

【評価方法】

出席状況・定期試験・その他による。

授業に取り組む積極性も評価する。

【テキスト】

ケーススタディで学ぶ英文ビジネス文書のライティングとプレゼンテーション再増補版（大鐘洋司郎他 嵯峨野書院 税込 2,625円）

ビデオ「貿易実務の基礎知識」又は「外国為替について」

授業担当者作成資料（プリント教材その他）

英語コミュニケーション9

小野迪雄

【授業の概要】

アーネスト・ヘミングウェイは、20世紀を代表するアメリカの作家であり、多難な激しく変動した時代を生き抜いた作家でもある。『老人と海』でノーベル賞を授賞したが、彼の文学の本質を探ってみると、円環を描いて、初期の作品世界につながっているようにみえる。それ故、初期の短編を読み解くことは重要であり、彼の文学の本質に迫れるかもしれない。

ヘミングウェイの文章は簡潔で引き緊った文体で、現代の標準的な文章の一つの型をもっていて、読みやすい。

【授業計画】

テキストを中心に読み進み、随時プリントを配布して、作者や作品の理解を深めるようにする。

【評価方法】

定期試験の成績を主とするが、日常の授業に対する準備も判断の資料とする。

【テキスト】

Indian Camp and Other Stories (Hemingway)

『ヘミングウェイ短編集』 成美堂

【参考文献・資料】

授業時に随時紹介する。必要に応じてプリントを配布する。

英語コミュニケーション10

フィリップ・サザンズ

【Course Content】

This is a discussion class. A discussion is a conversation in detail about a topic. Having discussions is a normal part of adult life. Once you learn the basics, you will be able to have interesting discussions with anyone, anywhere.

In order to have interesting, intelligent discussions, we will practice giving opinions, story-telling, summarizing and persuading by agreeing and disagreeing. Each student will research and discuss three topics. We may also watch videos.

【Schedule】

- 1 - 2 Introduction - opinions and reasons
- 3 - 4 Animal testing - News story
- 5 - 6 Discussion game 1
- 7 - 8 Summarizing - Telling stories
- 9 - 10 Controversial Issues - Discussion game 2
- 11 - 12 Refutations - Discussion game 3
- 13 Test

【Assessment】

Student scores are based on homework and classwork. If you are absent from a class, you can not receive a mark for the classroom discussion and homework for that day.

Please come to every class.

【Textbooks】

Handouts from the instructor

英語コミュニケーション10

デイヴィッド・アベ

【Course Content】

This course is design to develop the four-macro skills of speaking, listening, reading, and writing. In class work will be focusing on the speaking and listening, while homework will also be given to cover the reading and writing section. The goal is to use activities that engage in real-life situation using authentic materials, which will be interesting and motivational to students.

【Schedule】

A variety of topics will be covered. The order in which they are covered in class will depend on the students level and interests.

【Assessment】

Assessment will be based on attendance, participation, homework, and a final test.

【Textbooks】

The book is to be announced on the first day of class.

英語コミュニケーション10

セブテンパー・スミス

【Course Content】

The purpose of this four-skills course is to utilize and develop all aspects of language learning. Using social themes and issues that are of interest or concern for young adults, the class format of this course allows an intensive exploration of these topics applying all four language skills.

The concurrent focus on speaking, listening, reading and writing provides a general strengthening of the learners' overall second-language skills and also affords the opportunity to compare the differences in English in its spoken and written forms.

【Schedule】

The areas from which topics are to be drawn for this course include:

- 1) Interpersonal Relationships
- 2) The Working World
- 3) The Supernatural and the Unexplained
- 4) The Future: Yours and Ours

【Assessment】

Assessment will be based on attendance, participation, effort made by the students to communicate in English in the class, and the semester's work. No test will be given.

【Textbooks】

No textbooks will be used, but a series of reading and worksheets will be provided

英語コミュニケーション10

アラン・デイヴィーズ

【Course Content】

The aim of this course is to develop students' speaking, listening, reading and writing skills. Students will therefore be provided with a range of integrated materials and tasks designed to develop these four language skills areas. Classroom activities will include role play, small group mini-discussion, communication games, and reading and writing practice tasks. Students will have maximum opportunity to use English for real communication throughout the 90-minute class. A special feature of this course is the emphasis placed on learning to identify, collect and use lexical 'chunks' (phrasal vocabulary) as a powerful tool for communication, both in spoken and written English.

【Schedule】

Topics to be covered include:

1. Family and friends
2. People and Places
3. Memories of the past
4. Relationships
5. Talk/Tell about yourself
6. Reading skills
7. The structure and style of English writing
8. Introduction to lexical chunks

【Assessment】

Class work - 70%

Homework - 30%

【Textbooks】

The textbook will be announced during the first class.

英語コミュニケーション10

ポール・ルイス

【Course Content】

This course aims to focus on improving speaking and listening skills, particularly focussing on the latter. In particular, the different ways of listening will be covered, including extensive and intensive styles. The course will be given in English, and students are expected to use English as much as possible during class.

【Schedule】

Lessons 1 - 12: Various topics/listening skills.

【Assessment】

Assessment will be based on class participation and attendance, and a combination of continuous assessment, tests, and/or a final examination.

【Textbooks】

The textbook will be announced during the first class meeting.

英語コミュニケーション10

ハリー・T. ノリス

【Course Content】

The objective of this course is to develop the students' ability to interact using English. They will be able to speak with an increased degree of fluency and confidence, with other Japanese people and native speakers of English. Areas of concentration will include, listening, pronunciation and other speaking skills. Inter-cultural differences will be explored as will humour and lifestyle, in order for students to gain an overall understanding of English. Teaching methods will include group work and individual work with the main aim being for the student to be able to express opinion and fact in English.

Teaching materials will include video's, short stories, poems and other media to stimulate the students into discussion.

【Schedule】

This will be a one semester course.

The students will work through the assigned text with extra work being given in the form of handouts. These will include but will not be restricted to: Introductions, Pronunciation ex. (L/R and B/V), Natural word groups, Homonyms, Large numbers, Word Groups and Word Relationships, Giving and Receiving Directions

【Assessment】

Assessment will be based on class work, homework, speaking and listening ability and tests.

【Textbooks】

Text to be announced.

英語コミュニケーション10

リオナ・R. キャメロン

【Course Content】

In this course the students will practice the four skills, speaking, listening, reading and writing. Students will learn practical English. Students will be expected to participate and speak a lot in English during the classes.

The content will review the English that has already been learnt by students previously and increase the students' knowledge and performance in English.

【Schedule】

In each lesson, students will do many kinds of activities, individually, in pairs or groups.

【Assessment】

Assessment will be on-going, based on attendance, participation, homework and tests.

【Textbooks】

The textbook will be announced during the first class.

【Reference】

Students will be expected to have an English-Japanese dictionary and a Japanese-English dictionary in every class. Electronic dictionaries are acceptable.

英語コミュニケーション10

サミュエル・ミラー

【Course Content】

The aims of the course are as follows: to acquaint students with basic / intermediate grammar and vocabulary; to equip them with adequate conversational skills on a variety of topics; to get them to enjoy English. Generally, we will spend the first 30 minutes of each class on grammar review, devoting the remainder of the period to the textbook and open topics. Each student may also be asked to give a very short presentation at some point during the semester. Topics to be covered:

Family, Food and Restaurants, Music and Entertainment, Sports

School, Health and Fitness, Books Magazines and Newspapers.

Marriage and Divorce, Beliefs and Opinions.

【Assessment】

Grade will be based attendance and participation (50%) homework and a final test (50%)

【Textbooks】

New Interchange 2 (Jack Richards
CAMBRIDGE)

英語コミュニケーション10

ジョナサン・E. ロング

【Course Content】

This course aims to improve the students' abilities in the four language skills in English by reading about and discussing in class cultural differences and writing about these topics outside of class. To be successful the students must be willing to work hard.

【Assessment】

Assessment will be based upon
attendance
class participation
homework
quizzes
essays

【Textbooks】

Culture Riddles — America

英語コミュニケーション11

ジョナサン・E. ロング

【Course Content】

Students who meet the prerequisites will in the class have to meet the challenges of reading scripts in English, watching the videos without subtitles, discussing them in English and writing reaction papers about them.

Usually, three weeks will be allowed for each video:

Week 1 : script

Week 2 : video

Week 3 : discussion; homework; reaction paper

【Assessment】

Assessment will be based on attendance and the reaction papers.

【Textbooks】

none.

英語コミュニケーション12

デイビッド・C. ダイカス

【Course Content】

This course will focus on skills and techniques needed for informative and persuasive writing and speaking.

The course be topic/theme oriented. Students will read about, and discuss, these topics. Writing practice will include the study of paragraph organization and effective presentation and support of ideas in written English. Once this level of writing is mastered, we will move on to longer pieces of writing.

【Schedule】

As described above, the course will move from basic organization and presentation of ideas to essays and discussions based on their content.

【Assessment】

Grading will be based on attendance and participation, homework assignments, and a test.

【Textbooks】

To be announced

TOEFL・TOEICトレーニングI

ジョナサン・E. ロング 鈴木哲至 野口朋香
磯村香里 寺本史子

【Course Content】

TOEFL (1)

高校時代の英語学習単位数、ネイティブの授業経験の有無、英語の学力等の点からみて、英語の聞き取り及び表現の基礎的能力のトレーニングを必要とする者を対象とする。授業では、TOEFL やTOEICなどの試験を目標として、各自の学習歴及び学力によりクラス編成を行い、キメ細かい学習指導を行い、英語の基礎的運用能力を強化する。

TOEFL means "Test Of English as a Foreign Language".

Students who have never done a TOEFL test or who have a score of less than 345 should consider doing this course.

This is an introductory level course for preparation for the TOEFL test. It will give step by step strategies and skills to improve performance on each of the seven sections of the TOEFL test. TOEFL test-like exercises will be used to accustom the students to the type of questions to expect in the TOEFL test.

The TOEFL test covers seven different types of questions to test English ability.

1. Listening comprehension
 - A. Short conversations
 - B. Long conversations
 - C. Talks (short lectures)
2. Structure and written expression (grammar)
 - A. Structure
 - B. Written expression
3. Reading comprehension
 - A. Reading comprehension
 - B. Vocabulary

【Schedule】

The order in which material will be presented will be determined by each instructor according to their judgement of the students needs.

【Assessment】

Assessment for TOEFL I (1) will be based on the students attendance, participation, classwork and homework.

【Textbooks】

To be announced.

IMPORTANT: 一般に英語の授業を履修することで、TOEFLのスコアが良くなるという調査報告があります。効果的な勉強のために、この科目を履修するにあたっては、その他に2科目以上の英語の授業を履修することを勧めます。

(文学部の学生の場合「Practical English 1,2,3,4」を履修することを勧めます。)

TOEFL・TOEICトレーニングⅠ

ジョナサン・E. ロング 鈴木哲至 野口朋香
磯村香里 寺本史子

【Course Content】

TOEIC (1)

高校時代の英語学習単位数、ネイティブの授業経験の有無、英語の学力等の点からみて、英語の聞き取り及び表現の基礎的能力のトレーニングを必要とする者を対象とする。授業では、TOEFL や TOEIC などの試験を目標として、各自の学習歴及び学力によりクラス編成を行い、キメ細かい学習指導を行い、英語の基礎的運用能力を強化する。

TOEIC means "Test Of English for International Communication".

This is an introductory level course for preparation for the TOEIC test. It will give step by step strategies and skills to improve performance on each of the seven sections of the TOEIC test. TOEIC test-like exercises will be used to accustom the students to the type of questions to expect in the TOEIC test.

Students who have never done a TOEIC test or who have a score of less than 250 should consider doing this course.

The TOEIC test covers seven different types of questions to test English ability.

- A. Listening comprehension
 1. Sentences about photographs.
 2. Questions / responses
 3. Dialogues
 4. Short talks
- B. Reading comprehension
 5. Sentence completion
 6. Error identification
 7. Short passages

【Schedule】

The order in which material will be presented will be determined by each instructor according to their judgement of the students needs.

【Assessment】

Assessment for TOEIC I (1) will be based on the students attendance, participation, classwork and homework.

【Textbooks】

To be announced.

IMPORTANT: 一般に英語の授業を履修することで、TOEICのスコアが良くなるという調査報告があります。効果的な勉強のために、この科目を履修するにあたっては、その他に2科目以上の英語の授業を履修することを勧めます。

(文学部の学生の場合「Practical English 1, 2, 3, 4」を履修することを勧めます。)

TOEFL・TOEICトレーニングⅡ

テイビッド・C. ダイカス ジョナサン・E. ロング ハリー・T. ノリス
ジェームス・A. ジョーシヤレル・A. ラインツマ アラン・テイヴィーズ
アレン・D. ウィリアムス 鈴木哲至 野口朋香 磯村香里 寺本史子

【Course Content】

TOEFL (2)

TOEFL・TOEICなどの英語能力測定試験を利用することにより、各自の英語能力を客観的に把握させ、そこから自主的な英語学習を促すものである。

授業では、TOEFL 500点、TOEIC 640点などを到達目標として演習を行い、英語の総合運用能力を強化し、英語能力測定試験スコアの向上を目指す。

TOEFL means "Test Of English as a Foreign Language".

Students who have completed TOEFL I or who have a score of less than 370 should consider doing this course.

This is a basic level course for preparation for the TOEFL test. It will give step by step strategies and skills to improve performance on each of the seven sections of the TOEFL test. TOEFL test-like exercises will be used to accustom the students to the type of questions to expect in the TOEFL test.

The TOEFL test covers seven different types of questions to test English ability.

1. Listening comprehension
 - A. Short conversations
 - B. Long conversations
 - C. Talks (short lectures)
2. Structure and written expression (grammar)
 - A. Structure
 - B. Written expression
3. Reading comprehension
 - A. Reading comprehension
 - B. Vocabulary

【Schedule】

The order in which material will be presented will be determined by each instructor according to their judgement of the students needs.

【Assessment】

Assessment for TOEFL II (2) will be based on the students attendance, participation, classwork and homework.

【Textbooks】

To be announced.

IMPORTANT: 一般に英語の授業を履修することで、TOEFLのスコアが良くなるという調査報告があります。効果的な勉強のために、この科目を履修するにあたっては、その他に2科目以上の英語の授業を履修することを勧めます。

(文学部の学生の場合「Practical English 1, 2, 3, 4」を履修することを勧めます。)

TOEFL・TOEICトレーニングⅡ

デイビッド・C. ダイカス ジョナサン・E. ロング ハリー・T. ノリス
ジェームス・A. ジョニー シャレル・A. ラインツマ アラン・デイヴィーズ
アレン・D. ウィリアムス 鈴木哲至 野口朋香 磯村香里 寺本史子

【Course Content】

TOEIC (2)

TOEFL・TOEICなどの英語能力測定試験を利用することにより、各自の英語能力を客観的に把握させ、そこから自主的な英語学習を促すものである。

授業では、TOEFL 500点、TOEIC 640点などを到達目標として演習を行い、英語の総合運用能力を強化し、英語能力測定試験スコアの向上を目指す。

This is a basic level course for preparation for the TOEIC test. It will give step by step strategies and skills to improve performance on each of the seven sections of the TOEIC test. TOEIC test-like exercises will be used to accustom the students to the type of questions to expect in the TOEIC test.

Students who have completed TOEIC I or have a TOEIC score of less than 300 should consider doing this course.

The TOEIC test covers seven different types of questions to test English ability.

- A. Listening comprehension
 1. Sentences about photographs.
 2. Questions / responses
 3. Dialogues
 4. Short talks
- B. Reading comprehension
 5. Sentence completion.
 6. Error identification
 7. Short passages

【Schedule】

The order in which material will be presented will be determined by each instructor according to their judgement of the students needs.

【Assessment】

Assessment for TOEIC II (2) will be based on the students attendance, participation, classwork and homework.

【Textbooks】

To be announced.

IMPORTANT: 一般に英語の授業を履修することで、TOEICのスコアが良くなるという調査報告があります。効果的な勉強のために、この科目を履修するにあたっては、その他に2科目以上の英語の授業を履修することを勧めます。

(文学部の学生の場合「Practical English 1, 2, 3, 4」を履修することを勧めます。)

TOEFL・TOEICトレーニングⅢ

ジェームス・A. ジョニー デイビッド・C. ダイカス ジョナサン・E. ロング ハリー・T. ノリス シャレル・A. ラインツマ
アレン・D. ウィリアムス アラン・デイヴィーズ スコト・R. グリーン 寺本史子

【Course Content】

TOEFL (3)

TOEFL・TOEICなどの英語能力測定試験の受験結果により測定された各自の英語能力を客観的に把握させ、そこから自主的な英語学習を促すものである。

授業では、TOEFLやTOEICなどの試験スコアにより、クラス編成を行い、キメ細かい学習指導を行い、英語の運用能力を強化し、英語能力測定試験への受験意欲の向上を目指し、TOEFL・TOEICトレーニングⅣの授業につなげる。

Students who have completed TOEFL I or II, or who have a score of more than 380 should consider doing this course.

This is a high-beginner level course for preparation for the TOEFL test. It will give step by step strategies and skills to improve performance on each of the seven sections of the TOEFL test. TOEFL test-like exercises will be used to accustom the students to the type of questions to expect in the TOEFL test.

The TOEFL test covers seven different types of questions to test English ability.

1. Listening comprehension
 - A. Short conversations
 - B. Long conversations
 - C. Talks (short lectures)
2. Structure and written expression (grammar)
 - A. Structure
 - B. Written expression
3. Reading comprehension
 - A. Reading comprehension
 - B. Vocabulary

【Schedule】

The order in which material will be presented will be determined by each instructor according to their judgement of the students needs.

【Assessment】

Assessment for TOEFL III (3) will be based on the students attendance, participation, classwork and homework.

【Textbooks】

To be announced.

IMPORTANT: 一般に英語の授業を履修することで、TOEFLのスコアが良くなるという調査報告があります。効果的な勉強のために、この科目を履修するにあたっては、その他に「上級英語セミナー」や2科目以上の英語の授業を履修することを勧めます。

(文学部の学生の場合「Practical English 1, 2, 3, 4」を履修することを勧めます。)

TOEFL・TOEIC トレーニングⅢ

ジェームス・A. ジョリー テイビッド・C. ダイカス ジョハン・E. ログ ハー・T. ノス シェル・A. ラング
アレン・D. ウィリアムス アラン・テイヴィーズ スコト・R. グレーン 寺本美子

【Course Content】

TOEIC (3)

TOEFL・TOEICなどの英語能力測定試験の受験結果により測定された各自の英語能力を客観的に把握させ、そこから自主的な英語学習を促すものである。

授業では、TOEFLやTOEICなどの試験スコアにより、クラス編成を行い、キメ細かい学習指導を行い、英語の運用能力を強化し、英語能力測定試験への受験意欲の向上を目指し、TOEFL・TOEICトレーニングⅣの授業につなげる。

This is a high - beginner course for the TOEIC test. TOEIC test - like exercises will be used to accustom the students to the type of questions to expect in the TOEIC test. This course aims to develop the students general English ability. This will in turn produce an improved TOEIC score.

Students who have completed TOEIC I or II, or have a TOEIC score higher than 300 should consider taking this course.

The TOEIC test covers seven different types of questions to test English ability.

A.Listening comprehension

1. Sentences about photographs.
2. Questions / responses
3. Dialogues
4. Short talks

B.Reading comprehension

5. Sentence completion
6. Error identification
7. Short passages

【Schedule】

The order in which material will be presented will be determined by each instructor according to their judgement of the students needs.

【Assessment】

Assessment for TOEIC III (3) will be based on the students attendance, participation, classwork and homework.

【Textbooks】

To be announced.

IMPORTANT: 一般に英語の授業を履修することで、TOEICのスコアが良くなるという調査報告があります。効果的な勉強のために、この科目を履修するにあたっては、その他に「上級英語セミナー」や2科目以上の英語の授業を履修することを勧めます。

(文学部の学生の場合「Practical English 1,2,3,4」を履修することを勧めます。)

TOEFL・TOEIC トレーニングⅣ

テイビッド・C. ダイカス ジェームス・A. ジョリー アラン・テイヴィーズ
アレン・D. ウィリアムス ダニエル・ダンクリー

【Course Content】

TOEFL (4)

TOEFL・TOEICなどの英語能力測定試験を利用することにより、各自の英語能力を客観的に把握させ、そこから自主的な英語学習を促すものである。

授業では、TOEFL 550点、TOEIC 720点などを到達目標として演習を行い、英語の総合運用能力を強化し、英語能力測定試験スコアの向上を目指す。

Students who have completed TOEFL I or II, or who have a score of more than 400 should consider doing this course.

This is a pre - intermediate level course for preparation for the TOEFL test. It will give step by step strategies and skills to improve performance on each of the seven sections of the TOEFL test. TOEFL test - like exercises will be used to accustom the students to the type of questions to expect in the TOEFL test.

The TOEFL test covers seven different types of questions to test English ability.

1. Listening comprehension

- A. Short conversations
- B. Long conversations
- C. Talks (short lectures)

2. Structure and written expression (grammar)

- A. Structure
- B. Written expression

3. Reading comprehension

- A. Reading comprehension
- B. Vocabulary

【Schedule】

The order in which material will be presented will be determined by each instructor according to their judgement of the students needs.

【Assessment】

Assessment for TOEFL IV (4) will be based on the students attendance, participation, classwork and homework.

【Textbooks】

To be announced.

IMPORTANT: 一般に英語の授業を履修することで、TOEFLのスコアが良くなるという調査報告があります。効果的な勉強のために、この科目を履修するにあたっては、その他に「上級英語セミナー」や2科目以上の英語の授業を履修することを勧めます。

(文学部の学生の場合「Practical English 1,2,3,4」を履修することを勧めます。)

TOEFL・TOEICトレーニングⅣ

テイビッド・C. ダイカス ジェームス・A. ジョリー アラン・テイヴィーズ
アレン・D. ウィリアムス ダニエル・ダンクラー

【Course Content】

TOEIC (4)

TOEFL・TOEICなどの英語能力測定試験を利用することにより、各自の英語能力を客観的に把握させ、そこから自主的な英語学習を促すものである。

授業では、TOEFL 550点、TOEIC 720点などを到達目標として演習を行い、英語の総合運用能力を強化し、英語能力測定試験スコアの向上を目指す。

This is a pre-intermediate course for the TOEIC test. TOEIC test-like exercises will be used to accustom the students to the type of questions to expect in the TOEIC test. This course aims to develop the students general English ability. This will in turn produce an improved TOEIC score.

Students who have completed TOEIC I or II, or have a TOEIC score higher than 350 should consider taking this course.

The TOEIC test covers seven different types of questions to test English ability.

A. Listening comprehension

1. Sentences about photographs.
2. Questions / responses
3. Dialogues
4. Short talks

B. Reading comprehension

5. Sentence completion
6. Error identification
7. Short passages

【Schedule】

The order in which material will be presented will be determined by each instructor according to their judgement of the students needs.

【Assessment】

Assessment for TOEIC IV(4) will be based on the students attendance, participation, classwork and homework.

【Textbooks】

To be announced.

IMPORTANT: 一般に英語の授業を履修することで、TOEICのスコアが良くなるという調査報告があります。効果的な勉強のために、この科目を履修するにあたっては、その他に「上級英語セミナー」や2科目以上の英語の授業を履修することを勧めます。

(文学部の学生の場合「Practical English 1, 2, 3, 4」を履修することを勧めます。)

TOEFL・TOEICトレーニングⅤ

ジェームス・A. ジョリー テイビッド・C. ダイカス ジョアン・M. ウッドマン
アラン・テイヴィーズ スコット・R. グリーン アレン・D. ウィリアムス

【Course Content】

TOEFL (5)

TOEFL・TOEICなどの英語能力測定試験の受験結果により測定された各自の英語能力を客観的に把握させ、そこからより自主的な英語学習を促すものである。

授業では、TOEFLやTOEICなどの試験スコアにより、クラス編成を行い、学力差に対応したキメ細かい学習指導を行い、英語の運用能力を強化し、英語能力測定試験への受験意欲の向上を目指し、TOEFL・TOEICトレーニングⅥの授業につなげる。

Students who have completed TOEFL I or II, or who have a score of more than 420 should consider doing this course.

This is an intermediate level course for preparation for the TOEFL test. It will give step by step strategies and skills to improve performance on each of the seven sections of the TOEFL test. TOEFL test-like exercises will be used to accustom the students to the type of questions to expect in the TOEFL test.

The TOEFL test covers seven different types of questions to test English ability.

1. Listening comprehension

- A. Short conversations
- B. Long conversations
- C. Talks (short lectures)

2. Structure and written expression (grammar)

- A. Structure
- B. Written expression

3. Reading comprehension

- A. Reading comprehension
- B. Vocabulary

【Schedule】

The order in which material will be presented will be determined by each instructor according to their judgement of the students needs.

【Assessment】

Assessment for TOEFL V(5) will be based on the students attendance, participation, classwork and homework.

【Textbooks】

To be announced.

IMPORTANT: 一般に英語の授業を履修することで、TOEFLのスコアが良くなるという調査報告があります。効果的な勉強のために、この科目を履修するにあたっては、その他に「上級英語セミナー」や2科目以上の英語の授業を履修することを勧めます。

(文学部の学生の場合「Practical English 1, 2, 3, 4」を履修することを勧めます。)

TOEFL・TOEIC トレーニングV

ジェームス・A. ジョリー デイビッド・C. ダイカス ジョアン・M. ウッドマン
アラン・デイヴィーズ スコット・R. グリーン アレン・D. ウィリアムス

【Course Content】

TOEIC (5)

TOEFL・TOEICなどの英語能力測定試験の受験結果により測定された各自の英語能力を客観的に把握させ、そこからより自主的な英語学習を促すものである。

授業では、TOEFLやTOEICなどの試験スコアにより、クラス編成を行い、学力差に対応したキメ細かい学習指導を行い、英語の運用能力を強化し、英語能力測定試験への受験意欲の向上を目指し、TOEFL・TOEICトレーニングVの授業につなげる。

This is an intermediate course for the TOEIC test. TOEIC test - like exercises will be used to accustom the students to the type of questions to expect in the TOEIC test. This course aims to develop the students general English ability. This will in turn produce an improved TOEIC score.

Students who have completed TOEIC I or II, or have a TOEIC score higher than 400 should consider taking this course.

The TOEIC test covers seven different types of questions to test English ability.

A. Listening comprehension

1. Sentences about photographs.
2. Questions / responses
3. Dialogues
4. Short talks

B. Reading comprehension

5. Sentence completion
6. Error identification
7. Short passages

【Schedule】

The order in which material will be presented will be determined by each instructor according to their judgement of the students needs.

【Assessment】

Assessment for TOEIC V (5) will be based on the students attendance, participation, classwork and homework.

【Textbooks】

To be announced.

IMPORTANT: 一般に英語の授業を履修することで、TOEICのスコアが良くなるという調査報告があります。効果的な勉強のために、この科目を履修するにあたっては、その他に「上級英語セミナー」や2科目以上の英語の授業を履修することを勧めます。

(文学部の学生の場合「Practical English 1, 2, 3, 4」を履修することを勧めます。)

TOEFL・TOEIC トレーニングVI

ジェームス・A. ジョリー デイビッド・C. ダイカス
ジョアン・M. ウッドマン アレン・D. ウィリアムス

【Course Content】

TOEFL (6)

TOEFL・TOEICなどの英語能力測定試験を利用することにより、各自の英語能力を客観的に把握させ、そこから自主的な英語学習を促すものである。

授業では、TOEFL 600点、TOEIC 860点などを到達目標として演習を行い、英語の総合運用能力を強化し、英語能力測定試験スコアの向上を目指す。

Students who have completed TOEFL I or II, or who have a score of more than 450 should consider doing this course.

This is an advanced level course for preparation for the TOEFL test. It will give step by step strategies and skills to improve performance on each of the seven sections of the TOEFL test. TOEFL test - like exercises will be used to accustom the students to the type of questions to expect in the TOEFL test.

The TOEFL test covers seven different types of questions to test English ability.

1. Listening comprehension

- A. Short conversations
- B. Long conversations
- C. Talks (short lectures)

2. Structure and written expression (grammar)

- A. Structure
- B. Written expression

3. Reading comprehension

- A. Reading comprehension
- B. Vocabulary

【Schedule】

The order in which material will be presented will be determined by each instructor according to their judgement of the students needs.

【Assessment】

Assessment for TOEFL VI (6) will be based on the students attendance, participation, classwork and homework.

【Textbooks】

To be announced.

IMPORTANT: 一般に英語の授業を履修することで、TOEFLのスコアが良くなるという調査報告があります。効果的な勉強のために、この科目を履修するにあたっては、その他に「上級英語セミナー」や2科目以上の英語の授業を履修することを勧めます。

(文学部の学生の場合「Practical English 1, 2, 3, 4」を履修することを勧めます。)

TOEFL・TOEICトレーニングⅥ

ジェームス・A. ジョリー デイビッド・C. ダイカス
ジョアン・M. ウッドマン アレン・D. ウィリアムス

【Course Content】

TOEIC (6)

TOEFL・TOEICなどの英語能力測定試験を利用することにより、各自の英語能力を客観的に把握させ、そこから自主的な英語学習を促すものである。

授業では、TOEFL 600点、TOEIC 860点などを到達目標として演習を行い、英語の総合運用能力を強化し、英語能力測定試験スコアの向上を目指す。

This is an advanced course for the TOEIC test. TOEIC test-like exercises will be used to accustom the students to the type of questions to expect in the TOEIC test. This course aims to develop the students general English ability. This will in turn produce an improved TOEIC score.

Students who have completed TOEIC I or II, or have a TOEIC score higher than 500 should consider taking this course.

The TOEIC test covers seven different types of questions to test English ability.

A. Listening comprehension

1. Sentences about photographs.
2. Questions / responses
3. Dialogues
4. Short talks

B. Reading comprehension

5. Sentence completion
6. Error identification
7. Short passages

【Schedule】

The order in which material will be presented will be determined by each instructor according to their judgement of the students needs.

【Assessment】

Assessment for TOEIC VI(6) will be based on the students attendance, participation, classwork and homework.

【Textbooks】

To be announced.

IMPORTANT: 一般に英語の授業を履修することで、TOEICのスコアが良くなるという調査報告があります。効果的な勉強のために、この科目を履修するにあたっては、その他に「上級英語セミナー」や2科目以上の英語の授業を履修することを勧めます。

(文学部の学生の場合「Practical English 1, 2, 3, 4」を履修することを勧めます。)

英語海外セミナー

石橋千鶴子 ジョナサン・E. ロング

【授業の概要】

英語・アメリカ文化研修を目的としたウェストバージニア大学での春期英語研修プログラム。全学が対象。キャンパス内の大学寮に滞在し、約4週間の集中授業を受ける。さらに、週末のホームステイ、小旅行、現地学生および留学生との交流などが用意されている。出発前に行われる数回のオリエンテーションおよび事前事後のライティング課題なども含めて全てを修了すれば、本学の2単位が与えられる。2月中旬から3月中旬の約1ヶ月間を予定している。定員は、約30人。

面接およびTOEICスコアにより選考を行う。

2001年度実施夏期研修プログラムにおける1日(9:00AM~3:20PM)の学習内容は、以下の通りだった:

午前 少人数で行われる会話クラスと総合英語の授業。
午後 アメリカ文化の授業およびプロジェクト。音楽・ドラマ・ニュースレター作成・ホームページ作成などから、各自興味のあるものを選び、英語による意見交換を行いながら仕上げていき、終了パーティーで発表する。

【授業計画】

本研修は、ウェストバージニア大学が本学学生のために用意する特別プログラムであり、全期間の学習および生活面全ての指導は、現地教員およびプログラムスタッフがあたる。(期間中、本学教職員は滞在しない。)

【評価方法】

ウェストバージニア大学授業担当者の評価および研修前オリエンテーションの課題から総合的に判断する。

【テキスト】

現地にて用意される。

米国NPOインターンシッププログラム

榎田勝利

【授業の概要】

米国ワシントンD.C.にあるポイント・オブ・ライト財団との共同プログラムとして実施する。米国の民間非営利組織(NPO)でのインターンシップの体験を通して米国社会が抱える深刻な社会問題を理解し、その問題解決の方法を学ぶ。インターンシップの期間中は、一般の米国人の家庭でのホームステイをし、日常生活を体験する。インターンシップの受け入れ場所は、ワシントンD.C.および周辺地域で、学生の関心分野、英語力、専門的知識、経験等を考慮し、受け入れ団体を定める。実践の場を通して、異文化コミュニケーション能力と情報技術能力の向上を図り、学生の将来のキャリア形成の一助ともなる機会を提供する。

(活動可能な分野) 老人、児童・青少年、自然・環境、識字教育、障害者、家族、ホームレス、ジェンダー、文化・芸術、スポーツ、バイリンガル教育、外国人支援、国際交流・国際協力、博物館・美術館、図書館、その他。(米国側協力団体) ポイント・オブ・ライト財団(Points of Light Foundation)

【授業計画】

- (事前研修)・インターンシップの活動分野の決定
- ・日米のNPO、ボランティア団体等の現状学習
- ・日本のNPO、ボランティア団体ヘフィールドワーク
- ・英会話のトレーニング
- (現地プログラム)・オリエンテーション合宿
- ・基本的に月曜から金曜までの5日間のインターン
- ・1日特別研修プログラム
- ・インターンシップの体験報告書の作成と提出
- ・評価会、修了式、さよならパーティ
- (事後研修)・フォローアップ研修、報告書作成

【評価方法】

現地での評価(受け入れ団体、ホストファミリー等と報告書)を考慮し全体評価を行う。

外国文化海外研修Ⅰ（中国）

馮 富榮

【授業の概要】

この授業では、言語実践を通して、言葉を知り、理解し、発信し、理解されることの楽しさを体験することができる。また南京師範大学に滞在して生活することで、中国に対する単なる傍観者・観察者ではなく、客観的な目を持った共感者になることを目指す。

1. 京師範大学において3週間の中国語研修を行う。
 - ◎ 月曜～金曜の午前中は8:00～11:30まで中国語の授業。日本語のできない先生が中国語で授業するが、分かるのが不思議。内容は会話表現中心。
 - ◎ 午後は課外活動として南京市内見学（中山陵、南京博物館、玄武湖、夫子廟、南京大屠殺記念館など）を通して、南京の風俗、歴史を学び、日本語学科の学生との交流会などを通して中国人同世代の人の考え方や生活を学ぶ。
 - ◎ 夜は予習復習に追われる。みんな教室に集まって、黙々と勉強。
 - ◎ 土曜と日曜は言語実践の日。南京の街へ飛び出そう!
 - ◎ 風光明媚な「瘦西湖」で名高い揚州へ、庭園で知られている蘇州への一日旅行。
2. 言語文化論Ⅰの講義内容と呼应した5日間ほどの研修旅行。
3. 定員は20名程度。
4. 今年度の2月中旬から3月中旬にかけて実地する。
5. 終了者に2単位を認定する。

【授業計画】

4月のガイダンスで研修の内容などを説明する。後期開講科目であるが、履修登録を必要とせず、参加したことによって単位が取得できる。9月下旬頃、参加募集を掲示に出し、10月中旬頃に参加者を決定する。その後、説明会を2回ほど、オリエンテーションを1回実施する。詳しくは掲示を見る。2月中旬に出発し、3月中旬に帰国する。費用は25万程度。

【評価方法】

引率者は平常点で評価する。

【テキスト】

南京師範大学の研修授業の担当先生が決めるテキストを使用する。

外国文化海外研修Ⅱ（韓国）

曹 述燮

【授業の概要】

本学の姉妹校の一つである韓国の大邱カトリック大学で、韓国の文化や言語などの研修を積む。本研修のために姉妹校からは少人数制の語学授業、金属工芸・伝統音楽・伝統料理などの韓国文化に対する講義と実習、そして両校の学生交流、ホームステイなどの課外活動を含む特別のカリキュラムが編成されている。と同時に本研修には姉妹校での研修を前後して慶州市、独立記念館、ソウル市への旅行などのプログラムも企画されている。

本研修を通じて参加学生たちは、良好に組まれたカリキュラムから韓国に対する知識を習得すると同時に、多様な韓国・韓国人を直接体験し自ら触れあうことで新世紀のパートナーとしての韓国の理解を深める。

期間：

夏期休暇の8月中の3週間前後

内容：

1. 語学研修
 - a、14日間、午前中、1日3時間（2コマ）授業
 - b、現地教員による少人数制の授業で韓国語の発音、文法、句型、会話などの練習
 - c、初級と中級のクラス編成予定で初心者も授業参加可
2. 韓国文化研修
 - a、午後週1～2回
 - b、専門家による講演と質疑応答
 - c、伝統文化講演の鑑賞（古典劇、音楽など）
 - d、韓国文化にたずさわる専門家による指導と自己参加型の実習（工芸・料理・舞踊など）
3. その他の各種の課外活動

【授業計画】

本研修参加のための数回の事前研修と事後研修が予定されている

【評価方法】

現地教員およびプログラムスタッフそして引率教員による総合評価による。

情報処理技術特殊Ⅰ

中野雅晴

【授業の概要】

基本情報技術者試験合格のための教育科目である。

情報技術全般の基礎知識を活用し、情報システム開発においてプログラムの設計・開発を行うとともに、将来高度な技術者を目指す者として、以下の知識・能力を身につける。

- 1) 情報技術全般に関する基本的な用語・内容の知識
- 2) 上位技術者の指導のもとにプログラム設計書を作成する能力
- 3) プログラミングに必要な論理的思考能力
- 4) プログラムのテスト手法を理解し実施する能力

【授業計画】

- ステップ1 コンピュータ科学基礎
- ステップ2 データベース技術
- ステップ3 コンピュータシステムの開発と運用
- ステップ4 ネットワーク技術
- ステップ5 情報と経営
- ステップ6 セキュリティと標準化

【評価方法】

出席状況・小テストなどで評価する。

【テキスト】

授業中に指示する。

情報処理技術特殊Ⅱ

中野雅晴

【授業の概要】

ソフトウェア開発技術者試験合格のための教育科目である。

情報システム開発のソフトウェア開発技術者として、外部仕様に基づいて内部設計・プログラム設計・プログラム開発を行い、高品質なソフトウェアを開発するための、以下の知識・能力を身につける。

- 1) ネットワーク、データベース、システム構成などの情報技術に関する全般的な知識と、上位技術者の指導のもとに情報システムの設計ができる能力
- 2) 内部設計書・プログラム設計書の作成能力
- 3) プログラミングに必要な高度の論理的思考能力
- 4) ネットワーク、データベースなどに関する実装技術と知識
- 5) プログラムのテスト手法を熟知し、単体テスト・結合テストの計画と管理が行え、テストの実施についてはプログラム開発要員を指導できる能力

【授業計画】

- ステップ1 コンピュータ科学基礎上級
- ステップ2 コンピュータシステム上級
- ステップ3 システムの開発と運用
- ステップ4 ネットワーク技術
- ステップ5 データベース技術
- ステップ6 セキュリティと標準化

【評価方法】

出席状況・小テストなどで評価する。

【テキスト】

授業中に指示する。

情報処理技術特殊Ⅲ

黒部晃一

【授業の概要】

CG検定2級の合格を目指す教育科目である。

2級のレベルは、CGを実務に活用できるレベルであり、期待できる効果として以下のことがある。

- (1) アルゴリズムを理解し、目的に応じてCGの技法を活用できる。
- (2) デザインの知識をCG画像やCGアニメーションの制作に活用できる。
- (3) CGに必要なシステムを目的に応じて選び使用できる。

【授業計画】

1. CG基礎。2次元画像生成
2. "
3. モデリング
4. "
5. 3次元座標変換
6. "
7. レンダリング
8. "
9. "
10. 画像処理
11. "
12. 著作権その他。

【評価方法】

出席状況について評価

【テキスト】

『Computer Graphics』技術編CG標準テキストブック
(画像情報教育振興協会)

【参考文献・資料】

『Turbo Cによる3Dコンピュータ・グラフィックス』
(山岡祥著 森北出版)
『コンピュータグラフィックス理論と実践』
(James D. Foley他著 オーム社)

情報処理技術特殊Ⅳ

黒部晃一

【授業の概要】

CG検定1級の合格を目指す教育科目である。

1級のレベルは、高度な知識と指導力に加えCGを制作や開発に応用できるレベルであり、期待できる効果としては以下のことがある。

- (1) アルゴリズムの記述やプログラミングによる高度なCG制作ができる。
- (2) デザインの知識を効果的に活用し高度な表現ができる。
- (3) CGに関する総合的な知識が身につき指導できる。

【授業計画】

1. VisualC++によるプログラミング
2. "
3. "
4. "
5. CGアルゴリズムのプログラミングと実例
6. "
7. "
8. "
9. "
10. CG検定1級の過去問題検証
11. "
12. "

【評価方法】

出席状況について評価

【テキスト】

『CG検定1級問題集』(画像情報教育振興協会)

【参考文献・資料】

『基礎から学ぶVisualC++プログラミング』
(山岡祥著 CQ出版)
『コンピュータグラフィックス理論と実践』
(James D. Foley他著 オーム社)

上級英語セミナー2003A

ポール・C. リンガー

【Course Content】

週2日の授業で1セット(4単位)を基本とする全学対象の上級英語科目。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。総合的な評価を行う。

4年間続けて履修できる。(1年生・編入生は1年目の前期は受講できない。)

This course is designed to provide students with both the language tools necessary for good communication and the stimulus to use those skills in daily life. Its combination of reading, listening, and discussion centered on a single topic will help students to integrate new ideas, vocabulary, and idioms into everyday speech.

A variety of language learning materials taken from Newspapers, books, and magazines will be used to encourage lively discussion and enthusiastic exchanges of ideas.

All the listening exercises and many of the speaking activities are task-based to give students a sense of realism and involvement.

Vocabulary plays a key role on this course and will be introduced in two main ways: productive vocabulary will be presented through a wide variety of vocabulary exercises and through speaking and grammar activities; receptive vocabulary is introduced through reading and listening exercises.

Guidelines will be given to help students recognize organizational patterns in preparation for the TOEIC test.

【Schedule】

Topics will be covered over a two to three week period and will include a variety of interesting and motivating themes selected mostly by the teacher.

First semester (AESa)

Personal information
Travel & vacations
Strange phenomena
Entertainment
Crime & capital punishment
Controversy

【Assessment】

Assessment will be continual and based on the following criteria:

ATTENDANCE
CLASS PARTICIPATION / EFFORT
HOMEWORK AND ASSIGNMENTS
END OF SEMESTER REPORTS
TOEIC SCORES

【Textbooks】

To be announced.

【Reference】

「上級英語セミナー2003A」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。ポール・C. リンガー先生(木曜日1限)、ベヴァリー・F.M.カレン先生(金曜日5限)の両方の授業に出席し、それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

上級英語セミナー2003A

ベヴァリー・F. M. カレン

【Course Content】

週2日の授業で1セット(4単位)を基本とする全学対象の上級英語科目。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。総合的な評価を行う。

4年間続けて履修できる。(1年生・編入生は1年目の前期は受講できない。)

【Schedule】

Each week, in my class, a different student will be responsible for selecting a topic and introducing a discussion about it in English. The other students will listen with attention and then continue the discussion through their own questions and comments. The goal in each class is to engage in animated discussion for 90 minutes, giving each student an opportunity to grow more comfortable and confident in initiating and continuing a conversation or discussion in English. Special guests will also be invited to the class to talk about themselves with the students in a relaxed and supportive atmosphere.

【Assessment】

Assessment will be based on participation and effort.

【Textbooks】

No text required.

【Reference】

「上級英語セミナー2003A」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。ポール・C. リンガー先生(木曜日1限)、ベヴァリー・F.M.カレン先生(金曜日5限)の両方の授業に出席し、それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

上級英語セミナー2003B

ポール・C. リンガー

【Course Content】

週2日の授業で1セット(4単位)を基本とする全学対象の上級英語科目。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。総合的な評価を行う。

4年間続けて履修できる。

This course is designed to provide students with both the language tools necessary for good communication and the stimulus to use those skills in daily life. Its combination of reading, listening, and discussion centered on a single topic will help students to integrate new ideas, vocabulary, and idioms into everyday speech.

A variety of language learning materials taken from Newspapers, books, and magazines will be used to encourage lively discussion and enthusiastic exchanges of ideas.

All the listening exercises and many of the speaking activities are task-based to give students a sense of realism and involvement.

Vocabulary plays a key role on this course and will be introduced in two main ways: productive vocabulary will be presented through a wide variety of vocabulary exercises and through speaking and grammar activities; receptive vocabulary is introduced through reading and listening exercises.

Guidelines will be given to help students recognize organizational patterns in preparation for the TOEIC test.

【Schedule】

Topics will be covered over a two to three week period and will include a variety of interesting and motivating themes selected mostly by the teacher.

Second semester (AESb)

The past

Current events in the news

Relationships

Food & Health

Fashion

The world of work

【Assessment】

Assessment will be continual and based on the following criteria:

ATTENDANCE

CLASS PARTICIPATION / EFFORT

HOMEWORK AND ASSIGNMENTS

END OF SEMESTER REPORTS

TOEIC SCORES

【Textbooks】

To be announced.

【Reference】

「上級英語セミナー2003B」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。ポール・C. リンガー先生(木曜日1限)、ベヴァリー・F.M. カレン先生(金曜日5限)の両方の授業に出席し、それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

上級英語セミナー2003B

ベヴァリー・F. M. カレン

【Course Content】

週2日の授業で1セット(4単位)を基本とする全学対象の上級英語科目。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。総合的な評価を行う。

4年間続けて履修できる。

【Schedule】

In the second semester, discussions will continue, and students will be encouraged to take more responsibility for engaging in discussion and offering support to the speaker through a thoughtful consideration of the topic. Each week will be a chance to grow closer as a group of engaged language learners whose communal energy will motivate individual student growth in English ability and self-confidence. Special guests will also be invited to the class to talk to the students in English in a relaxed but lively atmosphere.

【Assessment】

Assessment will be based on participation and effort.

【Textbooks】

No text required.

【Reference】

「上級英語セミナー2003B」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。ポール・C. リンガー先生(木曜日1限)、ベヴァリー・F.M. カレン先生(金曜日5限)の両方の授業に出席し、それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

上級英語セミナー2003C

横山綾子

【授業の概要】

週2日の授業で1セット(4単位)を基本とする全学対象の上級英語科目。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。総合的な評価を行う。

4年間続けて履修できる。(1年生・編入生は1年目の前期は受講できない。)

習得した英語を使い、さらに通訳になるための訓練に進むと、今までの学習内容とは異なったものも要求される事に気がつくでしょう。

それは言語の知識、訳出技術に加え論理的思考や外国人と心のcommunicationをしたいと思うか、未知の事柄や社会の問題を知りたいと思う好奇心があるか…等です。

さらに人に頼らず判断し、自分の考えを表現する自主性も大切です。

このクラスではニュース記事とテープを使い、時事英語の知識と通訳に欠かせぬFIFO(First in First out)の技術を体得します。さらに自然で美しい日本語への訳し方、学習した時事問題を分かりやすい英語で話す練習もします。Memoを取りspeedyな訳出も出来るようになって欲しいと思います。

最終的には国際的な場面で社会の問題を話し合える知識と技術を身に付ける、そして国際交流に貢献をして欲しいと希望します。

【授業計画】

第一回

通訳一般概論 Sight translation

第二～十回

The Student Times からの記事使用(テープ)

Shadowing Sight translation メモ取り

逐次通訳演習

同時通訳入門

【評価方法】

出席状況 平常の実技評価 Translation test

【テキスト】

The Student Times その他

「上級英語セミナー2003C」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。横山先生(火曜日3限)、ジョナサン・ロング先生(水曜日5限)の両方の授業に出席し、それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

上級英語セミナー2003C

ジョナサン・E. ロング

【Course Content】

週2日の授業で1セット(4単位)を基本とする全学対象の上級英語科目。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。総合的な評価を行う。

4年間続けて履修できる。(1年生・編入生は1年目の前期は受講できない。)

In this course the students will use all four language skills to explore the similarities and differences between Japanese and North American cultures.

【Schedule】

Not yet determined.

【Assessment】

This will be a combination of attendance, class participation and homework.

【Textbooks】

To be announced.

【Reference】

To be announced.

「上級英語セミナー2003C」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。横山先生(火曜日3限)、ジョナサン・ロング先生(水曜日5限)の両方の授業に出席し、それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

上級英語セミナー2003D

横山綾子

【授業の概要】

週2日の授業で1セット(4単位)を基本とする全学対象の上級英語科目。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。総合的な評価を行う。4年間続けて履修できる。

習得した英語を使い、さらに通訳になるための訓練に進むと、今までの学習内容とは異なったものも要求される事に気がつくでしょう。

それは言語の知識、訳出技術に加え論理的思考や外国人とのcommunicationをしたいと思うか、未知の事柄や社会の問題を知りたいと思う好奇心があるか…等です。さらに人に頼らず判断し、自分の考えを表現する自主性も大切です。

このクラスではニュース記事とテープを使い、時事英語の知識と通訳に欠かせぬFIFO(First in First out)の技術を体得します。さらに自然で美しい日本語への訳し方、学習した時事問題を分かりやすい英語で話す練習もします。Memoを取りspeedyな訳出も出来るようになって欲しいと思います。

最終的には国際的な場面で社会の問題を話し合える知識と技術を身に付ける、そして国際交流に貢献して欲しいと希望します。

【授業計画】

第一回

通訳一般概論 Sight translation

第二～十回

The Student Times からの記事使用(テープ)

Shadowing Sight translation メモ取り

逐次通訳演習

同時通訳入門

【評価方法】

出席状況 平常の実技評価 Translation test

【テキスト】

The Student Times その他

「上級英語セミナー2003D」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。横山先生(火曜日3限)、ジョナサン・ロング先生(水曜日5限)の両方の授業に出席し、それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

上級英語セミナー2003D

ジョナサン・E. ロング

【Course Content】

週2日の授業で1セット(4単位)を基本とする全学対象の上級英語科目。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。総合的な評価を行う。

4年間続けて履修できる。

In this course the students will use all four language skills to explore the similarities and differences between Japanese and North American cultures.

【Schedule】

Not yet determined.

【Assessment】

This will be a combination of attendance, class participation and homework.

【Textbooks】

To be announced.

【Reference】

To be announced.

「上級英語セミナー2003D」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。横山先生(火曜日3限)、ジョナサン・ロング先生(水曜日5限)の両方の授業に出席し、それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

上級英語セミナー2003E

ジョアン・M. ウッドマン

【Course Content】

週2日の授業で1セット(4単位)を基本とする全学対象の上級英語科目。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。総合的な評価を行う。4年間続けて履修できる。(1年生・編入生は1年目の前期は受講できない。)

Good translation / interpretation / communication requires, among other things, an extensive knowledge of vocabulary, so this course will require students to demonstrate a vast improvement in their vocabulary - in both written and spoken forms.

Vocabulary lists / tests will be generated from:

- a) teacher presented materials - (ie. CNN and BBC news broadcasts, as well as a wide gamut of newspaper articles)
- b) student research - (students will be required to prepare one newspaper article for class discussion each week - this will include preparing an extensive vocabulary list as well as brief background and contextual information about the article).
- c) TOEIC vocabulary text / materials

The course will deal with contemporary issues throughout the world, so emphasis will be placed on encouraging the students to improve their general knowledge of world affairs. Inherent in this course will be the need for the students to "think on their feet", that is to say they will have to glean as much information as they can from class presentations and then ask and answer questions about it.

【Schedule】

The aim of this course is to discuss up-to-date issues, so the schedule will be determined by the current events of the week. However, students should expect to address social, economic, political, religious, environmental, medical and other such issues.

【Assessment】

Assessment will include the following components:-

- 1) Vocabulary tests - 3 types
- 2) Preparation for (and participation in) class discussions
- 3) Listening comprehension activities
- 4) Attendance

「上級英語セミナー2003E」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。ジョアン・ウッドマン先生(火曜日5限)、横山先生(水曜日3限)の両方の授業に出席し、それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

上級英語セミナー2003E

横山綾子

【授業の概要】

週2日の授業で1セット(4単位)を基本とする全学対象の上級英語科目。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。総合的な評価を行う。4年間続けて履修できる。(1年生・編入生は1年目の前期は受講できない。)

習得した英語を使い、さらに通訳になるための訓練に進むと、今までの学習内容とは異なったものも要求される事に気がつくでしょう。

それは言語の知識、訳出技術に加え論理的思考や外国人と心のcommunicationをしたいと思うか、未知の事柄や社会の問題を知りたいと思う好奇心があるか…等です。さらに人に頼らず判断し、自分の考えを表現する自主性も大切です。

このクラスではニュース記事とテープを使い、時事英語の知識と通訳に欠かせぬFIFO(First in First out)の技術を体得します。さらに自然で美しい日本語への訳し方、学習した時事問題を分かりやすい英語で話す練習もします。Memoを取りspeedyな訳出も出来るようになって欲しいと思います。

最終的には国際的な場面で社会の問題を話し合える知識と技術を身に付ける、そして国際交流に貢献をして欲しいと希望します。

【授業計画】

第一回

通訳一般概論 Sight translation

第二～十回

The Student Times からの記事使用(テープ)

Shadowing Sight translation メモ取り

逐次通訳演習

同時通訳入門

【評価方法】

出席状況 平常の実技評価 Translation test

【テキスト】

The Student Times その他

「上級英語セミナー2003E」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。ジョアン・ウッドマン先生(火曜日5限)、横山先生(水曜日3限)の両方の授業に出席し、それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

上級英語セミナー2003F

ジョアン・M. ウッドマン

【Course Content】

週2日の授業で1セット(4単位)を基本とする全学対象の上級英語科目。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。総合的な評価を行う。4年間続けて履修できる。

Good translation / interpretation / communication requires, among other things, an extensive knowledge of vocabulary, so this course will require students to demonstrate a vast improvement in their vocabulary - in both written and spoken forms.

Vocabulary lists / tests will be generated from:

- teacher presented materials - (ie. CNN and BBC news broadcasts, as well as a wide gamut of newspaper articles)
- student research - (students will be required to prepare one newspaper article for class discussion each week - this will include preparing an extensive vocabulary list as well as brief background and contextual information about the article).
- TOEIC vocabulary text / materials

The course will deal with contemporary issues throughout the world, so emphasis will be placed on encouraging the students to improve their general knowledge of world affairs.

Inherent in this course will be the need for the students to "think on their feet", that is to say they will have to glean as much information as they can from class presentations and then ask and answer questions about it.

【Schedule】

The aim of this course is to discuss up-to-date issues, so the schedule will be determined by the current events of the week. However, students should expect to address social, economic, political, religious, environmental, medical and other such issues.

【Assessment】

Assessment will include the following components:-

- Vocabulary tests - 3 types
- Preparation for (and participation in) class discussions
- Listening comprehension activities
- Attendance

「上級英語セミナー2003F」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。ジョアン・ウッドマン先生(火曜日5限)、横山先生(水曜日3限)の両方の授業に出席し、それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

上級英語セミナー2003F

横山綾子

【授業の概要】

週2日の授業で1セット(4単位)を基本とする全学対象の上級英語科目。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。総合的な評価を行う。4年間続けて履修できる。

習得した英語を使い、さらに通訳になるための訓練に進むと、今までの学習内容とは異なったものも要求される事に気がつくでしょう。

それは言語の知識、訳出技術に加え論理的思考や外国人と心のcommunicationをしたいと思うか、未知の事柄や社会の問題を知りたいと思う好奇心があるか…等です。さらに人に頼らず判断し、自分の考えを表現する自主性も大切です。

このクラスではニュース記事とテープを使い、時事英語の知識と通訳に欠かせぬFIFO(First in First out)の技術を体得します。さらに自然で美しい日本語への訳し方、学習した時事問題を分かりやすい英語で話す練習もします。Memoを取りspeedyな訳出も出来るようになって欲しいと思います。

最終的には国際的な場面で社会の問題を話し合える知識と技術を身に付ける、そして国際交流に貢献をして欲しいと希望します。

【授業計画】

第一回

通訳一般概論 Sight translation

第二～十回

The Student Times からの記事使用(テープ)

Shadowing Sight translation メモ取り

逐次通訳演習

同時通訳入門

【評価方法】

出席状況 平常の実技評価 Translation test

【テキスト】

The Student Times その他

「上級英語セミナー2003F」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。ジョアン・ウッドマン先生(火曜日5限)、横山先生(水曜日3限)の両方の授業に出席し、それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

ASU TOEIC I C

天野純子 太田晶子

【授業の概要】

TOEIC Dレベル (220-465) で400点以上の学生がTOEIC Cレベルに、TOEIC Cレベル (470-725) の学生がTOEIC Bレベルにそれぞれ到達するための講座。この講座は、文法・語彙問題、Reading、リスニングの基礎に重点を置いて学習するため、日本人教員が担当する。授業時間のみならず毎回豊富な量の宿題が課され、毎回チェックされる。非常にハードなコースであるため、中途半端な気持ちで受講しないでほしい。

【授業計画】

第1回 オリエンテーションおよび模擬演習

第2回～第14回 演習・解説、Vocabularyテスト

- ・ 1週間の宿題の範囲からVocabularyの小テスト・採点・解説 (15分)
- ・ 前回の宿題で間違いが多かった点の解説 (15分)
- ・ 演習 (文法問題・Reading・リスニング) (30分)
- ・ 問題解説 (25分)

第15回 模擬テスト

*宿題 読解演習・文法問題 (60分×7日) =

毎回7時間相当分

(合計 7時間×13回=91時間)

リスニング演習 (60分×7日) =

毎回7時間相当分

(合計 7時間×13回=91時間)

【評価方法】

出席・演習に取り組む態度・宿題の遂行度合いなどにより総合的に評価する。

【テキスト】

【授業用 共通テキスト】

Successful Steps for the TOEIC Test 成美堂

【TOEIC Cレベルを目標とするコース用 課題テキスト】

『TOEICテスト実践講座 標準総合』南雲堂

『TOEICテストよく出る英語表現』ナツメ社

【TOEIC Bレベルを目標とするコース用 課題テキスト】

『TOEIC TESTこれ1冊で860点突破』アスカ

『TOEICテスト よく出る英単語・熟語』ナツメ社

※星が丘キャンパスの課題テキストはTOEIC Bレベル用とします。

ASU TOEIC I D

天野純子 太田晶子

【授業の概要】

TOEICスコア400点以上の学習者を対象とする全学向けのTOEIC対策講座。

日本人教員担当の「ASU TOEIC I」、ネイティブスピーカー担当の「ASU TOEIC II」から成る。最高週に2コマ (I、IIの両科目を受講した場合)、4年間続けて履修できる。週1回2単位とする。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。毎回、授業外での読解演習 (60分×7日×13回) とリスニング演習 (60分×7日×13回) (それぞれ91時間相当) が課される。課題は毎回チェックされる。授業中に演習に取り組む態度、出席、課題などにより総合的な評価を行う。

詳細は、後日掲示にて連絡します。

スポーツ特殊講座（スクーバダイビング）

杉山 和

【授業の概要】

「海の中」の自然を体験し、より視野を広める、スクーバダイビングに必要な初級のライセンスを取得し、生涯スポーツの実践へつなげる。

【授業計画】

《内容》

1. 期日

プール実習 平成15年9月1日（月）～6日（土）
この期間中に時差をつけて3日間実施します。

海洋実習 平成15年9月8日（月）～11日（木）
3泊4日

第1回説明会 平成15年5月21日（水）5限目
第2回説明会 平成15年7月5日（土）10：00～

2. 場所

プール実習 ロコダイバーズ 室内プール（一社）
海洋実習 沖縄県 伊江島

3. 諸経費

実習費 約50,000円（講習費、テキスト代、申請料）
用具代 約50,000円（重器材レンタル代、個人器材）
海洋実習費 約78,000円（交通費、宿泊費）
その他 約30,000円（ウェットスーツ希望者のみ）

4. 定員 約20名

- * 諸経費については、14年度のものでありますので変更になる場合があります。
- * 説明会には必ず参加すること。

【評価方法】

1. 実習中の技術の上達度と、実習に対する取り組み方。
2. 実習期間中、欠席した場合は単位が認められません。

スポーツ特殊講座（マリンスポーツ）

松田 秀子

【授業の概要】

各種のマリンスポーツを通し、海という自然を体験し、より深く理解する。各種目の基礎的技術の向上と知識の習得、生涯スポーツの実践へつなげる。

【授業計画】

《内容》

1. 期日

実習 平成13年8月6日（月）～9日（木）
3泊4日

第1回説明会 平成13年5月23日（水）5限目
第2回説明会 平成13年7月4日（水）5限目

2. 場所 ヤマハマリーナ浜名湖 静岡県

3. 実習種目

ウェイクボード、ボードセーリング、
セーリングクルザー等

4. 実習費 約74,000円

5. 定員 約20名

（定員に満たない場合は中止になります。）

- * 実習費に関しては、12年度のものでありますので変更する場合があります。
- * 説明会には必ず参加すること。（やむを得ない場合を除く）

【評価方法】

実習中の技術の上達度と、実習に対する取り組み方。

**本年は開講せず。
上記の要項は13年度のものであります。**

スポーツ特殊講座（ボウリング）

松田秀子

【授業の概要】

ボウリングを通して、基礎技術の向上と知識の習得を目標とし、生涯スポーツの実践へとつなげる。

【授業計画】

《内容》

1. 期日
実習 平成15年9月3日（水）・4日（木）
5日（金）・8日（月）
9日（火）・10日（水）
計6日間 午前中のみ
2. 説明会 平成15年7月9日（水）12：30～13：15
実習に必要な諸手続きを行ないますので、必ず参加すること。
3. 場所 星ヶ丘ボウル
4. 実習費 6,000円（14年度のものでありますので変更する場合があります。）
5. 定員 60名

【評価方法】

出席状況と実習中の技術の上達度により総合評価する。

スポーツ特殊講座（スケート）

松田秀子

【授業の概要】

スケートを通して、基礎的技術の向上と、知識の習得を目標とし、楽しさを学び生涯スポーツの実践へつなげる。

【授業計画】

《内容》

1. 期日
実習 平成16年2月3日（火）・4日（水）
5日（木）・6日（金）
9日（月）・10日（火）
6日間 午前のみ
2. 説明会 平成16年1月7日（水）12：30～13：15
実習に必要な諸手続きを行ないますので、必ず参加すること。
3. 場所 名古屋スポーツセンター（大須）
4. 実習費 約7,200円（14年度のものでありますので変更する場合があります。）
5. 定員 60名

【評価方法】

出席状況と実習中の技術の上達度により総合評価する。

スポーツ特殊講座（スキー）

【授業の概要】

スキーを通して大自然の厳しさやおおらかさに接し、スキーの基礎的技術の向上と知識の習得を目標とする。

【授業計画】

《内容》

1. 期日

実習 平成14年2月17日（日）～2月21日（木）
4泊5日の予定

第1回説明会 平成13年11月7日（水）5限目

第2回説明会 平成14年1月9日（水）5限目

2. 場所 長野県 信州菅平高原スキー場

3. 宿泊所 福美津屋旅館

4. 実習費 約40,000円

（宿泊費・交通費・食事代・保険料・雑費）

5. その他の費用

リフト券代 約12,000円（レベルによって異なる）

レンタルスキー（板、ブーツ、ストック） 6,500円

レンタルウェア 4,000円

小物（帽子、手袋、ゴーグル） 1,500円

6. 定員 約40名

7. オプション企画（体験）

スノーボード（レンタル代、講習費） 6,000円

ヘリスキー（ヘリコプターの搭乗費） 6,000円

スキー検定（検定料） 6,000円

*定員に大きく満たない場合は中止になります。

*実習費及びその他の費用に関しての料金は、12年度のものでありますので、変更になる場合があります。

*説明会には必ず参加すること。（やむを得ない場合を除く）

【評価方法】

1. 実習中の技術の上達度と、実習に対する取り組み方。

2. 実習期間中、欠席した場合は単位が認められません。

**本年は開講せず。
上記の要項は13年度のものであります。**

地域社会特別講義Ⅳ（地域文化論）

谷沢 明

【授業の概要】

「風土・歴史・文化を生かした地域づくり」をテーマとした事例研究の講義をする。併せて、受講生によるプレゼンテーションも行なう。

【授業計画】

1. 北海道池田町：ワインによる地域づくり
2. 大分県大山村：「村おこし」の元祖
3. 北海道函館市：港町の歴史を生かした都市づくり
4. 北海道小樽市：小樽運河保存問題と都市景観保全
5. 福岡県柳川市：掘割を生かした環境形成
6. 大分県日田市：歴史的景観を生かした都市づくり
7. 兵庫県神戸市：港町の歴史を生かした景観形成
8. 兵庫県出石町：城下町の歴史を生かした景観形成
9. 岡山県倉敷市：民芸のまちの成り立ち
10. 岐阜県高山市：市街地景観保全
11. 滋賀県近江八幡市：八幡堀の保全とまちづくり
12. 岐阜県八幡町：水の恵みを生かした地域づくり
13. 受講生による課題の成果発表

【評価方法】

「風土・歴史・文化を生かした地域づくり」をテーマに、夫々が該当地区を1箇所取材して事例研究を行い、その成果をパワーポイントで作成し、発表・提出する。成果物は、CDRで提出のこと。評価は成果物CDRとその発表、及び平生の授業態度で行なう。

【テキスト】

テキストは特に使用しないが、次の参考文献を使用する。
田村明『まちづくりの実践』（岩波新書）
西村幸夫『町並みまちづくり物語』（古今書店）
大河直躬編『歴史的文化遺産の保存・活用とまちづくり』（学芸出版社）
大河直躬編『都市の歴史とまちづくり』（学芸出版社）
全国町並み保存連盟『新・町並み時代』（学芸出版社）
インターネット等を利用して、各自が予習・復習を行なうこと。

国際社会特別講義Ⅴ（比較政治論）

西尾林太郎

【授業の概要】

東アジアにおける国際体系の変化と中国、韓国、日本の近代史は深く連動しながら展開した。この点を考慮しつつ、政治的近代化論を軸として、中・韓・日3国の近代史と現代の政治システムについて比較分析することを、本講義の目的とする。また、その結果をふまえて、「アジア的国家」と西欧近代国家との比較も試みたい。

【授業計画】

- 1 政治的近代化とは？
- 2 伝統的東アジアの国際秩序
- 3 科挙官僚制と中国の近代化
- 4 両班（ヤンパン）と李氏朝鮮の近代化
- 5 徳川幕藩体制と日本の近代化
- 6 アメリカの発展と太平洋進出
- 7 “アジア的国家”とは何か？
- 8 イギリス、ドイツ、フランスにおける政治的近代化
- 9 stateとnation
- 10 1950年代～80年代における中国、韓国の政治と社会

【評価方法】

出席状況とレポートによる。

【テキスト】

特に定めない。随時、資料を配布する。

【参考文献・資料】

1. *Asian Power and Politics: The Cultural Dimensions of Authority* (Lucian W. Pye Harvard Univ. Press)
2. ステイトとネイション——近代国民国家と世界経済の政治経済学——（佐々木隆生『経済学研究』VOL.47～50、北海道大学経済学部、1997～2000年、に連載）

メディアプロデュース特別講義Ⅳ（番組開発論）

大西 誠

【授業の概要】

映像をベースにした放送番組の成り立ちを歴史的に振り返りながら、番組をどのように企画し、一つの作品として作り上げていくかを理論と実習を通じて明らかにする。

【授業計画】

近年、市民が番組を制作する機会が多くなっている。取材（ロケ）映像とスタジオ映像とは、それぞれどのような特徴があり、どのように作られていくのか。また、それらを効果的に組み合わせ市民に資する番組を制作するには、どうしたら良いか。基本的なモデルを教育番組に求める。

プロの制作者のノウハウを探りながら、番組はどのように開発し、制作していけば良いのかをメディアリテラシーの視点から試作を通じて理解研究する。

本講では、実際に放送された教育・教養番組をモデルに番組形式や内容を分析するとともに、グループ・ワークで実際に番組を制作する。

【評価方法】

授業への参加度、期末の課題と作品で評価する。

【テキスト】

未定

都市環境デザイン特別講義Ⅱ（建築保存再生論）

河辺泰宏

【授業の概要】

西洋と日本を中心に、都市と建築の歴史的遺産について理解を深めるとともに、それらの保存・修復・復原や都市資産としての利活用の方法について論じる。

【授業計画】

授業は主に講義形式で進めるが、テーマによって担当者を決め、報告会を行うことがある。

- 1) 破壊との闘い
人類の蛮行と遺産保護への執念
- 2) 変りゆく保存の概念
文化遺産保存活動の歴史とユネスコの世界遺産条約
- 3) 開発・建設の時代から維持・再生の時代へ
建築におけるサステナビリティ
- 4) 文化財保存の論理
日本における文化財保護の歴史
- 5) 文化財保存の事例研究
日本・イタリア・トルコ・シリア etc.
- 6) 町並み保存の論理
日本における町並み保存の歴史
- 7) 町並み保存事例研究
ポーロニャ・妻籠・長浜・倉敷 etc.
- 8) 近代建築保存の論理
近代建築および近代化遺産の保存・再生の歴史
- 9) 近代建築保存・再生の技法
保存・再生の基本理念と具体的方法
- 10) 近代建築保存・再生の事例研究
神戸・横浜・大阪・京都 etc.

【評価方法】

授業や見学会への参加状況とレポート、課題発表の内容等によって決める。

【テキスト】

必要に応じてプリントを配布する。

都市環境デザイン特別講義Ⅲ (情報化建築論)

吉田邦彦

【授業の概要】

現在の都市・建築は、マルチメディア化とネットワーク化により著しく進展した情報化（高度情報化）によって、大きな変革が進みつつある。情報化の観点から、生活空間の変化の方向を探り、それらが今後の都市・建築のあり方およびそこでの生活にどのような影響を与えるかを論じる。

情報化の進展によって大きな変化を受けつつある住居とオフィスを取り上げ、インテリジェント化、マルチメディア化、ネットワーク化によって、建物の機能や構成要素がどのように変化してきたか、今後どのように変化するかを考察する。また、建築の設計や生産の方法に対しても情報化は大きな影響を与え、建築生産情報の統合化が急務となっている。その動向を概観し、今後の方向を探る。

【授業計画】

講義によるオーバービューと併せて、下記のテキストを各自が読解し、ディスカッション形式で理解が深まるように講義を進める。

【評価方法】

分担部分の発表内容・形式、討議への参加、および課題に対するレポートなどを総合して評価する。

【テキスト】

シティ・オブ・ピットー情報革命は都市・建築をどうかえるかー (ウィリアム・J・ミッチェル著 掛井秀一他訳 彰国社)

国際社会プロジェクトⅡa

江藤恭二

【授業の概要】

教育近代化の過程を、世界教育史上の人物をとり上げることによって明らかにしていく。たとえば、コメニウス、ロック、ルソー、ペスタロッチー、フレーベルなどの名を挙げうるであろう。彼らが教育史上、どのような実践と思想の軌跡を残しているかを刻明に探っていきたい。

【授業計画】

1. コメニウス 「大教授学」
2. ロック 「教育論」
3. ルソー 「エミール」
4. ペスタロッチー 「隠者の夕暮」
5. フレーベル 「人間教育」

これらの古典を読みつつ、著者たちの生涯を明らかにする。

【評価方法】

出席状況と平素のレポートによる。

【参考文献・資料】

1. 西洋教育史叙説 (江藤 恭二 福村出版)
 2. 西洋教育史 (長尾 十三二 東大出版会)
- その他、西洋教育古典シリーズ (明治図書) を用いる。

国際社会プロジェクトⅡb

西尾林太郎

【授業の概要】

Max Weberの著作（日本語訳のもの）やウェーバーの学説に関する著作物を丁寧に輪読する。続いて日本人研究者による国家論に関する著作を味読しつつ、ウェーバーへの理解を深めたい。政治文化、エートス、リーダーシップ、官僚制、宗教、経済、ナショナリズム等をキー・ワードとしつつ、アジア社会や現代の日本社会についての理解を深め、比較史的視点の構築を目指すと共に、社会科学の専門書にも習熟したい。

【授業計画】

- 1 Max Weber、丸山真男、大塚久雄について
- 2～8 M. ウェーバー『社会と経済』の一節（特にカリスマ、官僚制、権力に関する部分）、大塚久雄によるウェーバーに関する著作を輪読
- 9～12 近代国家論に関する論文を輪読
- 13 まとめとディスカッション
広く現代社会、アジア社会および現代国家の分析をめぐるフリーディスカッションを実施

【評価方法】

出席状況および平常点による。輪読の際、各自の担当部分について簡単なレジュメを作成してもらう。

【テキスト】

授業中にその都度指示する。

【参考文献・資料】

授業中にその都度指示する。

主題講義Ⅰ

大西 誠 五島幸一

【授業の概要】

現代社会におけるメディアプロデュースとは何かを、映像プロデュースやイベントプロデュースなど実践事例を基に検討し、メディアの生産から流通、消費について現状と課題を明らかにする。

本講では、特に生産者であるメディアのプロ（送り手）と消費者である受け手との相互関係を今日的課題でもあるメディア・リテラシーの観点から概観してみたい。

【授業計画】

数人の講師による集中講義の形式をとる。初回は、講義概要と現状報告を行なう。以降は、専門的な立場から講義を行ない、最終回に質疑・討論と総括で終える。詳細は別途、決定次第公表する。

【評価方法】

レポート提出による。

【テキスト】

使用しない。参考文献は講義中に紹介するとともに、適宜、資料を配布する。